

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

第1節 調査の概要

奈良時代以降の遺構は、竪穴住居15軒、掘立柱建物10棟、柵列3、溝9条、土坑4基、ピット30基等である。

分布をみると、調査区南部（A区南端部・B区・C区）に大部分が集中し、他に調査区北端部（A区北部）にも竪穴住居・掘立柱建物が集中している。

遺物は、土師器、須恵器、鉄製品、銅製品等が出土している。

第2節 遺構

1. 竪穴住居（第151図、第21・22表）

竪穴住居は15軒検出されている。

(1) 分布（第152図）

調査区南部（A区南端部・B区・C区）に14軒、調査区北端部（A区北部）に1軒と2ヶ所に分布している。北端部には竪穴住居は1軒しかないが、掘立柱建物が3棟あるため調査区外にも竪穴住居がある可能性が高い。

(2) 平面形態

平面形態の判明するものは、隅丸方形が2軒、隅丸長

方形が6軒で、隅丸長方形が圧倒的に多くなっている。調査区外に続いているため形態が判明しない8軒も、隅丸方形か隅丸長方形になるものと考えられる。

(3) 規模

長辺5.70～2.80m平均4.49m、短辺4.45～2.40m平均3.46m、壁高105～33cm平均62cm、面積（カマドを含む上端面積）23.1～6.6㎡平均15.1㎡、床面積（カマドをのぞいた下端面積）は17.3～5.9㎡、平均12.1㎡である。調査区外に続く住居が多いため、推定も含めて長辺がわかる住居が9軒、短辺・面積がわかる住居が7軒と少なく、他の住居は全体の規模が不明である。壁高は平均62cmと高く、遺構の残存状況は良い。

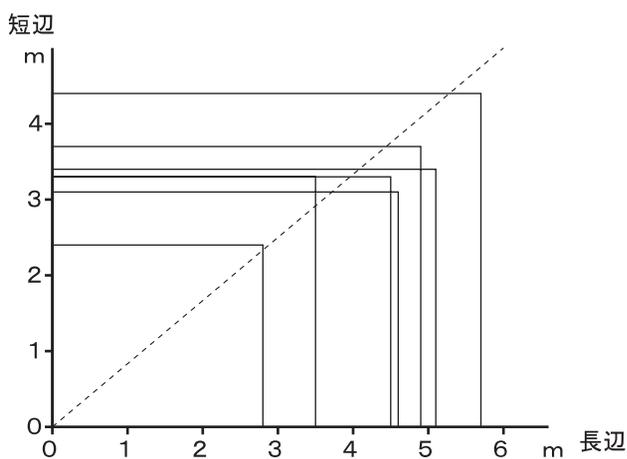
(4) 主軸方位

カマドのある壁に垂直の方向を住居の主軸としたが、カマドの検出された住居はすべて東方向であり、北から81°～98°東の範囲に集中している。

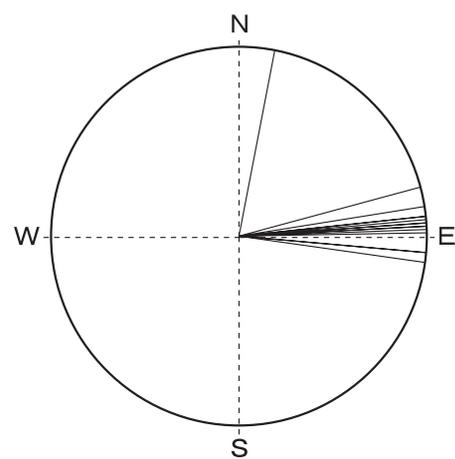
(5) 壁溝・柱穴・貯蔵穴

壁溝の確認された住居は8軒で、確実にない住居は1軒であり、他は不明である。ある住居では、全周するものが4軒で部分的なものが4軒となっている。

柱穴は、ないものが7軒で、ある可能性のあるものが

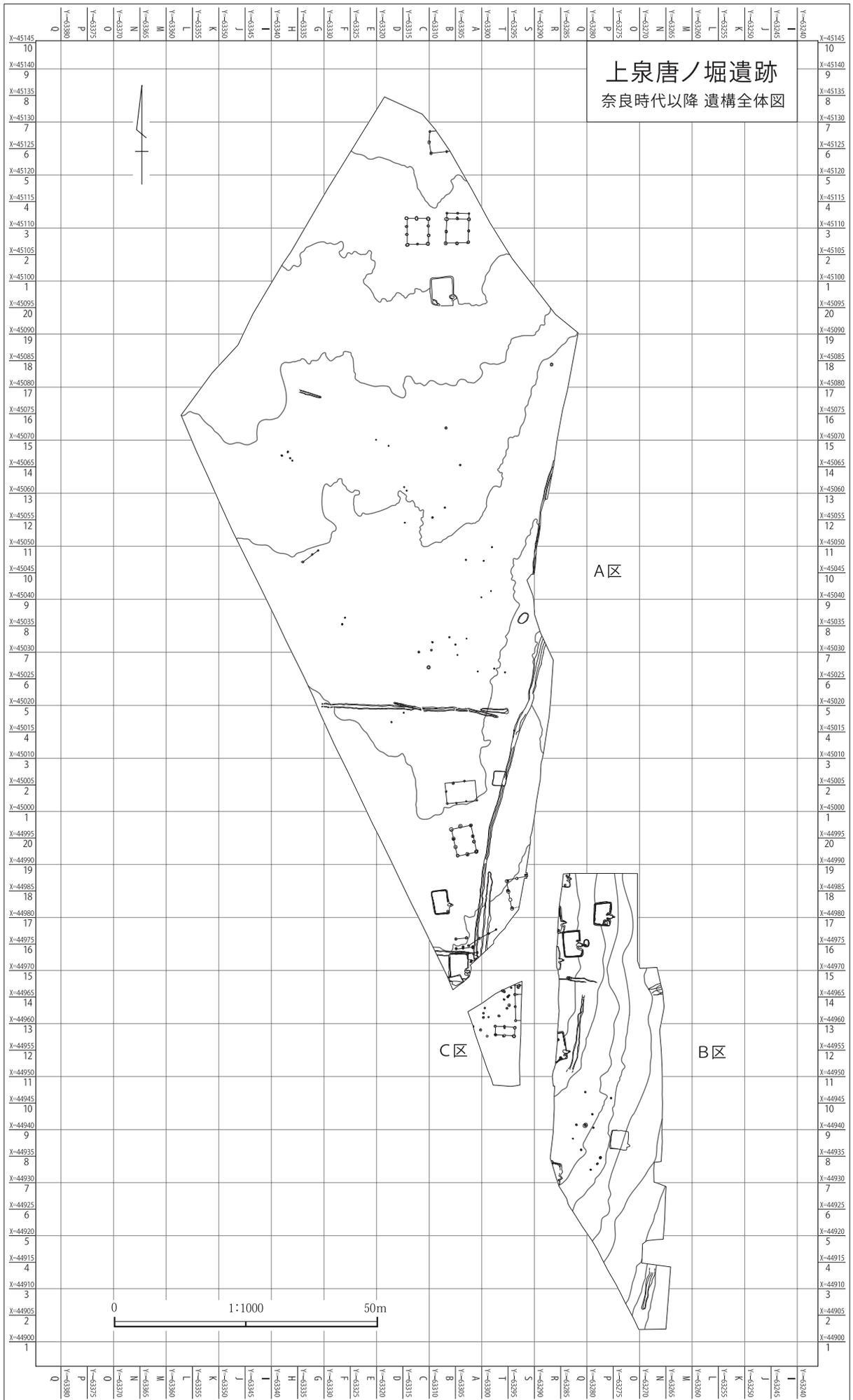


竪穴住居の規模



竪穴住居の主軸

第151図 竪穴住居の規模・主軸



第152図 奈良時代以降遺構全体図

第21表 竪穴住居一覧

住居No	グリッド	重複	平面形態	長辺	短辺	長辺	壁高	面積	床面積	主軸方位	カマド			
				m	m	短辺	cm	m ²	m ²		位置	全長 m	幅 m	主軸方位
1号住居	3-T-1・2	1溝より古	隅丸方形	2.80	2.40	1.17	33	6.6	5.9	N-11° -E				
2号住居	94-B-17・18	なし	隅丸長方形	4.60	3.10	1.48	42	14.6	11.5	N-87° -E	東壁やや南寄り	1.63	0.90	N-90° -E
4号住居	94-A・B-14・15	5住より古	隅丸長方形	4.90	3.75	1.31	70	(17.9)	(15.3)	N-87° -E	東壁南寄り	1.10	1.10	N-89° -E
5号住居	94-A・B-14	4住より新 6住より古	隅丸方形または 隅丸長方形	[2.30]	[1.40]		65	[2.7]	[2.1]	N-75° -E				
6号住居	94-A・B-14	5住より新	隅丸方形または 隅丸長方形	[1.50]	[0.80]		70	[1.1]	[0.9]	N-84° -W				
12号住居	4-B-20 14-B-1	なし	隅丸長方形	5.70	4.45	1.28	58	(23.1)	(17.3)	N-88° -E	東壁南寄り	1.30	0.80	N-97° -E
17号住居	93-R-6・7 93-Q-7	211ピットより 古 31住・60土 より新	隅丸方形または 隅丸長方形	3.95	[1.80]		87	[4.8]	[3.1]	N-95° -E	東壁南寄り	0.90	1.00	N-98° -E
21号住居	93-Q・R-11・12	なし	隅丸方形または 隅丸長方形	5.30	[2.20]		105	[9.4]	[7.2]	N-81° -E	東壁南寄り	1.35	1.15	N-88° -E
22号住居	93-0-8 93-P-8	なし	隅丸方形	3.50	(3.35)	(1.04)	45	(11.6)	(11.2)	N-98° -E	東壁南寄り			
24号住居	93-R-10・11	なし	隅丸方形または 隅丸長方形	[2.20]	[0.50]		57	[1.2]	[0.6]	N-89° -E	東壁やや南寄り	[0.90]	1.00	N-94° -E
26号住居	93-Q・R-15	167土坑より新	隅丸方形または 隅丸長方形	[4.50]	[0.60]		65	[3.0]	[2.3]	N-84° -E	東壁やや南寄り	1.15	1.20	N-87° -E
27号住居	93-Q-15・16	17土坑より新 28住と重複	隅丸長方形	5.10	3.70	1.38	48	17.0	12.9	N-86° -E	東壁やや南寄り	1.90	1.80	N-93° -E
28号住居	93-Q・R-16・17	27住と重複	隅丸方形または 隅丸長方形	[5.25]	[1.30]		67	[4.4]	[2.2]	N-85° -E	東壁やや南寄り	1.55	1.30	N-89° -E
29号住居	93-0-17 93-P-16・17	なし	隅丸長方形	4.55	3.35	1.36	64	14.8	10.5	N-95° -E	東壁やや南寄り	1.70	1.20	N-91° -E
30号住居	93-Q-18	なし	隅丸方形または 隅丸長方形	[2.55]	[1.55]		55	[3.5]	[2.9]	N-86° -E	東壁	1.10	1.00	N-88° -E

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

第22表 竪穴住居出土遺物一覧

	土師器											須恵器											土器計	石製品	鉄製品	他	総計										
	環					甕					他	計	環					甕										壺・瓶			蓋	他	計				
	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部	半完	小計			口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部	小計	口縁						胴部	小計								
1号住居					0	1				1					1					0					0					0	1					1	
2号住居	23	39	15		77	5	162	4		171	1	249	3	1		4	3				3					3	3				10	259					259
4号住居	26	48			75	19	294	2		315		390	11	8	5	1	25	2				2						1	1		29	419					419
5号住居	7		1	1	9	7	63	2		72		81	4		1	5	1				1					0	1			7	88	1	1			90	
6号住居	4	1			5		20			20		25				0					0					0				0	25					25	
12号住居	25	2	24	1	52	10	226	4		240		292	10	4	1	1	16	2	8			10					0				26	318	1	1			320
17号住居	37	11			48	19	402	4		425		473	12		2	14	11				11					1	1	3	1	30	503					503	
21号住居	40	40	18	2	100	4	91	1		96		196	1	2	2	5	4	1			5					0	1			11	207		5			212	
22号住居			1		1		14			14		15	1			1					0					0				1	16					16	
24号住居	2		1		3			1		1		4				0					0					0				0	4					4	
26号住居	7	1	1		9	10	86	1		97		106	1			1					0					0				1	107					107	
27号住居	87	170	6	3	266	13	381	3		397		663	8		5	1	14	1	2			3					0	1			18	681		5			686
28号住居	13	14	6	1	34	20	271		1	292		326	7	1	1	1	10		1	1		2	1				1	2			15	341		1			342
29号住居	111	116	23	1	251	54	697	8		759		1,010	18	3	3	24		2			2					0	2			28	1,038		3			1,041	
30号住居	2	2	5	1	10	2	53			55		65				0					0					0				0	65					65	
合計	384	444	101	10	940	163	2,763	30	1	2,957	1	3,898	76	19	20	4	119	3	34	2		39	1	4	5	11	2	176	4,074	2	15	0	4,091				

1軒、他は不明であり、ないものが圧倒的に多い。

貯蔵穴は、あるものが4軒で、ないものが4軒と同数である。あるものは、すべてカマド右脇に存在している。

(6) 床面・掘り方

床面は、全体的に硬化しているものが4軒、部分的に硬化しているものが2軒、やや硬化しているものが2軒で、他はあまり硬化していないか、残存等が悪く不明なものである。貼床されているものが多く、掘り方をそのまま床面としているものは2軒である。貼床は、ロームを主とした黄褐色土で行っているものが6軒、褐色土・

黒褐色土・暗褐色土で行っているものが各2軒、不明が1軒である。掘り方は、外周が溝状にくぼむものが2軒、土坑・ピットが多くあるものが7軒、ほぼ平坦なものが3軒等である。

(7) 遺物出土状況

竪穴住居の出土遺物については、出土状況により以下の3種類に分けて考えることにする。

A 遺棄 竪穴住居で使用されたものが遺されているもの。床面上・カマド等住居の使用面の出土で、完形・半完形のもの。ただし、棚から転落あるいは貯

蔵穴に転落した物は、床面から浮いた状態や貯蔵穴埋没土中の物もある。遺物の時期は、住居の時期を示している。

B 廃棄 廃絶された住居に他から捨てられたもの。床面および埋没土中の出土で、完形・半完形に復元できる物あるいは破片。遺物の時期は、住居の使用された時期よりも新しくなるが、竪穴住居が埋没するまでの時間に限られる。

C 流入 住居外の遺物が自然営力や人為的な埋め戻しにより、竪穴内に入り込んだもの。すべての層から出土し、破片の状態である。遺物の時期は、住居が埋没するまでの時期より古くなる。

一般的には、竪穴住居を廃絶するときは土器等の生活用具は持ち去ると考えられるため、竪穴内に残されるものは多くないであろう。当遺跡でも、遺棄された遺物が多く見つかる住居は少なく、廃棄・流入遺物が多くなっている。

(8) カマド

カマドは12軒の住居から検出された。1軒はカマドを持たない住居で、2軒は不明である。位置はすべて東壁南寄りである。規模は、全長1.90～0.90m平均1.37m、幅1.80～0.80m平均1.13mとなっている。袖部は黄褐色・灰褐色粘質土で構築しているものが多いが、褐色土・暗褐色土のものもある。自然礫を補強材としているものが1軒あるが、他は補強材なしが不明である。焚口部・燃烧部底面は、平坦なものが多く、奥壁の立ち上がりはなだらかなものが多い。

1号住居 (第153図、PL.75)

位置 A区3-T-1・2 **重複** 1溝より古

平面形態 隅丸方形 **規模** 2.8×2.4m

壁高 33cm **面積** 6.6㎡ **床面積** 5.9㎡

主軸方位 N-11°-E **壁溝** なし

柱穴 なし **貯蔵穴** なし

床面・掘り方 平坦で堅緻であるが、掘り方を床面とし、貼床なし。

遺物出土状況 埋土中から土器・石器が少量出土しているが、ほとんどが縄文時代の遺物である。

カマド なし

出土遺物 土師器甕が1点出土している。他に縄文土器・

石器(剥片)が出土している。

所見 方形で壁も垂直に近い掘り方であり、床も平坦で堅緻であるが、カマド・貯蔵穴・貼床等の施設がなく、一般的な住居ではない可能性が高い。詳細な時期も不明である。

2号住居 (第154・155図、PL.76・92)

位置 A区94-B-17・18 **重複** なし

平面形態 隅丸長方形 **規模** 4.60×3.10m

壁高 42cm **面積** 14.60㎡ **床面積** 11.50㎡

主軸方位 N-87°-E

壁溝 カマド右脇を除き全周 **柱穴** なし

貯蔵穴 カマド右脇 0.45×0.43m、深さ29cm

床面 ロームを含むにぶい黄褐色土で貼床とし、ほぼ平坦で、やや硬質。

掘り方 全体としては北から南に向かい下がっており、土坑状の掘り込みが数ヶ所検出されている。

遺物出土状況 貯蔵穴西側から特に集中して出土しており、カマドから貯蔵穴にかけて多く出土しているが、床面から浮いた状態のものも多く、廃棄・流入遺物がほとんどと推定される。

カマド

位置 東壁やや南寄り **全長** 1.63m **幅** 0.90m

主軸方位 N-90°-E

構築 粘土で袖を構築していたと考えられるが、残っていない。火床面は床面とほぼ同レベルであるが、燃烧部はやや下がっている。燃烧部中央に支脚の痕跡と考えられる掘り込みが、両袖部底面に袖補強材の痕跡と考えられる掘り込みがある。

遺物出土状況 燃烧部・煙道部から土師器甕が多く出土している。

出土遺物 出土総数は259点であるが、土師器249点・須恵器10点で土師器が圧倒的に多い。残りのよいものは比較的少なく、4点図示できたのみである。

所見 遺物は廃棄・流入のものも多く住居に遺棄されたものはほとんどない。このため時期ははっきりしないが、8世紀後半代の遺物が出土している。

4号住居 (第156～158図、PL.77・92)

位置 A区94-A・B-14・15 **重複** 5住より古

平面形態 隅丸長方形 **規模** 4.90×3.75m

壁高 70cm **面積** [16.8]m² (17.90)m²

床面積 [14.6]m² (15.30)m²

主軸方位 N-87° - E **柱穴** なし

壁溝 南壁は5住に切られるため西部が不明であるが、北壁・西壁・東壁の一部に存在する

貯蔵穴 カマド右脇 0.30×0.24m、深さ14cm 貯蔵穴としては規模が小さい。掘り方で検出された北東に接する掘り込みも貯蔵穴の可能性あり。

床面 ロームを含むにぶい黄褐色土で貼床とし、ほぼ平坦で、やや硬質。

掘り方 東西の壁際が幅広の溝状に掘り込まれる。また、北東隅・南東隅は土坑状に掘り込まれている。

遺物出土状況 カマドを中心とした住居の南東部に比較的集中して出土している。床面から浮いた状態のものが多く、4の須恵器も床面上の出土であるが、破片が接合したものであるため、廃棄・流入遺物と考えられる。

カマド

位置 東壁南寄り **全長** 1.10m **幅** 1.10m

主軸方位 N-89° - E

構築 暗灰色粘土で袖を構築、残存状況は良好。

遺物出土状況 燃焼部から支脚と考えられる礫が出土している以外は、残りのよい遺物はない。

出土遺物 土器総数419点出土しているが、土師器390点、須恵器29点で土師器が圧倒的に多い。しかしながら、坏に関しては、土師器75点、須恵器25点であり、差は比較的少ない。

所見 遺物は破片となっているものが多いが、遺棄、廃棄されたものもかなりあると考えられる。出土遺物からは、8世紀後半代の住居と考えられる。

5号住居 (第156～158図、PL.77・92)

位置 A区94-A・B-14

重複 4住より新 6住より古

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 [2.30]×[1.40]m **壁高** 65cm

面積 [2.7]m² **床面積** [2.1]m²

主軸方位 N-75° - E **壁溝** 不明

柱穴 不明 **貯蔵穴** 不明

床面 ローム粒を多量に含む黒褐色土で貼床としてい

る。やや凹凸があるが、全面調査できていないため、詳細は不明である。

掘り方 北東部しか判明していないが、外周が溝状に低くなる掘り方である。

遺物出土状況 調査した範囲では、少量の破片が全面から出土している。

カマド 不明

出土遺物 総数で90点出土しているが、土師器が81点、須恵器が7点、石製品・鉄製品が各1点で、土師器が圧倒的に多い。残存状態は悪く、須恵器坏・蓋の破片が図示できただけである。石製品は砥石である。

所見 重複および調査区外に続くため、大部分は不明。遺物は、廃棄・流入のものが多いと考えられる。遺棄された遺物が少ないため時期ははっきりしないが、8世紀後半～9世紀前半と推定。

6号住居 (第156～158図、PL.77)

位置 A区94-A・B-14 **重複** 5住より新

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 [1.50]×[0.80]m **壁高** 70cm

面積 [1.1]m² **床面積** [0.9]m²

主軸方位 N-84° - W **壁溝** 残存部分なし

柱穴 不明 **貯蔵穴** 不明

床面 ロームを含むにぶい黄褐色土で貼床とするが、残存部分が少なく大部分は不明。

掘り方 残存部分中央に南北に段があるが、他は不明。

遺物出土状況 破片が少量出土したのみ。

カマド 不明

出土遺物 土師器破片が25点出土しただけで図示できる遺物はなかった。

所見 大部分が調査区外のため詳細不明。出土遺物も少なく時期も不明である。

12号住居 (第159～161図、PL.78・92・93)

位置 A区4-B-20 A区14-B-1 **重複** なし

平面形態 隅丸長方形 **規模** 5.70×4.45m

壁高 58cm **面積** [21.70]m² (23.10)m²

床面積 [16.9]m² (17.30)m²

主軸方位 N-88° - E

壁溝 攪乱部分を除き、カマド以外全周

柱穴 なし **貯蔵穴** なし

床面 ロームを含む褐色土で貼床とするが、非常に薄い。ほぼ平坦で硬化。

掘り方 攪乱されている南東部を除き、3つの隅にピット検出。また、北東部に土坑状掘り込みあり。他はほぼ平坦な掘り方。

遺物出土状況 壁際の1・4は床面上で重なって出土しているため、遺棄遺物と考えられる。また、炭化材が、中央部付近の床面上で検出されている。他の遺物は埋土中の出土で、廃棄・流入遺物と考えられる。

カマド

位置 東壁南寄り **全長** 1.30m **幅** 0.80m

主軸方位 N-97° - E

構築 残存状況はあまりよくないが、自然礫を補強材として粘土で袖を構築していると推定される。礫は右袖のみの出土で倒れた状態で出土。燃焼部底面はやや下がり、立ち上がりは急である。

遺物出土状況 燃焼部内から土師器片が少量出土。

出土遺物 土器総数で318点出土しているが、土師器292点、須恵器26点と土師器が圧倒的に多い。他に、石製紡錘車と鉄製鎌が出土している。図示した遺物は10点あるが、完形で出土の1・4以外は、残存はよくない。

所見 炭化材が出土しているが、少量のため焼失家屋とは断定できない。時期は、遺棄と考えられる遺物から、8世紀第2～第3四半期と推定。

17号住居 (第162・163図、PL.79・93)

位置 B区93-Q・R-6・7

重複 211ピットより古 31住・60土より新

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 3.95×[1.80]m **壁高** 87cm

面積 [4.80]m² **床面積** [3.1]m²

主軸方位 N-95° - E

壁溝 北壁と東壁一部にあり 他は不明

柱穴 不明 **貯蔵穴** 不明

床面 ロームを含む暗褐色土・黄褐色土で部分的に貼床。一部掘り方を床面としている。

掘り方 一部調査区外に続くが、土坑状掘り込み1基あり。他はほぼ平坦な掘り方。

遺物出土状況 出土量は多く、残存部分のほぼ全面から

出土。床面から浮いた状態の破片が多く、廃棄・流入遺物がほとんどであるが、カマド右脇出土の6は遺棄遺物と考えられる。

カマド

位置 東壁南寄り **全長** 0.90m **幅** 1.00m

主軸方位 N-98° - E

構築 暗褐色土を含む褐色土で袖を構築。焚口部底面はやや下がり、燃焼部立ち上がりは急である。

遺物出土状況 燃焼部・焚口部から9～12の土師器が破片の状態出土。

出土遺物 土器総数で503点出土しているが、土師器473点、須恵器30点と土師器が圧倒的に多い。図示した遺物は12点あるが、完形・半完形は少なく、破片が多い。

所見 半分以上調査区外のため、不明な点が多い。時期は、遺棄遺物がないためはっきりしないが、図示された遺物から、8世紀第2～第3四半期と推定。

21号住居 (第164・165図、PL.79・94)

位置 B区93-Q・R-11・12 **重複** なし

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 5.30×[2.20]m **壁高** 105cm

面積 [9.40]m² **床面積** [7.2]m²

主軸方位 N-81° - E

壁溝 カマドを除く東壁、北壁残存部、西壁一部

柱穴 北東部のピットが柱穴になると考えられる。南東部には検出されていないが、掘り方検出のピット中に柱穴の可能性のあるものもあると推定される。

貯蔵穴 なし

床面 黒褐色土を含む黄褐色土で部分的に貼床とする。他は掘り方を床面とする。ほぼ平坦で、全体的に硬化。

掘り方 内側から壁溝状に回る掘り込みを検出。拡張の可能性もあると考えられる。他に土坑状の掘り込みが2基検出された。

遺物出土状況 ほとんどが埋土中の出土で、破片が多く廃棄・流入遺物が大部分と考えられる。

カマド

位置 東壁南寄り **全長** 1.35m **幅** 1.15m

主軸方位 N-88° - E

構築 褐色土で袖を構築。掘り方で両袖の下にピットあり。自然礫等の袖補強材の設置痕の可能性。

遺物出土状況 焚口部・袖上面から4の土師甕が破片の状態出土。

出土遺物 土器総数で207点出土しているが、土師器196点、須恵器11点と土師器が圧倒的に多い。図示した遺物は9点あるが、完形・半完形のは少なく破片が多い。鉄製品・鉄滓が5点出土している。

所見 半分以上が調査区外のため、不明な点が多い。時期は、遺棄遺物がないためはっきりしないが、8世紀第2～第3四半期と推定。

22号住居（第166図、PL.80）

位置 B区93-0・P-8 **重複** なし

平面形態 隅丸方形の可能性あり

規模 3.50×[0.65]m (3.35)m **壁高** 45cm

面積 [9.50]m² (11.60)m² **床面積** [9.1]m² (11.20)m²

主軸方位 N-98° - E

壁溝 残存部分なし **柱穴** 不明 **貯蔵穴** 不明

床面 暗褐色土を含む褐色土で貼床。残存部分少なく詳細不明。

掘り方 土坑状掘り込み3基あり。他は削平・攪乱のため大部分不明。

遺物出土状況 残存部分に破片が散在。他は削平・攪乱のため不明。

カマド 東壁南寄り 攪乱により詳細不明。

出土遺物 残存状況悪く、破片が16点出土したのみ。

所見 削平・攪乱により大部分不明。出土遺物少なく時期不明。

24号住居（第167図、PL.80・94）

位置 B区93-R-10・11 **重複** なし

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 [2.20]×[0.50]m **壁高** 57cm

面積 [1.20]m² **床面積** [0.6]m²

主軸方位 N-89° - E **壁溝** 残存部分なし

柱穴 不明

貯蔵穴 掘り方検出のカマド右脇掘り込みが貯蔵穴と考えられる。 [0.32]×0.58m

床面 大部分が調査区外のため詳細不明。

掘り方 やや凹凸のある掘り方。大部分が調査区外のため詳細不明。

遺物出土状況 埋土中に散在。大部分が調査区外のため詳細不明。

カマド

位置 東壁やや南寄り **全長** [0.90]m

幅 1.00m **主軸方位** N-94° - E

構築 褐色・黒褐色土で袖を構築か。燃烧部底面は平坦で、立ち上がりはなだらかである。

遺物出土状況 ほとんど出土せず。

出土遺物 残存状況悪く、破片が4点出土したのみ。

所見 大部分が調査区外で、北部は攪乱のため詳細不明。遺物も極めて少ない。図示した遺物は8世紀代と推定。

26号住居（第168図、PL.80・94）

位置 B区93-Q・R-15 **重複** 167土坑より新

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 [4.50]×[0.60]m **壁高** 65cm

面積 [3.00]m² **床面積** [2.3]m²

主軸方位 N-84° - E **壁溝** 残存部分なし

柱穴 不明

貯蔵穴 カマド右脇 [0.70]×0.73m

床面 ロームを含む暗褐色土・褐色土で貼床とし、ほぼ平坦な床面。北部を中心として硬化。

掘り方 細かい凹凸はあるが、全体的に平坦な掘り方。

遺物出土状況 埋土中に破片が散在。

カマド

位置 東壁やや南寄り **全長** 1.15m **幅** 1.20m

主軸方位 N-87° - E

構築 粘土を含む褐色土・暗褐色土で袖を構築。燃烧部の底面はほぼ平坦で、奥壁はなだらかに立ち上がる。

遺物出土状況 破片が少量出土。

出土遺物 総計107点出土しているが、土師器が106点で須恵器が1点と、ほとんど土師器だけである。

所見 大部分調査区外のため詳細は不明で、図示可能な遺物が1点と非常に少ないため時期も不明。

27号住居（第169～171図、PL.81・94）

位置 B区93-Q-15・16

重複 17土坑より新 28住と重複

平面形態 隅丸長方形 **規模** 5.10×3.70m

壁高 48cm **面積** 17.00m² **床面積** 12.90m²

主軸方位 N-86° - E

壁溝 カマドを除いて全周 **柱穴** なし

貯蔵穴 なし

床面 ほぼ平坦な床面で、掘り方を床面とする。

掘り方 北東部から南東部、南西部にかけて土坑・ピット多数検出。他は平坦な掘り方。

遺物出土状況 出土量は多く、中央～南部に集中する。破片が多く、廃棄・流入遺物がほとんどと考えられる。

カマド

位置 東壁やや南寄り **全長** 1.90m **幅** 1.80m

主軸方位 N-93° - E

構築 褐灰色粘質土で袖を構築。焚口部・燃焼部底面はほぼ平坦で、燃焼部奥壁はやや急に立ち上がる。煙道部はほぼ水平にのび、なだらかに立ち上がる。

遺物出土状況 破片が少量出土したのみ。

出土遺物 総計686点出土しているが、土師器が663点、須恵器が18点と、土師器が圧倒的に多い。他に、鉄製品3点、銅製品1点、鉄滓1点が出土している。

所見 遺棄された遺物が少ないので、時期ははっきりしないが、図示された遺物から、8世紀第2～第3四半期と推定。

28号住居 (第172・173図、PL.82・95)

位置 B区93-Q・R-16・17 **重複** 27住と重複

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 [5.25]×[1.30]m **壁高** 67cm

面積 [4.40]m² **床面積** [2.2]m²

主軸方位 N-85° - E

壁溝 東壁カマド北側にあり。南側はなし。他は不明。

柱穴 不明

貯蔵穴 カマド右脇にピットがあるが、規模小さく貯蔵穴にはならない。

床面 ロームを含む黄褐色砂質土で貼床とし、平坦で全体的に硬化。

掘り方 カマドから右脇にかけてピット多数検出。他は不明。

遺物出土状況 カマド以外は破片が多く、埋土中の出土がほとんどで、廃棄・流入遺物が多いと考えられる。

カマド

位置 東壁やや南寄り **全長** 1.55m **幅** 1.30m

主軸方位 N-89° - E

構築 灰褐色粘質土で袖を構築。燃焼部底面は、若干くぼむがほぼ平坦で、立ち上がりはややなだらか。

遺物出土状況 焚口部・燃焼部から土師甕が3個体潰れた状態で出土。

出土遺物 総計で342点出土しているが、土師器が326点で須恵器が15点と、土師器が圧倒的に多い。他に鉄製品が1点出土している。

所見 住居の大部分が調査区外のため不明な点が多い。カマド以外は遺棄された遺物がほとんどないので、時期ははっきりしないが、図示された遺物から8世紀第2～第3四半期と推定。

29号住居 (第174・175図、PL.83・95)

位置 B区93-0・P-16・17 **重複** なし

平面形態 隅丸長方形 **規模** 4.55×3.35m

壁高 64cm **面積** 14.80m² **床面積** 10.50m²

主軸方位 N-95° - E

壁溝 カマド・貯蔵穴を除いて全周 **柱穴** なし

貯蔵穴 カマド右脇 1.34×0.99m、深さ31cm

床面 黒褐色砂質土とロームの混土で一部貼床。他は掘り方を床面とし中央部を中心に硬化。北東隅部と北西隅部がややくぼむ。

掘り方 中央から北部にかけてやや高く、周辺が溝状に下がる掘り方。北東部から南部にかけて土坑・ピット多数検出。

遺物出土状況 出土量は多く、ほぼ全面の埋土中から出土。床面から浮いた状態の破片が多く、廃棄・流入遺物がほとんどと考えられる。

カマド

位置 東壁やや南寄り **全長** 1.70m **幅** 1.20m

主軸方位 N-91° - E

構築 灰褐色粘質土で袖を構築。焚口部・燃焼部底面はほぼ平坦で、燃焼部から煙道部にかけてなだらかに立ち上がり、煙道部の奥壁はやや急に立ち上がる。

遺物出土状況 破片が少量出土したのみ。

出土遺物 総計で1,041点出土しているが、土師器が1,010点、須恵器が28点で、土師器が圧倒的に多い。他に鉄製品の破片が3点出土している。

所見 遺物出土量は多いが、遺棄されたものはほとんど

ないため、詳細な時期は不明である。図示された遺物から、8世紀第2～第3四半期と推定。

30号住居（第176図、PL.84・95）

位置 B区93-Q-18 **重複** なし

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

規模 [2.55]×[1.55]m **壁高** 55cm

面積 [3.50]m² **床面積** [2.9]m²

主軸方位 N-86° - E **壁溝** 残存部分なし

柱穴 不明 **貯蔵穴** 不明

床面 黒褐色・灰白色土を含む黄褐色土で、部分的に貼床とする。大部分が調査区外で詳細不明。

掘り方 やや凹凸があるが、全体的に平坦な掘り方。

遺物出土状況 出土量は少なく、埋土中に散在。廃棄・流入遺物がほとんどと考えられる。1の土師杯は壁際の上で、遺棄遺物の可能性あり。

カマド

位置 東壁 **全長** 1.10m **幅** 1.00m

主軸方位 N-88° - E

構築 暗褐色土で袖を構築。焚口部・燃焼部底面は平坦で、奥壁手前でやや上がり、奥壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況 燃焼部から土師器片が出土している。

出土遺物 総計で65点出土しているが、すべて土師器で、須恵器や他の遺物は出土していない。

所見 大部分が調査区外で不明な点が多い。遺棄遺物が少なく時期ははっきりしないが、図示した遺物から、8世紀後半代と推定。

2. 掘立柱建物（第177～183図、第23・24表、PL.85・86・95）

掘立柱建物は10棟検出されている。

(1) 分布（第152図）

調査区北端部に3棟、中央やや南寄りに7棟集中しており、大きく2つの群に分かれている。

(2) 形態・規模

全体の形状が判明するものは6棟で、1間×2間1棟、2間×2間側柱1面庇1棟、2間×3間側柱4棟となっており、他は不明である。規模は長辺が最大6.6m、最小3.55m、平均5.2mで、短辺が最大4.2m、最小1.6m、

平均3.65m、面積が最大23.3m²、最小5.85m²、平均18.9m²である。

(3) 主軸方位

長辺の方向を主軸とする。南北を向くものが5棟、東西を向くものが5棟で、両者同数となっている。

(4) 柱穴

柱穴の規模を掘立柱建物ごとの平均でみると、長径61～34cm、平均48cm、短径53～31cm、平均43cm、深さ51～26cm、平均37cmで、規模の差は比較的少ないといえる。

柱痕または抜き取り痕のある柱穴は少なく、3号のピット2・ピット3に可能性があるが、はっきりしない。

(5) 時期

出土遺物が少ないため、詳細な時期は不明である。竪穴住居との重複関係や出土遺物から、8世紀以降のものが多いと考えられる。

3. 柵列（第184図、第25・26表、PL.86）

ピットが直線的に並んでいるが、建物とすることはできないものを柵列とした。

(1) 分布

調査区中央やや南寄りに3基集中している。

(2) 規模

長さ3.70～2.35mである。

(3) 主軸方位

長辺の方向を主軸とする。すべて東西を向く。

(4) ピット

長径81～42cm平均50cm、短径49～30cm平均39cm、深さ49～16cm平均33cmである。

(5) 時期

出土遺物が少ないため、詳細な時期は不明である。8世紀以降のものが多いと考えられる。

4. 溝（第185～187図、第27・28表、PL.87・88・95）

溝は9条検出されている。

(1) 分布

調査区中央から南部に分布し、北部には見られない。

(2) 規模

最大幅2.06～0.76m、最小幅1.53～0.36m、深さ41～5cmである。

(3) 走向

南北方向を向くものが5条、東西方向を向くものが4

第23表 掘立柱建物一覧

No	グリッド	重複	長辺m	短辺m	面積㎡	主軸方位	柱間		P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
1号掘立	94-A-B-19-20	25土坑	5.2	3.80	19.76	N-13° -W	2×3間側柱	長軸 cm	60	59	58	74	70	62	67	53	72	45	72
								短軸 cm	55	55	56	62	65	60	60	52	63	43	62
								深さ cm	37	34	24	47	35	25	29	26	25	27	40
2号掘立	4-A-1-2 4-B-1-2		5.8	3.9	22.62	N-85° -E	2×3間側柱	長軸 cm	26	33	38	37	51	33	30				
								短軸 cm	25	27	35	29	47	31	[15]				
								深さ cm	22	43	17	18	35	25					
3号掘立	93-S-T-17-18	3住	5.45	4	21.8	N-10° -W	2×3間側柱	長軸 cm	68	78	68	47	65						
								短軸 cm	60	62	57	45	65						
								深さ cm	68	50	75	82	70						
4号掘立	93-T-16 94-A-15-16	1・2溝	6			N-61° -E	不明	長軸 cm	45	47	35	31	46						
								短軸 cm	39	38	32	31	40						
								深さ cm	25	47	26	30	36						
7号掘立	4G-10		3.55			N-66° -E	不明	長軸 cm	45	39	30								
								短軸 cm	35	30	29								
								深さ cm	29	16	30								
8号掘立	14-C-2-3		4.9	4.1	20.09	N-3° -W	2×3間側柱	長軸 cm	70	46	53	64	72	39	52	54	71	60	
								短軸 cm	65	40	50	64	53	34	41	42	55	53	
								深さ cm	59	40	42	54	38	26	30	49	41	40	
9号掘立	14-A-B-2-3	68土坑	5.55	4.2	23.31	N-2° -E	2×2間側柱 1面庇	長軸 cm	30	55	43	54	34	48	47	34	54	53	66
								短軸 cm	26	53	38	48	33	45	41	32	42	52	60
								深さ cm	40	40	38	41	42	41	25	40	40	60	60
12号掘立	14-B-5-6 14-C-6		(3.70)	4.1	(10.15)	N-85° -E	2×2～	長軸 cm	42	56	58	40							
								短軸 cm	35	46	45	35							
								深さ cm	40	75	65	40							
14号掘立	93-S-13-14		6.6	(1.36)	(8.98)	N-1° -W	不明	長軸 cm	28	47	39	40							
								短軸 cm	27	47	38	40							
								深さ cm	20	22	20	20							
15号掘立	93-S-T-12		3.7	1.58	5.85	N-86° -W	1×2間	長軸 cm	51	67	60	52	43	36	33				
								短軸 cm	50	60	45	45	42	36	30				
								深さ cm	28	46	34	31	17	14	24				

第24表 掘立柱建物出土遺物一覧

	土師器											須恵器											土器計	石製品	鉄製品	他	総計					
	坏					甕						他	計	坏					甕・瓶									蓋	他	計		
	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部	半完	小計	他			計	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部									小計	口縁
1号掘立	1				1	1				1		2				0				0			0			0	2				2	
2号掘立		1			1	1				1		2				0				0			0			0	2				2	
8号掘立	1				1	2				2		3				0	1	3	1	5			0	2		7	10			10		
9号掘立					0	2				2		2				0				0			0			0	2				2	
13号掘立		1			1	1				1		2				0				0			0			0	2				2	

第25表 柵列一覧

No.	グリッド	重複	長辺m	主軸方位	P 1			P 2			P 3			P 4		
					長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm
1号柵列	94-A・B-16		2.35	N-81° -E	45	42	32	44	35	33						
2号柵列	94-A-15	1溝	3.60	N-86° -E	42	40	46	57	35	29	59	42	37	43	[25]	16
3号柵列	94-A-15	4住 1・4溝	3.70	N-89° -E	61	43	27	52	49	49	42	30	28	53	37	35

第26表 柵列出土遺物一覧

	土師器										須恵器										土器計	石製品	鉄製品	他	総計									
	坏					甕					他	計	坏					甕								壺・瓶		蓋	他	計				
	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部	半完	小計			口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部						小計	口縁				胴部	小計		
1号柵列	1				1					0				1					0									1						2
2号柵列	1		1		2					0				2					0									2						4
3号柵列			4		4					0				4					0									4						8

条で、南北と東西がほぼ同数である。

(4) 機能・時期

いずれの溝も、形態・埋土等から水路等の機能は考えにくく、地境等の溝であった可能性が高い。出土遺物が少なく詳細な時期は不明であるが、8世紀以降になると考えられる。

5. 土坑 (第188図、第29・30表、PL.89～91・95)

土坑は4基検出されている。

(1) 分布

分布は散漫で、集中した分布は見られない。

(2) 形態

平面形態は、楕円形3基、隅丸長方形1基で、断面形態は、台形が2基、長方形が1基、不正形が1基となっている。

(3) 規模

長径2.45～0.65m平均1.38m、短径1.54～0.48m平均0.95m、深さ48～17cm平均35cm、面積1.8～0.4㎡平均1.0㎡である。

(4) 機能・時期

特に機能が判明するような形態のものはなく、機能を限定することはできない。出土遺物も少ないため詳細な時期も不明であるが、少量の遺物から、8世紀以降のものと考えられる。

6. ピット (第189・190図、第31・32表、PL.95～98)

ピットは30基検出されている。

(1) 分布

調査区中央南寄りに集中している。

(2) 規模

長径80～23cm平均39cm、短径74～20cm平均34cm、深さ89～7cm平均28cmである。

(3) 機能・時期

ほとんどが性格不明のものである。柱痕あるいは抜き取り痕が見られるものは202号と207号の2基で、柱穴と考えられるが、他のピットは機能を断定することはできない。遺物が出土しているのは、218号と221号の2基で、時期は8世紀以降と考えられる。他のピットも同様な時期となる可能性が高い。

第27表 溝一覧

	グリッド	重複	長さm	最大幅m	最小幅m	深さcm	走 向
1号溝	94-A-15～18・3-T-1・93-T-18～20・3-R-7	4溝・4掘立・1住・2・3柵列	62.7	1.4	0.43	35	N-12° -E
2号溝	94-A-15・93-T-15～18	4掘立	16	1.4	0.51	38	N-5° -E
3号溝	3-T-4・4-A～G-4・4-D～G-5	8・14・15住・195土坑	34.9	1.05	0.41	18	N-86° -W
4号溝	94-A・B-15	4住・1溝・3柵列	8.35	0.95	0.85	25	N-81° -W
7号溝	3-R-10～14 3-S-9～11		21.9	0.5	0.43	5	N-10° -E
8号溝	93-N-2・3		6.6	1.1	0.55	23	N-13° -E
9A号溝	93-Q-11～13		13.6	1	0.36	8	N-10° -E
9B号溝	93-P～R-14		7.25	0.76	0.67	16	N-82° -W
10号溝	93-N-14		2.6	2.06	1.53	41	N-76° -E

第28表 溝出土遺物一覧

	土師器											須恵器											土器計	石製品	鉄製品	他	総計								
	坏					甕						他	計	坏					甕									壺・瓶			蓋	他	計		
	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部	半完	小計	他			計	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部						小計	口縁	胴部				小計	
1号溝	4	4			8		10	1		11		19	1	2		3				0			0			3	22				2				
2号溝	8	3			11	2	39			41		52	1	2		3		2	1	3				0		6	58								
4号溝					0					0		0				0				0			0			0	0		1						
6号溝		1			1					0		1				0				0			0			0	1								
8号溝	1	1	1		3		4			4		7			2	2				0			0			2	9				4				
10号溝			1		1					0		1				0				0			0			0	1				8				

第3節 遺物 (PL.92～95)

遺物は、土師器、須恵器、石製品、鉄製品等が出土している。(第33表)

土師器 器種は、坏、甕、鉢、等が出土しており、総数5,232点出土している。甕が3,733点で坏が1,493点と、甕の出土量が坏の2倍以上となっている。

I 坏 A～Cの3類に分けられる。

A 丸底で、体部は丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は内傾または外反する

B 平底で口縁部と体部の稜がはっきりするもの

C その他・不明

II 甕 A・Bの2類に大別できる。

A 褐色・橙色で器壁厚く、口縁部は「く」の字状を呈する

B 赤褐色・暗赤褐色で器壁薄く、口縁部は「く」の字状・「コ」の字状を呈する

1 口縁部が「く」の字状を呈する

2 口縁部が「コ」の字状を呈する

III 鉢

IV 小型土器

V その他・不明

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

第29表 土坑一覧

	グリッド	重複	平面形態	断面形態	長径m	短径m	長辺/短辺	深さ cm	面積㎡	主軸方位
10号土坑	4-E-4	14土坑	楕円形	台形	0.65	0.48	1.35	17	0.40	N-47° -E
40号土坑	3-S-8	11住	楕円形	台形	2.45	1.54	1.59	48	1.80	N-39° -E
68号土坑	14-A-2	9掘立	楕円形	不正形	1.07	0.75	1.43	32	0.70	N-65° -E
172号土坑	93-Q-P-15・16	27住	隅丸長方形	長方形	1.34	1.03	1.30	41	1.20	N-6° -E

第30表 土坑出土遺物一覧

	土師器											須恵器											土器計	石製品	鉄製品	他	総計				
	坏					甕						他	計	坏					壺・瓶									蓋	他	計	
	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部	半完	小計	他			計	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部									小計
2号土坑		1			1					0		1				0				0			0			0	1				1
86号土坑		2			2		4			4		6		2		2	1			1			0			3	9				9
149号土坑					0					0		0	1			1				0			0			1	1				1
172号土坑	1	1			2	1	4			5		7				0				0			0	1		1	8				8

須恵器 器種は、坏、蓋、甕、壺・瓶等で、総計343点出土している。坏・蓋類が229点、甕類が101点、壺・瓶類7点で、坏類が最も多くなっている。

I 坏・碗・皿 坏・碗・皿は破片では区別がつかないため一括して分類した。器形のわかるものは、口径/高さが3/1以上のものを坏、以下のものを碗とした。皿は口径/高さが4/1以上のものを目安とした。

A 平底で底部高台の無いもの

- 1 底部回転篋切りのもの
- 2 底部切離し後全面篋削り・ナデのもの
- 3 底部回転糸切り後外周篋削りのもの
- 4 底部回転糸切り無調整で底部大（口径/底径<1.75）
- 5 底部回転糸切り無調整で底部小（口径/底径≥1.75）
- 6 不明

B 黒色土器

C その他・不明

II 蓋

III 甕

IV 壺・瓶類

V その他・不明

石製品 砥石・紡錘車各1点が出土している。

鉄製品 鎌（不確実なものも含む）2点・刀子4点・釘3点等が出土している。他に鉄滓が3点出土している。

銅製品 青銅製の丸柄が1点出土している。

中近世遺物

中近世は、軟質陶器、陶器、磁器、銅製品（煙管吸口）等の遺物が少量出土している。

第31表 ピット一覧

No	グリッド	重 複	長径 cm	短径 cm	深さ cm
200	93-Q-8		36	34	30
201	93-P-9		31	28	16
202	93-Q-9		39	34	34
203	93-Q-8		24	21	33
204	93-Q-7		32	26	14
205	93-Q-7		42	33	19
206	93-Q-7		48	40	20
207	93-P-Q-9		90	74	69
209	93-P-Q		35	30	36
210	93-P-10		33	31	7
211	93-R-7	17 住	[75]	[34]	64
212	93-S-14	213 ピット新	52	44	37
213	93-S-14	212 ピット旧	45	40	30
215	93-S-14		32	29	30
217	93-T-14	241 ピット	23	20	10

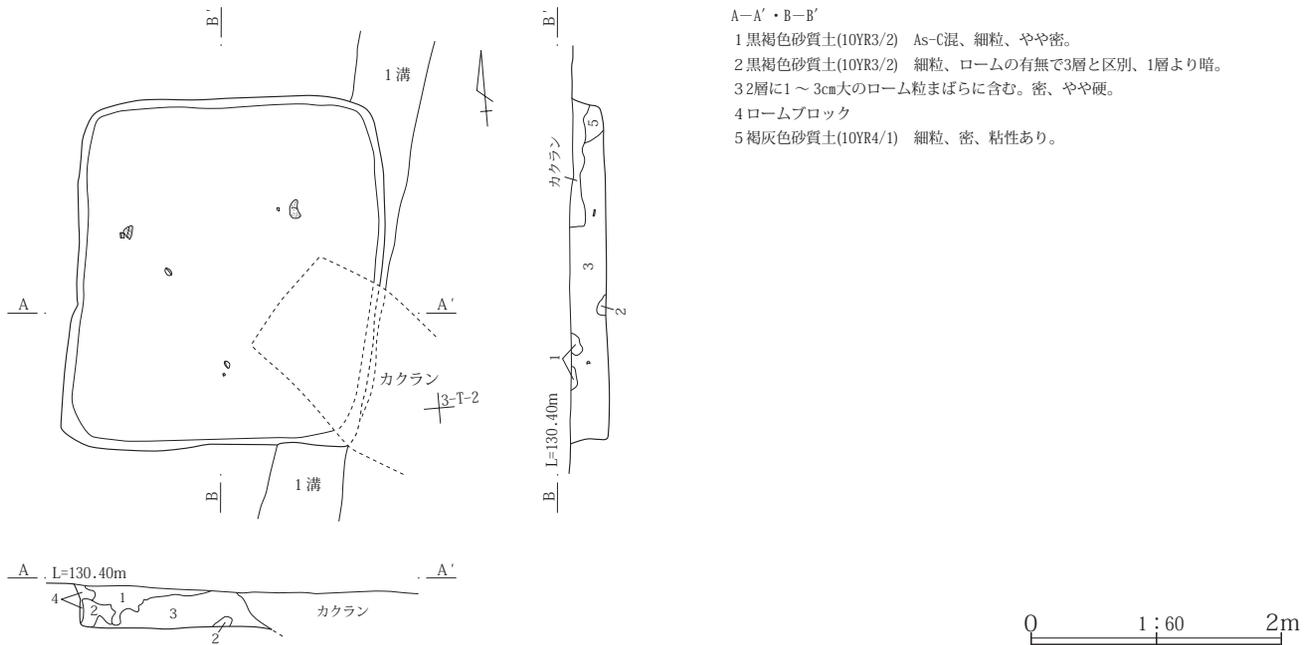
No	グリッド	重 複	長径 cm	短径 cm	深さ cm
218	93-T-14	219 ピット新	40	40	31
219	93-T-14	218 ピット旧	43	40	22
220	93-T-13		36	27	23
221	93-T-13		51	46	27
223	93-T-13		38	36	57
225	93-T-13		45	35	13
227	93-T-13		33	28	20
228	94-A-13 93-T-13		33	32	10
229	94-A-13 93-T-13		40	39	24
230	93-T-13		28	24	25
234	93-T-12		38	36	30
235	94-A-12		42	42	36
236	94-A-12		[33]	[27]	28
240	93-Q-10		34	32	20
241	93-T-13・14	217 ピット	38	31	26

第32表 ピット出土遺物一覧

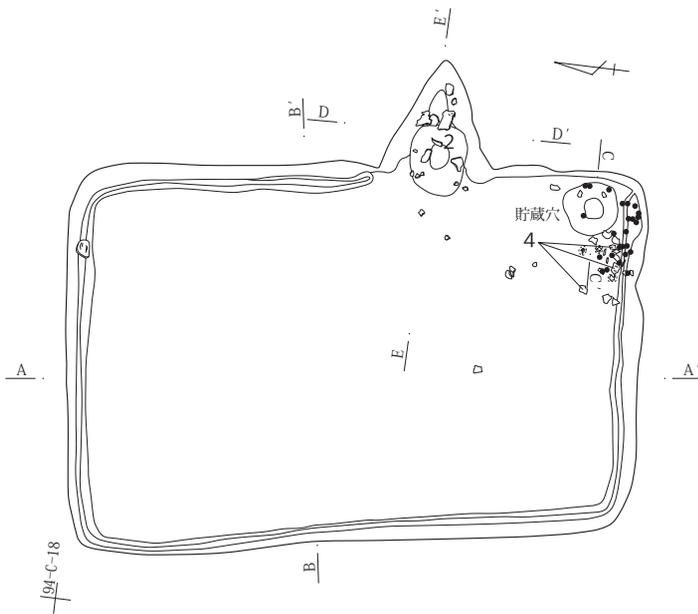
	土師器											須恵器											土器計	石製品	鉄製品	他	総計						
	坏					甕						他	計	坏					甕・瓶									蓋	他	計			
	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部	半完	小計	他			計	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部									半完	小計	蓋
218号ピット					0						0	1	1														0	1					1
221号ピット	1				1						0		1														0	1					1

第33表 奈良時代以降出土遺物一覧

点数	土師器											須恵器											土器計	軟質陶器	中近世陶器	磁器	石製品	鉄製品	銅製品	他	総計					
	坏					甕						他	計	坏					壺・瓶													蓋	他	計		
	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部	半完	小計	他			計	口縁	体部	底部	半完	小計	口縁	胴部	底部													小計	計
545	753	185	10	1,493	188	3,510	34	1	3,733	6	5,232	110	64	28	4	206	11	77	13	101	1	6	0	7	23	6	343	5,575	6	9	1	2	17	2	4	5,616

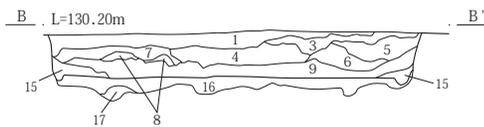
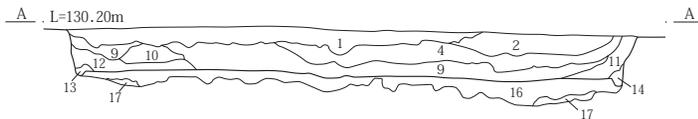


第153図 1号住居



A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) やや軟質、白色～黄白色軽石をやや多くローム粒子を少量含む。
- 2 褐色土(10YR4/4) やや軟質、白色～黄白色軽石を微量にローム粒子をやや多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 黄白色軽石粒を少量含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒子多く、ロームブロックを微量含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/3) 黄白色軽石粒を少量、ロームブロックをやや多く含む。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黄白色軽石粒を少量、ロームブロックを多く含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 黄白色軽石粒を少量含む。
- 8 黄褐色土(10YR5/6) 黄白色軽石粒を少量含む。
- 9 黄褐色土(10YR3/2) やや軟質、ローム粒子を全体的にやや多く含む。
- 10 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック少量、炭化物微量含む。
- 11 黒褐色土(10YR2/3) やや軟質、ローム粒子少量含む。
- 12 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量、ロームブロック微量含む。
- 13 褐色土(10YR4/4) 軟質、ローム粒子を主体とする。
- 14 黒褐色土(10YR2/2) 軟質、ローム粒子微量含む。
- 15 黄褐色土(10YR3/1) 軟質、ローム粒子極微量含む。
- 16 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり有、硬質ロームブロックを多く含む。貼床。
- 17 褐色土(10YR4/6) ロームを主体とする層。

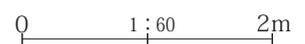
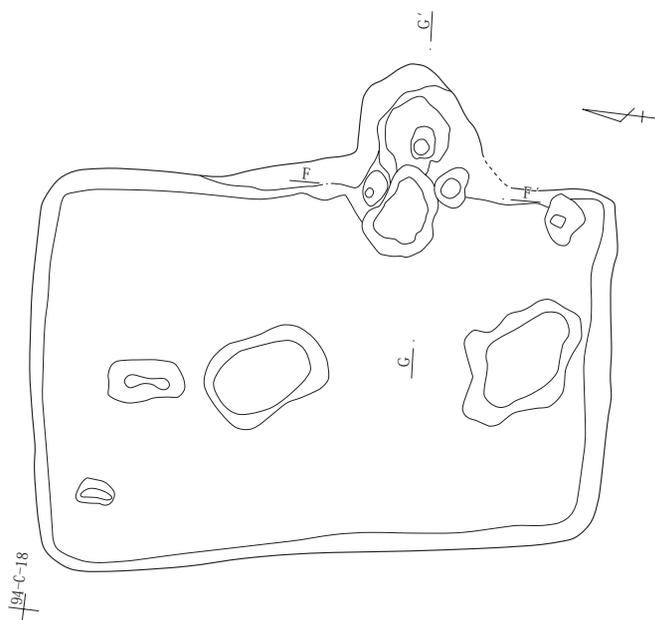


C L=129.90m C'



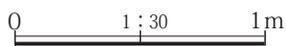
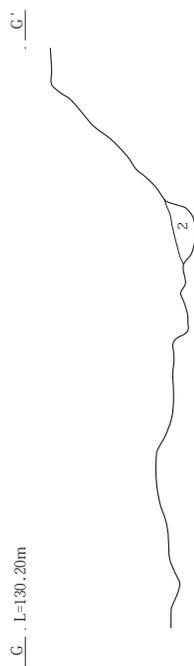
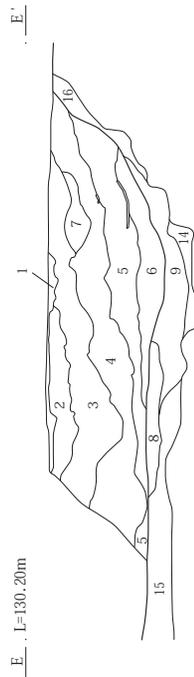
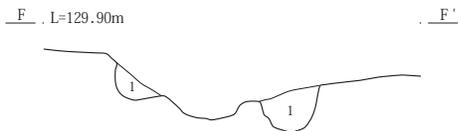
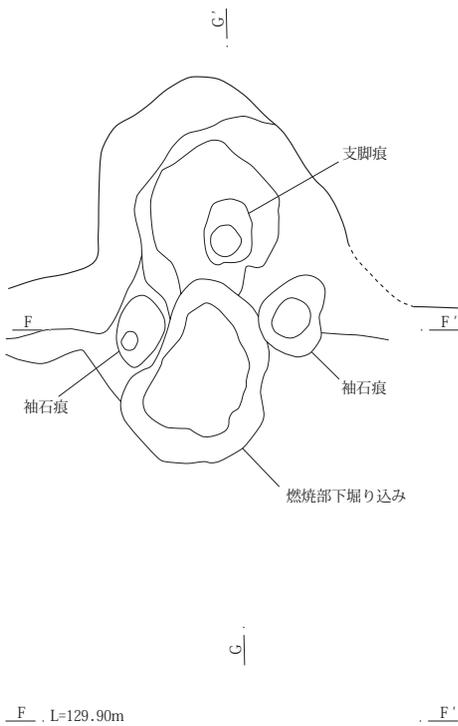
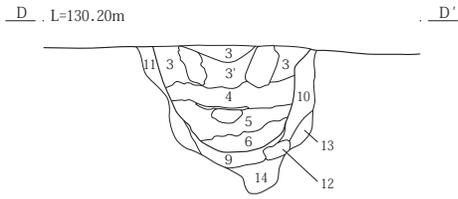
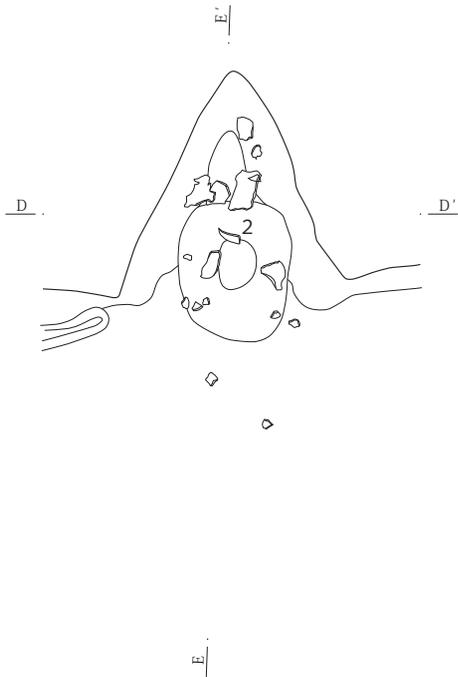
C-C'

- 18 灰黄褐色土(10YR5/2) 軟質、カマドから流れ込んだ灰。粘土粒子を多く含む。
- 19 褐色土(10YR3/3) 焼土ブロックを多く含む。
- 20 黒褐色土(10YR2/3) 焼土粒子微量、ロームブロックやや多く含む。



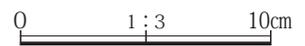
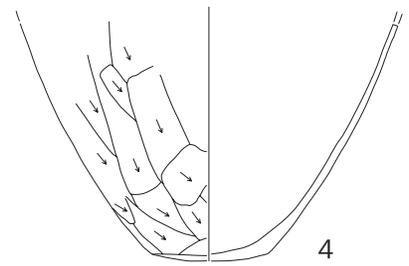
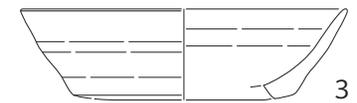
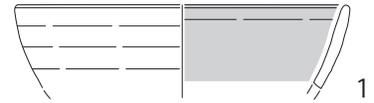
第154図 2号住居(1)

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

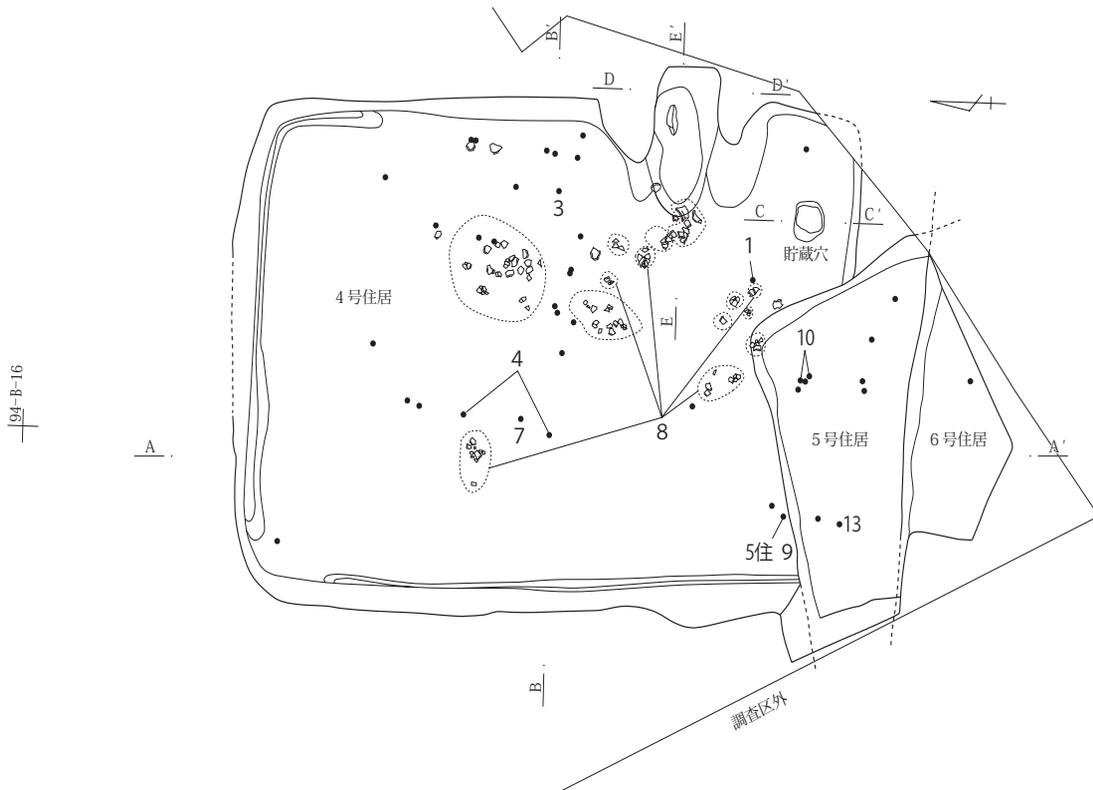


D-D'・E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) しまりやや有、ローム微粒子を多く含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック、白灰色粘土を多く含む。
 - 3 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子、ロームブロックをやや多く、粘土塊を少量含む。
 - 3' 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子、ロームブロックをやや多く、粘土塊、焼土粒を少量含む。
 - 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり強い、粘性強い、黄灰～白灰色粘土塊を多く含む。
 - 5 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒多く、焼土ブロック、炭化物を少量含む。
 - 6 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒子、灰をやや多く、ローム粒を少量含む。
 - 7 粘土塊
 - 8 黒褐色土(10YR2/2) やや軟質。硬質焼土塊、灰、炭化物をやや多く含む。
 - 9 暗褐色土(10YR3/3) 軟質、ローム粒子を多くブロックを少量、灰をやや多く含む。
 - 10 暗褐色土(10YR3/4) やや硬質。白灰色粘土ブロックを多く、ローム粒子、ブロックをやや多く含む。
 - 11 10層と同質
 - 12 黒色土(10YR2/1) 黒色粘土塊。
 - 13 褐色土(10YR4/4) しまり有、ローム粒子を主体とする。
 - 14 黒褐色土(10YR3/2) 軟質、ローム粒子を多く含む。
 - 15 褐色土(10YR4/6) 上面にやや硬化した面を持つ、ローム粒子を主体とする層。
 - 16 黒褐色土(10YR3/2) 軟質、ローム粒子を多く含む。
- F-F'・G-G'
- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を主体とする。
 - 2 褐色土(10YR4/4) やや軟質。ローム粒子多く、硬質ロームブロック少混。

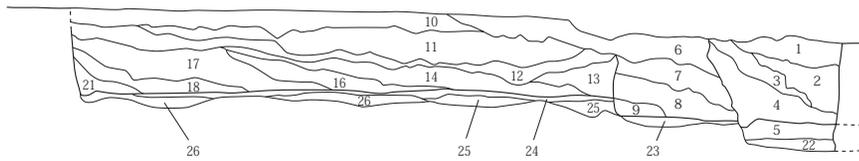


第155図 2号住居(2)



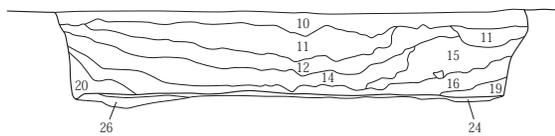
A . L=130.20m

A'



B . L=130.20m

B'



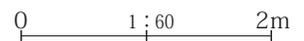
C . L=129.20m C'

C-C'
1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 1mm大ローム粒多混、
ロームブロック少量混。

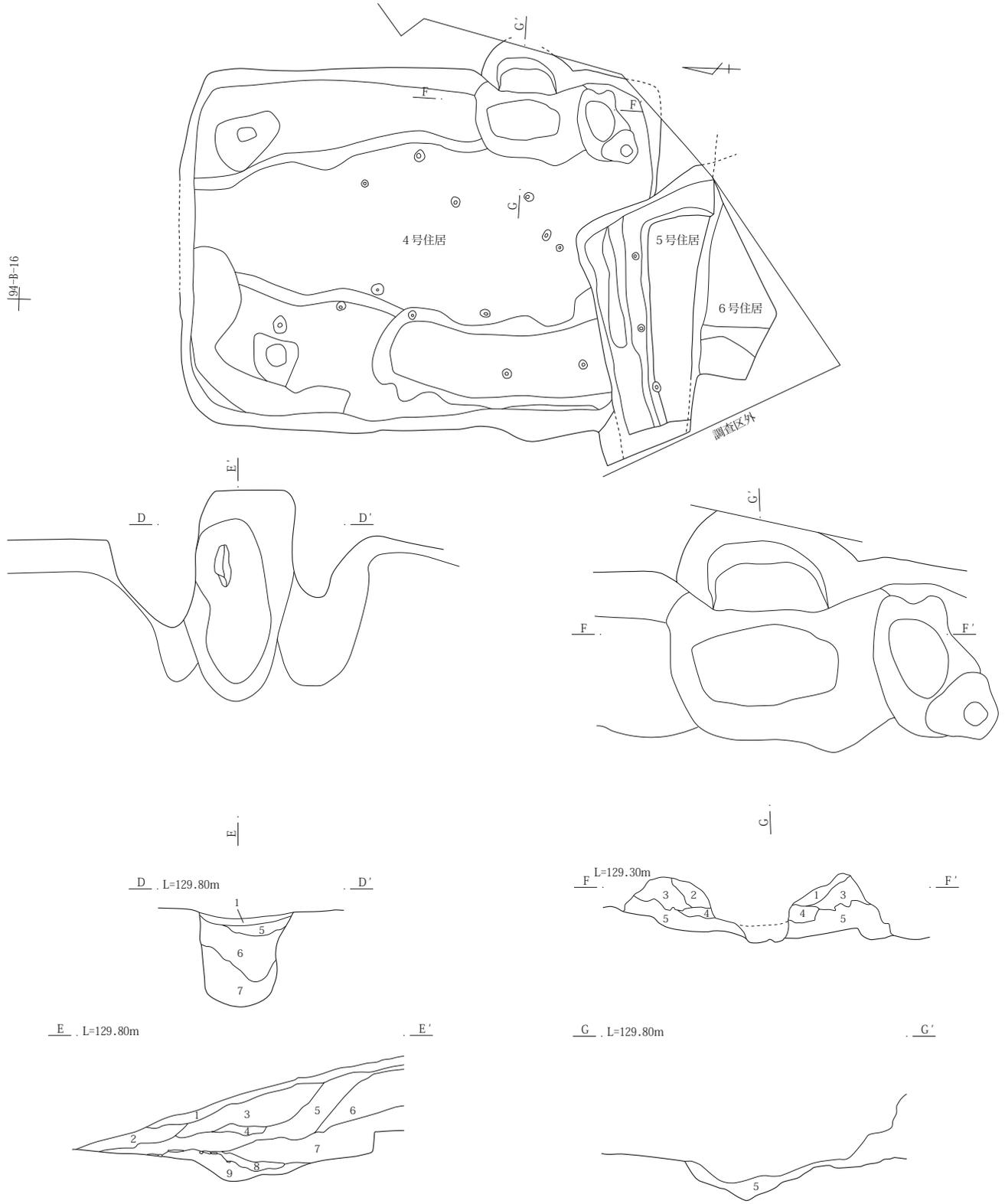
A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/3) やや軟質、ローム粒子をやや多く含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子を全体的に少量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子、ブロックを微量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子を多く、黄褐色砂粒を微量含む。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子をやや多く、ロームブロックを少量含む。
- 6 褐色土(10YR4/6) やや軟質、ローム粒子を多く含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量、白色砂粒微量含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/3) しまり有。焼土粒子やや多く、ローム粒子微量含む。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) やや軟質、ロームブロック少量含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) 白色砂粒をやや多く、ローム粒を少量含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/2) 白色軽石粒をやや多く、ローム粒を少量含む。
- 12 黒褐色土(10YR3/2) 軽石の混入が認められる、土質は14層と同一。
- 13 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒、ブロックを多く含む。

- 14 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子、ブロックをやや多く、白色軽石粒を少量含む。
- 15 暗褐色土(10YR3/3) やや軟質、ローム粒を全体的に少量含む。
- 16 黒褐色土(10YR2/3) ローム微粒子を多く、炭化物を微量含む。
- 17 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強い。ロームブロックを微量含む。
- 18 褐色土(10YR4/4) しまり強い。ローム粒子を多く、ロームブロックをやや多く含む。
- 19 灰黄褐色土(10YR4/2) 軟質。ローム粒、灰を少量含む。
- 20 黒褐色土(10YR2/1) 軟質、ロームブロックを微量含む。
- 21 黒褐色土(10YR2/1) 23層と同質。
- 22 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体、白色砂を少量含む。
- 23 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を多く含む。
- 24 にぶい黄褐色土(10YR4/3) やや硬質、ロームブロックを多く含む貼り床層。
- 25 黒褐色土(10YR3/1) やや軟質、ローム粒子を少量含む。
- 26 褐色土(10YR4/6) ローム粒子を主体とする。



第156図 4号・5号・6号住居(1)



D-D'・E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) やや軟質、ローム粒を多く含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘質、灰～黒褐色粘土塊を主体とし、ローム粒を多く含む。
- 3 褐灰色土(10YR4/1) 粘性やや有、灰～黒色粘土の塊を多く、白色軽石粒を少量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 軟質、ローム粒を多く含む。
- 5 黒褐色土(25Y3/2) 軟質な粘土粒子を多く、焼土ブロックを微量含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロック、焼土粒子、粘土粒子をやや多く含む。
- 7 黒色土(10YR2/7) 暗灰色粘土ブロックを主体とし、ローム粒子、焼土粒ブロックを多く含む。
- 8 暗灰色土(N3/0) 灰層、焼土粒子を少量含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) 灰を多く、ローム粒子を少量含む。

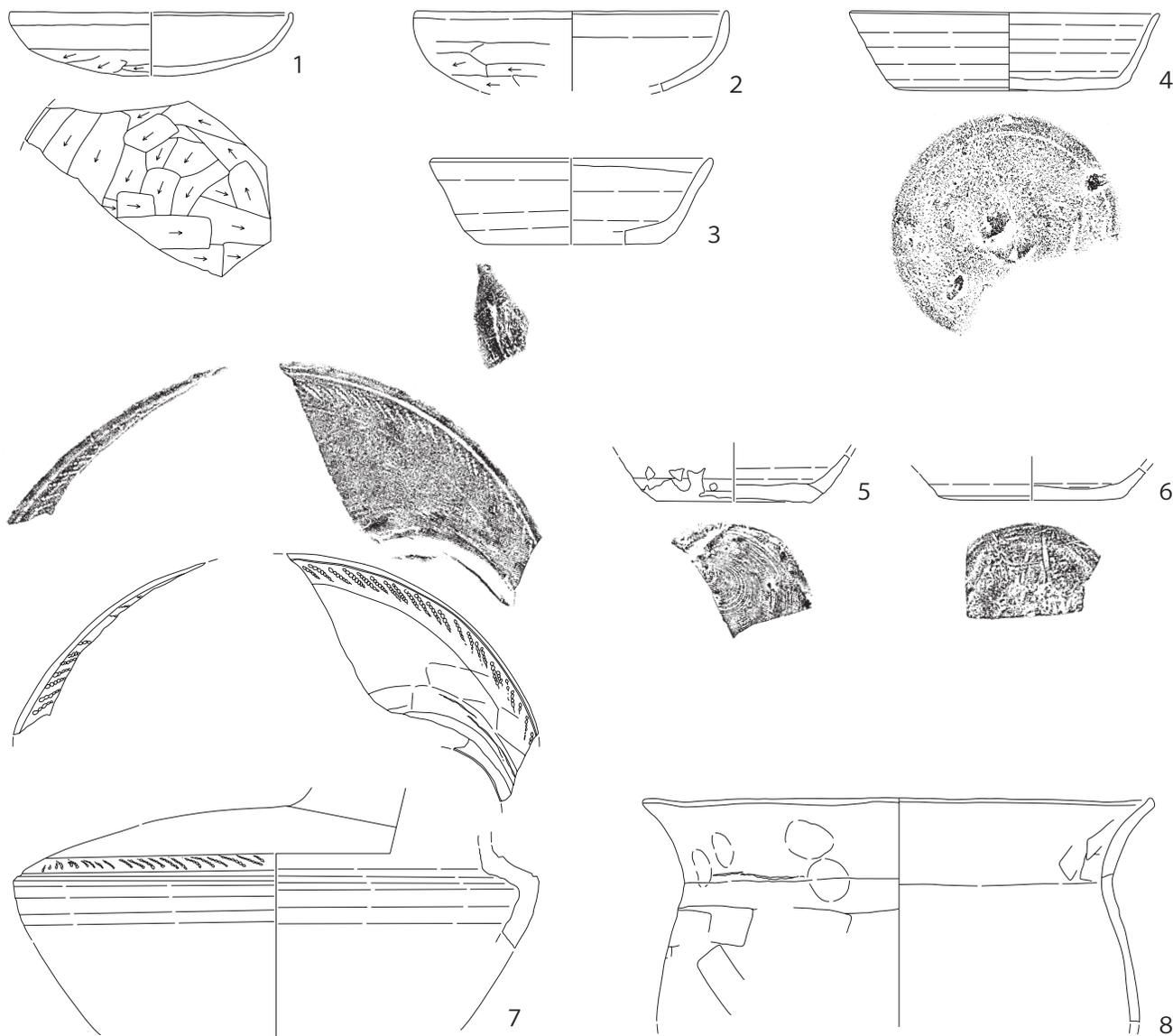
F-F'・G-G'

- 1 褐灰色土(10YR4/1) 粘土を主体、一部被熱して焼土化している。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘土を主体とし、大部分が被熱して焼土化している。
- 3 暗灰色土(N3/0) 粘土を主体とする袖の芯部、被熱。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、焼土粒を多く、粘土の混入少ない。
- 5 黒褐色土(10YR2/3) 3cm大までのロームブロック多混。

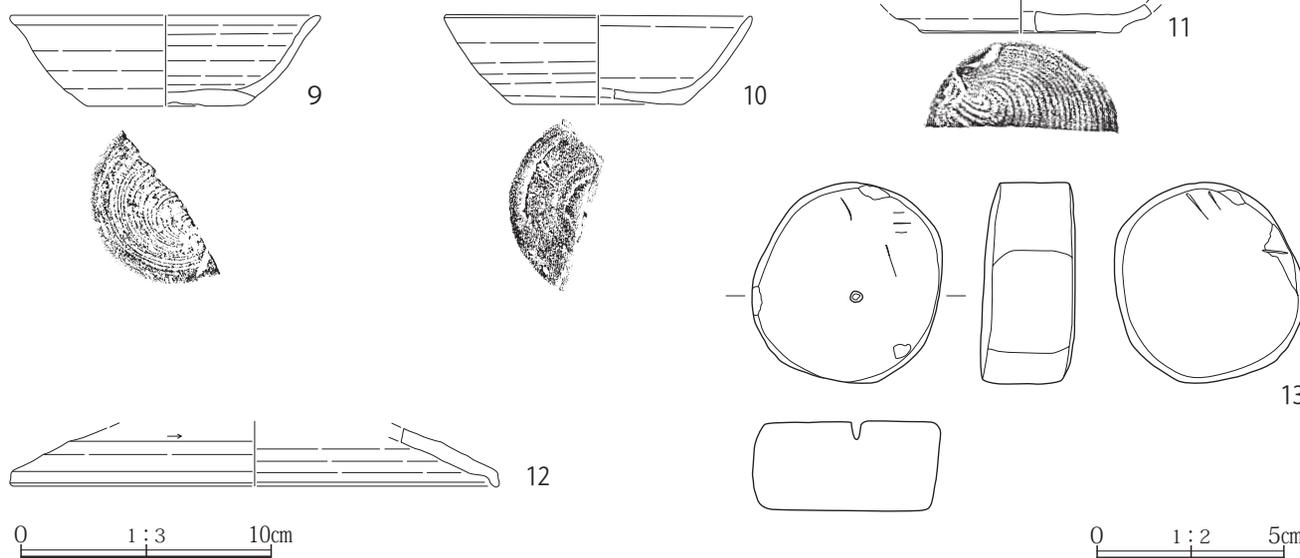
0 1:30 1m

第157図 4号・5号・6号住居(2)

4号住居



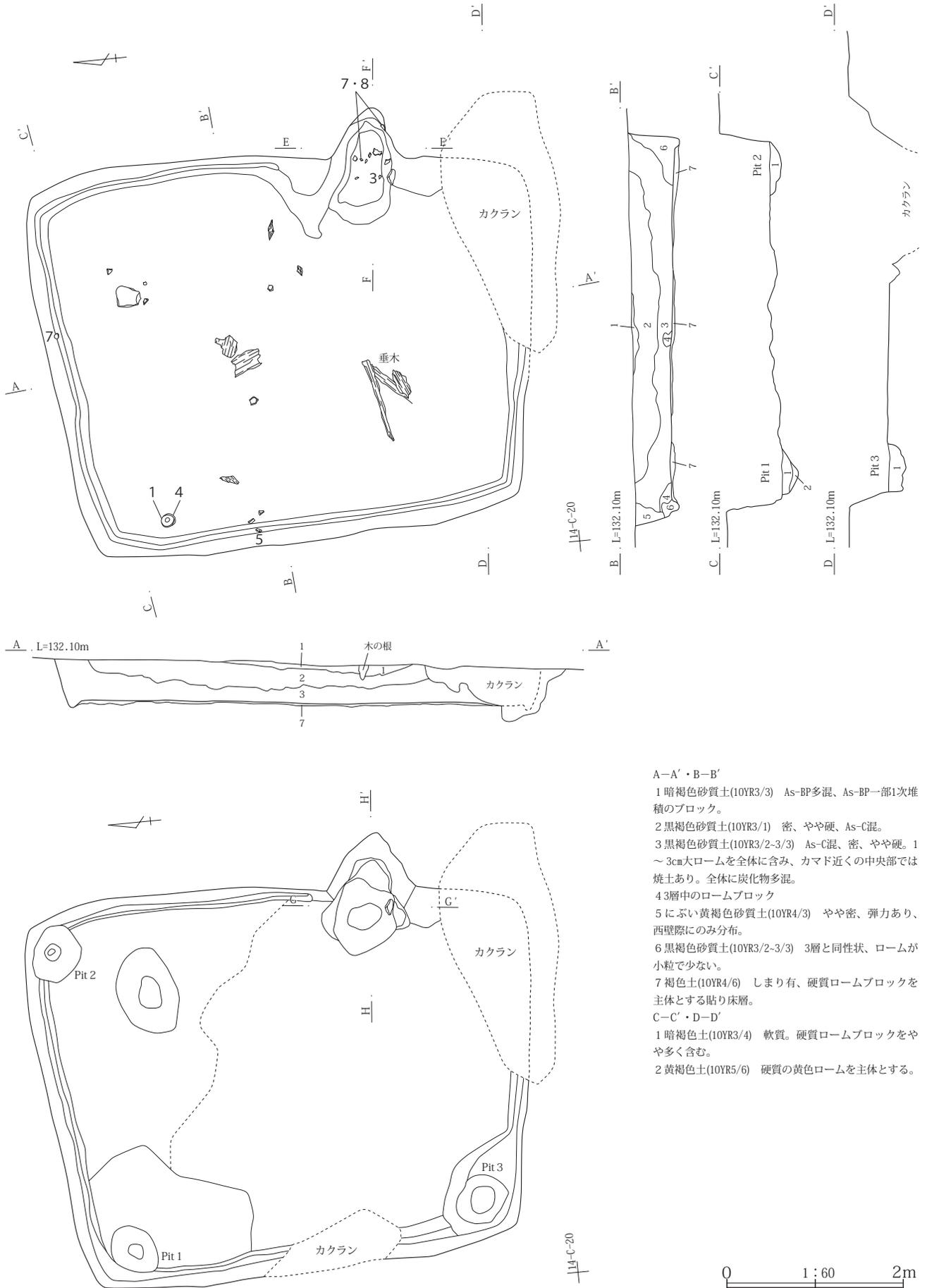
5号住居



0 1:3 10cm

0 1:2 5cm

第158图 4号・5号住居出土遺物



A-A'・B-B'

1 暗褐色砂質土(10YR3/3) As-BP多混、As-BP一部1次堆積のブロック。

2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 密、やや硬、As-C混。

3 黒褐色砂質土(10YR3/2-3/3) As-C混、密、やや硬。1~3cm大ロームを全体に含み、カマド近くの中央部では焼土あり。全体に炭化物多混。

4 3層中のロームブロック

5 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) やや密、弾力あり、西壁際のみ分布。

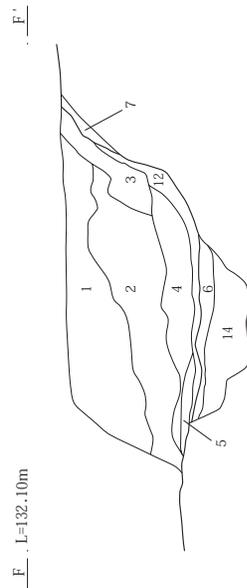
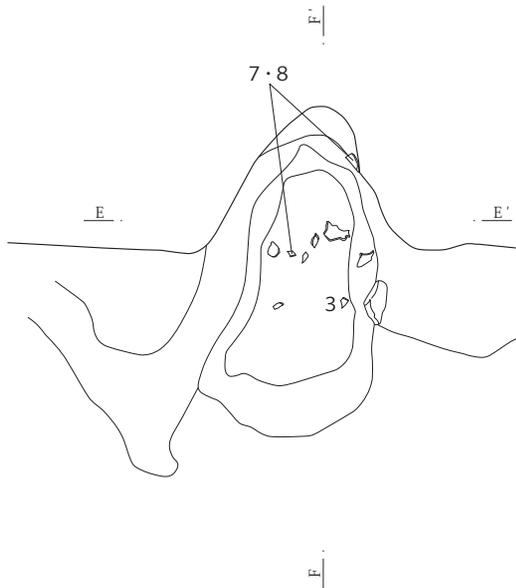
6 黒褐色砂質土(10YR3/2-3/3) 3層と同性状、ロームが小粒で少ない。

7 褐色土(10YR4/6) しまり有、硬質ロームブロックを主体とする貼り床層。

C-C'・D-D'

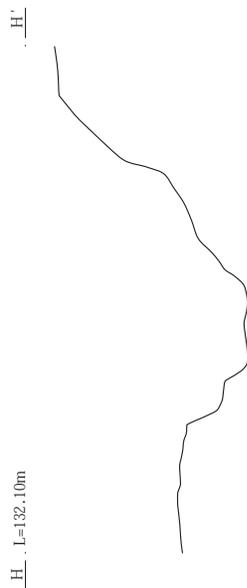
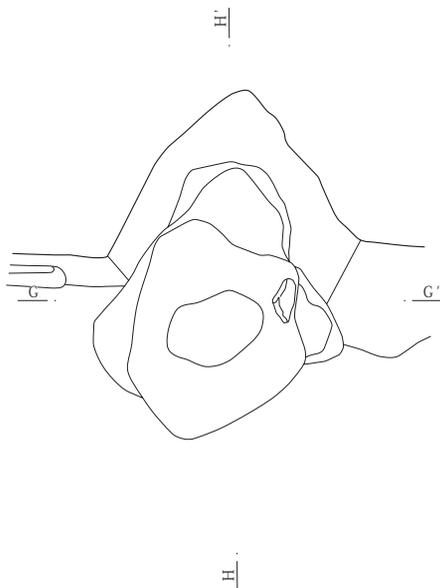
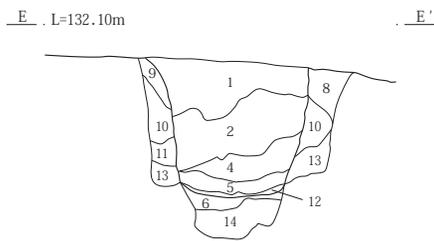
1 暗褐色土(10YR3/4) 軟質。硬質ロームブロックをやや多く含む。

2 黄褐色土(10YR5/6) 硬質の黄色ロームを主体とする。



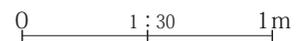
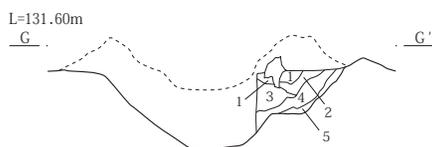
E-E'・F-F'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) やや軟質。ローム粒子をやや多く、As-C軽石を少量含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘質。崩落した粘土(焼土粒含む)を多く、ローム粒子を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム崩落土を主体とし、焼土ブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子を多く、崩落した粘土塊と焼土粒子をやや多く、灰を少量含む。
- 5 黒褐色土(2.5YR3/2) 灰、焼土粒子を主体とする、カマド崩落土の混じった灰層。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 粘質、ロームブロック少量、粘土塊を多く含む。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 全体的に被熱し焼土化している。ローム粒子を多く含む。
- 8 黄灰色土(2.5Y4/1) 粘土を主体とする、やや被熱し焼土ブロック化している。
- 9 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 軟質、ローム粒子微量含む。
- 10 褐色土(7.5YR4/4) 焼土ブロックを多く含む、被熱した壁層。
- 11 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子、焼土粒子少量含む。
- 12 灰赤色土(2.5YR4/2) 灰層、細かな焼土粒子を多く含む。
- 13 暗褐色土(10YR3/3) 軟質、ロームブロックを多く含む。
- 14 褐色土(10YR4/1) 粘土を主体としローム粒子を少量含む。

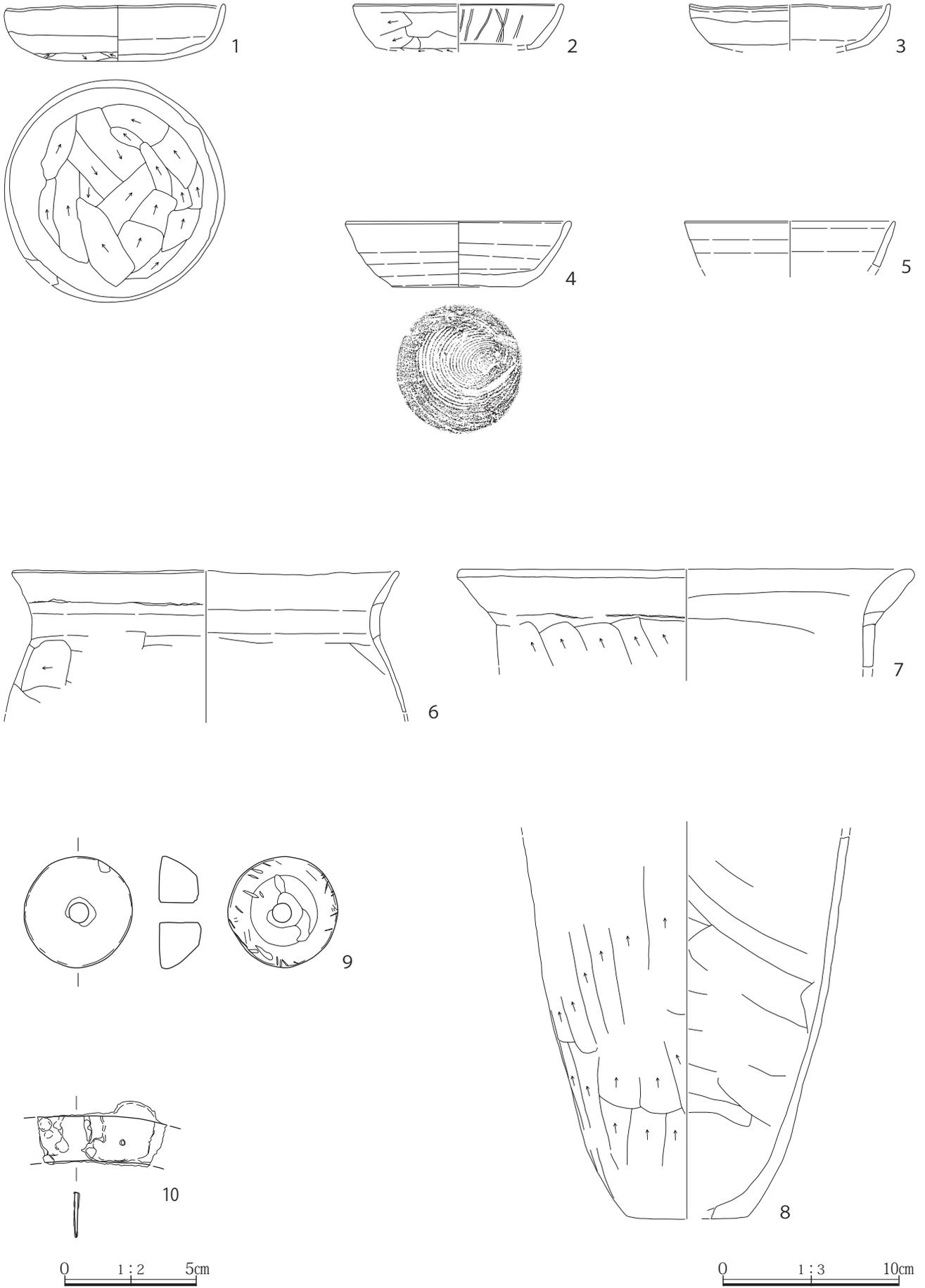


G-G'

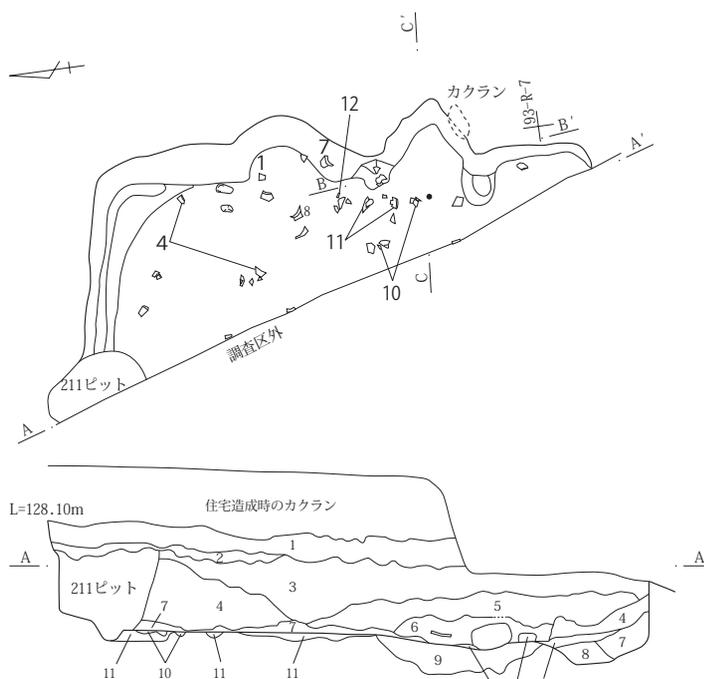
- 1 褐色土(10YR4/1) 粘質、やや硬質な粘土塊を主体とする。焼土粒子微量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 粘土塊をやや多く、焼土粒子微量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) やや軟質、焼土粒子少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子やや多く含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) やや軟質、ロームブロックを多く含む。



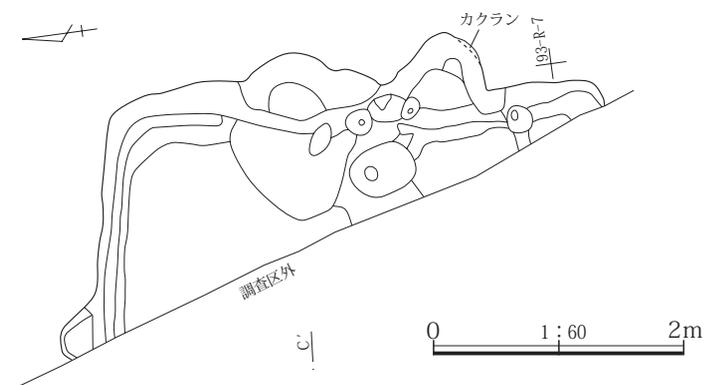
第160図 12号住居(2)



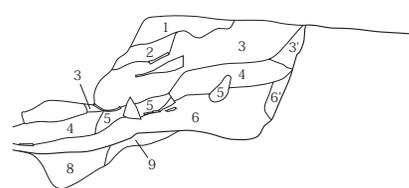
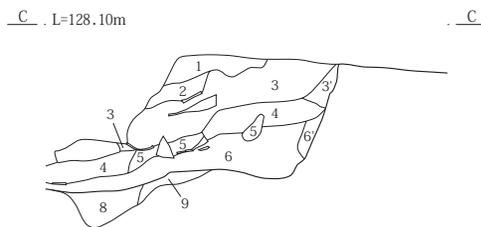
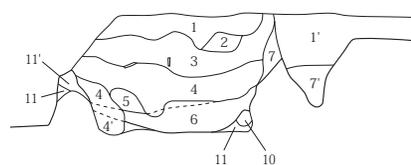
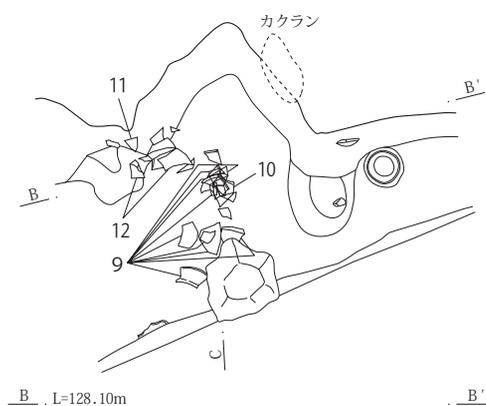
第161図 12号住居出土遺物



- A-A'
- 1 黒褐色土(10YR3/2-4/2) 灰色がかった土、白い軽石混じり。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3-4/3) ロームかロームブロック混じり、白い軽石あり、1層より明るい。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3-2/3) As-Cらしき軽石が多く混じる、ローム粒少し混じる。
 - 4 黒褐色土(10YR2/3) As-Cらしき軽石が多く混じる、ローム粒ほとんど混じらず3層より黒味が強い。
 - 5 暗褐色土(7.5YR3/3-2/3) ローム粒、As-Cを含む。焼土粒少しあり。輪郭の弱いロームブロック少しあり。
 - 6 暗褐色土(7.5YR3/3) As-Cらしき軽石わずかにあり、焼土粒、細かな炭粒あり。ローム、粘土のブロックを含む。
 - 6' 褐色土(7.5YR4/3) 粘土ブロック。
 - 6'' 黒褐色土(10YR2/3-3/3) カマド使用面の灰を多く含む、カマド6層に近い。
 - 7 暗褐色土(10YR3/3) やや軟、ローム混じり。細かなロームブロックあり、As-Cらしき軽石少しあり。
 - 7' 暗褐色土(10YR3/3-3/2) 7層に比べやや灰色がかった色、カマドの粘土質の土混じり。焼土粒少しあり、ローム粒、ロームブロックあり。
 - 8 暗褐色土(10YR3/3-2/3) ローム粒少しまじる、ロームブロックが目立つ、やや軟。
 - 9 褐色土(10YR4/4) ローム暗褐色土混じり、ロームブロックを多く含む。上位は硬く区しるが下位はやや軟。
 - 10 暗褐色土(10YR3/4) ローム混じり、ロームブロックを多く含む。
 - 11 黄褐色土(10YR5/6-4/6) 地山(As-0k1、ハードローム)のロームを主とする。暗褐色土少し混じる。

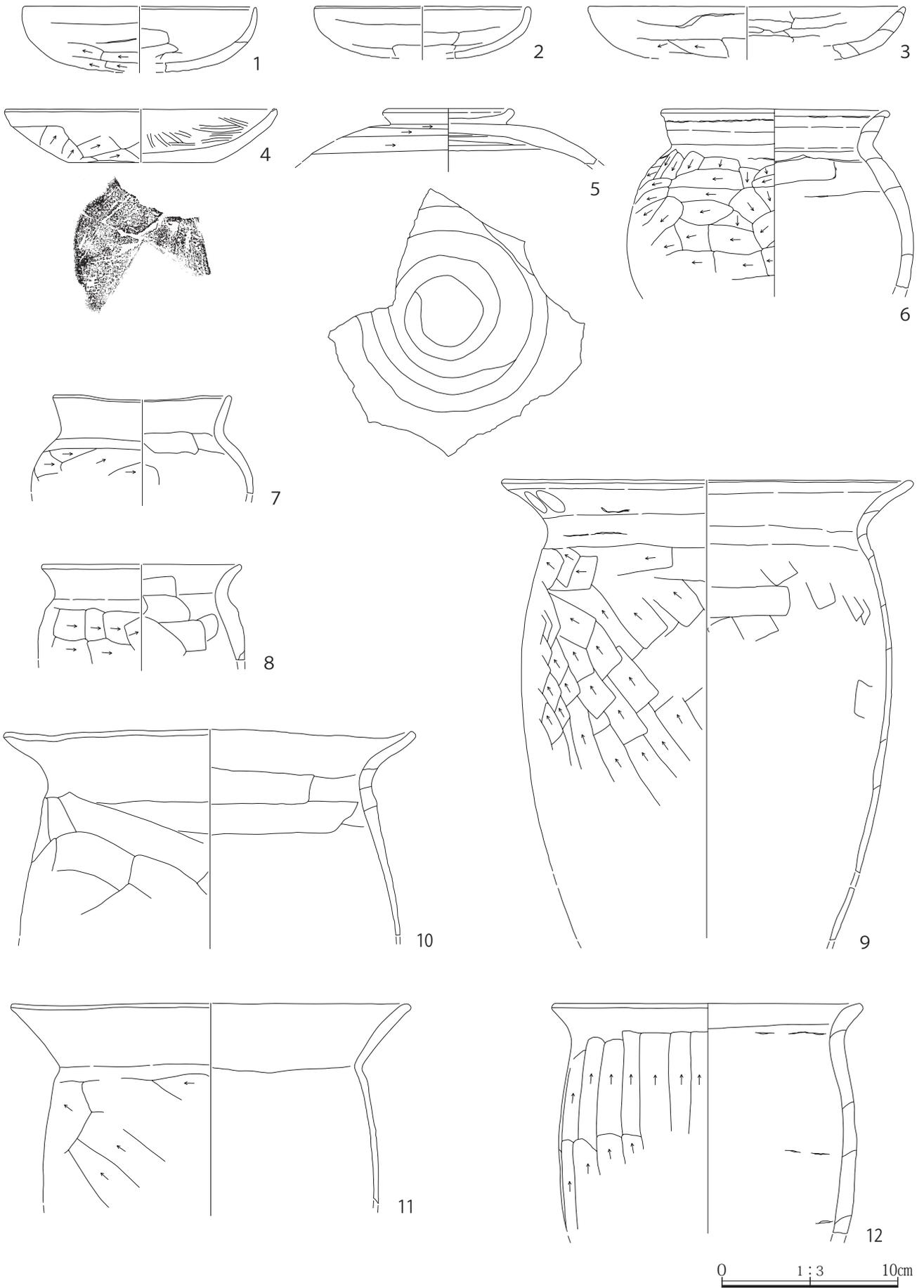


- B-B'・C-C'
- 1 暗褐色土(10YR3/3-2/3) As-C軽石を含む、黒味の強い土。
 - 1' 暗褐色土(10YR3/3) 1層に近いがややローム混じり。
 - 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、ロームブロック少し混じる。焼土粒混じり、灰色がかった粘土ブロック状に少し混じる。As-C軽石少しあり。
 - 3 暗褐色土(7.5YR3/3-3/4) ローム粒、ロームブロック、焼土粒、粘土を含むが2層より少ない。As-C軽石あり。
 - 3' 暗褐色土(7.5YR3/3-3/4) 3層に近い土だが粘土はなし、焼土粒は僅かにあり。
 - 4 暗褐色土(7.5YR3/4-4/3) 焼土粒、ローム粒あり。粘土質の土を多く含む。
 - 4' 暗褐色土(7.5YR3/4-4/3) 焼土粒、ローム粒を含む。粘土質の土は4層より少ない。
 - 5 赤褐色土(5YR4/6) 焼土ブロックの塊、暗褐色土混じり。
 - 6 暗褐色土(7.5YR3/3-3/2) やや青灰色がかって見える灰を含むと思われる。焼土粒、焼土ブロックあり、ロームブロック少しあり。
 - 6' 暗褐色土(7.5YR3/3) 6層のように灰を含むが、ローム粒も多く含む。
 - 7 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム、粘土質の土混じり。カマド袖部を作っていた土の残存と思われる。
 - 7' 暗褐色土(10YR3/3-2/3) ローム粒、ロームブロック混じり。
 - 8 褐色土(10YR4/4-3/4) 暗褐色土ローム粒混じり。ロームブロックを多く含む。上面はしまりよし、下位はやや軟。
 - 9 褐色土(10YR4/4-4/6) ローム主体の土層、暗褐色土わずかに混じる。
 - 10 黒褐色土(10YR3/1-2/1) 周囲に比べ黒灰色に見える、粘土のブロック。
 - 11 褐色土(10YR4/4) ローム暗褐色土混じり、白い軽石あり。カマドを作っている土。
 - 11' 暗赤褐色土(5YR3/6-4/6) 11層の焼土化が進んだ土。

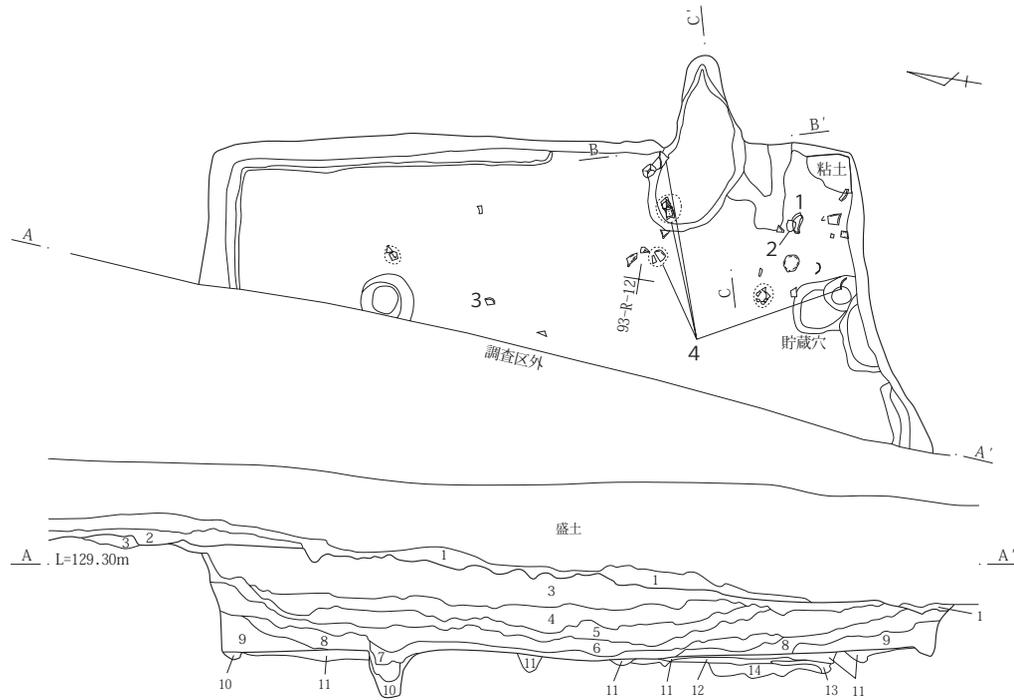


0 1:30 1m

第162図 17号住居



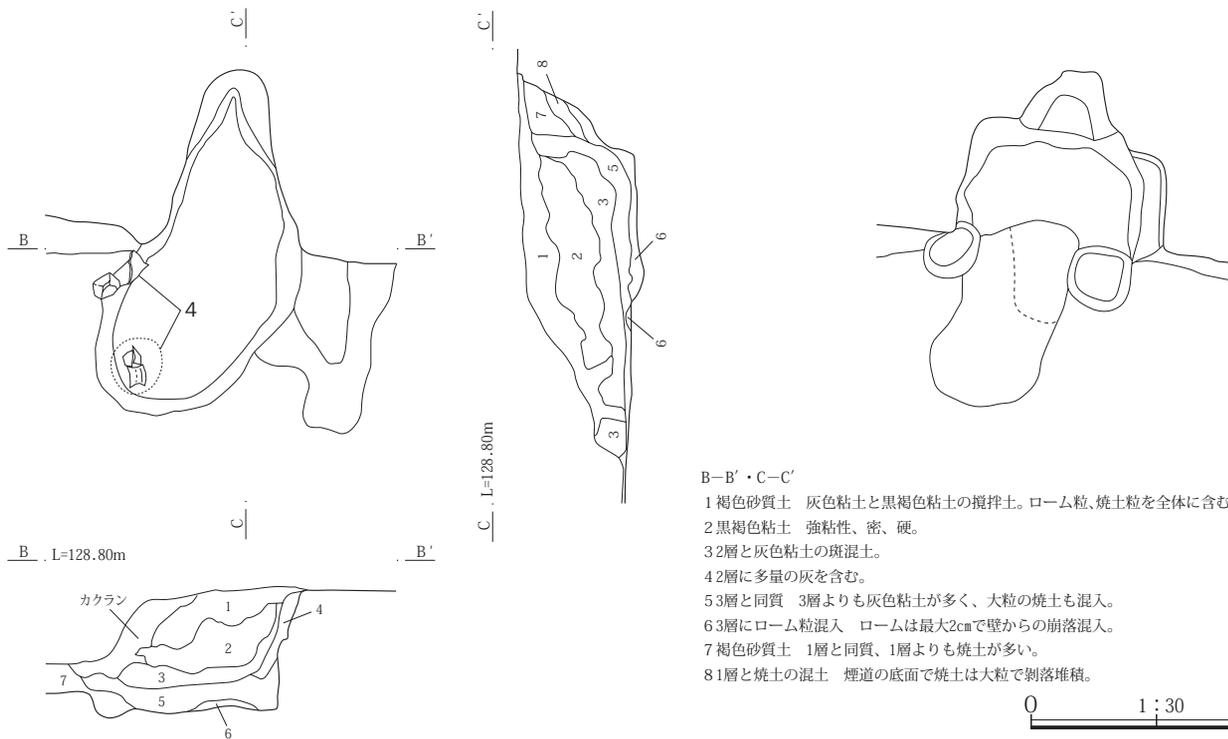
第163図 17号住居出土遺物



A-A'

- 1 黒褐～暗褐色砂質土 盛土直前までの耕作土。
- 2 1層にロームが塊状に混入。
- 3 黒褐色砂質土 As-C全体を含む。弾力のある細粒土。ローム、ローム漸移層の1～2cm大斑混あり。均質、密。
- 4 黒褐色砂質土 As-C全体を含む。弾力のある細粒土。3層に見られた斑混少なく、3、5層よりも黒い。均質、密。
- 5 黒褐色砂質土 As-C全体を含む。弾力のある細粒土。大粒のロームがまばらに混入。均質、密。
- 6 褐色砂質土 弾力のある細粒土。As-C、ローム粒を全体に含み、人為的な攪拌かと思われる。均質、密。
- 7 6層に最大3cmのロームが塊状に混入し、中央部、床面近くのみ分布する。
- 8 黒褐色砂質土 As-C、ローム粒を全体に含み、6層同様人為的な攪拌と思われる。
- 9 黒褐色砂質土 弾力のある細粒土。8層よりも黒くロームが大粒。
- 10 9層に黄褐色ロームが混入。
- 11 黄褐色ローム 14層より小粒。黒褐色砂質土やローム漸移層を斑混。堅緻、貼床材。
- 12 黄褐色ローム 混入物が1層より少ない。ロームブロックが14層より小粒。堅緻。
- 13 黒褐色砂質土 As-C全体を含む。
- 14 黄褐色ローム 掘り起こしたものを戻した様で3～5cm大ブロック状。堅緻。

0 1:60 2m

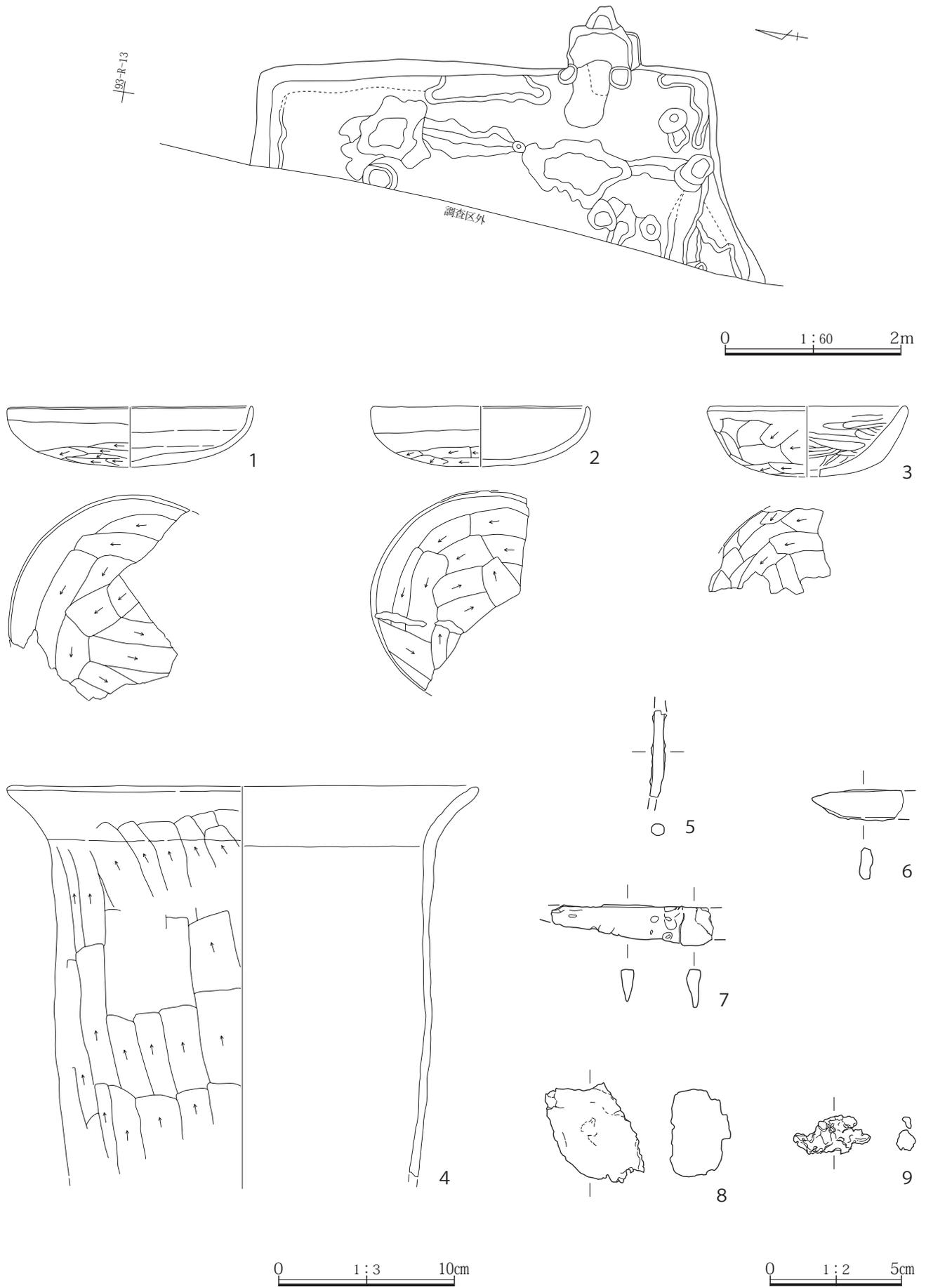


B-B'・C-C'

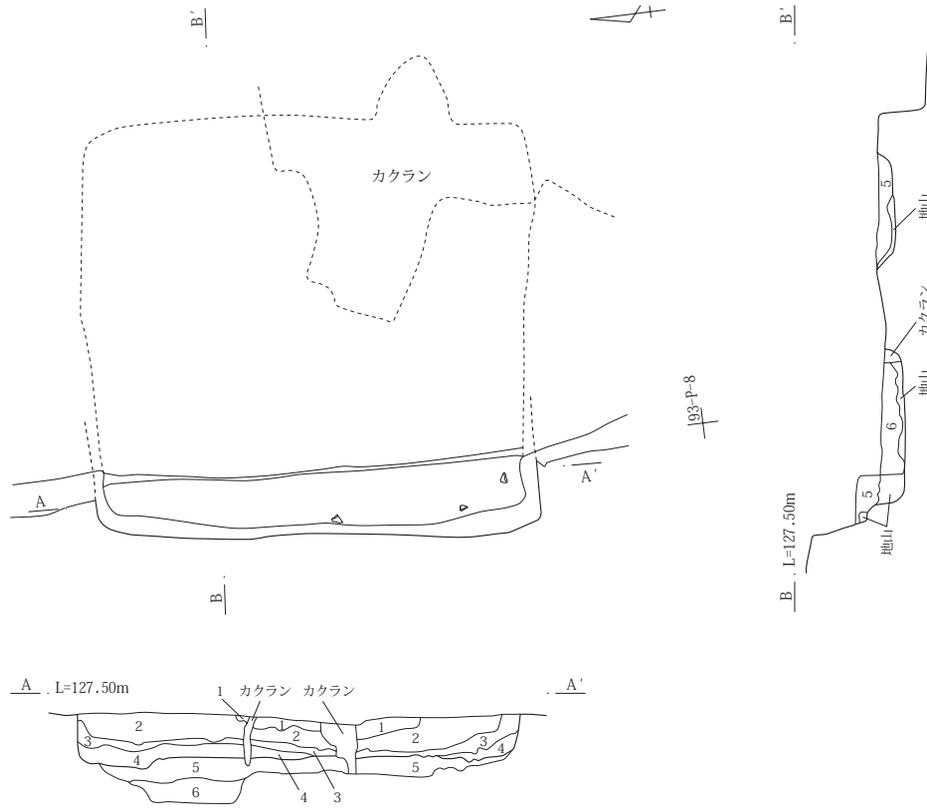
- 1 褐色砂質土 灰色粘土と黒褐色粘土の攪拌土。ローム粒、焼土粒を全体に含む。均質、密。
- 2 黒褐色粘土 強粘性、密、硬。
- 3 2層と灰色粘土の斑混土。
- 4 2層に多量の灰を含む。
- 5 3層と同質 3層よりも灰色粘土が多く、大粒の焼土も混入。
- 6 3層にローム粒混入 ロームは最大2cmで壁からの崩落混入。
- 7 褐色砂質土 1層と同質、1層よりも焼土が多い。
- 8 1層と焼土の混土 煙道の底面で焼土は大粒で剥落堆積。

0 1:30 1m

第164図 21号住居(1)

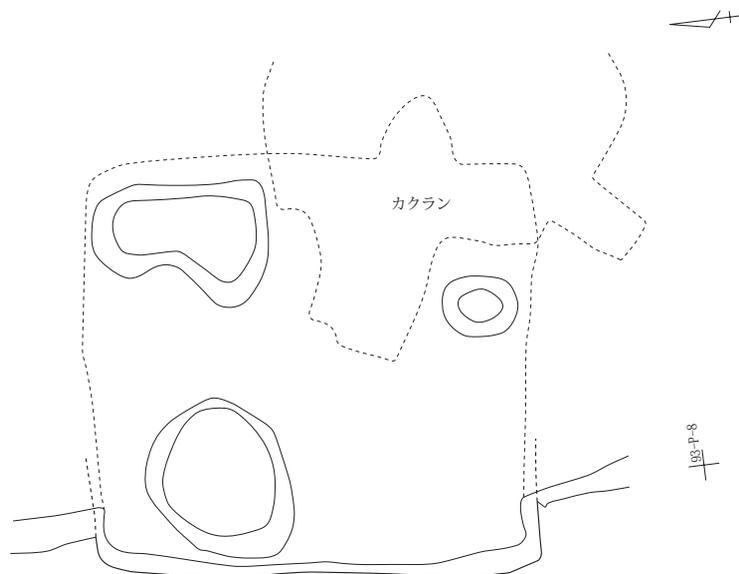


第165図 21号住居(2)



A-A'・B-B'

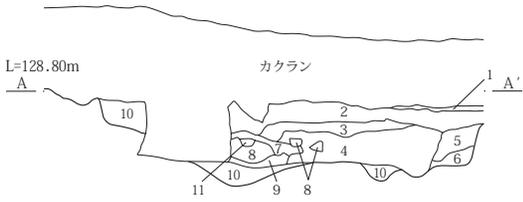
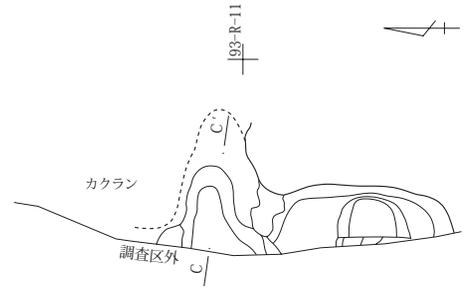
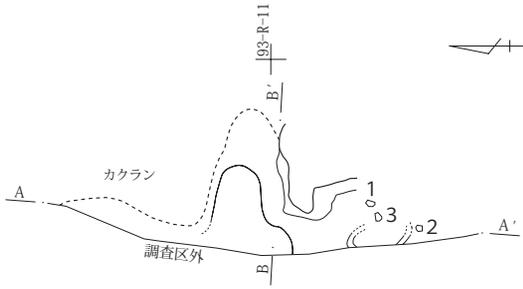
- 1 暗褐色土(10YR3/3) As-C軽石を含む。場所により多少のムラあり。ローム粒、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4-4/4) As-C軽石を含む。ローム粒、ロームブロックを含む。1層よりローム分多い。
- 3 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-C軽石を含む。黒味の強い土。ローム粒、ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、ロームブロック混じり、As-Cらしき軽石少し混じる。
- 5 褐色土(10YR4/6) 地山に暗褐色土が少し混じった様な土。床下の土と思われる。
- 6 暗褐色土(10YR3/4-4/4) 地山のローム、暗色帯などの混じり。ロームブロック、白い細かい軽石あり。床下土坑状。



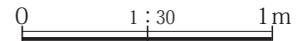
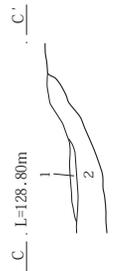
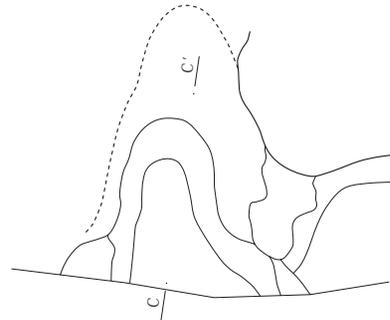
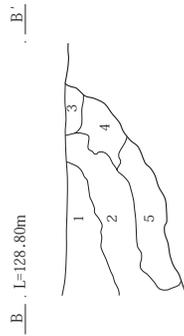
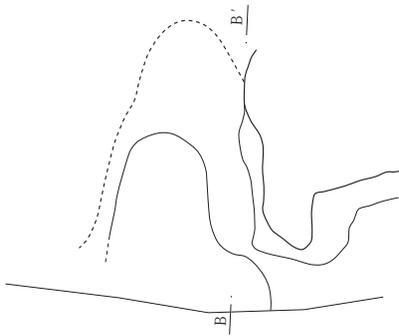
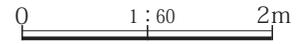
0 1:60 2m

第166図 22号住居

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

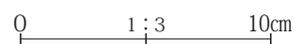
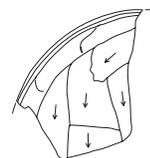
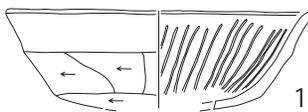


- A-A'
- 1 褐色砂質土 2層と同質、ローム粒の混入ほとんど無い。
 - 2 褐色砂質土 As-Cとローム粒を攪拌して全体に混入。
 - 3 褐色砂質土 As-Cとローム粒を全体に混入。炭粒もあり。
 - 4 褐色砂質土 2層にカマドから流出した焼土が混入。
 - 5 褐色砂質土 As-Cとローム粒が混入。
 - 6 にぶい黄褐色砂質土
 - 7 4層と8層の混土 均質、密、焼土がレンズ状に集中。
 - 8 黒褐色粘質土 強い粘性。
 - 9 注記なし
 - 10 褐色砂質土
 - 11 注記なし

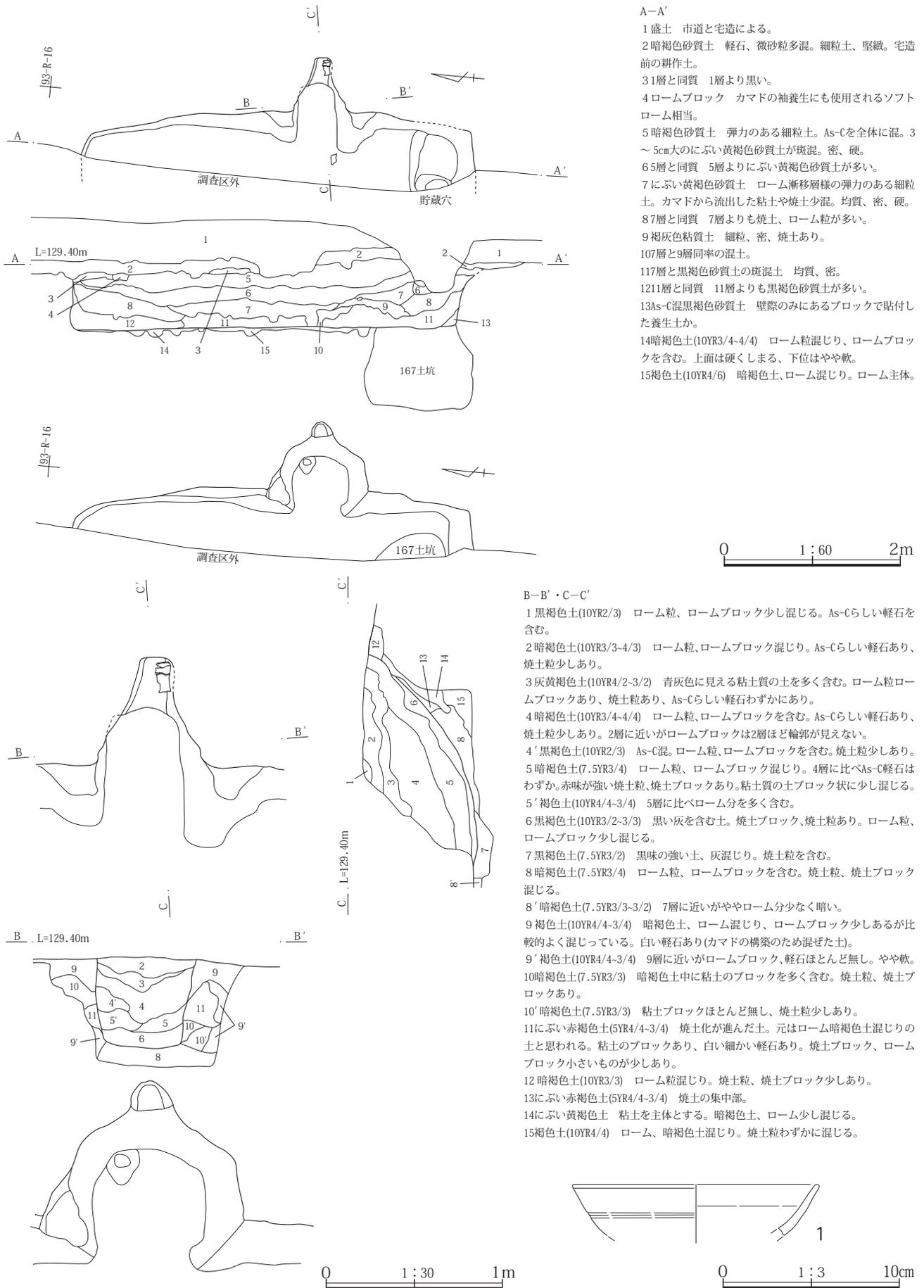


- B-B'
- 1 暗褐色砂質土
 - 2 褐色～黒褐色粘質土 壁体の養生土、密、硬。
 - 3 淡い褐色砂質土
 - 4 焼土 一部は顕粒。
 - 5 1層に2～3cm大のロームと焼土を多量に混入。

- C-C'
- 1 焼土 細粒、被熱して淡く赤変。上面に剥落した焼土の小塊あり。
 - 2 黒褐色砂質土 弾力のある細粒土。均質。1～3cm大ローム粒混入。焚口前にむかって貼付養生。



第167図 24号住居

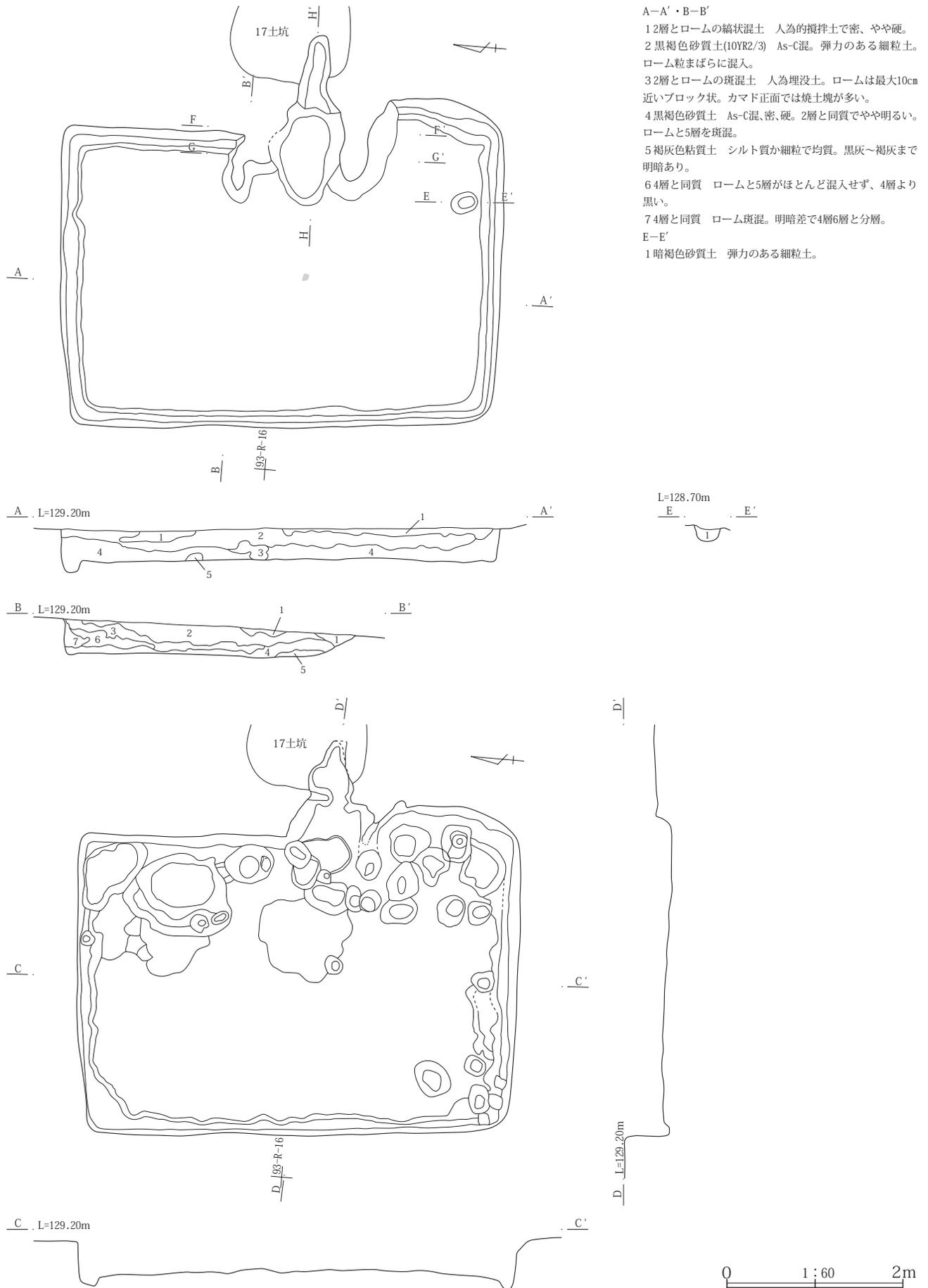


- A-A'
- 1 盛土 市道と宅造による。
 - 2 暗褐色砂質土 軽石、微砂粒多混。細粒土、堅緻。宅造前の耕作土。
 - 3 1層と同質 1層より黒い。
 - 4 ロームブロック カマドの袖養生にも使用されるソフローム相当。
 - 5 暗褐色砂質土 弾力のある細粒土。As-Cを全体に混。3～5cm大のふい黄褐色砂質土が斑混。密、硬。
 - 6 5層と同質 5層よりにふい黄褐色砂質土が多い。
 - 7 にふい黄褐色砂質土 ローム漸移層様の弾力のある細粒土。カマドから流出した粘土や焼土少混。均質、密、硬。
 - 8 7層と同質 7層よりも焼土、ローム粒が多い。
 - 9 褐灰色粘質土 細粒、密、焼土あり。
 - 10 7層と同質の混土。
 - 11 7層と黒褐色砂質土の斑混土 均質、密。
 - 12 11層と同質 11層よりも黒褐色砂質土が多い。
 - 13 As-C混黒褐色砂質土 壁際のみにあるブロックで貼付した養生土か。
 - 14 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム粒混じり、ロームブロックを含む。上面は硬くしまる、下位はやや軟。
 - 15 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土、ローム混じり。ローム主体。

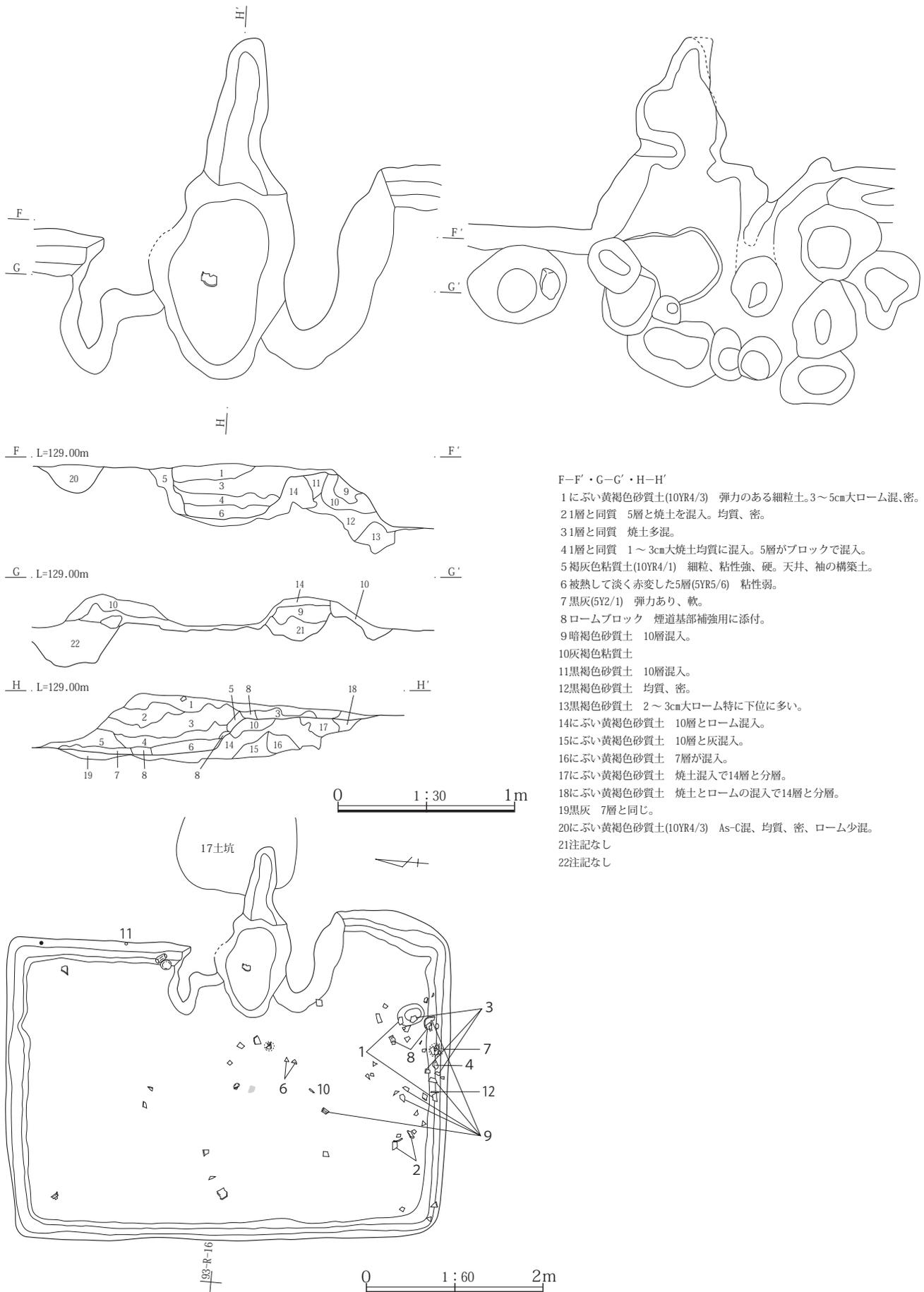
- B-B'・C-C'
- 1 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒、ロームブロック少し混じる。As-Cらしい軽石を含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3-4/3) ローム粒、ロームブロック混じり。As-Cらしい軽石あり、焼土粒少しあり。
 - 3 灰黄褐色土(10YR4/2-3/2) 青灰色に見える粘土質の土を多く含む。ローム粒ロームブロックあり、焼土粒あり、As-Cらしい軽石わずかにあり。
 - 4 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム粒、ロームブロックを含む。As-Cらしい軽石あり、焼土粒少しあり。2層に近いがロームブロックは2層ほど輪郭が見えない。
 - 4' 黒褐色土(10YR2/3) As-C混。ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒少しあり。
 - 5 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒、ロームブロック混じり。4層に比べAs-C軽石はわずか。赤味が強い焼土粒、焼土ブロックあり。粘土質の土ブロック状に少し混じる。
 - 5' 褐色土(10YR4/4-3/4) 5層に比べローム分を多く含む。
 - 6 黒褐色土(10YR3/2-3/3) 黒い灰を含む土。焼土ブロック、焼土粒あり。ローム粒、ロームブロック少し混じる。
 - 7 黒褐色土(7.5YR3/2) 黒味の強い土、灰混じり。焼土粒を含む。
 - 8 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒、焼土ブロック混じる。
 - 8' 暗褐色土(7.5YR3/3-3/2) 7層に近いがややローム分少なく暗い。
 - 9 褐色土(10YR4/4-3/4) 暗褐色土、ローム混じり、ロームブロック少しあるが比較的よく混じている。白い軽石あり(カマドの構築のため混ぜた土)。
 - 9' 褐色土(10YR4/4-3/4) 9層に近いがロームブロック、軽石ほとんど無し。やや軟。
 - 10 暗褐色土(7.5YR3/3) 暗褐色土中に粘土のブロックを多く含む。焼土粒、焼土ブロックあり。
 - 10' 暗褐色土(7.5YR3/3) 粘土ブロックほとんど無し、焼土粒少しあり。
 - 11 にふい赤褐色土(5YR4/4-3/4) 焼土化が進んだ土。元はローム暗褐色土混じりの土と思われる。粘土のブロックあり、白い細かい軽石あり。焼土ブロック、ロームブロック小さいものが少しあり。
 - 12 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒混じり。焼土粒、焼土ブロック少しあり。
 - 13 にふい赤褐色土(5YR4/4-3/4) 焼土の集中部。
 - 14 にふい黄褐色土 粘土を主体とする。暗褐色土、ローム少し混じる。
 - 15 褐色土(10YR4/4) ローム、暗褐色土混じり。焼土粒わずかに混じる。

第168図 26号住居

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物



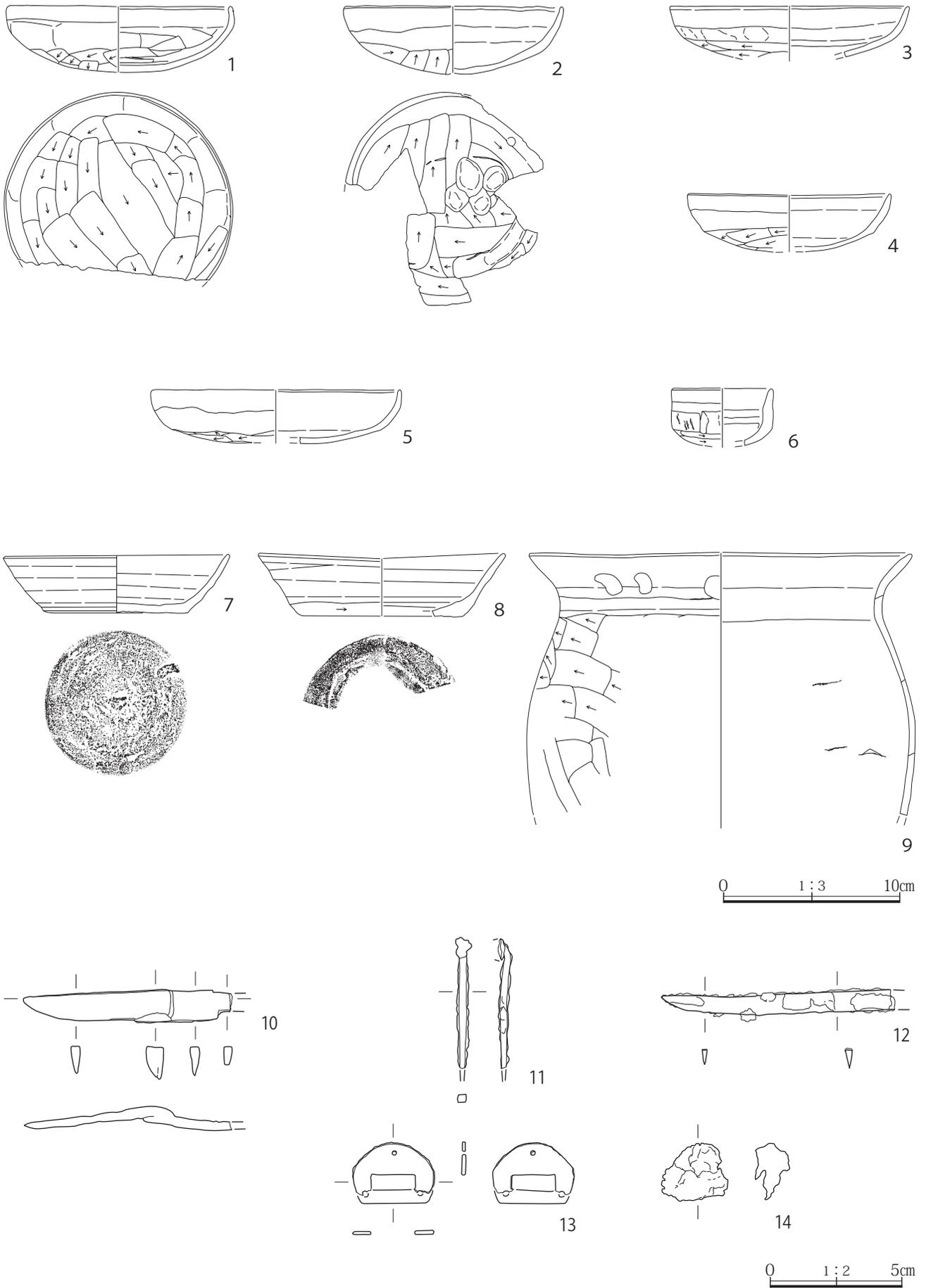
第169図 27号住居(1)



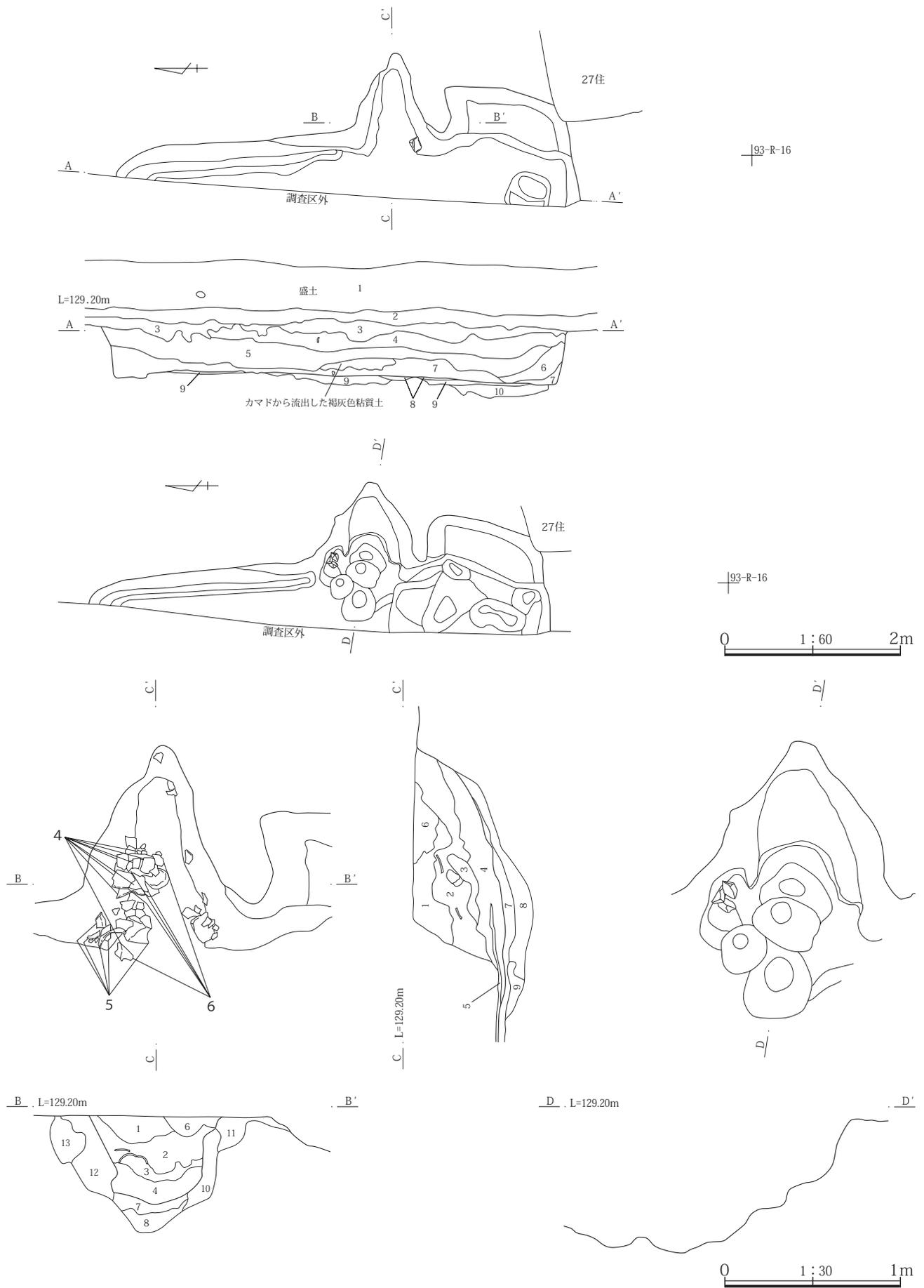
- F-F'・G-G'・H-H'
- 1にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 弾力のある細粒土。3～5cm大ローム混、密。
 - 21層と同質 5層と焼土を混入。均質、密。
 - 31層と同質 焼土多混。
 - 41層と同質 1～3cm大焼土均質に混入。5層がブロックで混入。
 - 5褐灰色粘質土(10YR4/1) 細粒、粘性強、硬。天井、袖の構築土。
 - 6被熱して淡く赤変した5層(5YR5/6) 粘性弱。
 - 7黒灰(5Y2/1) 弾力あり、軟。
 - 8ロームブロック 煙道基部補強用に添付。
 - 9暗褐色砂質土 10層混入。
 - 10灰褐色粘質土
 - 11黒褐色砂質土 10層混入。
 - 12黒褐色砂質土 均質、密。
 - 13黒褐色砂質土 2～3cm大ローム特に下位に多い。
 - 14にぶい黄褐色砂質土 10層とローム混入。
 - 15にぶい黄褐色砂質土 10層と灰混入。
 - 16にぶい黄褐色砂質土 7層が混入。
 - 17にぶい黄褐色砂質土 焼土混入で14層と分層。
 - 18にぶい黄褐色砂質土 焼土とロームの混入で14層と分層。
 - 19黒灰 7層と同じ。
 - 20にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) As-C混、均質、密、ローム少混。
 - 21注記なし
 - 22注記なし

第170図 27号住居(2)

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物



第171図 27号住居出土遺物



第172図 28号住居

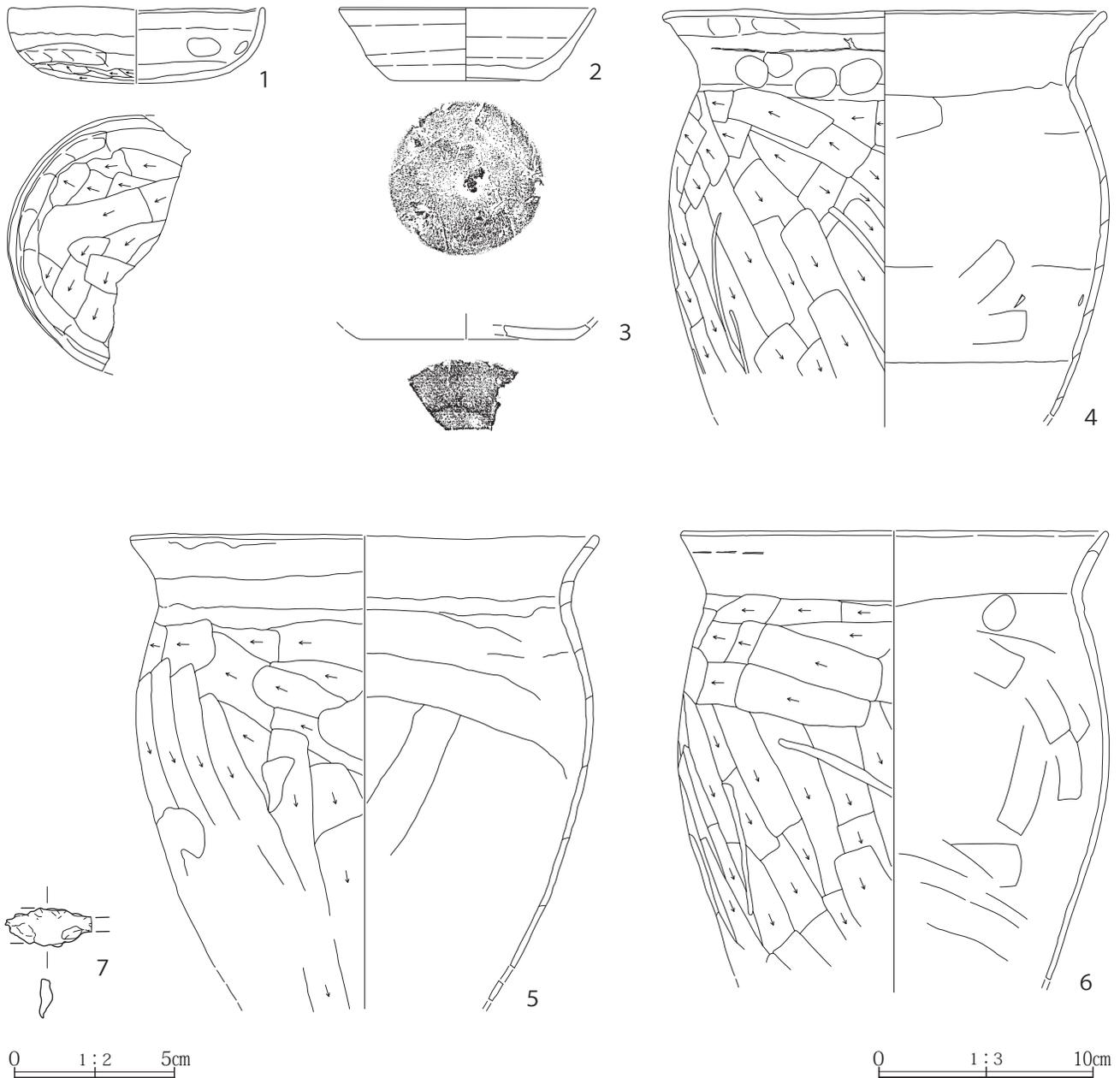
第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

A-A'

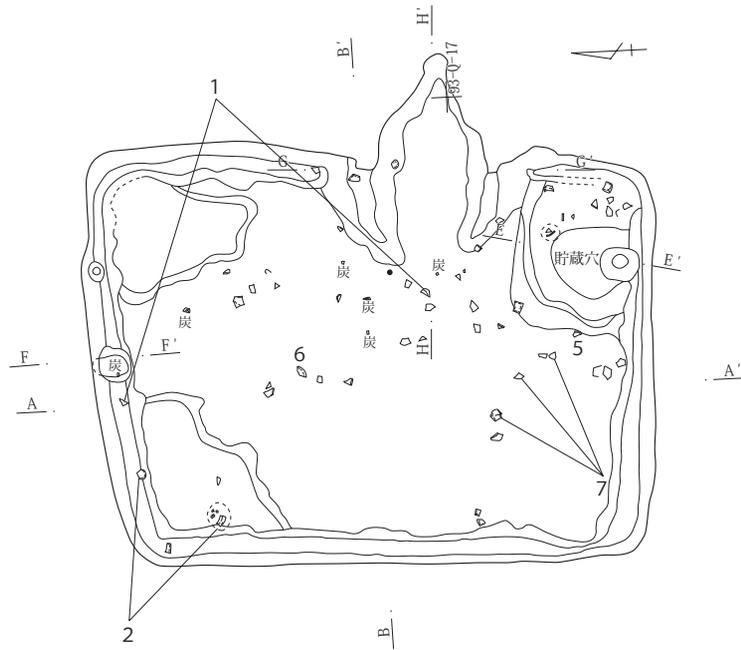
- 1 盛土 市道と宅造による。
- 2 暗褐色砂質土 軽石、微砂粒多混。細粒、密、堅緻、宅造前の耕作土。
- 3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 弾力のある細粒土。密、硬。As-C、ソフトローム全体に混入。
- 4 3層と同質 3層より暗い、3層で特徴的だったロームをほとんど混入しない。
- 5 暗褐色砂質土 黄褐色砂質土の斑混あり。均質、密、硬。
- 6 黒褐色砂質土(10YR3/2) As-C混、均質、密、弾力のある細粒土。
- 7 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 均質、密、弾力のある細粒土。
- 8 褐色粘質土と黒色灰層の互層。
- 9 ロームを主とするにぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)との混土 貼床材、堅緻。
- 10 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 弾力のある細粒土、均質、密、硬、ローム少混。

B-B'・C-C'

- 1 にぶい黄褐色砂質土 弾力のある細粒土。1~3mmのローム粒多混、密。
- 2 褐色粘質土 白~灰白、褐色まで斑混。しまり弱い。天井部からの崩落土。
- 3 2層の中で純度の高い粘質土のブロック状、やや堅緻。
- 4 にぶい黄褐色砂質土 焼土、粘質土多混。密。中央部焼土が多く、壁際に粘質土多い。
- 5 黒灰層 粘質土混入。
- 6 As-BP混暗褐色砂質土 As-BPは攪拌が進みザラつく程度で観察される。しまり弱い。
- 7 焼土(10R4/8) 淡い赤褐色、中位に灰白色の横縞。
- 8 黒褐色砂質土(10YR3/2) 弾力のある細粒土、均質、密。
- 9 黒褐色砂質土(10YR2/2) 8層と同質、灰を多く含み軟らかい。
- 10 暗褐~黒褐色砂質土 灰白色粘質土を混入、密、硬。
- 11 10層と同質 灰白色粘質土10層より多く、部分的に縞状で地山のロームをくるむ様に貼付。密、硬。
- 12 灰色粘質土 密、硬。
- 13 12層と暗褐色砂質土の混土 割石を芯にして壁に貼付。



第173図 28号住居出土遺物



A-A'・B-B'

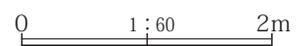
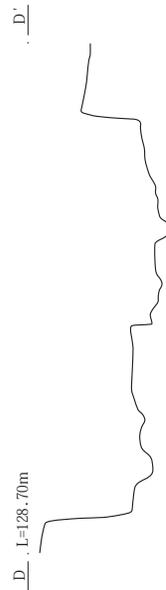
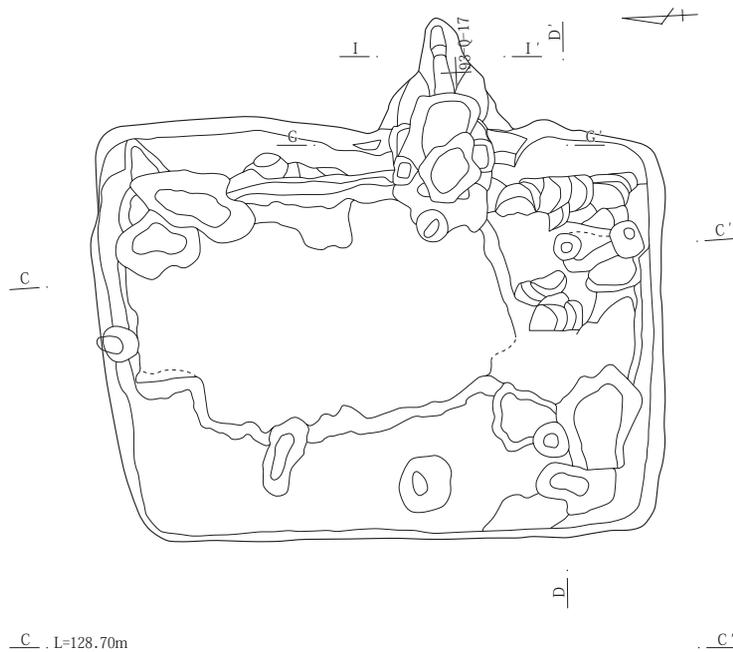
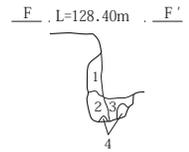
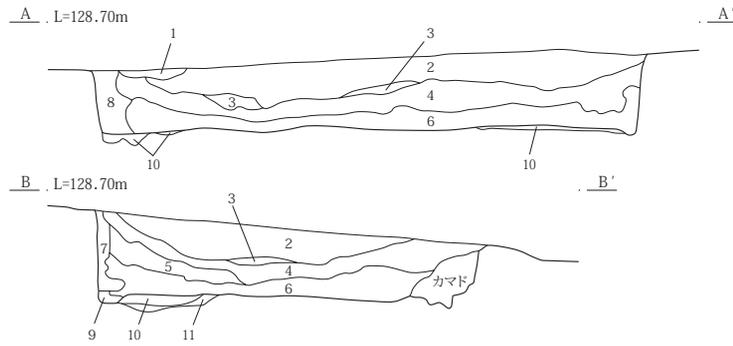
- 1 黒褐色砂質土 As-C混、弾力のある細粒土、しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 弾力のある細粒土、1～3cm大ロームを含む。
- 3 褐灰色粘質土 密、硬。
- 4 黒褐色砂質土 As-C混、弾力のある細粒土、1層より黒い。ロームと3層まばらに混入。
- 5 4層と同質 4層よりも明るい。
- 6 4層と同質 4層より黒く、As-Cが多い。均質、密。
- 7 4層と同質 最も黒く、ローム漸移層混。
- 8 4層と同質 7層よりにぶい黄褐色砂質土(ローム漸移層)少ない。均質、密。
- 9 ロームを主とするにぶい黄褐色砂質土との混土
- 10 ロームを主とする黒褐色砂質土との混土
- 11 10層と同質 10層よりローム多く鋤ぎ返した状態に近い、密、硬。

E-E'

- 1 暗褐色砂質土 褐灰色粘質土、ロームとの混土。密、均質。
- 2 1層中の5mm以下のロームが多い部分、密。

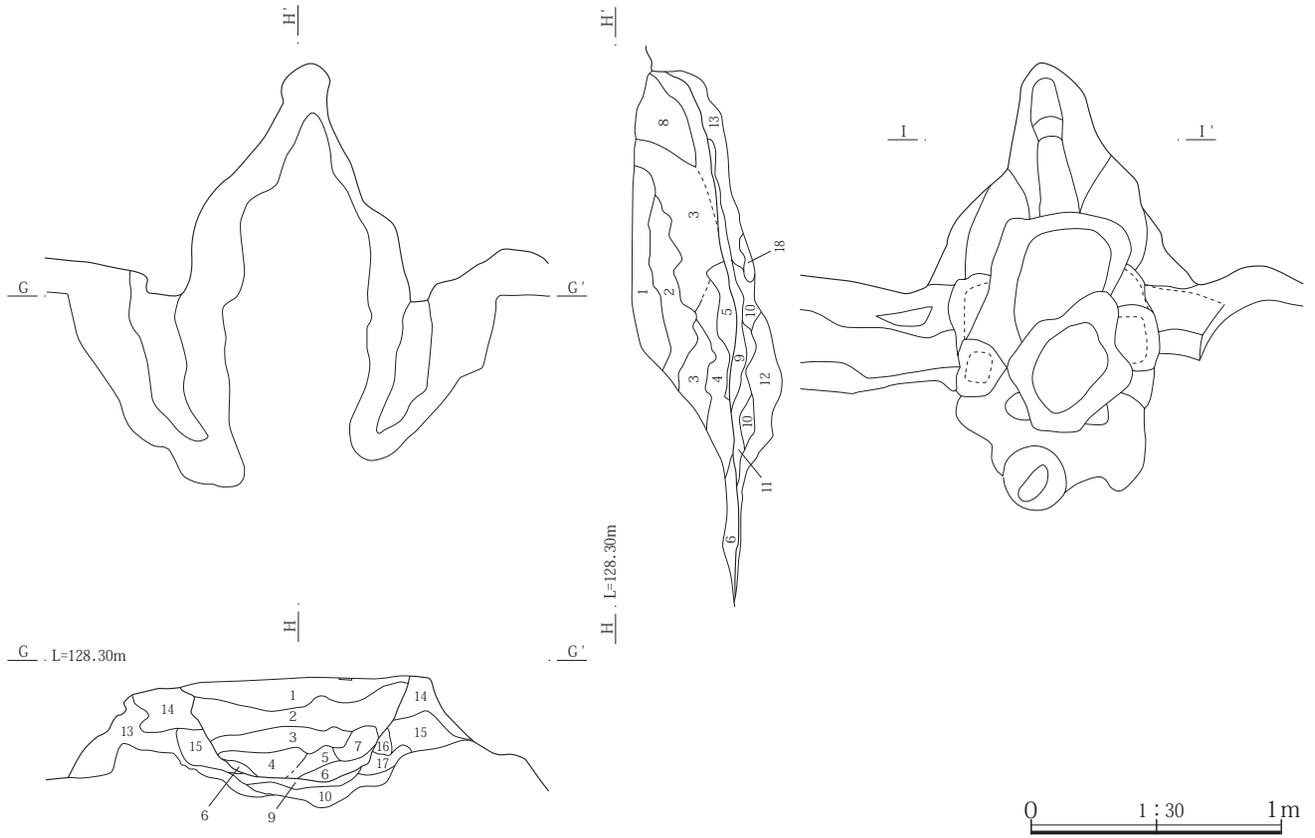
F-F'

- 1 黒褐色砂質土 弾力のある細粒土。As-C、ローム粒少混。均質、密。
- 2 1層に1cmまでのローム30%混入。しまり弱い、軟。
- 3 1層に1cmまでのローム10%混入。
- 4 1層に1～3cm大ローム50%以上混入。



第174図 29号住居(1)

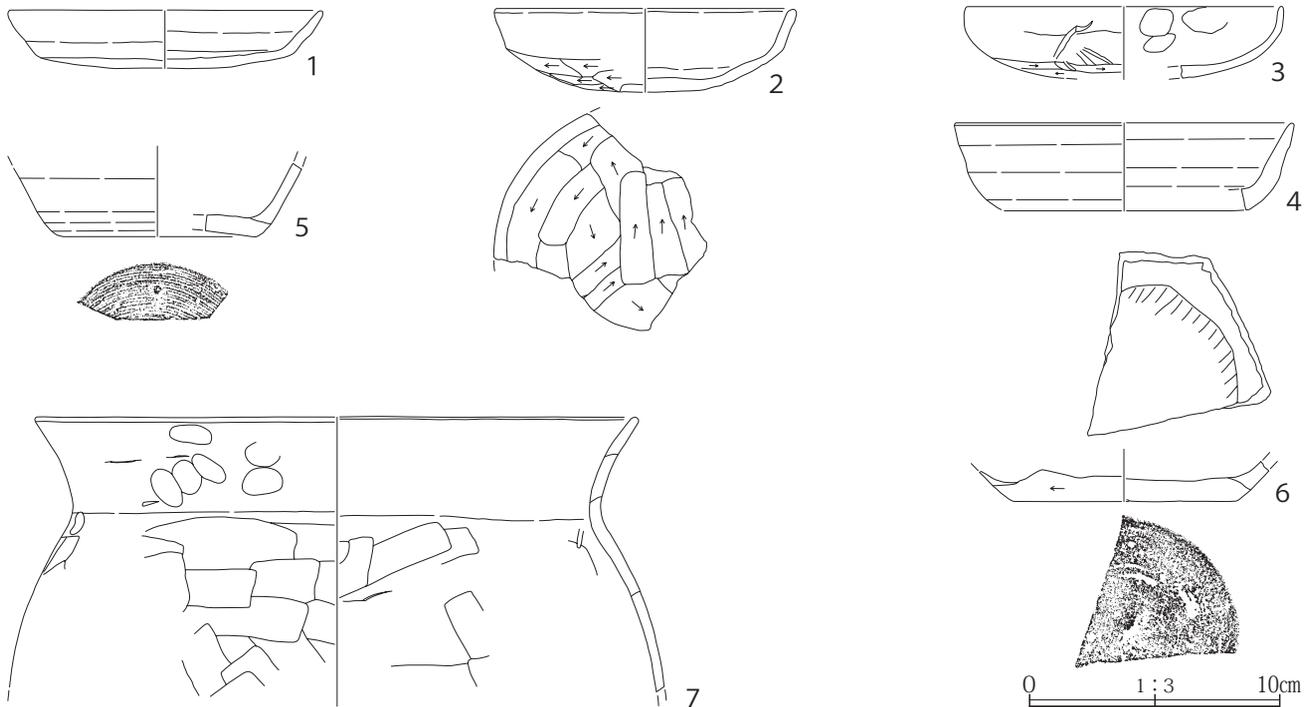
第5章 奈良時代以降の遺構と遺物



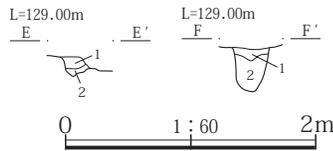
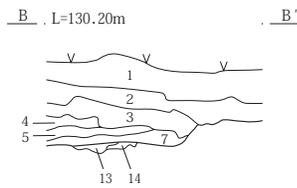
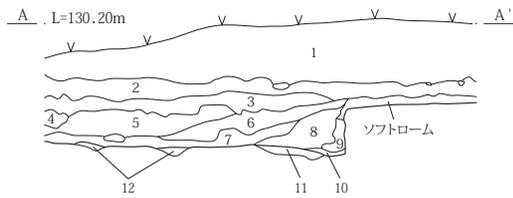
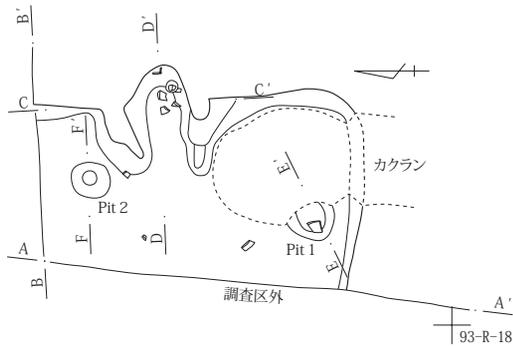
G-G'・H-H'

- 1にぶい黄褐色砂質土
- 21層に、多い方から7層、3層、焼土の順に混入。
- 3 褐灰色粘質土 崩落した天井部。
- 41層に焼土多混。
- 5 黒褐色砂質土 2層に類似、焼土が2層よりも多い。
- 6 黒灰 弾力があり、3層、7層混入。
- 7 灰白色粘質土 天井部の右側から崩落、密、硬。
- 8 注記なし
- 9にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) ローム10%、焼土混入。

- 10 黒褐色砂質土と9層の斑混土 ローム80%混入。
- 11 灰(10YR3/1) 粘土、焼土混入。
- 12にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 1cm大までの焼土、ローム10%混入。均質、密、硬。
- 13 黒褐色砂質土と9層の混土 密。
- 14にぶい黄褐色砂質土 焼土、15層まばらに混入。
- 15 灰褐色粘質土(10YR3/1) 3層と同質、密、硬。
- 16 灰白色粘質土(10YR7/1) 7層と同質。
- 17 暗褐色砂質土(10YR3/2) ローム10%混入、均質、密。
- 18 ロームブロック



第175図 29号住居(2)



A-A'・B-B'

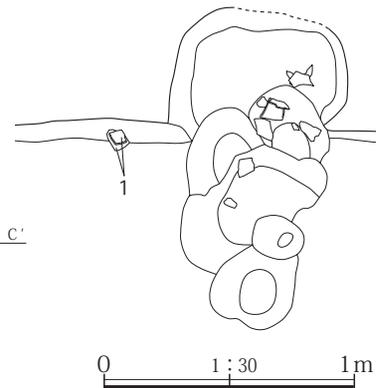
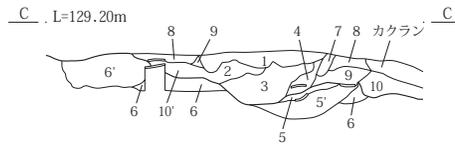
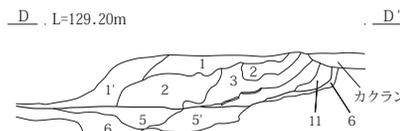
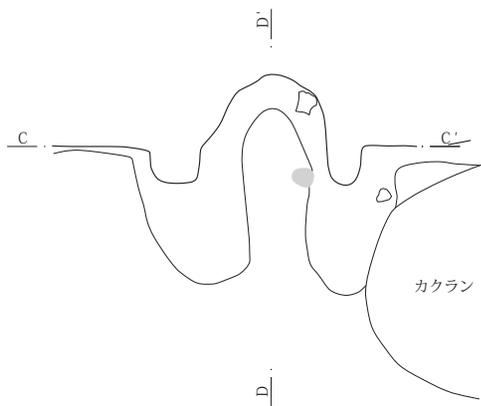
- 1 盛土 市道と宅造による。
- 2 暗褐色砂質土 軽石、微砂多混。細粒、堅緻、宅造前の耕作土。
- 3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 最大1cmまでのローム粒を10%混入、均質、密。
- 4 As-C混黒褐色砂質土 最大1cmまでのローム粒少混、均質、密。
- 5 3層と4層の斑混土 A-A'とB-B'交点近くはローム多い。均質、密。
- 6 5層と同質の斑混土 カマドの褐灰色粘質土と焼土が混入。
- 7 5層と同質の斑混土 中央で4層が多く、周りで3層が多くなる。6層とは褐灰色粘質土の有無で分層。
- 8 黄褐色砂質土 7層寄りにローム、褐灰色粘質土少混。弾力のある細粒土、均質、密。
- 9 8層と同質 8層より暗く、ロームより少ない。
- 10 8層と同質 ローム多混。
- 11 黄褐色ロームと黒褐色砂質土の斑混土 3~5cm大のブロックで鋳ぎ返したのを直に戻している様にも見える。
- 12 黄褐色ロームと灰白色粘質土の混土 ロームが主で80%以上。
- 13 11層と同質 ローム、黒褐色砂質土ともに11層より小粒。均質、密。
- 14 11層と同質 黒褐色砂質土が主体。

E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/3-2/3) ローム粒、ロームブロック少し混じる。As-Cらしい軽石少しあり、焼土少しあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム粒、ロームブロック混じり。1層よりローム分多く含む。

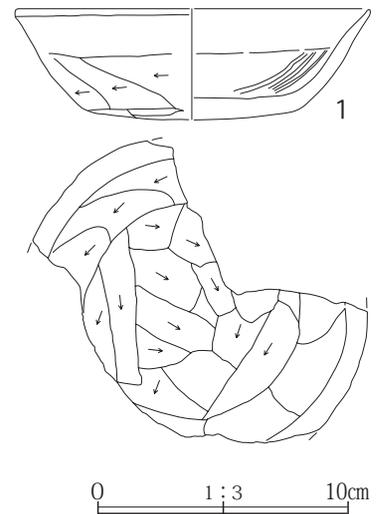
F-F'

- 1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-C軽石を含む。暗褐色土、ローム粒少し混じる。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒少し混じる。As-Cらしい軽石は1層に比べ少ない。やや軟質。



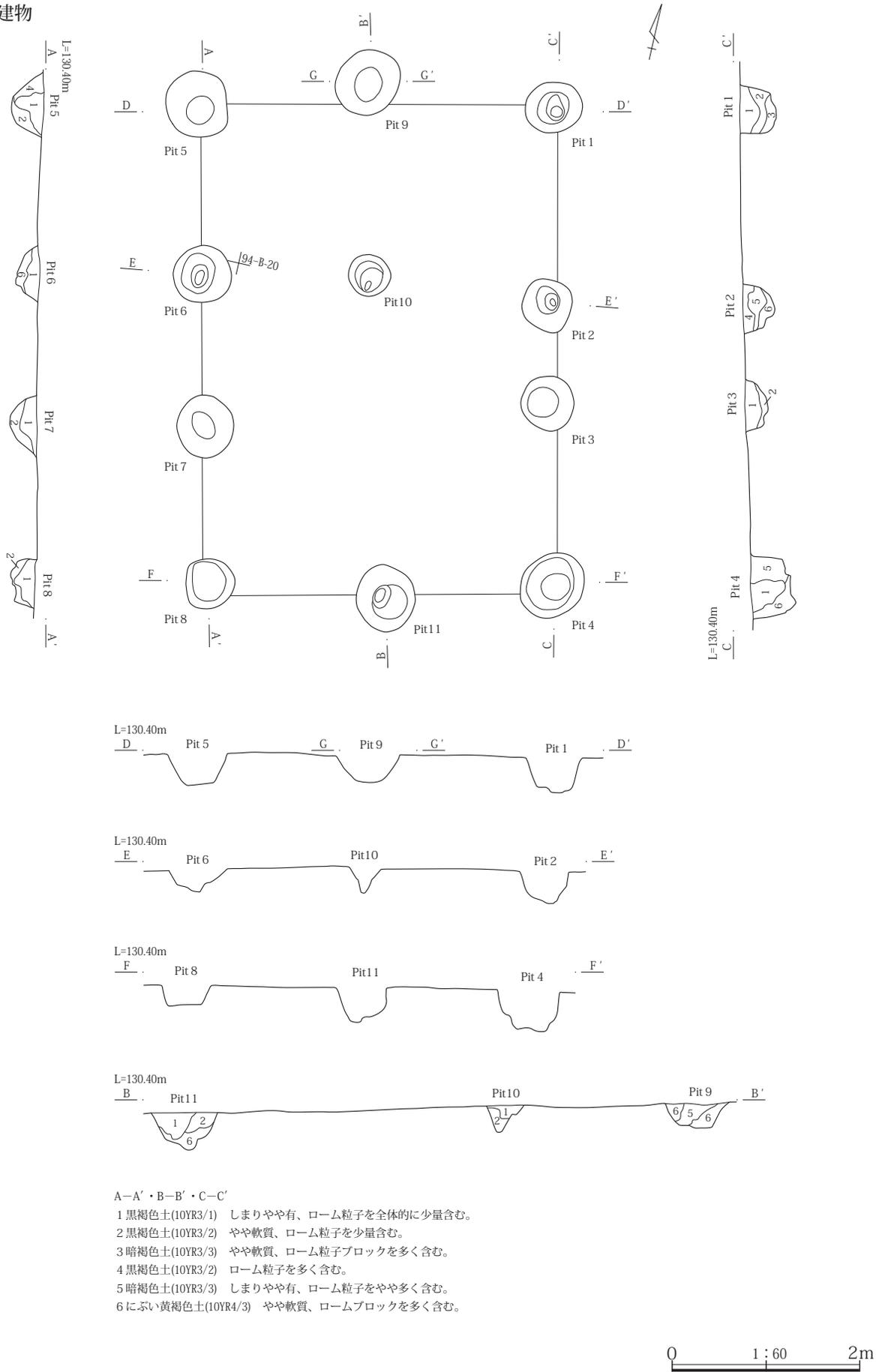
C-C'・D-D'

- 1 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒、ロームブロック混じり。焼土粒、焼土ブロックあり。粘土のブロックあり、As-Cらしき軽石少しあり。
- 1' 暗褐色土(10YR3/3) 1層に近いが焼土粒、焼土ブロック、ローム分はやや少ない。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘土質の土を主とする。ローム、暗褐色土少し混じる。ロームブロック、焼土粒少しあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 灰らしい土を含む。ローム粒、ロームブロック少しあり。焼土粒、焼土ブロックあり。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘土質の土を主とする。2層に近いがローム、焼土の混じりは少ない。
- 5 灰褐色土(7.5YR4/2) 暗褐色土、灰混じりの土。粘土質の土、粘土質ブロックを含む。焼土粒、焼土ブロック少しあり。ローム粒、小さいロームブロック少しあり。
- 5' 暗褐色土(7.5YR3/3) 灰混じり、粘土質の土、焼土粒、焼土ブロックを含む。ローム粒、ロームブロック少しあり。5層に比べ粘土質の土は少ない。
- 6 褐色土(10YR4/4-3/4) 暗褐色土、ローム混じり、ロームブロックも多く含む。下位はやや軟。
- 6' 暗褐色土(10YR3/4-4/4) 6層に近いがロームブロックが少なく、暗褐色土分が多い。As-Cらしき軽石少しあり。
- 7 黒褐色土(10YR3/2-4/2) 粘土質の土混じり、しまりよし、As-Cらしき軽石少しあり。
- 8 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム粒、ロームブロック混じり。粘土質の土少し混じる。As-Cらしき軽石少しあり。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR4/3-4/2) 粘土質の土を主とする。暗褐色土少し混じる、焼土粒少しあり。カマド使用面よりは焼土化し赤味が強い。
- 10 黒褐色土(10YR2/3) As-Cらしき軽石少しあり。ローム粒、ロームブロック少しあり。粘土質の土少し混じる。
- 10' 黒褐色土(10YR2/3-3/3) 10層に近いがロームブロックがやや多く含まれる。
- 11 暗褐色土(7.5YR3/3-2/3) 黒色の強い土。焼土粒、焼土ブロックあり。粘土質の土、ロームを少し含む。灰混じり。



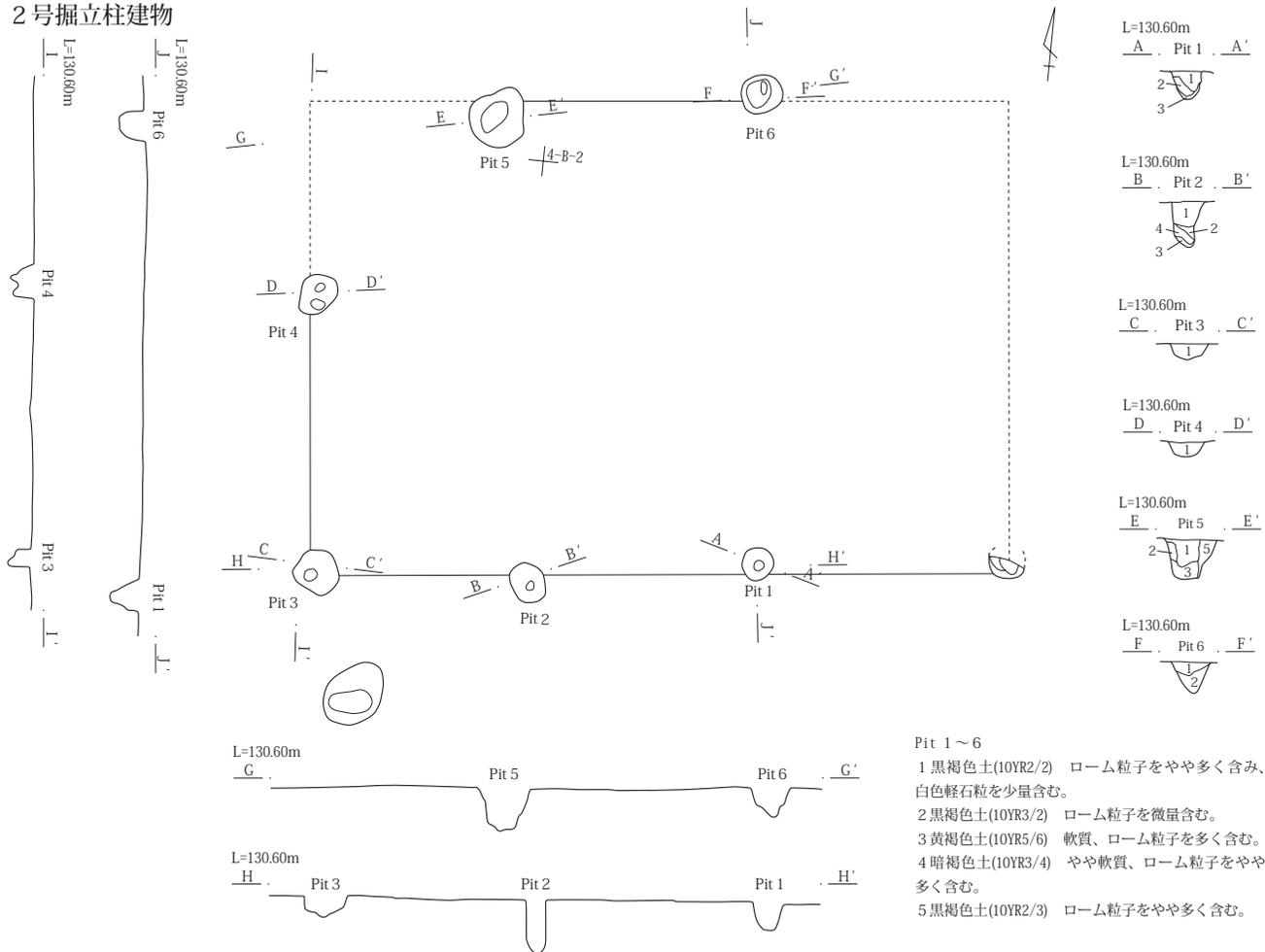
第176図 30号住居

1号掘立柱建物

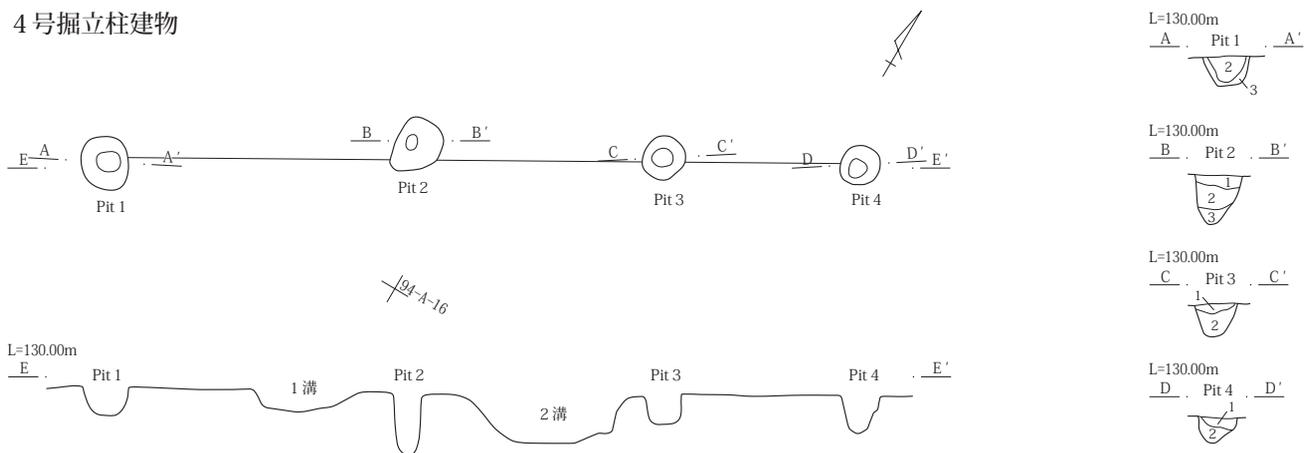


第177図 1号掘立柱建物

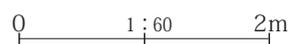
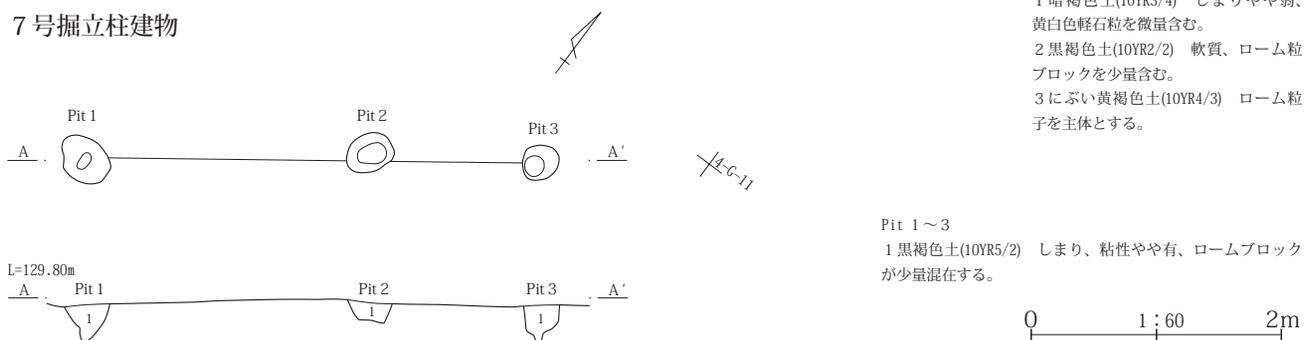
2号掘立柱建物



4号掘立柱建物

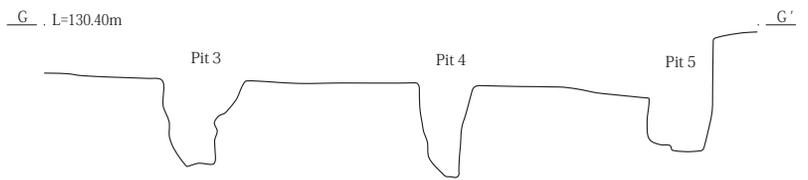
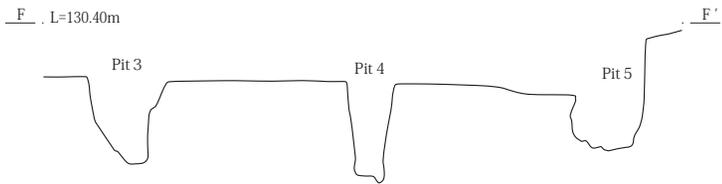
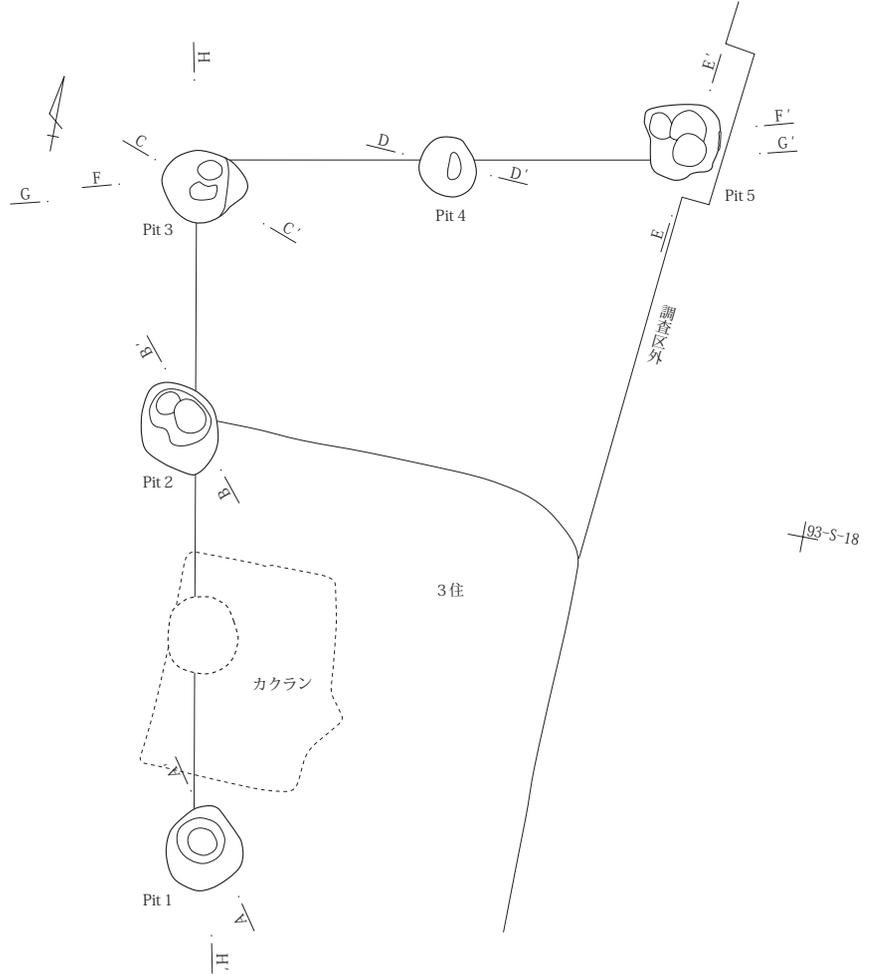
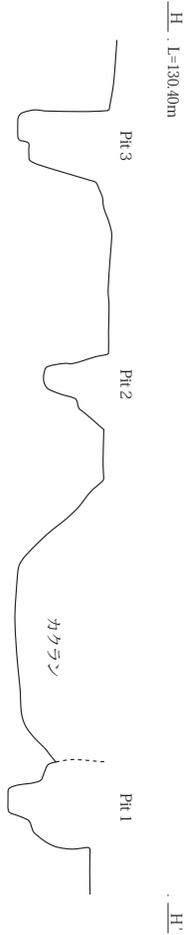


7号掘立柱建物



第178図 2号・4号・7号掘立柱建物

3号掘立柱建物



Pit 1

- 1 As-C混黒色土(10YR2/1) 微砂、全体にやや緻密。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微砂、やや粗、軟。

Pit 2

- 1 As-C混黒褐色砂質土(10YR3/1) 微砂、やや密、As-C1mm。
- 2 As-C混黒褐色砂質土(10YR3/1) 微砂、やや密。
- 3 As-C混黒褐色砂質土(10YR2/1) 微砂、やや密。下半部に、にぶい黄褐色砂質土混入。
- 4 2層とロームとの混土 ロームは1~3cm大。

Pit 3

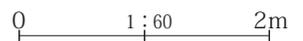
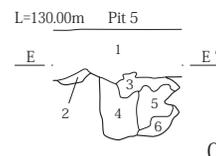
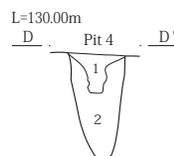
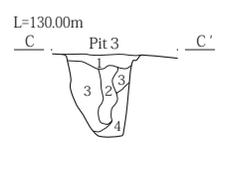
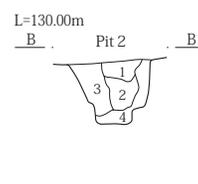
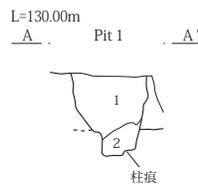
- 1 As-C混黒褐色砂質土(10YR3/1-3/2) 微砂、ピット上面中央部に堆積する土でロームやや多混。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 微砂、やや密、下部に1cm大ローム粒混入。
- 3 As-C混黒色土 微砂、やや密。
- 4 ロームブロックと2層の混土 微砂、やや密。

Pit 4

- 1 As-C混黒褐色砂質土(10YR3/1) ローム粒との攪拌土、やや密。
- 2 As-C混黒褐色砂質土(10YR3/1) やや密、1層より明るい。ロームが1層よりも多く攪拌されて含まれ、一部に3~5cm大のブロック状。

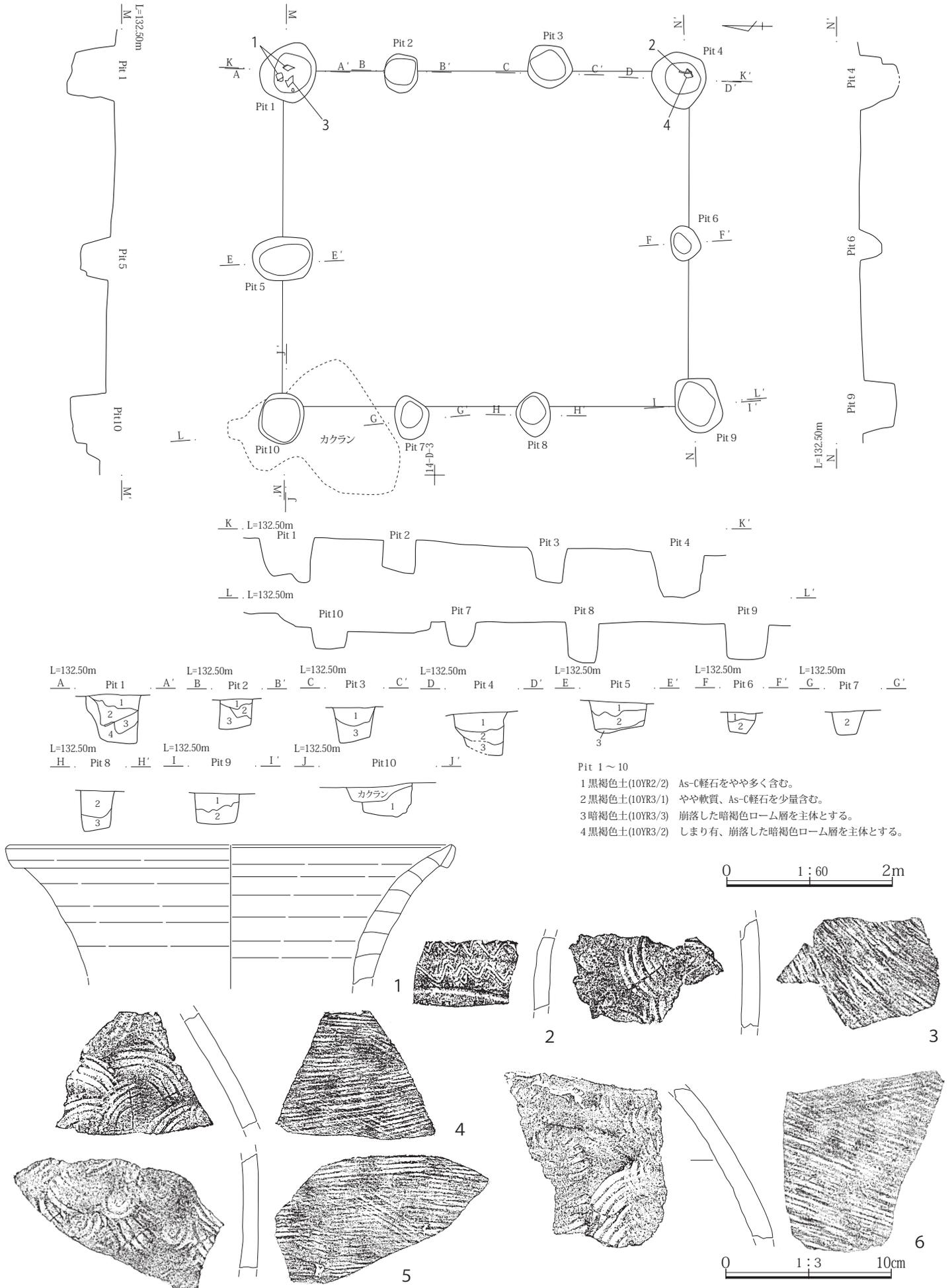
Pit 5

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 耕作土と宅造に伴う盛土。軽石、微砂やや多。
- 2 褐灰色砂質土 微砂、密、粘性あり、1層中のブロック混入。
- 3 As-C混黒褐色砂質土 P4の1層と同質。均質、密。
- 4 As-C混黒褐色砂質土 P4の2層と同質。
- 5 As-C混黒褐色砂質土 4層より明るい。
- 6 ロームブロックを主とする3層との混土。



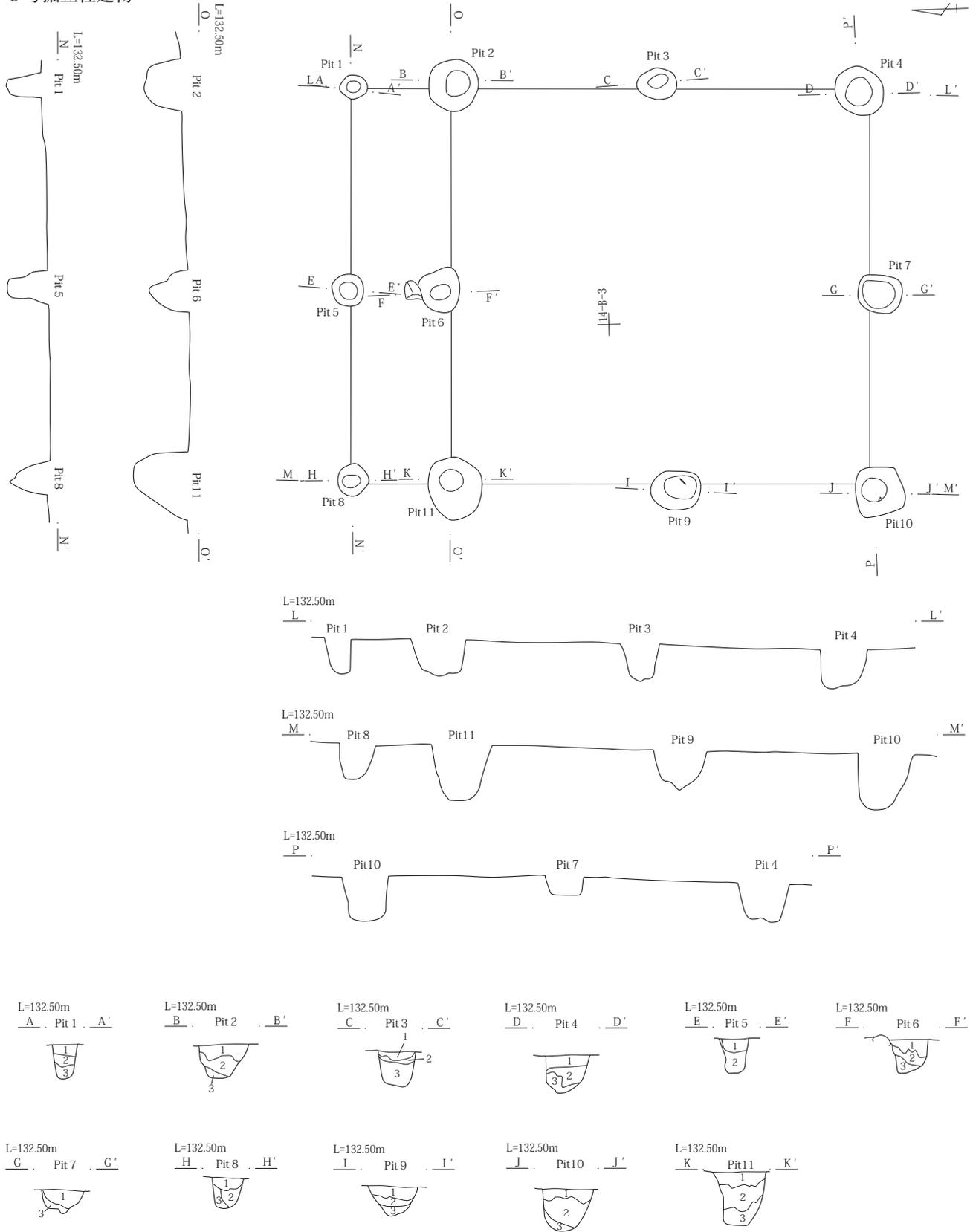
第179図 3号掘立柱建物

8号掘立柱建物



第180図 8号掘立柱建物

9号掘立柱建物



Pit 1 ~ 11

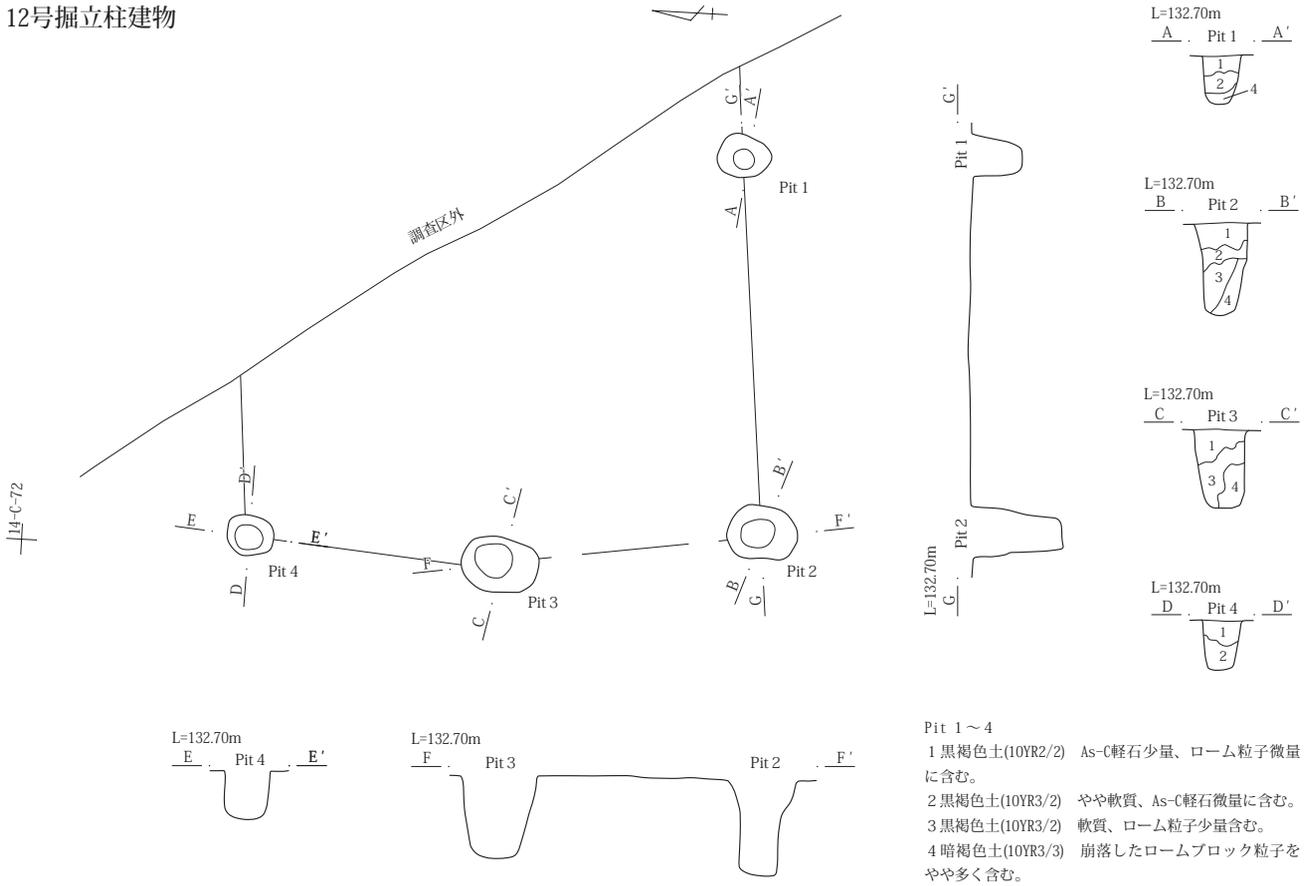
- 1 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石少量、ローム粒子微量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 軟質ローム粒子を多く含む。
- 3 褐色土(10YR4/4) ロームブロック、ローム粒子を多く含む。

0 1:60 2m

第181図 9号掘立柱建物

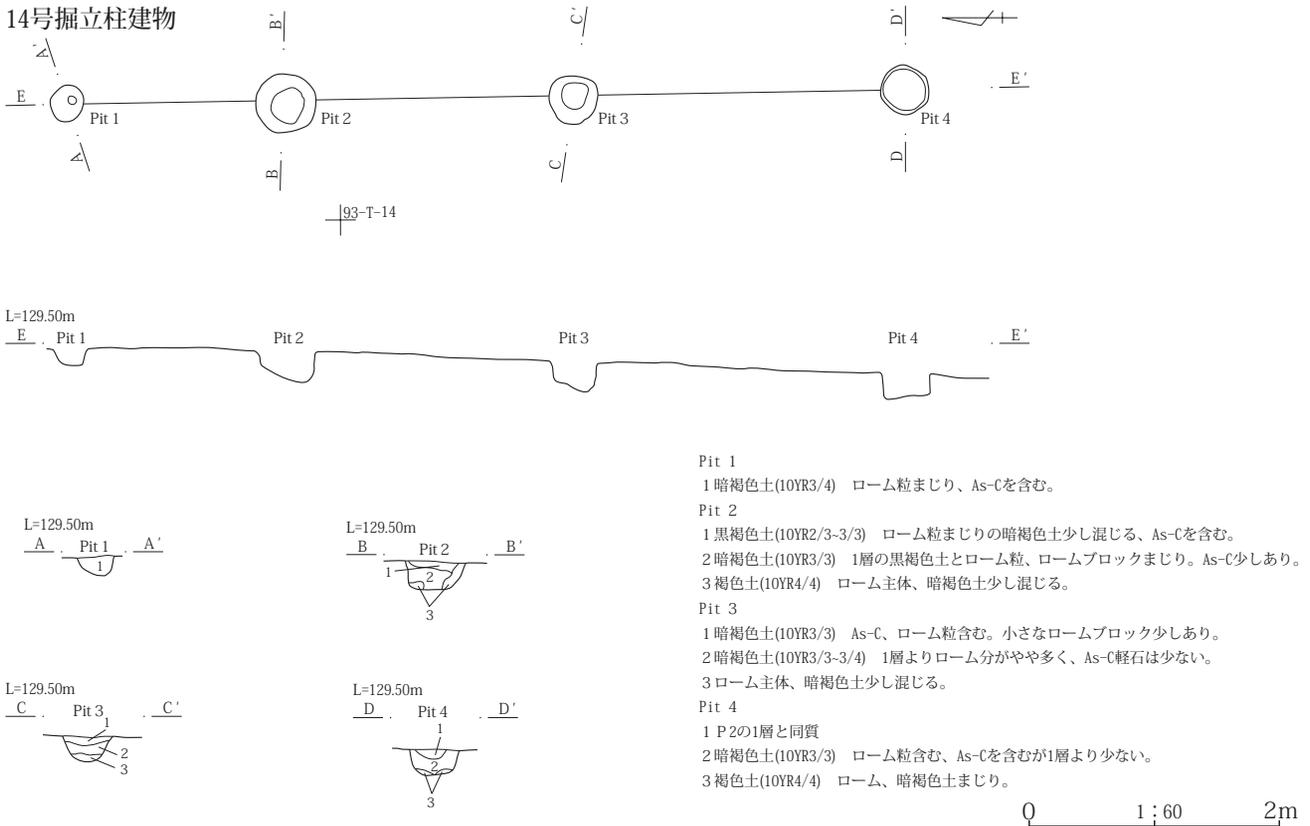
遺構・遺物

12号掘立柱建物

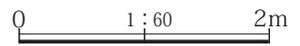


- Pit 1 ~ 4
- 1 黒褐色土(10YR2/2) As-C軽石少量、ローム粒子微量を含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2) やや軟質、As-C軽石微量を含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) 軟質、ローム粒子少量含む。
 - 4 暗褐色土(10YR3/3) 崩落したロームブロック粒子をやや多く含む。

14号掘立柱建物

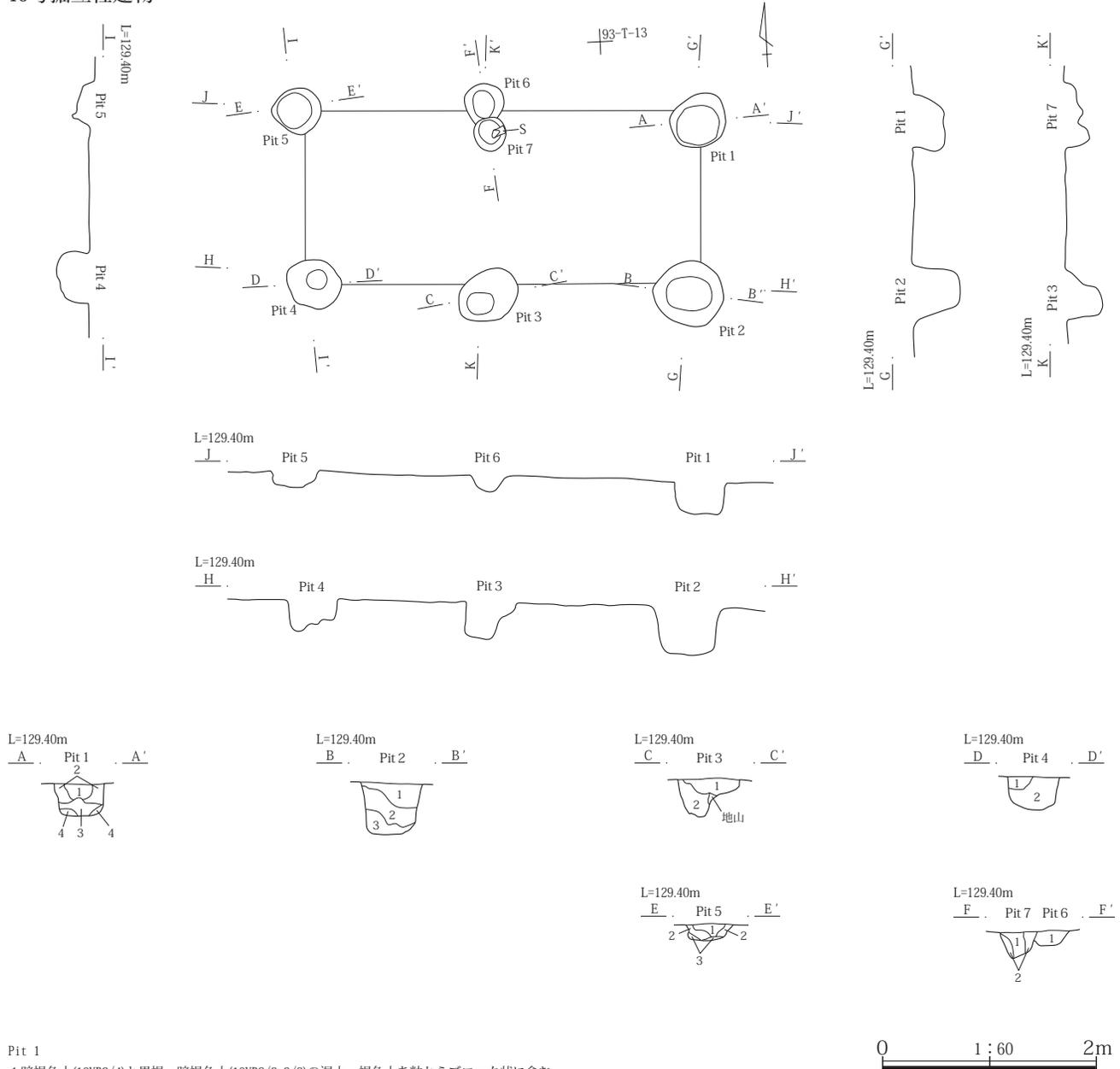


- Pit 1
- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒まじり、As-Cを含む。
- Pit 2
- 1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) ローム粒まじりの暗褐色土少し混じる、As-Cを含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 1層の黒褐色土とローム粒、ロームブロックまじり。As-C少しあり。
 - 3 褐色土(10YR4/4) ローム主体、暗褐色土少し混じる。
- Pit 3
- 1 暗褐色土(10YR3/3) As-C、ローム粒含む。小さなロームブロック少しあり。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3-3/4) 1層よりローム分がやや多く、As-C軽石は少ない。
 - 3 ローム主体、暗褐色土少し混じる。
- Pit 4
- 1 P2の1層と同質
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒含む、As-Cを含むが1層より少ない。
 - 3 褐色土(10YR4/4) ローム、暗褐色土まじり。



第182図 12号・14号掘立柱建物

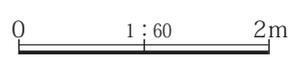
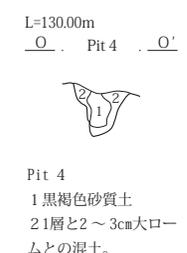
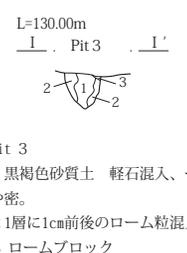
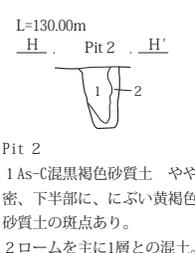
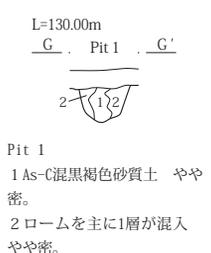
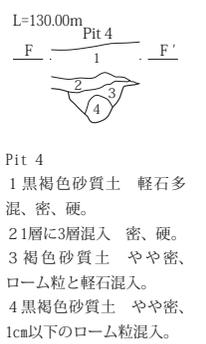
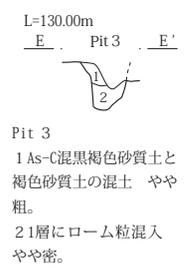
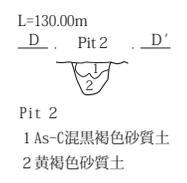
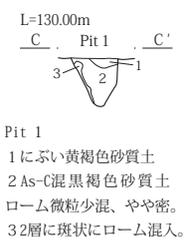
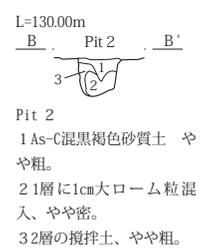
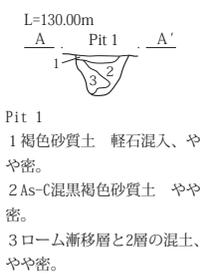
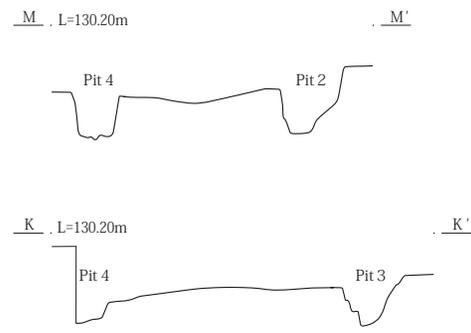
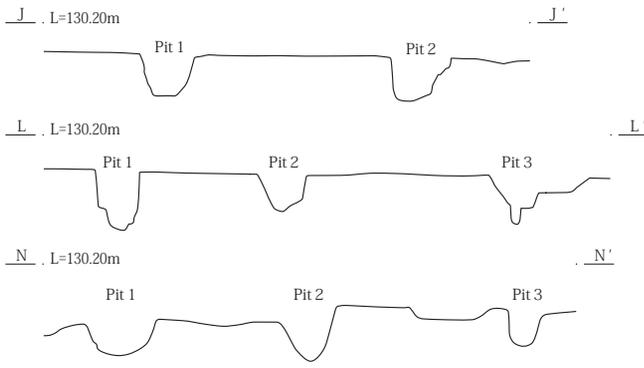
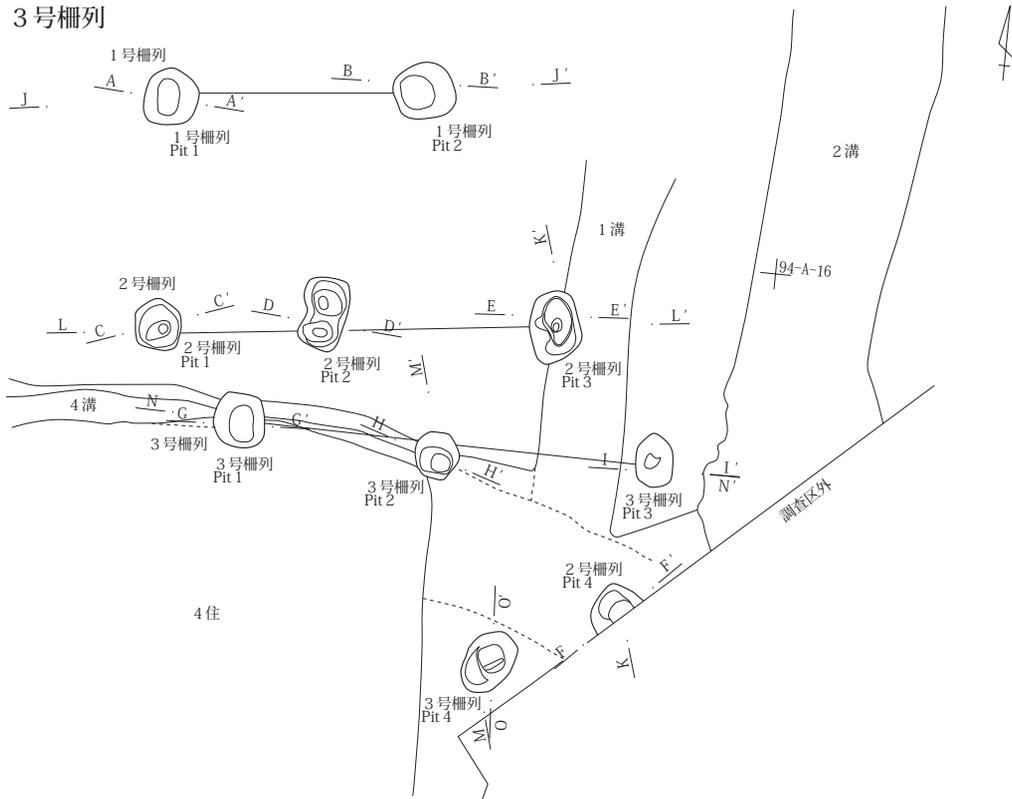
15号掘立柱建物



- Pit 1
- 1 暗褐色土(10YR3/4)と黒褐～暗褐色土(10YR2/3-3/3)の混土。褐色土を粒からブロック状に含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土を粒からブロック状に少量含む。
 - 3 黒褐～暗褐色土(10YR2/3-3/3) As-Cを均一に含み、西側に暗褐色土またハードロームブロックを少量含む。
 - 4 黄褐色土(10YR5/8)主体で暗褐色土(10YR3/4)が混じる。
- Pit 2
- 1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-C軽石を多く含む。ローム粒、ロームブロック混じり。
 - 2 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-Cを含む、ローム粒少し混じる。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3-3/4) ローム粒混じり、ロームブロック少しあり。
- Pit 3
- 1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-Cを含む、ローム粒まじりの暗褐色土少し混じる。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒まじり、ロームブロック少しあり。As-Cわずかにあり。
- Pit 4
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロック混じり、As-Cを含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 1層に比べAs-C少なく、ロームブロックもなし。
- Pit 5
- 1 P3の1層と同質
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒まじり、ロームブロック少しあり。As-C軽石は極わずか。
 - 3 褐色土(10YR4/4-3/4) ローム、暗褐色土混じり。
- Pit 6・7
- 1 暗褐色土(10YR3/4) As-C極少量含む。
 - 2 褐色土(10YR4/6) 上位に暗褐色土混じる。
 - 3 2層に類似 暗褐色土の混じりが2層より少ない。

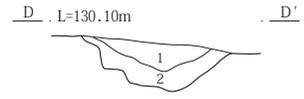
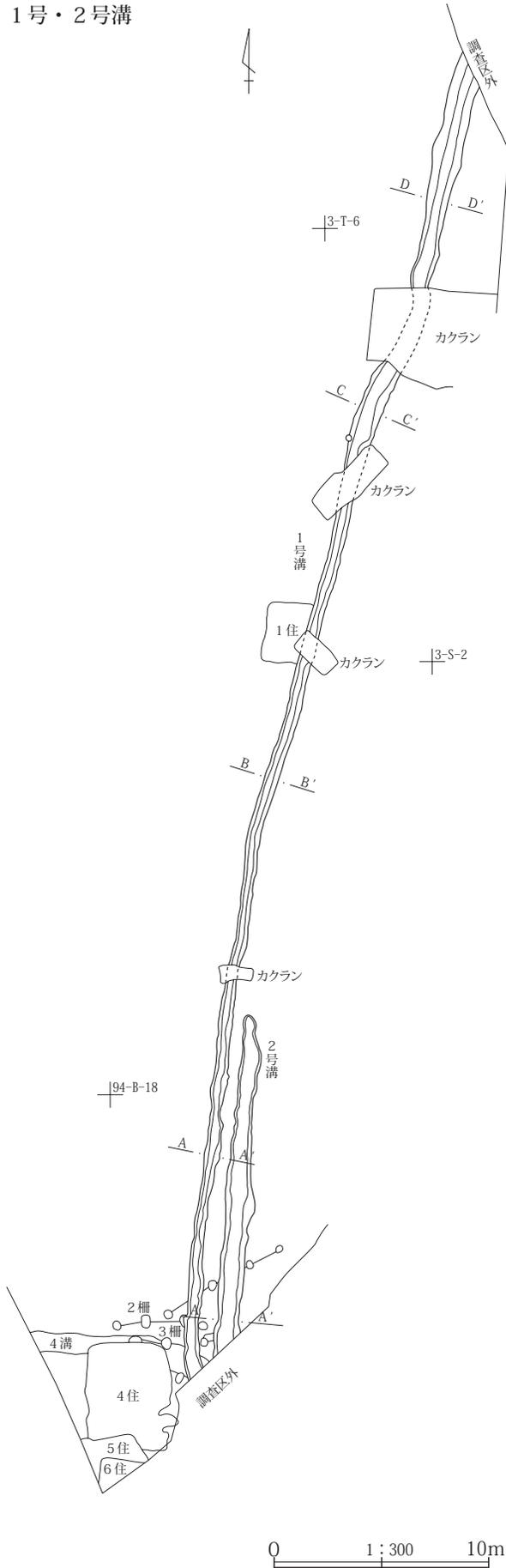
第183図 15号掘立柱建物

1号・2号・3号柵列

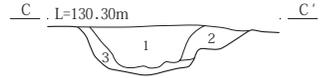


第184図 1号・2号・3号柵列

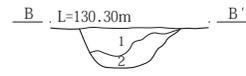
1号・2号溝



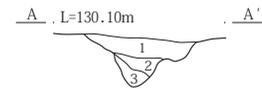
D-D'
 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子やや多く、褐色砂粒を微量に含む。
 2 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子やや多く、As-C軽石微量に含む。



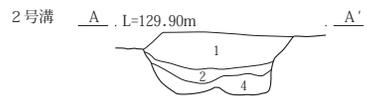
C-C'
 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり弱い、ローム粒子をやや多く含む。
 2 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子を少量含む。
 3 黄褐色土(10YR5/6) 軟質なロームブロックを主体とする。



B-B'
 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子を少量含む。
 2 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子やや多く、炭化物微量に含む。



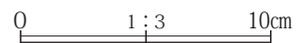
A-A'
 1 黒褐色土(10YR2/3) しまり弱い、ローム粒子を微量含む。
 2 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い、ローム粒子を多く含む。
 3 暗褐色土(10YR3/4) しまり弱い、ローム粒子を少量含む。



A-A'
 1 にぶい黄褐色土(10YR3/3) ローム粒子やや多く、白色砂粒をやや多く含む。
 2 にぶい黄褐色土(10YR3/3) しまり有、ローム粒子を少量含む。
 3 にぶい黄褐色土(10YR3/4) ローム粒子を多く含む、やや軟質。

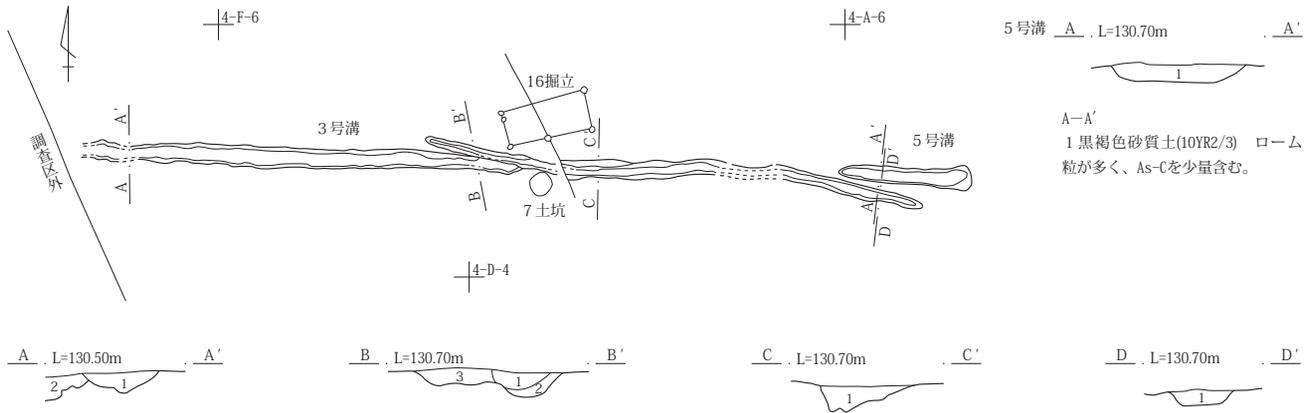


2号溝出土遺物



第185図 1号・2号溝

3号・5号溝

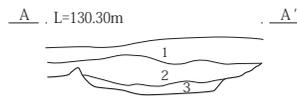
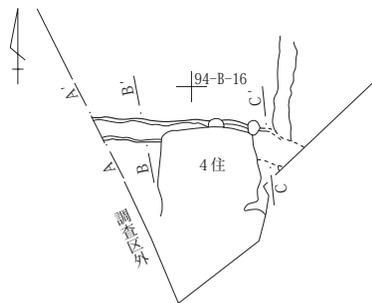


A-A'
 1 褐灰色砂質土 軽石混入、1~2cm大ローム粒混入。
 2 黒褐色砂質土 ローム漸移層上面のしみ状部分。

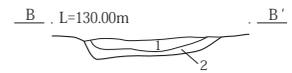
B-B'
 1 褐灰色砂質土(10YR6/1-5/1) 細粒、やや粗、軽石混入。
 2 1層と黄褐色砂質土の混土
 3 褐灰色砂質土 1層より暗、軽石やや多い。

C-C'・D-D'
 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子やや多く、ロームブロック少量含む。

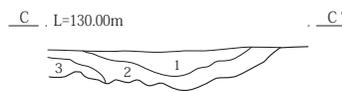
4号溝



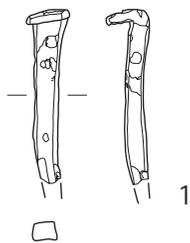
A-A'
 1 淡黒褐色砂質土 軽石多混、やや粗。
 2 黒褐色砂質土 軽石多混、やや密。
 3 2層に、にぶい黄褐色砂質土を攪拌状態で含む。やや密。



B-B'
 1 黒褐色砂質土 やや密、軽石多混。
 2 にぶい黄褐色砂質土 細粒、やや密、ローム漸移土で地山か。



C-C'
 1 黒褐色砂質土 軽石多混、ローム粒少混、やや密。
 2 1層とロームの混土、密。
 3 ブロック状のロームを主にした1層との混土、やや密、ピット上面に分布。

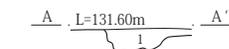
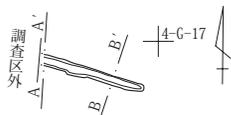


0 1:2 5cm

7号溝



6号溝

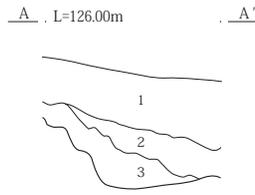
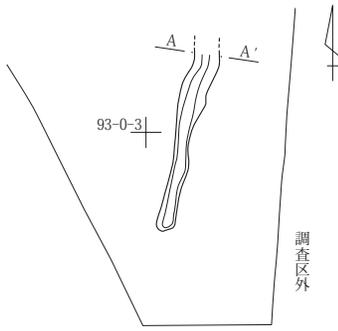


A-A'
 1 黒褐色砂質土(10YR2/3) ローム粒が多く、As-Cを少量含む。

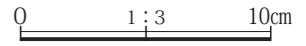
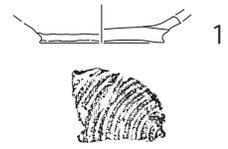


第186図 3号・4号・5号・6号・7号溝

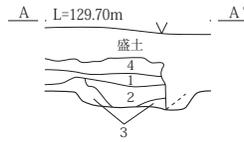
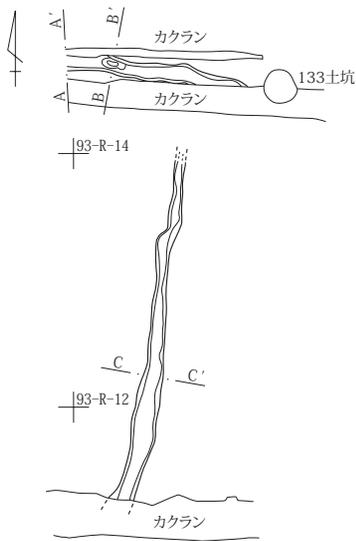
8号溝



- A-A'
- 1 耕作土
 - 2 淡黄白色細砂層 水成堆積、しまり弱い。
 - 3 褐色砂質土 2層の細砂層が混入。



9号溝



- A-A'
- 1 黒褐色砂質土 4層耕作土、2層As-BP混黒褐色砂質土との混土。均質、密。
 - 2 1層に、にぶい黄褐色砂質土斑混 均質、密で人為的攪拌土と思われる。
 - 3 2層と同質 As-C混土が2層より少ないので区別した。
 - 4 褐色砂質土 細粒、As-Aらしい灰白色粒少混。耕作土。

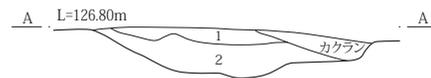
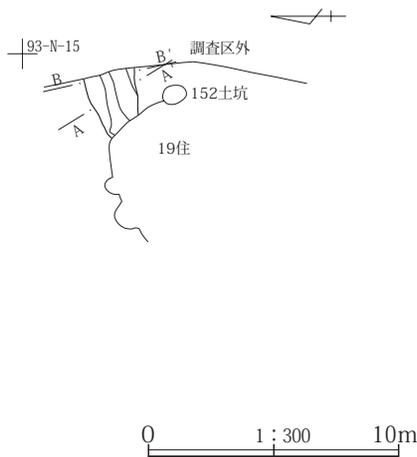


- B-B'
- 1 B-B'の2層と同質
 - 2 ソフトロームのブロック しまり弱い。
 - 3 黒褐色砂質土 弾力のある細粒土。

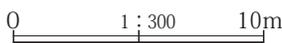
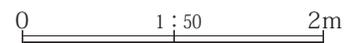
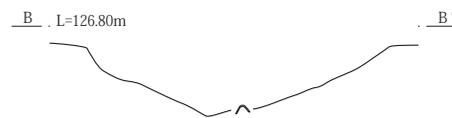


- C-C'
- 1 黒褐色砂質土 As-BPらしい細砂粒を攪拌全体に含む。細粒、均質。

10号溝

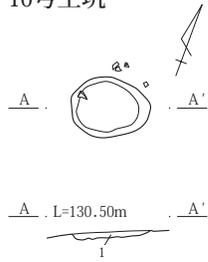


- A-A'
- 1 2層にAs-BPらしい細砂混入
 - 2 As-C混黒褐色砂質土 弾力のある細粒土。ローム漸移層、ロームが1~3cm大の斑状に混入。密、やや硬。



第187図 8号・9号・10号溝

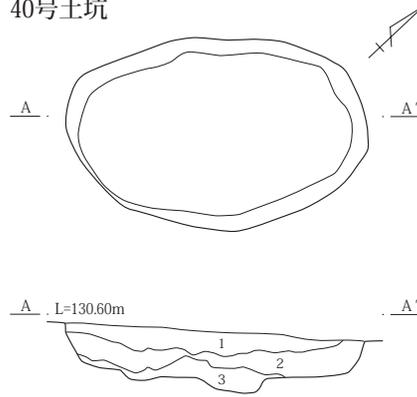
10号土坑



10号土坑

1 暗褐色粘質土(10YR3/3) 密、粘性強、1~5mm大灰白色砂粒混入。

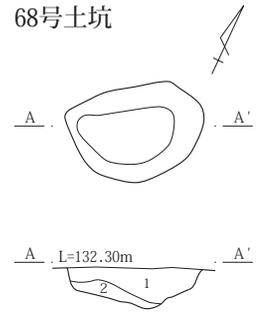
40号土坑



40号土坑

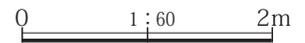
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒をやや多く、As-C軽石を微量含む。
2 暗褐色土(10YR3/4) ロームを主体とし、硬質ロームブロックを多く含む。
3 褐色土(10YR4/4) 2層が少量混入、やや硬質なロームを主体とする。

68号土坑

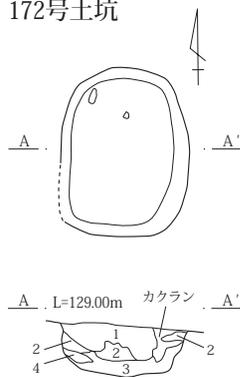


68号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3) やや軟質、ローム粒子を微量含む。
2 褐色土(10YR4/4) 軟質、崩落したローム粒子を主体とする。

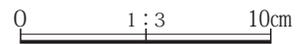
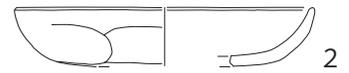


172号土坑

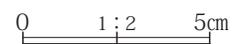
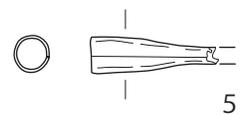
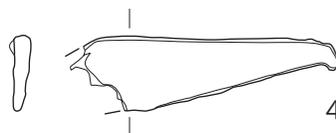
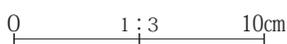
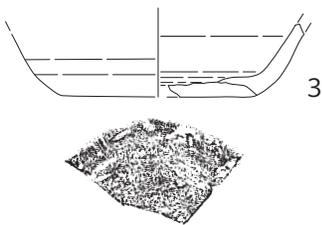


172号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 弾力のある細粒、均質、As-C混入。
2 黒褐色砂質土(10YR3/2) As-Cのほか焼土と炭混入。
3 黒色砂質土(10YR2/2) 炭多混、焼土、ロームも多い。焼土は壁際に多い。
4 褐色砂質土(10YR4/4) 弾力のある細粒、As-C混入。



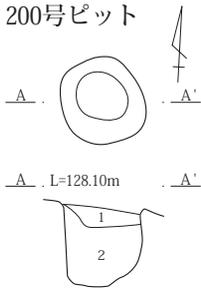
遺構外出土遺物



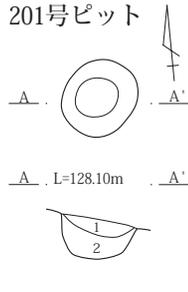
第188図 10号・40号・68号・172号土坑、遺構外出土遺物

第5章 奈良時代以降の遺構と遺物

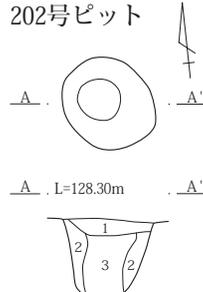
200号ピット



201号ピット



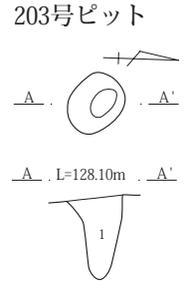
202号ピット



200～202号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-C軽石を多く含む、ローム粒少し混じる。
2 暗褐色土(10YR3/3) 1層よりローム分がやや多く、As-Cは極わずか。
3 暗褐色土(10YR3/3-2/3) ローム粒まじり、2層よりやや黒味強くAs-C軽石も多い。やや軟。

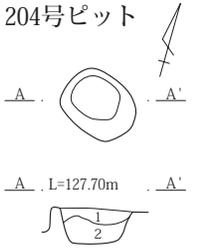
203号ピット



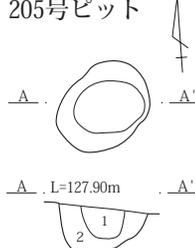
203号ピット

1 暗褐色土(10YR3/4) As-C軽石極わずか、ローム粒含みやや軟。

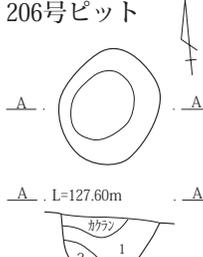
204号ピット



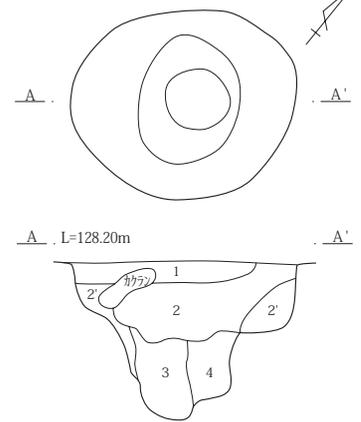
205号ピット



206号ピット



207号ピット



204号ピット

1 200号ピット1層と同質
2 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒ロームブロック混じり、As-C軽石わずかにあり。

205号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) 200号ピットに類似するがAs-C軽石は少ない。
2 204号ピット2層と同質。

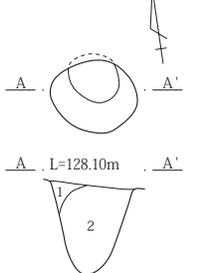
206号ピット

1 200号ピット2層と同質
2 暗褐色土(10YR3/4) 1層に比べローム分多く明るい、As-C軽石は少ない。

207号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-CとAs-FAらしき軽石を含む。ローム粒もしくは火山灰を少し含む。
2 黒褐色土(10YR2/3) 1層よりやや黒味が強い。As-Cらしき軽石が混じる、ローム粒少しあり。
2' 黒褐色土(10YR3/2) 2層に近いが軽石がほとんどなく、壁際は少しローム混じり。
3 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-Cらしき軽石はわずか、下位はほとんど無し。下位はローム粒や目立つ。軟質。
4 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-C軽石あり、ローム粒ロームブロックあり、しまり良。

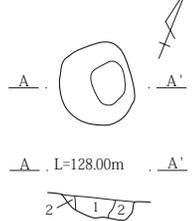
209号ピット



209号ピット

1 暗褐色土(10YR3/3-2/3) ローム粒混じり、As-C軽石あり。
2 200号ピット1層と同質。

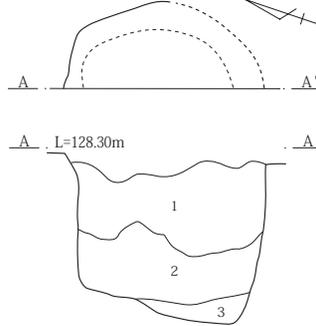
210号ピット



210号ピット

1 200号ピット1層と同質
2 暗褐色土(10YR3/4) ローム混じり、ロームブロックあり。

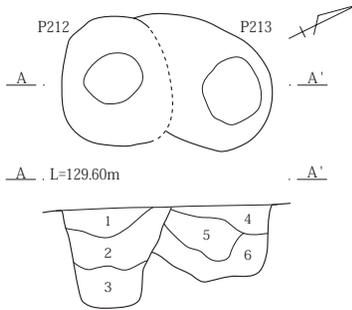
211号ピット



211号ピット

1 暗褐色土(10YR3/3-2/3) As-Cを多く含む。ローム粒少し混じり、小さなロームブロック少し有。
2 黒褐色土(10YR2/3) As-Cを多く含む。ローム粒少し混じるが1層より少なく黒っぽい。
3 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、ロームブロック混じり。

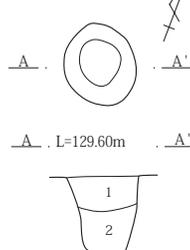
212・213号ピット



212・213号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-Cとローム粒を含む、暗褐色土混じり。
2 暗褐色土(10YR3/3-2/3) As-Cを含むが1層より少なく、1層より暗褐色土が多い。少し赤味があり、ロームブロックあり。
3 暗褐色土(10YR3/3-2/3) 2層に近いがAs-Cはほとんどなし。
4 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを含む。輪郭の弱いロームブロックあり。
5 暗褐色土(10YR3/4) As-C少しあり、ローム粒小さなロームブロックあり。
6 暗褐色土(10YR3/4) As-Cほとんど無し、5層に比べローム粒ロームブロック少ない。やや軟。

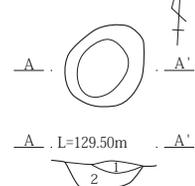
215号ピット



215号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-Cを含む、ローム粒混じりの暗褐色土少し混じる。
2 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒混じり、As-Cほとんど無し。

217号ピット



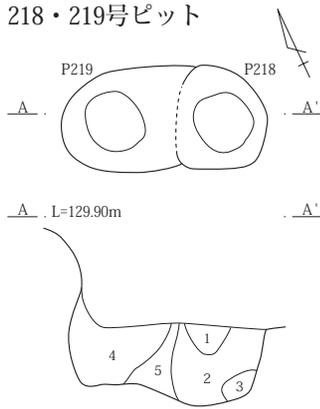
217号ピット

1 215号ピット1層と同質
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒混じり、ロームブロック少しあり、As-Cあり。

0 1:30 1m

第189図 ピット (1)

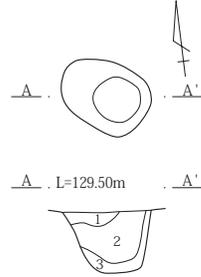
218・219号ピット



218・219号ピット

- 1 215号ピット1層と同質
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒ロームブロック混じり、As-C少しあり。
- 3 褐色土(10YR4/4) ローム暗褐色土混じり、ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒混じり、小さなロームブロックあり、As-Cはほとんど無し。
- 5 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム粒ロームブロック混じり、4層よりロームブロック多く含む。

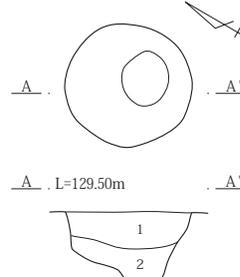
220号ピット



220号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒混じり、As-Cらしき軽石あり。
- 2 215号ピット1層と同質
- 3 褐色土(10YR4/4-3/4) ローム暗褐色土混じり、小さなロームブロックあり。

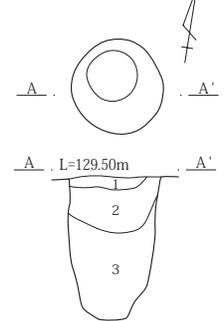
221号ピット



221号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒混じり、ロームブロック少しあり、As-C軽石あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3-3/4) 1層に近いがややローム分多く、As-C軽石は少ない。

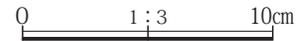
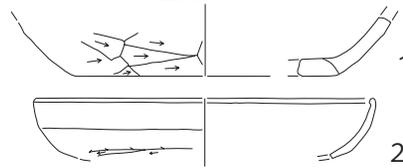
223号ピット



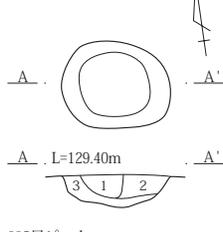
223号ピット

- 1 215号ピット1層と同質
- 2 暗褐色土(10YR3/3) As-C軽石を含む。2層よりローム分を多く含む、ロームブロックもあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ローム混じり、ロームブロック少しあり、As-C軽石はほとんど無し。

218号・221号ピット出土遺物



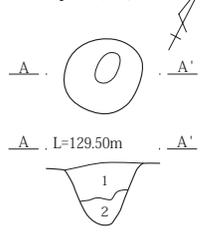
225号ピット



225号ピット

- 1 215号ピット1層と同質
- 2 暗褐色土(10YR3/3) As-Cとローム粒を含む。
- 3 褐色土(10YR4/4) ローム暗褐色土混じり。

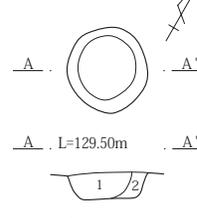
227号ピット



227号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3-3/3) As-C軽石を多く含む、ローム粒、ロームブロック混じり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム粒混じり。

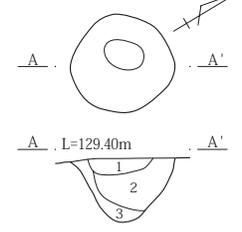
228号ピット



228号ピット

- 1 215号ピット1層と同質
- 2 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム粒混じり。

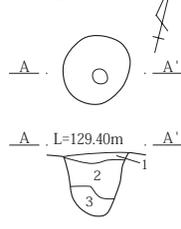
229号ピット



229号ピット

- 1 215号ピット1層と同質
- 2 225号ピット2層と同質
- 3 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム粒混じり。

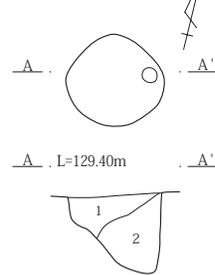
230号ピット



230号ピット

- 1 215号ピット1層と同質
- 2 225号ピット2層と同質
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒混じり、As-Cほとんど無し。

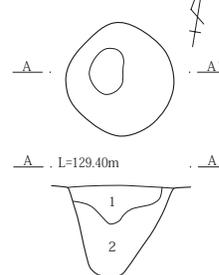
234号ピット



234号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒混じり、As-C少しあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4-3/3) 1層に比べローム分やや多く、As-Cはほとんど無し。

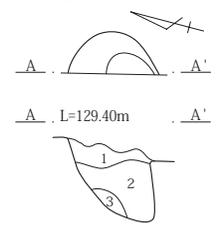
235号ピット



235号ピット

- 1 227号ピット1層と同質
- 2 黒褐色土(10YR2/3-3/3) 1層に比べロームブロックは無く、As-C軽石は少ない。やや軟。

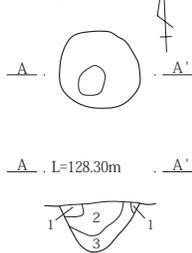
236号ピット



236号ピット

- 1 227号ピット1層と同質
- 2 215号ピット1層と同質
- 3 褐色土(10YR4/4-3/4) ローム暗褐色土混じり。

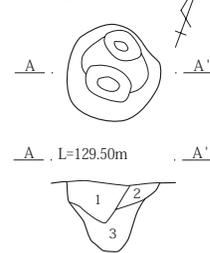
240号ピット



240号ピット

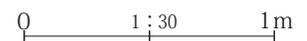
- 1 暗褐色土(10YR3/4-4/4) ローム混じり、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3-2/3) ローム粒少し混じり、As-Cらしき軽石を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3-3/4) ローム粒混じり、ロームブロック小さいもの少し有、As-Cらしい軽石少し有。

241号ピット



241号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石粒を極少量含む、下位は褐色土混じり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)と褐色土(10YR4/4)の混土
- 3 黄褐色土～褐色土の間(10YR5/6-4/6) しまり弱い。



第190図 ピット (2)

第6章 時代不明の遺構

時代不明の遺構として扱ったものは、発掘調査において人為的に掘削された遺構と判断されたものである。

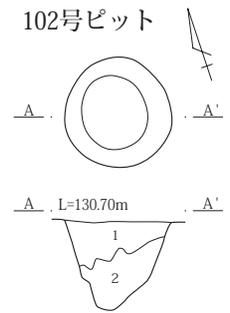
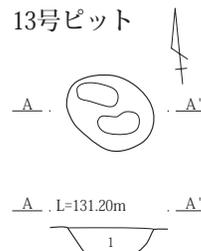
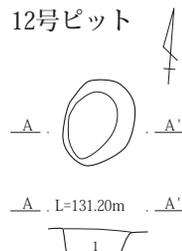
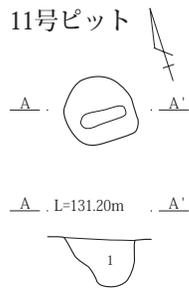
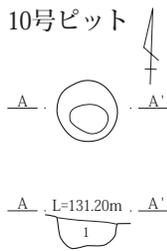
遺構はすべてピットであった。遺物の出土がないため、帰属する時代は判然としないものの、覆土の状態から見て縄文時代以外で奈良時代以降に帰属する可能性が推測される。

しかし、最終的に判断すると、10号・11号・121号ピットのように掘削深度の浅いピットは、人為的な遺構の可能性は低いといえる。また、114号ピットのように土層注記のないものは、遺構認定の根拠に欠けるので人為的な遺構としての判断を保留しておきたい。

第34表 時代不明遺構一覧

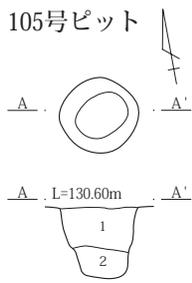
No.	遺構名	調査区	中グリッド	グリッドX	グリッドY	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
1	10号ピット	A	4	H	14	25	25	10
2	11号ピット	A	4	H	14	30	25	20
3	12号ピット	A	4	H	14	35	25	15
4	13号ピット	A	4	H	14	35	25	15
5	102号ピット	A	4	B	15	40	40	35
6	105号ピット	A	4	A	14	30	30	30
7	108号ピット	A	4	B	12	30	30	30
8	114号ピット	A	3	T	10	25	25	35
9	116号ピット	A	3	T	10	20	20	25
10	117号ピット	A	3	T	9	20	15	20
11	119号ピット	A	4	A	9	20	20	15
12	121号ピット	A	4	A	10	25	25	15
13	124号ピット	A	4	B	12	35	30	20
14	129号ピット	A	4	C	13	25	20	25
15	130号ピット	A	4	C	13	25	20	30
16	135号ピット	A	4	C	11	25	20	25
17	244号ピット	A	4	D	4	30	25	50
18	245号ピット	A	4	C	4	20	20	20
19	253号ピット	A	4	F	8	35	30	30
20	254号ピット	A	4	F	8	25	20	20
21	257号ピット	A	4	D	6	30	25	25
22	259号ピット	A	4	B	6	65	60	40
23	260号ピット	A	4	C	7	35	35	20
24	266号ピット	A	4	B	7	30	20	30
25	267号ピット	A	3	T	6	25	25	30
26	268号ピット	A	3	T	6	25	25	40
27	271号ピット	A	3	S	4	30	25	25
28	272号ピット	A	4	A	6	20	20	15
29	273号ピット	A	4	A	6	20	15	25
30	277号ピット	A	4	A	7	25	25	25
31	278号ピット	A	4	B	7	25	25	20
32	283号ピット	A	4	A	7	35	30	10
33	284号ピット	A	4	A	7	20	20	15

時代不明の遺構

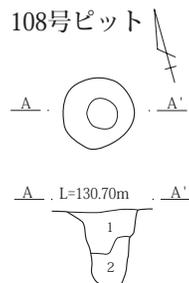


10～13号ピット
1 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや有、粘性なし。ローム粒微量含む。

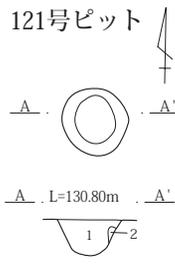
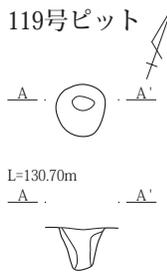
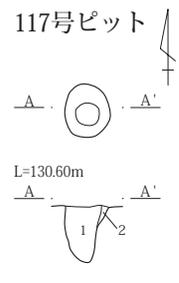
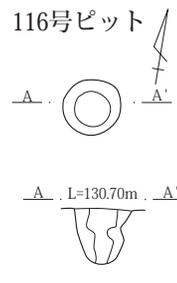
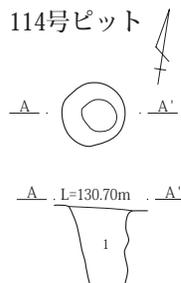
102号ピット
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) As-BP
ほか微砂粒多混、堅緻。
2 黄褐色砂質土



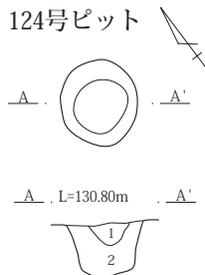
105号ピット
1 にぶい黄褐色砂質土
2 黄褐色砂質土



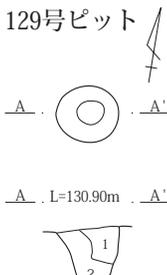
108号ピット
1 黒褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土
の斑混土 堅緻。
2 にぶい黄褐色～黄褐色の砂質土



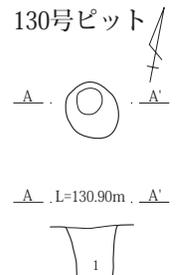
114・116・117・119・121号ピット
土層注記記載なし



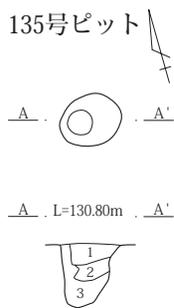
124号ピット
1 ロームブロック
2 黄褐色砂質土 密。



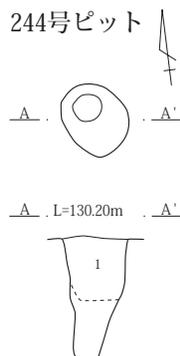
129号ピット
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 黄褐色砂
質土斑混、堅緻。
2 黄褐色砂質土



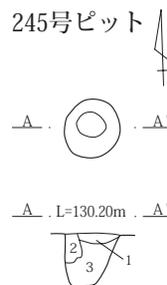
130号ピット
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
黄褐色砂質土斑混、堅緻。



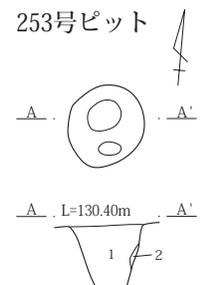
135号ピット
1 黒褐色砂質土 1mm以下の炭粒混
入、堅緻。
2 にぶい黄褐色砂質土
3 黄褐色砂質土



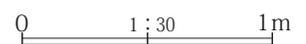
244号ピット
1 褐色土(10YR4/6) 白色粒子を
少量、黄白色粒子を極少量含む。



245号ピット
1 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体土。
2 黄褐色土(10YR5/6) ハードローム
ブロック。
3 244号ピット1層に類似するがAs-YP
は認められない。

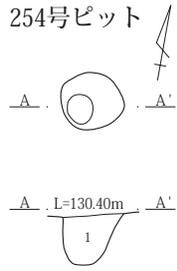


253号ピット
1 褐色土(10YR4/6) 黄褐色土
(10YR5/6)が斑状に入る、白色軽石粒
を上位に含む、固くしまる。
2 黄褐色土(10YR5/6) しまりやや弱。

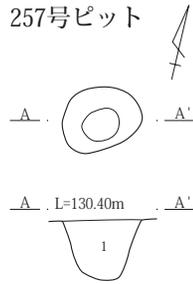


第191図 時代不明の遺構(1)

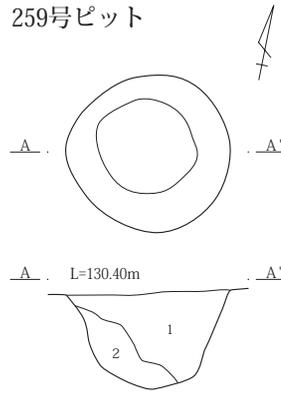
第6章 時代不明の遺構



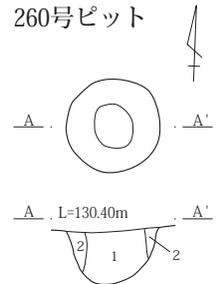
254号ピット
1 黄褐色土(10YR5/6)と暗褐色土(10YR3/4)の混土 白色粒子を少量含む。



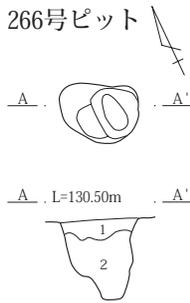
257号ピット
1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土は全体的に斑状に認められる。しまりやや弱。



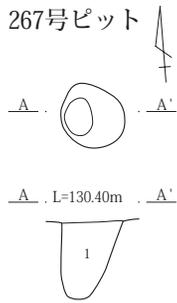
259号ピット
1 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR5/6)が斑状に入る、白色粒子均一に少量含む、固くしまる。
2 黄褐色土(10YR5/6) ややしまり弱。



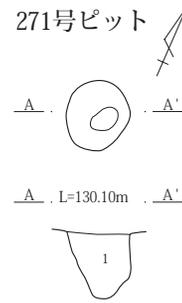
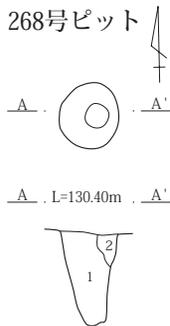
260号ピット
1 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR5/6)が斑状に入る、白色粒子を少量含む、固くしまる。
2 黄褐色土(10YR5/6)主体で褐色土(10YR4/4)混じり 白色粒子を極少量含む。



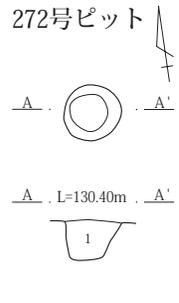
266号ピット
1 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土の割合が多く、やや黄色味あり。
2 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/4)が斑状に入る、白色～黄白色粒を均一に少量含む。



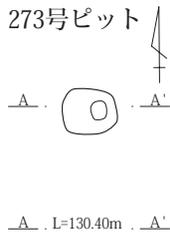
267・268号ピット
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 褐色砂質土(10YR4/6)の斑混あり、堅緻。
2 1層と同質 褐色砂質土が多い。



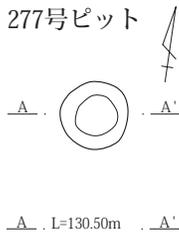
271号ピット
1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土(10YR4/4)が斑状に入る、白色～黄白色粒を少量含む。
2 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土(10YR3/3)少量混じる。



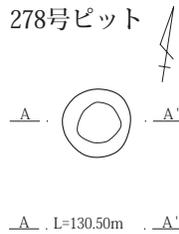
272号ピット
1 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR5/6)が斑状に入る、白色～黄白色粒を少量均一に含む、炭化物粒状に少量含む、固くしまる。



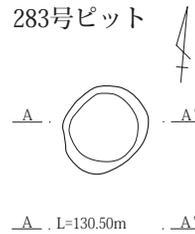
273号ピット
1 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/4)が斑状に入る、黄白色粒を極少量含む。



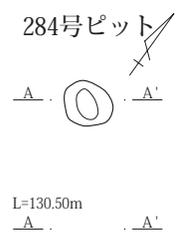
277号ピット
1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土(10YR4/4)が斑状に入る、白色～黄白色粒を少量含む。



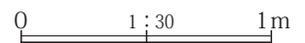
278号ピット
1 260号ピット1層に類似するが黄褐色土は斑状でなく、混じった状態で認められる。白色粒子を極少量含む。しまりやや弱。
2 黄褐色土(10YR5/6) 1層の土混じり。



283号ピット
1 黄褐色土(10YR5/6)と暗褐色土(10YR3/3)の混土 白色～黄白色粒を極少量含む。
2 1層に類似するがしまりやや弱い。根拠乱か。
3 1層に類似するが黄褐色土主体で黄色味帯びる。



284号ピット
1 黄褐色土(10YR5/6)と褐色土(10YR4/4)の混土 白色粒子はほとんど認められない。



第192図 時代不明の遺構 (2)

第7章 自然科学分析

上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の発掘調査において、自然科学分析を実施した。分析は、株式会社パレオ・ラボに委託した。分析結果および分析に関するコメントは、次の第1節、第2節、第3節に報告した通りである。

第1節 上泉唐ノ堀遺跡から出土した炭化種実

1. 試料と方法

炭化種実の分析は、17号土坑・18号土坑・89号土坑（いずれも縄文時代）から検出された3試料について行った。同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。

2. 結果

出土した炭化種実の一覧を第35表に示した。以下に、各試料の炭化種実を記載する。

① 17号土坑

オニグルミ炭化核の破片が10点とクリ炭化子葉の破片が12点であった。オニグルミは、径5～15mm程度の破片であり、全体で完形1～2個分に相当する。クリは、径5～20mm弱の破片であり、全体で完形2個分程度に相当する。

② 18号土坑

オニグルミ炭化核の破片が3点と不明炭化子葉の破片が5点であった。オニグルミは、全体でも1/2個分未満である。

③ 89号土坑

トチノキ炭化子葉の破片が8点であった。すべて径5～10mm程度の破片であり、全体で完形1～2個分に相当する。

3. 考察

検討した結果、同定されたのは、オニグルミ、クリ、トチノキといった有用植物であった。不明としたものもおそらく有用植物の炭化子葉と思われるが、同定には至らなかった。

オニグルミ炭化核の破片は、利用後の残滓の可能性が考えられる。クリ、トチノキは、果皮や種皮ではなく、

食用部分の子葉であった。

土坑の性格については、食用部位が出土しているとはいえ、まとまった産状を示さないので、貯蔵穴のような可能性は低く、ごみ穴のような類ではないだろうか。

4. 形態記載

① オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana*(Maxim.)Makino 炭化核

核壁は緻密で堅く、表面には筋が入り、割れ口の断面には、空隙(穴)が見られることがある。炭化状態が良いと、割れ口にはしばしば光沢が見られる。

② クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化子葉

いずれも破片であった。小さな破片は多数あったが、厳密には同定には至らない。ある程度大きな破片を見ると、表面の状態、大きさ、曲率などからクリないしトチノキの可能性が高く、コナラ属ではないことがわかる。1つの大きな破片(長径20mm弱、短径10mm程度)は、平坦な面を持ち、表面にやや疎で深い皺がある。これは、緑辺の曲率からしてもクリの可能性が高いので全ての破片をクリとした。

③ トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 炭化子葉

いずれも破片であった。小さい破片は、厳密には同定が困難であるが、いずれも表面は不規則な緩やかな起伏がある程度で明瞭な皺はない。10mm程度の大きな破片を見ると、表面の曲率から、元は球形に近い形状であると推定される。内部(断面)は厚く、コナラ属のような平坦な面はなく、複雑に割れている。以上のことから、この破片はトチノキの可能性が高いので、全ての破片をトチノキとした。

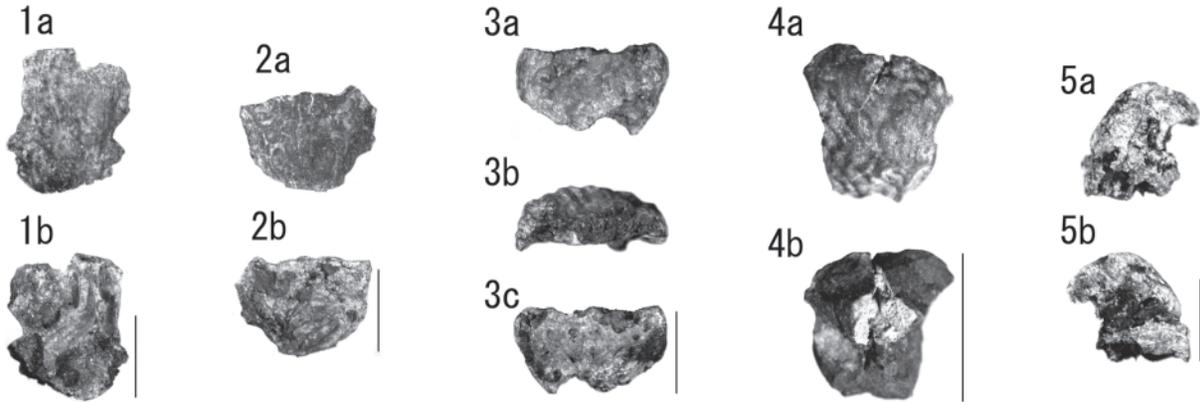
④ 不明 炭化子葉

小破片と大破片とが含まれる。1つの大型の破片は、完形に近いのではないかとと思われる。元は、20mm前後の歪な球形かと思われ、表面は状態が悪いが、皺はなく滑

第35表 炭化種実分析一覧

調査区	遺構名	時代	試料名	試料数	オニグルミ 炭化核	クリ 炭化子葉	トチノキ 炭化子葉	不明 炭化子葉
A	17号土坑	縄文	覆土の炭	1	(10)	(12)		
A	18号土坑	縄文	覆土の炭	1	(3)			(5)
A	89号土坑	縄文	ドングリか?	1			(8)	

*分類群の試料数の数字は個数、()内は半分ないし破片の数を示す



1.オニグルミ、炭化核、A区18号土坑覆土の炭 2.オニグルミ、炭化核、A区17号土坑覆土の炭 3.クリ、炭化子葉、A区17号土坑覆土の炭
4.トチノキ、炭化子葉、89号土坑 5.不明、炭化子葉、A区18号土坑覆土の炭 (写真右横スケールは1cm)

第193図 出土した炭化種実

らかである。

割れ口は、複雑であり、平坦な面を持たないので、コナラ属以外と思われる。

第2節 上泉唐ノ堀遺跡から出土した炭化材の樹種同定

1. はじめに

ここでは、7号住居（縄文時代）、12号住居（奈良時代）、32号土坑・44号土坑・47号土坑・57号土坑（いずれも縄文時代）から出土した炭化材9試料の、樹種同定結果を報告する。

2. 試料と方法

取上げられていた試料から、形状や大きさの異なる炭化材を選び、樹種同定試料とした。同定は、炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向(横断面・接線断面・放射断面)の断面を作製し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日

本電子(株)製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

3. 結果

住居・土坑共に、クリが多く検出された。クリ以外では、47号土坑からヤマグワ?が検出された。

樹種記載

① クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科
第194図2 a - 2 c (57号土坑)

年輪の始めに大型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列し、柔組織が接線状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材は加工がやや困難であるが、狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。

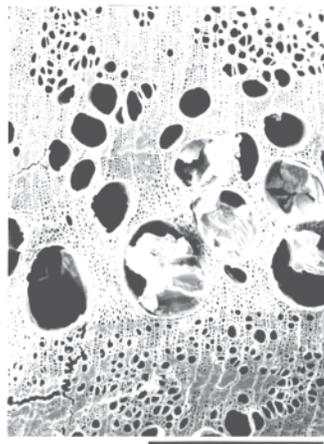
② ヤマグワ *Morus australis* Poir. ? クワ科
第194図3 a - 3 c (47号土坑)

1年輪がない破片で、晩材部に近い破片のようである。小型と非常に小型の大きさの不揃いな管孔が集合し、斜

第36表 炭化材の樹種同定結果一覧

調査区	遺構名	時代	試料名	樹種	主な破片の横断面 サイズ(cm)*	およその 年輪幅(mm)	備考
A	7号住居	縄文	覆土の炭	クリ			節部
A	12号住居	奈良	炭No12	クリ	1.3×2.7cm	4～5mm	
A	12号住居	奈良	炭No13	クリ	4.0×3.0cm	3～6mm	樹芯部破片、6年輪有り
A	12号住居	奈良	炭No14	クリ		5mm以上	節部?
A	12号住居	奈良	炭No15	クリ			破片
A	44号土坑	縄文	覆土の炭	クリ		4～5mm	
A	44号土坑	縄文	覆土の炭	クリ		10mm	
A	57号土坑	縄文	炭No55	クリ	2.5×1.5cm	2～3mm	芯持ち丸木破片2a、2b、2c
A	32号土坑	縄文	覆土の炭	クリ	3.0×7.0cm		
A	47号土坑	縄文	覆土の炭	ヤマグワ?	0.4×0.8cm		1年輪無い破片3a、3b、3c
A	47号土坑	縄文	覆土の炭	クリ	1.0×1.0cm		破片

*放射方向の長さ×接線方向の長さ



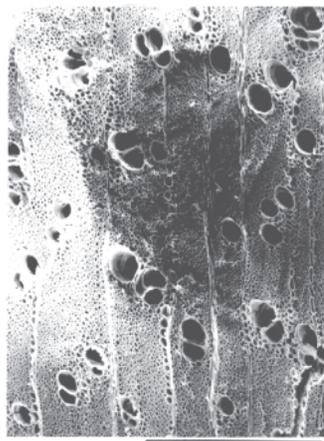
2a クリ (横断面)
57号土坑 bar: 0.5mm



2b クリ (接線断面)
57号土坑 bar: 0.1mm



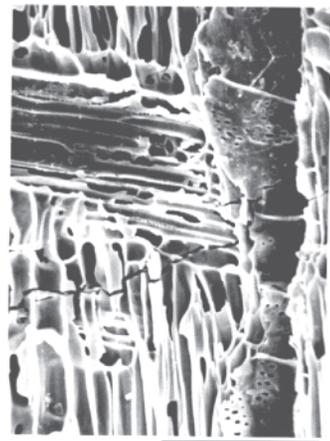
2c クリ (放射断面)
57号土坑 bar: 0.1mm



3a ヤマグワ? (横断面)
47号土坑 bar: 0.5mm



3b ヤマグワ? (接線断面)
47号土坑 bar: 0.1mm



3c ヤマグワ? (放射断面)
47号土坑 bar: 0.1mm

第194図 炭化材組織の走査顕微鏡写真

状・波状に配列している。道管の壁孔はやや大きくて交互状、穿孔は単穿孔である。

放射組織は異性、1～5細胞幅の紡錘形で上下端に方形細胞がある。小道管のらせん肥厚も未確認であるが、ヤマグワの年輪後半部ではないかと思われる。

クワ属は落葉高木または低木で、温帯から亜熱帯の山中に広く分布するヤマグワと、和歌山県・中国地方・四国・九州の暖帯の山中にまれにあるケグワがある。果実は食用となり、材は重硬・強靱で心材は特に保存性が高い有用材である。縄文時代の遺跡からクリと同様に出土頻度が高い樹種である。

第3節 分析結果について

1. 炭化種実

17号土坑・18号土坑・89号土坑から検出された炭化物について分析を行った。分析の結果、オニグルミ、クリ、トチノキに同定された。

今回分析を行った土坑は、いずれも縄文時代前期の黒浜式期から諸磯b式期に構築されたものと考えられる。

分析試料は、いずれも土坑の覆土中から土器や石器とともに出土した炭化物である。分析試料の出土状態に関しては、詳細な出土位置を示す図面や写真がないため、土坑内からの出土という調査所見のみである。詳細は不明であるものの、後世の混入物の可能性は低いと考えられ、縄文時代前期黒浜式期から諸磯b式期の遺跡形成時の炭化物と判断した。

また、17号土坑と18号土坑は互いに重複し、17号土坑は円形・皿状、18号土坑は円形・円筒状であった。89号土坑は円形・円筒状で48号土坑と重複する。いずれの土坑も炭化物はまとまった出土状態ではなかったため、貯蔵穴の可能性は推測されるものの、土坑の用途の特定までは明確にできない。しかし、18号土坑に関しては土坑底面近くに炭化物が多かったという調査所見があり、この炭化物が土坑内に貯蔵した種実の痕跡であると積極的に評価すれば、18号土坑は貯蔵穴であった可能性は高まるといえる。

2. 炭化材の樹種同定

7号住居、12号住居、32号土坑、44号土坑、47号土坑、57号土坑から検出された炭化物について、同定を行った。

同定の結果、縄文時代前期の遺構から検出された炭化物の樹種は、ほとんどがクリに同定された。ほかにヤマグワの可能性が指摘された。

各遺構の時期は、12号住居が奈良時代で、他は縄文時代前期の黒浜式期から諸磯b式期である。7号住居検出の炭化物は、7号住居が8号住居・15号住居と重複するため、いずれかの住居検出であることは間違いなが厳密に本来の帰属住居を決定することは困難である。

また、検出された炭化材が当時の建築部材であるのか、自然木材であるのかの判断は困難で、炭化材の由来は不明といわざるをえない。しかしながら、炭化物は覆土中から出土した土器とともに採取されたものであることから、他の時代の混入物の可能性は低いと判断した。

3. まとめ

分析の結果、炭化種実はオニグルミ、トチノキ、クリであることが判明した。炭化材はほとんどがクリに同定され、残りはヤマグワの可能性が指摘された。

分析によって、部分的にはあるが、上泉唐ノ堀遺跡における縄文時代前期の植物質食糧資源、集落を取り巻く景観、木材資源の利用の様相を復元できる可能性を持つわずかな痕跡が得られたといえる。しかし、分析結果を今後有効活用していくには、分析試料が確実にその遺構に共伴したものであることを明確にしておくことが前提である。この点をまず解決しておかないと活用は困難である。

今回の分析試料に関しては、図や写真記録が欠けていたものの調査所見から遺構に伴う可能性が高いと結論した。しかしながら、分析データの幅広い活用のためには、分析結果公開後にも試料の由来を検証できるように、発掘調査段階において試料の由来・出土状態を吟味し、調査所見・図面・写真類を詳細に記録保存しておくことが大切であることを改めて指摘しておきたい。

第8章 総括

本章では、上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の発掘調査によって判明した調査成果のうち、本報告書の記載内容の主体を占めた縄文時代に関する調査成果について整理し、次の第1節、第2節に若干の考察を加えて総括した。

第1節 上泉唐ノ堀遺跡出土の縄文時代前期の石器群

1. はじめに

上泉唐ノ堀遺跡では、縄文時代の主な遺構として竪穴住居16軒と土坑208基が検出された。これらの遺構や縄文包含層から縄文土器や石器、石製品などの遺物が大量に出土した。

縄文時代の土器については、早期や中期、後期のものもわずかに認められたが、大部分が前期の黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、諸磯c式のものであった。このうち、諸磯b式が最も多かった。竪穴住居の時期は、土器の出土状態を型式別に検討した結果、黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期であることが判明した（第2節参照）。

一方、竪穴住居や縄文包含層からは、剥片系石器や礫石器などの石器群も前期の土器と共に大量に出土した。石器群はこれらの土器と共に出土したことから、石器群の帰属時期も土器と同じ黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期、諸磯c式期の範囲内の時期に形成されたことは確実といえる。

上泉唐ノ堀遺跡から出土した縄文時代の石器群は、他の時期の石器の混在がとても少なく、黒浜式期から諸磯a式期、諸磯b式期、諸磯c式期までの前期後半の時間幅の中に形成された一括遺物であり、縄文時代前期後半の時期の石器群の様相を良好に保持した石器群といえる。したがって、上泉唐ノ堀遺跡出土の縄文時代前期後半の石器群について、石器組成や石器石材などの分析データを抽出して基礎データを示しておくことは、今後赤城山南麓地域における縄文時代前期後半の石器群の実態や特徴を考察し、狩猟採集生活の一端を解明していくうえで重要といえる。

そこで、縄文時代の石器群について、器種組成や石器石材組成、器種ごとの属性について様相をまとめておくこととした。なお、集計に際しては縄文時代の竪穴住居

第37表 石器類の出土量

	縄文遺構	遺構外	総計
剥片系石器	3,360	3,579	6,939
	56,357	56,719	113,076
礫石器	144	97	241
	139,073	106,883	245,956
石製品	7	3	10
	142	383	525
礫	682	853	1,535
	420,370	44,289	464,659
数量合計	4,193	4,532	8,725
重量合計 (g)	615,942	208,274	824,216

や土坑、縄文包含層、表土など遺構ごとに区別せず、すべて一括して扱った。

2. 石器類の分類と出土数量

(1) 石製遺物の分類

上泉唐ノ堀遺跡では、まず石を素材とした遺物を石製遺物として一括し次に石器類、石製品、礫の三種に大別した。石器類は、剥片系石器と礫石器に分類した。剥片系石器は石鏃、石匙、石槍、石錐、削器、石核、使用痕ある剥片、加工痕ある剥片、剥片（碎片も含む）などに分類した。打製石斧や磨製石斧も剥片系石器に含めた。

礫石器には、敲打痕や擦痕・研磨痕、凹み痕など人為的な使用によって形成されたと考えられる痕跡（使用痕）が認められた礫を認定した。敲石、磨石、凹石、多孔石、石皿、台石、砥石に器種分類した。また、石製の球状耳飾りや垂飾などを石製品とした。

礫は、何らかの用途により人為的に遺跡内に運搬されてきたと判断したものである。焼礫も礫に含めた。なお、回収された礫の点数は計1,535点のみであるが、発掘調査ではこの点数をはるかに上回る量の礫が出土している。

(2) 出土数量

上泉唐ノ堀遺跡から出土した石製遺物は、総計8,725

点、総重量約824kgである。このうち、縄文時代遺構からの出土数量は4,193点、遺構外からの出土数量は4,532点である。

3. 剥片系石器

剥片系石器は、総数6,939点、総重量113,076gが出土した。

剥片系石器は器種別に、石鏃、石槍、石錐、石匙、楔形石器、削器、スタンプ形石器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石核、打製石斧、磨製石斧、剥片（碎片含む）に分類した。各器種の数量・重量は第39表に記載した通りである。剥片系石器の数量のうち、約82%と圧倒的に大部分を占めているのが剥片で、このほか石鏃79点、打製石斧215点、磨製石斧25点が検出された。

4. 石器石材（剥片系石器）

剥片系石器について石器石材別に分類を行った。その結果、31種類に分類された。詳細は第38表に記載した通りであるが、20点以下の数量しかない石器石材については、その他に一括した。その他の石器石材には、緑色片岩、黒色片岩、変質安山岩、雲母石英片岩、砂質頁岩、点紋頁岩、ひん岩、硬質頁岩、変質蛇紋岩、輝緑岩、赤碧玉、蛇紋岩、溶結凝灰岩、デイサイト、閃緑岩、ガラス質安山岩、糖晶状チャート、凝灰質砂岩がある。

数量では、黒色頁岩が3,785点で最も多く、剥片系石器全体の54.5%を占める。次いで、黒色安山岩が1,508点で21.7%、チャートが924点で13.3%である。黒色頁岩、黒色安山岩、チャートの3種類の石器石材で剥片系石器全体の約90%を占めていた。一方、黒曜石はわずか161点・2.3%しかなかった。

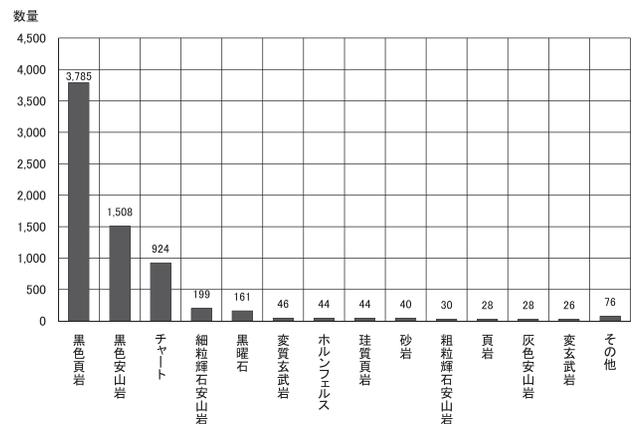
上泉唐ノ堀遺跡における剥片系石器の石器石材は、主に黒色頁岩、黒色安山岩、チャートの3種類で構成されていることが判明した。

また、器種ごとに石器石材の利用に偏りが見られた。石鏃ではチャート、打製石斧では黒色頁岩、磨製石斧では変質玄武岩をそれぞれ主体的に利用していた。

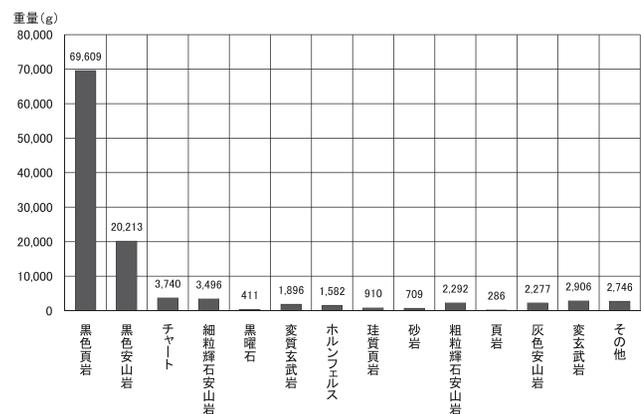
ところで、群馬県における縄文時代前期の諸磯b式期、諸磯c式期の遺跡では、例えば安中市中野谷松原遺跡や高崎市神保植松遺跡、伊勢崎市大上遺跡などのように黒曜石を大量に出土する遺跡があり、黒曜石の大量利用が

第38表 石器石材別組成（剥片系石器）

	数量	%	重量 (g)	%
黒色頁岩	3,785	54.5%	69,609	61.6%
黒色安山岩	1,508	21.7%	20,214	17.9%
チャート	924	13.3%	3,739	3.3%
細粒輝石安山岩	199	2.9%	3,496	3.1%
黒曜石	161	2.3%	410	0.4%
変質玄武岩	46	0.7%	1,896	1.7%
ホルンフェルス	44	0.6%	1,582	1.4%
珪質頁岩	44	0.6%	911	0.8%
砂岩	40	0.6%	709	0.6%
粗粒輝石安山岩	30	0.4%	2,292	2.0%
頁岩	28	0.4%	286	0.3%
灰色安山岩	28	0.4%	2,277	2.0%
変質玄武岩	26	0.4%	2,907	2.6%
その他	76	1.1%	2,748	2.4%
合計	6,939	100%	113,076	100%



第195図 石器石材別数量（剥片系石器）



第196図 石器石材別重量（剥片系石器）

第1節 上泉唐ノ堀遺跡出土の縄文時代前期の石器群

第39表 石器組成（剥片系石器）

	石鏃	石槍	石錐	石匙	楔形石器	削器	スタンプ 形石器	加工痕あ る剥片	使用痕あ る剥片	石核	打製石斧	磨製石斧	剥片	碎片	総計
黒色頁岩	12	1	9	7	3	123		221	126	52	152		3,049	30	3,785
	17	30	82	83	47	6,190		10,883	4,512	9,955	9,994		27,765	51	69,609
黒色安山岩	18		3	3	1	11		35	5	76	1		1,350	5	1,508
	44		10	45	11	612		897	121	10,088	15		8,363	8	20,214
チャート	38	1	12	7	6	2		46	12	26			687	87	924
	79	3	43	61	48	12		386	177	484			2,331	115	3,739
細粒輝石安山岩				1		1		7			16		174		199
				2		5		212			908		2,369		3,496
黒曜石	11					2		7	7	11			123		161
	5					11		21	43	138			192		410
変質玄武岩						2		11	2			1	30		46
						92		875	52			59	818		1,896
珪質頁岩		1	1			1		5	3		5	1	27		44
		12	20			64		80	52		471	9	203		911
ホルンフェルス								1		1	5		37		44
								99		397	317		769		1,582
砂岩						2		1	2		1		34		40
						12		24	248		82		343		709
粗粒輝石安山岩							1	1			5		23		30
							535	23			1,555		179		2,292
灰色安山岩						2		11	1		14				28
						92		878	19		1,288				2,277
頁岩										1			27		28
										53			233		286
変玄武岩						1		1	1			17	6		26
						332		197	75			2,296	7		2,907
緑色片岩								1			5	1	7		14
								66			369	6	29		470
黒色片岩											6		6		12
											426		28		454
変質安山岩								1			1		8		10
								182			125		71		378
雲母石英片岩									1		4	2			7
									29		481	69			579
砂質頁岩													6		6
													71		71
点紋頁岩													5		5
													172		172
変質蛇紋岩												2	1		3
												24	10		34
ひん岩												1	2		3
												243	20		263
硬質頁岩		1							1	1					3
		5							8	188					201
赤碧玉													2		2
													22		22
その他													9	2	11
													102	2	104
数量合計	79	4	25	18	10	147	1	349	161	168	215	25	5,613	124	6,939
重量合計 (g)	145	50	155	191	106	7,422	535	14,823	5,336	21,303	16,031	2,706	44,097	176	113,076

第8章 総括

この時期における群馬県域の石器石材利用の特徴といえる。しかし、上泉唐ノ堀遺跡では黒曜石の利用がとても少ないことが判明した。この黒曜石利用の少なさが上泉唐ノ堀遺跡の石器石材の様相を特徴づけている。

5. 石鏃

石鏃は計79点が出土した。

形態はバリエーションが豊富である。有茎鏃、無茎鏃があり、さらに無茎鏃には基部が平基なものや脚部をもつものが認められた。

石器石材別では、チャートが38点で約半分を占めていた。他は黒色安山岩が18点、黒色頁岩が12点、黒曜石が11点であった。剥片系石器全体では黒色頁岩は54.5%を占めていたものの、石鏃では15.2%を占めるにすぎなかった。また、黒曜石の占める割合は13.9%と低かった。

大きさについては、破損品や未成品と考えられるものを含め、すべて長さが1 cmから4 cmであった。黒曜石では長さ1 cmから2 cmのものがほとんどで、他の石器石材のものに比べて小型のものが多い。

上泉唐ノ堀遺跡では石鏃の石器石材として主にチャートが利用され、ほかに黒色安山岩、黒色頁岩が利用されていた。また、黒曜石の利用は少ないことが判明した。

6. 打製石斧

打製石斧は計215点が出土した。

形態は、短冊形と撥形が主体を占めていた。撥形には側縁中央部を緩やかに挟入させたものも認められた。

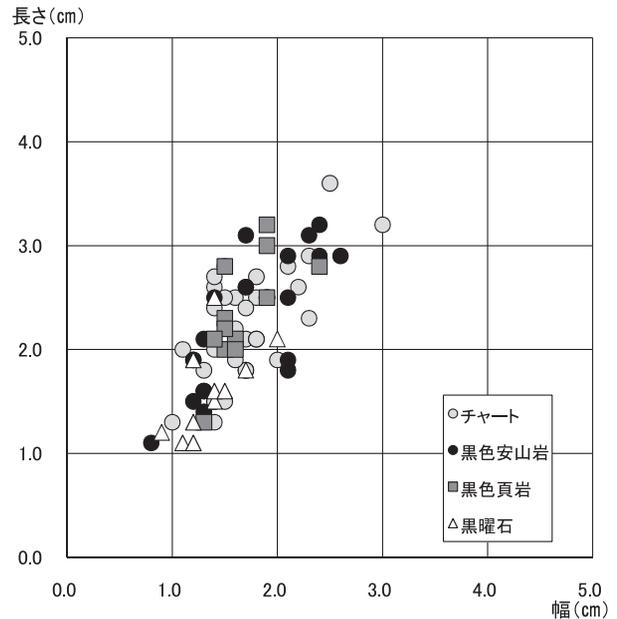
石器石材は計12種類に分類された。このうち、黒色頁岩が152点で最も多く約71%を占めていた。次いで細粒輝石安山岩が16点7.4%、灰色安山岩が14点6.5%で、他の石器石材については10点以下であった。黒色安山岩は剥片系石器全体で1,508点・21.7%を占めていたが、打製石斧ではわずか1点しかなかった。反対に、灰色安山岩は剥片系石器でわずか28点・0.4%でしかなかったが、このうち打製石斧が14点・50%を占めていた。

打製石斧の石器石材を見ると、黒色頁岩が2/3以上を占めていた。上泉唐ノ堀遺跡では、打製石斧の製作においては黒色頁岩の利用頻度が高かったといえる。

次に、完形品と破損品を一括して、長さ別に数量を見ると、6～8 cmが58点で最も多く、次いで4～6 cm52点、

第40表 石鏃石器石材別組成

	数量	%	重量 (g)	%
チャート	38	48.1%	78.8	54.7%
黒色安山岩	18	22.8%	43.5	30.2%
黒色頁岩	12	15.2%	16.6	11.5%
黒曜石	11	13.9%	5.1	3.6%
合計	79	100%	144.1	100%

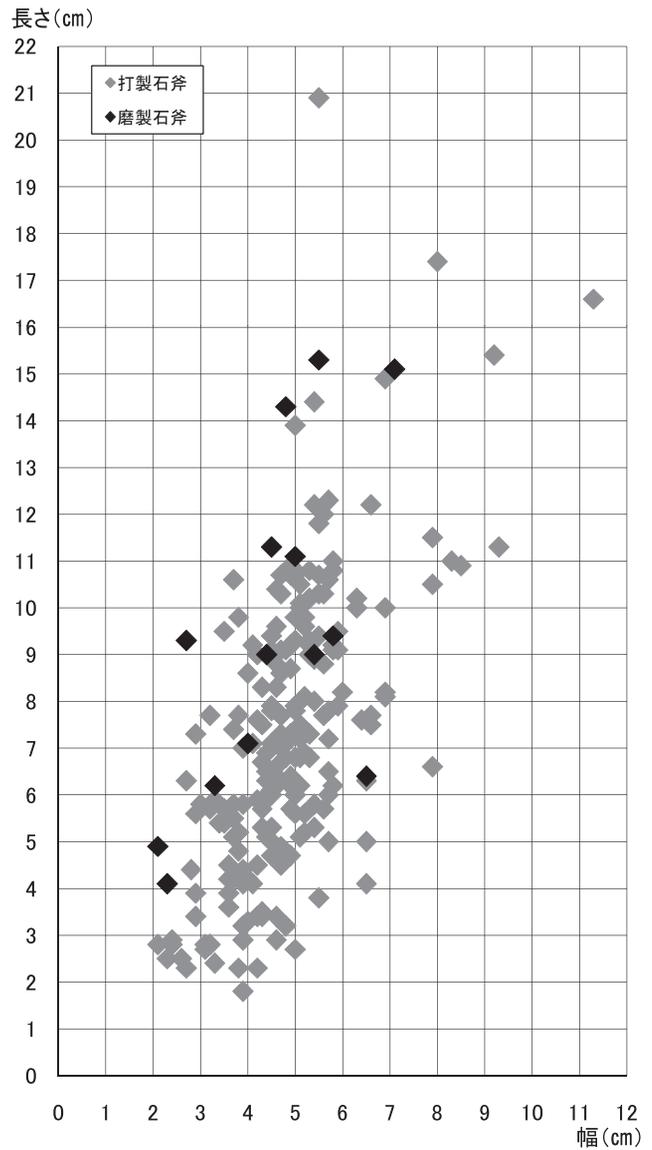
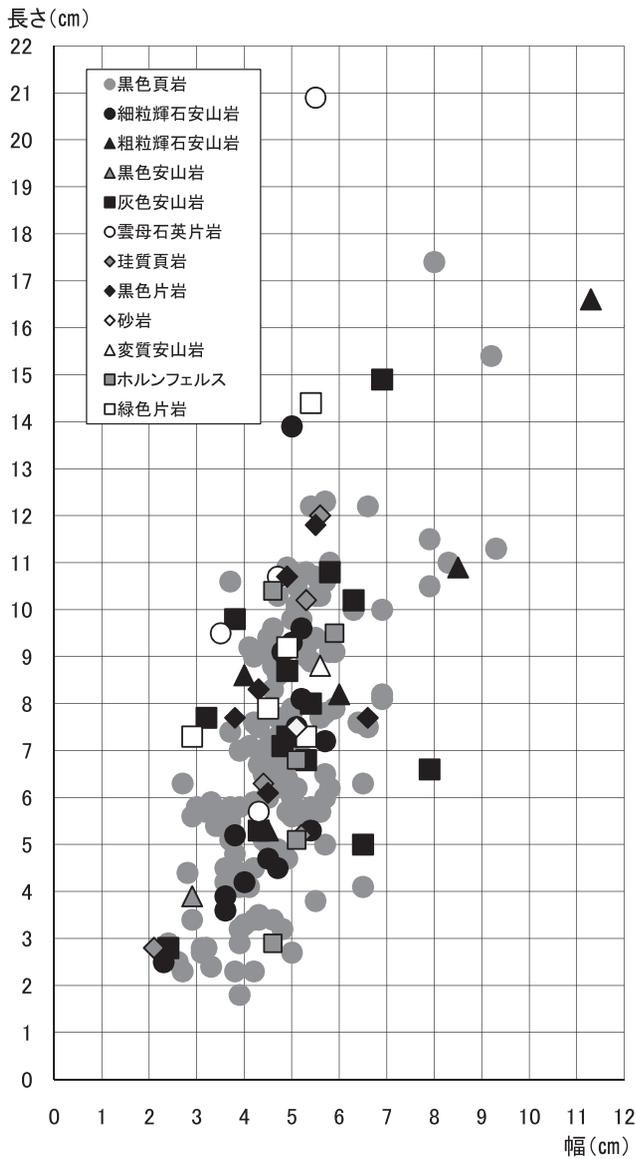


第197図 石鏃長幅別散布図

第41表 打製石斧石器石材別組成

	数量	%	重量 (g)	%
黒色頁岩	152	70.7%	9,994	62.3%
灰色安山岩	14	6.5%	1,288	8.0%
黒色安山岩	1	0.5%	15	0.1%
細粒輝石安山岩	16	7.4%	908	5.7%
粗粒輝石安山岩	5	2.3%	1,555	9.7%
変質安山岩	1	0.5%	125	0.8%
ホルンフェルス	5	2.3%	317	2.0%
雲母石英片岩	4	1.9%	481	3.0%
珪質頁岩	5	2.3%	471	2.9%
黒色片岩	6	2.8%	426	2.7%
緑色片岩	5	2.3%	369	2.3%
砂岩	1	0.5%	82	0.5%
合計	215	100%	16,030	100%

8～10 cmが37点であった。14 cm以上の大型品も6点確認された。一方、4 cm以下の小型品も29点確認されたが、これらには破損品も含まれている。



第198図 打製石斧・磨製石斧長幅別散布図

上泉唐ノ堀遺跡では、打製石斧は長さ6～8cm前後のものが主体を占めていることがわかった。ここに示した打製石斧の長さは、最終的な廃棄時点での大きさである。打製石斧は製作後の使用や破損に伴い刃部再生や側縁調整などの再生加工を経て製作当初の大きさよりも小型化しているはずである。上泉唐ノ堀遺跡では、概ね6～8cm程度にまで小型化した打製石斧の廃棄頻度が高い。製作当初の大きさに比べて、この程度の大きさにまで小型化すると、それ以上の再生加工は行われず廃棄される頻度が高かったといえる。

7. 磨製石斧

磨製石斧は計25点が出土した。形状は短冊形を主体と

第42表 磨製石斧石器石材別組成

	数量	%	重量 (g)	%
変玄武岩	17	68.0%	2,296	84.9%
雲母石英片岩	2	8.0%	69	2.6%
変質蛇紋岩	2	8.0%	24	0.9%
ひん岩	1	4.0%	243	9.0%
変質玄武岩	1	4.0%	59	2.2%
珪質頁岩	1	4.0%	9	0.3%
緑色片岩	1	4.0%	6	0.2%
合計	25	100%	2,706	100%

している。

石器石材でみると、変玄武岩が17点68%で約2/3を占めていた。他に雲母石英片岩、変質蛇紋岩、ひん岩など

第8章 総括

が少数認められた。打製石斧では黒色頁岩が主体であったが、磨製石斧では黒色頁岩はなかった。このことから上泉唐ノ堀遺跡では、磨製石斧と打製石斧は石器石材を明確に使い分けて製作されていたことがわかる。

大きさは最大で長さ15.3cm、最小で長さ4.1cmであった。長さ9cm～12cmのものが6点認められた。

8. 石核

石核は計168点が出土した。個々の石核の大きさは計測していないが、重量についてはすべて計測した。

石核には、剥片剥離によって形成された稜線上の縁辺部が潰れているものが認められた。この痕跡は、縁辺部を敲打したり、押しつぶしたり、押し引いたりした作業によって形成されたものと推測される。また、剥片剥離の途中で形成されたものではなく、剥片剥離終了後に縁辺部に形成されたものである。したがって、縁辺部の潰れが剥片剥離技術の痕跡である可能性は低い。

このことから縁辺部の潰れという痕跡を持つ石核は剥片剥離が終了した後に、石核から敲打具に転用されたと考えられる。ただし、敲打具への転用といっても剥片剥離の結果生じた鋭利な縁辺部を機能部位に選んで作業しているの、曲面で丸みを持つ円礫端部を機能部位とする敲石とは異なる用途に利用されたことは確実である。

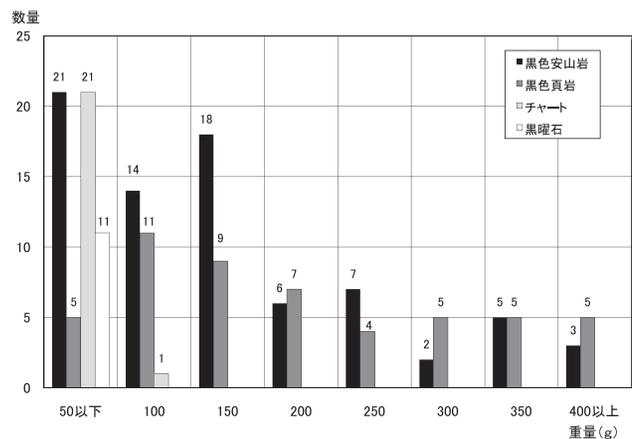
石核の石器石材についてみると、黒色安山岩が76点45.2%で石核全体の約半分を占めている。次いで、黒色頁岩が52点31.0%、チャートが26点15.5%であった。黒曜石は11点6.5%であった。黒色安山岩、黒色頁岩、チャートの3種類の石器石材で石核全体の90%以上になる。この3種類が石器石材構成比の大部分を占めている点は剥片系石器の構成比と同じであるが、黒色安山岩と黒色頁岩を比較した場合においては、石核では黒色安山岩の構成比が黒色頁岩よりも大きくなっている。

石核の重量についてみると、黒曜石ではすべて50g以下、チャートでは22点中21点が50g以下であった。一方、黒色安山岩や黒色頁岩では150g以下が主体であるものの150gを超えるものも多く認められた。

重量は大きさに比例しているの、黒色安山岩や黒色頁岩の石核では、大型から小型まで多種多様な大きさであることを示し、それに比べてチャートや黒曜石の石核では小型が主体であることがわかる（第199図）。

第43表 石器石材別組成（石核）

	数量	%	重量 (g)	%
黒色安山岩	76	45.2%	10,088	47.4%
黒色頁岩	52	31.0%	9,955	46.7%
チャート	26	15.5%	484	2.3%
黒曜石	11	6.5%	138	0.6%
ホルンフェルス	1	0.6%	397	1.9%
硬質頁岩	1	0.6%	188	0.9%
頁岩	1	0.6%	53	0.2%
合計	168	100%	21,303	100%



第199図 石核の重量別数量図（石器石材別）

これは、黒色安山岩や黒色頁岩では大型から小型まで多様な大きさの原石が石核に利用されていたことを示し、反対にチャートや黒曜石では小型の原石が石核に利用されていたことを示している。また、黒色安山岩や黒色頁岩では多様な大きさの石核から多様な大きさの剥片を剥離し、そして様々な大きさの剥片を素材として、小型の石鏃、石錐、石匙から大型の削器や打製石斧など多様な大きさの器種が製作されたことを反映し、反対にチャートや黒曜石では石鏃や石錐や石匙など小型の器種のみが製作されたことを反映したものといえる。

9. 礫石器

礫石器は総計241点、総重量約246kgが出土した。磨石、凹石、敲石、多孔石、石皿、台石、砥石に器種分類した。詳細は第44表に記載した。

素材は円礫で、磨石や凹石では扁平な円形礫あるいは楕円形礫、敲石では棒状礫あるいは長楕円形礫を主に利用していた。多孔石や石皿では大型礫を利用していた。

礫石器の石器石材は25種類に分類された。このうち粗

第44表 石器組成（礫石器）

	磨石	凹石	敲石	台石	多孔石	石皿	砥石	総計
粗粒輝石安山岩	52 21,720	57 25,109	6 1,708	8 35,220	14 52,345	12 17,862	1 5,585	150 159,549
細粒輝石安山岩	3 1,140	1 340	2 315		6 42,176	1 10,820		13 54,791
石英閃緑岩	5 2,234	3 1,771	3 1,083	1 2,050				12 7,138
黒色頁岩			11 2,086					11 2,086
牛伏砂岩							7 634	7 634
ひん岩	2 594	1 398	3 1,801					6 2,793
黒色安山岩			5 882					5 882
溶結凝灰岩	2 721		2 197					4 918
砂岩	1 210		3 331					4 541
緑色片岩						4 1,812		4 1,812
花崗岩	1 440			1 6,777	1 1,298			3 8,515
灰色安山岩	1 82		2 841					3 923
変質玄武岩			3 760					3 760
変質安山岩			3 724					3 724
珩質凝灰岩	1 174	1 294						2 468
珩質頁岩			2 817					2 817
流紋岩	1 646							1 646
雲母石英片岩			1 179					1 179
文象斑岩		1 316						1 316
閃緑岩		1 298						1 298
ホルンフェルス			1 282					1 282
輝緑岩	1 226							1 226
石英			1 276					1 276
変輝緑岩		1 305						1 305
砂質頁岩			1 77					1 77
数量合計	70	66	49	10	21	17	8	241
重量合計 (g)	28,187	28,831	12,359	44,047	95,819	30,494	6,219	245,956

第8章 総括

粗粒輝石安山岩が150点で約62%を占めていた。他に、細粒輝石安山岩が13点、石英閃緑岩が12点、黒色頁岩が11点であった。これら以外の石器石材はすべて7点以下と少数であった。

磨石では70点のうち52点が、凹石では66点のうち57点が粗粒輝石安山岩であった。また、敲石では49点のうち黒色頁岩が11点で、粗粒輝石安山岩（6点）よりも利用頻度が高かった。砥石では8点のうち7点が牛伏砂岩であった。

礫石器には粗粒輝石安山岩が利用される頻度がとても高いことが判明した。肉眼観察ではあるが、この粗粒輝石安山岩は赤城山の山体を構成する安山岩と同一のものと考えられる。安山岩は赤城山麓を刻む河川や流れ山の露頭などに一般的に見られる岩石で、上泉唐ノ堀遺跡近辺の河川でも採取可能な岩石である。

粗粒輝石安山岩は計150点、総重量約160kgにも達する膨大な量が遺跡内に持ち込まれた。磨石や凹石の大きさを見ると、概ね長さは7cmから16cm、幅は5cmから12cm程度の扁平な円形礫あるいは楕円形礫を利用していた。

こうした形状から磨石や凹石の素材礫は河川礫であることは確実で、遺跡近辺の河川から手頃な大きさの礫を選択し採取してきたものと考えられる。一方、礫には10kg以上の大型の亜角礫を利用しているものも少数見られたので、河川だけでなく露頭からの採取も考えられる。

以上、礫石器の石器石材の分析から抽出された粗粒輝石安山岩の多用という現象は、礫石器の素材礫はもっぱら遺跡近辺の赤城山麓流下の河川から採取されていたことを示し、集落から短距離の日常的な行動圏内での採取行動の痕跡を示したものと見える。

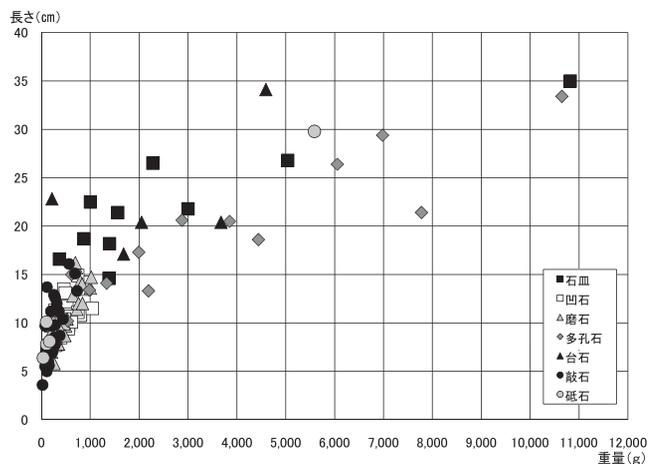
礫石器の素材礫の運搬は重量があるため、ある程度の労働力を必要とするものの集落から近距離採取であったことから、採取地への移動、探索と採取、そして集落までの運搬に係わる労働力はそれほど多くはなかったことが推測される。

一方、剥片系石器に多用された黒色頁岩や黒色安山岩は、礫石器の素材礫の採取地に推定した遺跡近辺の河川では採取できない。

黒色頁岩や黒色安山岩の採取地は利根川の可能性が高く、これらの採取には礫石器の素材礫採取地よりも遠距離の移動を要したと推測される。ただし、採取地を旧利

第45表 石器石材組成（礫石器）

	数量	%	重量 (g)	%
粗粒輝石安山岩	150	62.2%	159,549	64.9%
細粒輝石安山岩	13	5.4%	54,791	22.3%
石英閃緑岩	12	5.0%	7,138	2.9%
黒色頁岩	11	4.6%	2,086	0.8%
牛伏砂岩	7	2.9%	634	0.3%
ひん岩	6	2.5%	2,793	1.1%
黒色安山岩	5	2.1%	882	0.4%
溶結凝灰岩	4	1.7%	918	0.4%
砂岩	4	1.7%	541	0.2%
緑色片岩	4	1.7%	1,812	0.7%
花崗岩	3	1.2%	8,515	3.5%
灰色安山岩	3	1.2%	923	0.4%
変質玄武岩	3	1.2%	760	0.3%
変質安山岩	3	1.2%	724	0.3%
テ 伊 伊 質 凝 灰 岩	2	0.8%	468	0.2%
珪質頁岩	2	0.8%	817	0.3%
流紋岩	1	0.4%	646	0.3%
雲母石英片岩	1	0.4%	179	0.1%
文象斑岩	1	0.4%	316	0.1%
閃緑岩	1	0.4%	298	0.1%
ホルンフェルス	1	0.4%	282	0.1%
輝緑岩	1	0.4%	226	0.1%
石英	1	0.4%	276	0.1%
変輝緑岩	1	0.4%	305	0.1%
砂質頁岩	1	0.4%	77	0.0%
合 計	241	100%	245,956	100%



第200図 礫石器長さ重量別散布図

根川の広瀬川低地帯と推定した場合でも5km圏内と日常的な行動圏内といえるから、黒色頁岩や黒色安山岩の採取に要した労働力も少なく済んだと考えられる。

第2節 上泉唐ノ堀遺跡における縄文時代前期の集落

1. はじめに

上泉唐ノ堀遺跡の発掘調査によって、縄文時代の遺跡が検出された。遺構は、竪穴住居が計16軒、土坑が計208基検出された。他に掘立柱建物・柵列が検出された。

検出された縄文時代の遺跡は、前期の黒浜式期から諸磯a式期、諸磯b式期の竪穴住居や土坑が累積して形成された集落跡で、諸磯b式期に最盛期を迎えた集落跡であることが判明し、大きな調査成果をあげることができた。ただし、調査範囲は寺沢川に注ぐ小支谷と荻窪川(薬師川)に画された丘陵性台地の東端部を南北に縦断した範囲に限定されたもので、当時の集落の一部分を調査したに過ぎず、集落の全容解明にまでは至っていない。

2. 出土土器

出土土器は、遺構覆土および縄文包含層からの出土遺物を含めて型式分類した。この結果、早期・前期・中期・後期のもので、このうち前期が大部分を占めていた。

前期の土器は、黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、諸磯c式に分類され、このうち諸磯b式が最も多いことが判明した。諸磯b式には茶屋類型に細分されるものも確認された。また、浮島式、興津式もわずかに確認された。

3. 遺構の時期

縄文時代の遺跡からは、竪穴住居や土坑などの遺構が多数検出された(第4章参照)。

竪穴住居は、計16軒が検出された。各住居の時期決定は、床面位置や覆土中など型式別に出土状態を検討して行った。特に、埋甕炉を伴う竪穴住居については、炉体土器の型式がその竪穴住居の時期を明確に示す材料になると判断し時期決定の根拠とした(第4章参照)。

検討の結果、黒浜式期1軒、黒浜式期もしくは諸磯a式期1軒、諸磯a式期1軒、諸磯b式期12軒、加曽利E3式期1軒となり(第46表)、竪穴住居は諸磯b式期のものが主体であることが判明した。

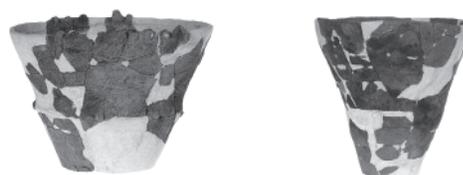
土坑は、計208基が検出された。土坑の出土土器を一括して見ると、黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、浮島・興津式で、このうち諸磯b式が最も多かった。これは竪穴



31号住居出土の諸磯a式土器



諸磯b式期の竪穴住居・土坑から出土した諸磯b式土器



諸磯b式期の竪穴住居覆土から出土した諸磯c式土器

第201図 主な出土土器

住居の傾向と同じである。なお、諸磯c式を出土した土坑は確認できなかった。また、個々の土坑からの出土土器を見ると、複数の土器型式が混在していた。このため竪穴住居と違って、個々の土坑について明確に時期決定することは困難であった。しかし、出土土器の主体が諸磯b式であること、土坑は諸磯b式期の竪穴住居周辺部に分布し竪穴住居の構築時期と一致する可能性が高いことから、検出された土坑の大部分は諸磯b式期に構築されたものと考えられる。

検出された縄文時代の遺構群は、前期の黒浜式期から諸磯a式期、そして諸磯b式期にわたって累積して構築されたものであった。前期以外の遺構は、中期後半の加曽利E3式の竪穴住居が1軒のみで、他の時期の遺構は検出されなかった。

前期の遺構は、諸磯b式期に構築されたものが大部分

第8章 総括

を占めていることが判明したが、諸磯c式期の遺構は確認できなかった。しかし、諸磯c式土器は諸磯b式期の竪穴住居（19号住居）覆土から出土しているの、諸磯c式期の集落は周辺部に存在している可能性が推測される。今回の調査範囲に限定した場合には、諸磯c式期になり集落は断絶しているように見えるが、断絶したというよりも、諸磯c式期の集落は別の場所に移動したと考えるべきであろう。諸磯c式土器が諸磯b式期の竪穴住居に廃棄されていることを考慮すると、諸磯c式期の集落は今回の調査範囲から比較的近距離の場所に移動して形成された可能性が想定される。

4. 集落の変遷過程

検出された縄文時代の遺跡は、黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期に継続して営まれた縄文時代前期の集落跡であることがわかった。

今回の調査範囲では、前期前葉に相当する関山式土器は出土していないので、集落形成は前期中葉の黒浜式期からはじまったといえる。その後、集落は前期後葉の諸磯a式期・諸磯b式期へと継続して営まれた。

黒浜式期から諸磯a式期の段階では、竪穴住居は計3軒（7号・8号・31号住居）であるから、集落規模は小規模であったことが推測される（ただし集落主体が調査区外に存在する可能性も想定しておく必要がある）。

諸磯b式期の段階になると、竪穴住居や土坑が多数構築され、集落規模は前段階に比較して拡大した。この段階で集落形成は最盛期を迎えたといえる。また、諸磯b式期の竪穴住居の分布から見て調査区外西側にもこの段階の集落が広がっている可能性が高い。

諸磯c式期の段階になると、諸磯b式期に急激に拡大し最盛期を迎えた集落はその直後の諸磯c式期段階になって別の場所に移動したと考えられる。

諸磯c式期より後の前期末葉や中期初頭段階に相当する型式の土器は出土していないので、諸磯c式期を境界としてそれ以後の段階になって上泉唐ノ堀遺跡では集落は消滅したものと考えられる。

その後、縄文時代の集落が再び形成されるのは中期後半の加曾利E3式期の段階であるが、竪穴住居は1軒のみで土器の出土量も少ないことから小規模な集落であったと推測される。後期の土器はわずかに出土しているも

第46表 縄文時代住居の時期

	時期	埋葬炉体土器	備考
3号住居	諸磯b式	2基とも諸磯b式	
7号住居	黒浜式か諸磯a式	検出されなかった	8号・15号と重複
8号住居	黒浜式	検出されなかった	7号・15号と重複
9号住居	諸磯b式	検出されなかった	
10号住居	諸磯b式	検出されなかった	
11号住居	諸磯b式	検出されなかった	
13号住居	諸磯b式	諸磯b式	
14号住居	諸磯b式	検出されなかった	15号と一部重複
15号住居	諸磯b式	検出されなかった	7号・8号と重複
16号住居	加曾利E3式	検出されなかった	
18号住居	諸磯b式	検出されなかった	
19号住居	諸磯b式	検出されなかった	
20号住居	諸磯b式	検出されなかった	
23号住居	諸磯b式	検出されなかった	
25号住居	諸磯b式	2基とも諸磯b式	
31号住居	諸磯a式	諸磯a式	

の遺構はないので、この竪穴住居が今回の調査範囲で検出した縄文時代最後の集落の痕跡といえる。

以上のように、検出された縄文時代の集落跡は、縄文時代前期中葉の黒浜式期から前期後葉の諸磯b式期の時期にかけて形成され、諸磯b式期に最も拡大した集落跡であることが判明した。縄文時代が終わり、その後上泉唐ノ堀遺跡に再び集落が形成されたのは、ようやく奈良時代になってからのことである。

5. まとめと今後の課題

上泉唐ノ堀遺跡の発掘調査によって、縄文時代前期の集落跡が検出された。集落は、黒浜式期から形成されはじめ、諸磯a式期に継続し、そして諸磯b式期になって多数の竪穴住居や土坑が構築されて集落の規模は最も拡大し最盛期を迎えた。その後、諸磯c式期になると今回の調査範囲には竪穴住居は見られなくなるが、これは諸磯c式期の集落は、諸磯b式期に最も拡大した集落とは別の場所に移動したためと推測した。

上泉唐ノ堀遺跡における今回の調査成果は、縄文時代前期に形成された集落の全容を示す訳ではなく、当時の集落の一部分に過ぎない。したがって、集落の変遷過程を今後より詳細に復元していくためには、上泉唐ノ堀遺跡が立地する台地全体あるいは赤城山山麓地域の様相を俯瞰し総合的に考察していくことが必要不可欠である。

遺物觀察表

1. 縄文時代土器觀察表
2. 縄文時代石器觀察表
3. 奈良時代以降土器觀察表
4. 奈良時代以降鉄製品觀察表
5. 奈良時代以降石製品觀察表

第47表 縄文時代土器観察表(1)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
1	3号住居	16	1	39	諸磯b	深鉢	床直・床上11	口縁～胴下位3/4	粗:白色粒、輝石	にぶい橙	ふつう	推定口径27.0cm、現存器高25.9cm。キャリバー状の器形で、靴先状の波状口縁。浮線による横帯構成。口縁部に入組状、浮線帯間に対弧状や矢羽根状の浮線を施す。浮線間に円形刺突を充填施文。
2	3号住居	16	2	39	諸磯b	深鉢	床直～床上31	口縁～胴下位2/3	粗:白色粒、輝石、片岩	赤褐	良好	推定口径28.2cm、現存器高19.7cm。波状口縁で、緩く外反しながら口縁が開く器形。胴部中位以下はRL横位施文を地文とし、集合沈線による横帯構成。口縁部は反弧Lrを横位施文する。
3	3号住居	16	3	39	諸磯b	深鉢	床直・床直	胴部2/3	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつう	RLを横位施文する。
4	3号住居	16	4	39	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつう	浮線による横帯構成。浮線の刻みは半截竹管内皮による。
5	3号住居	16	5	39	諸磯b	深鉢	床上25	胴部破片	細:白色粒、輝石少	にぶい黄褐	ふつう	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
6	3号住居	16	6	39	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	橙	ふつう	平行沈線により幾何学モチーフを描く。
7	3号住居	16	7	39	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、輝石	浅黄橙	ふつう	浮線による横帯構成。浮線帯間に弧状モチーフを施す。地文にRL横位施文。
8	3号住居	16	8	39	諸磯b	深鉢	床上14・床上15	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	ふつう	屈曲する器形。集合沈線による横帯構成。屈曲部に縦位の集合沈線、X字状の平行沈線を施す。地文にRL横位施文。
9	3号住居	16	9	39	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつう	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に弧状沈線を施す。
10	3号住居	16	10	39	諸磯b	深鉢	床上8	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	ふつう	底径9.8cm。集合沈線による横帯構成。
11	3号住居	16	11	39	諸磯b	浅鉢	床直・床直・床上10	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石、雲母	にぶい赤褐	ふつう	外面横位のナデ。
12	3号住居	16	12	39	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつう	RLを横位施文する。
13	3号住居	16	13	39	諸磯b	浅鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英、雲母	灰黄褐	ふつう	外面横位のナデ。
14	7号住居	24	1	40	諸磯b	深鉢	床直～床上55	口縁～胴部1/2	粗:白色粒、石英、輝石	明褐	良好	口径34.0cm、現存器高27.0cm。キャリバー状の器形。緩い波状口縁で、波頂部下に貼付文を付す。集合沈線による横帯構成だが、屈曲部より上位にのみ施す。口縁部に弧状の集合沈線を施す。地文、屈曲部下、無節Lr横位施文。
15	7号住居	24	2	40	諸磯b	深鉢	床上10・床上21	口縁～胴部	細:白色粒、雲母末	にぶい黄褐	ふつう	口径12.5cm、現存器高10.4cmで小形。胴部が膨らみ、口縁が外反する器形。全面にLRを横位施文する。
16	7号住居	24	3	40	諸磯b	浅鉢	床直・床上8	口縁部破片	粗:白色粒、石英、雲母	明黄褐	ふつう	推定口径16.6cm。口縁がくの字状に緩く外反し、屈曲部下に円孔を穿つ。胴下位に段を有す。
17	7号住居	24	4	40	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつう	口縁がくの字状に内折する器形。浮線による横帯構成。浮線の刻みは半截竹管内皮による。内折部に浮線によるモチーフを施す。
18	7号住居	24	5	40	諸磯b	深鉢	床上7	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつう	口縁がくの字状に強く内折する器形。浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
19	7号住居	24	6	40	諸磯b	深鉢	床上12	口縁部破片	粗:白色粒、輝石多	にぶい黄橙	ふつう	外反する器形で、口縁に小突起を付す。頸部に浮線を2条めぐらせ、以下、LR横位施文。
20	7号住居	24	7	40	諸磯b	深鉢	床上35	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつう	浮線による横帯構成。浮線帯間に弧状モチーフを施す。
21	7号住居	24	8	40	諸磯b	深鉢	床上18・床上28	胴部破片	粗:白色粒、片岩	にぶい黄橙	ふつう	浮線による横帯構成。浮線の刻みは半截竹管内皮による。地文にRL横位施文。
22	7号住居	24	9	40	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	橙	ふつう	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
23	7号住居	24	10	40	諸磯b	深鉢	床上25	胴部破片	細:白色粒、輝石	明黄褐	ふつう	浮線による横帯構成。浮線帯間に弧状などの幾何学モチーフを施す。地文にRL横位施文。
24	7号住居	24	11	40	諸磯b	浅鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい橙	良好	推定底径28.0cm。台付き。浮線をめぐらす。
25	7号住居	24	12	40	諸磯b	深鉢	床上13・床上24	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	口縁が内折する器形。集合沈線による横帯構成。沈線帯間に弧状の集合沈線を充填施文する。
26	7号住居	24	13	40	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	良好	靴先状の口縁部で、平行沈線による横帯構成。平行沈線を施したのち、沈線部分に細かな刺突を連ねるため、2条1単位の刺突列のようにになっている。
27	7号住居	24	14	40	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	明赤褐	ふつう	口縁下に横位、矢羽根状の集合沈線を施す。地文にRL横位施文。
28	7号住居	25	15	40	諸磯b	深鉢	床上13・床上24	胴部破片				10と同一個体で文様帯下端の部位。補修孔は貫通せず。
29	7号住居	25	16	40	諸磯b	深鉢	床直・床直	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石、雲母少	にぶい黄橙	ふつう	平行沈線を間隔を空けて横位にめぐらせ、一部沈線間に斜位の刻みを付す。
30	7号住居	25	17	40	諸磯b	深鉢	床上55・床上58	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石多	にぶい黄橙	良好	平行沈線を横位、斜位に施す。
31	7号住居	25	18	40	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒	明黄褐	ふつう	屈曲する器形。3条の集合沈線による横帯構成。屈曲部上位にX字状の平行沈線を施す。地文にRL横位施文。
32	7号住居	25	19	40	諸磯b	深鉢	床上16	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	集合沈線を横位、弧状に施す。
33	7号住居	25	20	40	諸磯b	深鉢	床上44	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい橙	ふつう	集合沈線による横帯構成。地文にRL横位施文。
34	7号住居	25	21	40	諸磯b	深鉢	床上7	胴部破片	粗:白色粒、輝石	浅黄橙	ふつう	くの字状に緩く内屈する器形。屈曲部上位に横位集合沈線、下位に無節Lrを横位施文する。
35	7号住居	25	22	40	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	底径11.0cm。横位集合沈線を施す。底部際を斜めにケズリ落としている。

第48表 縄文時代土器観察表(2)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
36	7号住居	25	23	40	諸磯b	深鉢	床上13・床上24	口縁~胴部	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	胴部下半が膨らみ、口縁が外反する器形。横位集合沈線を施して文様帯を区画、文様帯内に集合沈線による菱形モチーフを描き、区画内に縦位、弧状の平行沈線を施す。区画文下はRL横位施文。
37	7号住居	25	24	41	諸磯b	深鉢	床上19	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	緩く外反する器形。横位集合沈線で区画し、幅広い文様帯内に集合沈線による弧状を基調とした幾何学モチーフを描く。
38	7号住居	25	25	41	諸磯b	深鉢	床上45	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	ふつつ	無節LRを横位施文する。内面研磨。
39	7号住居	25	26	41	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	赤褐	良好	反燃LLを横位施文する。
40	7号住居	26	27	41	諸磯b	深鉢	床直・床上27	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	良好	RLを横位施文する。
41	7号住居	26	28	41	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	浅黄橙	ふつつ	附加条縄文を横位施文する。
42	7号住居	26	29	41	諸磯b	深鉢	床上23・床上34	胴部破片	粗:白色粒、輝石	灰黄褐	ふつつ	無節LRを横位施文する。内面横位のナデ顕著。
43	7号住居	26	30	41	諸磯b	深鉢	床上22	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	RLを横位施文する。
44	7号住居	26	31	41	諸磯b	深鉢	床上6・床上8・床上12	底部破片	粗:白色粒、輝石、雲母	黄橙	ふつつ	推定底径8.0cm。RLを横位施文する。
45	7号住居	26	32	41	諸磯b	深鉢	床直~床上57	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	ふつつ	底径11.8cm。無節LRを横位施文する。
46	7号住居	26	33	41	諸磯b	深鉢	床直・床上17・床上20	底部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	推定底径13.0cm。結節RLを横位施文する。
47	7号住居	26	34	41	浮島	深鉢	床上31・床上45	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	口唇部が若干肥厚。貝殻の先端連続圧痕を横位多段に施す。口唇部に刻みを付す。内面研磨。
48	7号住居	26	35	41	諸磯a	深鉢	床直~床上38	口縁部破片	細:白色粒、輝石	明赤褐	良好	波状口縁で口唇部肥厚。口縁に沿って連続爪形文を4条、以下、附加条縄文を横位施文する。内面研磨。
49	7号住居	26	36	41	諸磯a	深鉢	床上12・床上13・床上17	胴部破片	細:白色粒、輝石多	橙	良好	附加条縄文を横位施文する。
50	7号住居	26	37	41	蛸ヶ森	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつつ	横位のナデにより、微隆線状に高まりを横位多段に作出する。
51	7号住居	26	38	41	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	明赤褐	ふつつ	LRを横位施文する。内面研磨。
52	7号住居	26	39	41	黒浜	深鉢	床上39	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	明赤褐	ふつつ	連続爪形文を横位、斜位に施す。内面研磨。
53	7号住居	26	40	41	黒浜	深鉢	床上26	口縁部破片	粗:白色粒、繊維	浅黄橙	ふつつ	くの字状に屈曲する器形。RL、LRによる菱形構成。連続爪形文を施文。
54	7号住居	26	41	41	黒浜	深鉢	床直	口縁部破片	細:白色粒、繊維	明赤褐	ふつつ	緩く内湾する器形。RLを横位施文する。
55	7号住居	26	42	41	黒浜	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、繊維	明赤褐	ふつつ	くの字状に外屈する器形。RLを横位施文する。
56	7号住居	26	43	41	黒浜	深鉢	床上34	胴部破片				44と同一個体。
57	7号住居	26	44	41	黒浜	深鉢	床上22	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	橙	ふつつ	平行沈線を横位多段に施す。
58	8号住居	30	1	42	諸磯b	深鉢	床上19	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	屈曲する器形。浮線による横帯構成。一部の浮線には大きく鋸歯状の刻みを付す。地文にRL横位施文。
59	8号住居	30	2	42	諸磯b	深鉢	床上22	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石多	にぶい橙	良好	斜位に平行沈線を施す。
60	8号住居	30	3	42	諸磯b	深鉢	床上27	胴部破片	粗:白色粒、石英	褐	ふつつ	斜格子目沈線を施す。
61	8号住居	30	4	42	諸磯b	深鉢	床上19	口縁部破片	粗:白色粒、輝石多	橙	ふつつ	口縁が内湾する。集合沈線により幾何学モチーフを描く。
62	8号住居	30	5	42	諸磯b	深鉢	床上16	胴部破片	粗:白色粒、輝石多	にぶい褐	良好	横位、斜位の集合沈線を施す。
63	8号住居	30	6	42	諸磯b	深鉢	床上29	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石多	褐	ふつつ	集合沈線により弧状モチーフを描く。
64	8号住居	30	7	42	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石多	褐	良好	集合沈線による菱形文を縦横に連ねるモチーフを施す。
65	8号住居	30	8	42	諸磯b	深鉢	床上18	胴部破片	粗:白色粒、片岩	褐	ふつつ	LRを横位施文する。
66	8号住居	30	9	42	諸磯a	深鉢	床上153・床上157	胴部破片	細:白色粒、雲母未	明赤褐	良好	RLを横位施文する。
67	8号住居	30	10	42	諸磯a	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	明褐	良好	附加条縄文を横位施文する。
68	8号住居	30	11	42	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	黒褐	ふつつ	RL、LRを羽状施文する。
69	8号住居	30	12	42	黒浜	深鉢	床上125	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	黒褐	ふつつ	RLを横位施文する。内面研磨。
70	8号住居	30	13	42	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、繊維	黒褐	ふつつ	LRを横位施文し、口縁下に連続爪形文を2条めぐらす。

第49表 縄文時代土器観察表(3)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
71	8号住居	30	14	42	黒浜	深鉢	床上38	胴部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	褐	ふつう	平行沈線を斜位施文する。地文にR L横位施文。内面研磨。
72	8号住居	30	15	42	黒浜	深鉢	床上15	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石、繊維	明褐	ふつう	附加条縄文を羽状施文する。
73	8号住居	30	16	42	黒浜	深鉢	床上11	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石、繊維	褐	ふつう	連続爪形文による米字文を施す。地文にR L、L Rを羽状施文。
74	8号住居	30	17	42	黒浜	深鉢	床上19	胴部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	明褐	ふつう	R L、L Rの羽状縄文を施し、連続爪形文を横位施文する。
75	8号住居	30	18	42	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい黄橙	ふつう	横位平行沈線、コンパス文を施す。
76	10号住居	35	1	42	諸磯b	深鉢	床直~床上11	口縁~胴下位 1/3	粗:白色粒、輝石	褐	良好	推定口径20.8cm。現存器高27.6cm。キャリバー状の器形。口縁部に4単位の逆C字状の隆帯を付す。集合沈線による横帯構成で、口縁部に斜位、弧状の集合沈線を施す。地文に無節L r横位施文。
77	10号住居	35	2	42	諸磯b	深鉢	床上6~床上39	口縁~底部 1/2	粗:白色粒、輝石	橙	良好	推定口径24.0cm。底径11.2cm。器高27.9cm。キャリバー状の器形。4単位波状口縁で、波頂部下に円形貼付文を逆三角形に3個付す。集合沈線による横帯構成で、沈線帯間に鋸歯状、矢羽根状の集合沈線を施す。
78	10号住居	35	3	43	諸磯b	深鉢	床上18~床上30	口縁~胴部	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	推定口径22.0cm。キャリバー状の器形で波状口縁。集合沈線による横帯構成。口縁部に渦巻状、弧状の集合沈線を施す。地文にL R横位施文。補修孔あり。
79	10号住居	35	4	43	諸磯b	深鉢	床上16~床上41	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	推定口径28.6cm。キャリバー状の器形で、口縁にC字状の隆帯を貼付する。浮線による横帯構成。口縁部に縦位弧状の浮線を充填施文する。地文にR L横位施文。
80	10号住居	35	5	43	諸磯b	深鉢	床直~床上41	口縁部破片	細:白色粒、石英	明赤褐	良好	推定口径31.7cm。キャリバー状の器形。集合沈線による横帯構成。口縁部に斜位、弧状の集合沈線を施す。地文にR L横位施文。
81	10号住居	35	6	43	諸磯b	深鉢	床上11・床上15	口縁~胴下位	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい赤褐	ふつう	推定口径16.2cm。直立する器形。集合沈線による横帯構成で、沈線帯間に鋸歯状の集合沈線を施す。1段目の横位沈線は半載竹管ではなく、幅広いの工具による1本書きである。
82	10号住居	35	7	43	諸磯b	深鉢	床直~床上21	底部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい褐	ふつう	底径13.1cm。集合沈線による横帯構成。地文にR L横位施文。
83	10号住居	35	8	43	諸磯b	深鉢	床上17	底部破片	粗:白色粒、石英	にぶい橙	良好	底径14.8cm。浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
84	10号住居	36	9	43	諸磯b	深鉢	床上7・床上18・床上20	口縁部破片	細:白色粒、石英、雲母末	にぶい橙	良好	キャリバー状の器形。波状口縁の波頂部で、イノシシの獣面把手を付す。細長い刺突で表現された目の上に貼付が剥がれた痕跡がある。集合沈線による構成だが、口唇部に浮線によるモチーフが貼付される。地文にR L横位施文。
85	10号住居	36	10	43	諸磯b	深鉢	床直~床上53	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい橙	ふつう	キャリバー状の器形で緩い波状口縁。浮線による横帯構成。口縁部に弧状モチーフを施す。
86	10号住居	36	11	43	諸磯b	深鉢	床上31	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい橙	良好	波状口縁で口縁が内折する器形。浮線によるモチーフを施す。地文にR L横位、縦位施文。
87	10号住居	36	12	43	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片				11と同一個体。
88	10号住居	36	13	43	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石多	にぶい黄橙	ふつう	波状口縁。波頂部下に円形貼付文を付し、浮線によるモチーフを施す。
89	10号住居	36	14	43	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	細:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	底径12.0cm。浮線による横帯構成。浮線帯間に三角形、弧状のモチーフを施す。底部際に刻みを付さない浮線により、横位に連なるレンズ状文を施し、内部に縦位の浮線を充填する。
90	10号住居	36	15	43	諸磯b	深鉢	床上25~床上34	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	良好	浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
91	10号住居	36	16	43	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい褐	良好	浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
92	10号住居	36	17	43	諸磯b	深鉢	床上16	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石、片岩	にぶい赤褐	良好	浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。浮線は白い粘土を用いる。
93	10号住居	36	18	43	諸磯b	深鉢	床上7~床上29	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
94	10号住居	36	19	43	諸磯b	深鉢	床上21・床上30	底部破片	細:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	底径12.0cm。浮線による横帯構成。浮線帯間に三角形、弧状のモチーフを施す。底部際に刻みを付さない浮線により、横位に連なるレンズ状文を施し、内部に縦位の浮線を充填する。
95	10号住居	36	20	43	諸磯b	深鉢	床上31	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい褐	ふつう	推定底径13.2cm。浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
96	10号住居	36	21	43	諸磯b	深鉢	床上7	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	ふつう	推定底径15.0cm。浮線による横帯構成。地文、浮線上にR L横位施文。
97	10号住居	37	22	43	諸磯b	深鉢	床上18~床上30	口縁部破片				3と同一個体。
98	10号住居	37	23	43	諸磯b	深鉢	床上24	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	波状口縁でキャリバー状の器形。集合沈線による横帯構成で、波頂部下に菱形のモチーフを描く。地文に無節L r横位施文。
99	10号住居	37	24	43	諸磯b	深鉢	床上22・床上22・床上29	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつう	キャリバー状の器形。集合沈線による横帯構成。口縁部に対弧状モチーフを施す。地文にL R横位施文。口縁に突起が剥がれた痕跡がある。
100	10号住居	37	25	43	諸磯b	深鉢	床直~床上29	口縁部破片				27と同一個体。
101	10号住居	37	26	44	諸磯b	深鉢	床上18	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	キャリバー状の器形。集合沈線をめぐらせて幅広い文様帯を区画、文様帯内に対弧条の集合沈線を施し、間隙に平行沈線による横円文を充填する。
102	10号住居	37	27	44	諸磯b	深鉢	床直~床上29	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	キャリバー状の器形で双線の緩い波状口縁。横位集合沈線をめぐらせて区画し、文様帯内に菱形状の集合沈線を施す。地文に無節L rを横位施文。
103	10号住居	37	28	44	諸磯b	深鉢	床上54	口縁部破片				23と同一個体。
104	10号住居	37	29	44	諸磯b	深鉢	床直~床上41	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	キャリバー状の器形。緩い波状口縁を呈し、波頂部下に円形貼付文を付す。集合沈線による横帯構成。口縁部に渦巻状、弧状の集合沈線を施す。地文にR L横位施文。
105	10号住居	37	30	44	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片				32と同一個体。

第50表 縄文時代土器観察表(4)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
106	10号住居	38	31	44	諸磯b	深鉢	床直	胸部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。地文にRL横位施文。
107	10号住居	38	32	44	諸磯b	深鉢	床直~床上15	胸部破片	細:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	屈曲する器形。集合沈線による横帯構成。沈線帯間に幾何学モチーフを描く。地文に無節Lr横位施文。内面研磨。
108	10号住居	38	33	44	諸磯b	深鉢	床上15・床上15	胸部破片				41と同一個体。
109	10号住居	38	34	44	諸磯b	深鉢	床直~床上41	胸部破片				5と同一個体。
110	10号住居	38	35	44	諸磯b	深鉢	床上46	胸部破片				23と同一個体。
111	10号住居	38	36	44	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片				49と同一個体。
112	10号住居	38	37	44	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片				49と同一個体。
113	10号住居	38	38	44	諸磯b	深鉢	床上11・床上11・床上21	胸部破片				23と同一個体。
114	10号住居	38	39	44	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。地文、胸部下半に無節Lr横位施文。
115	10号住居	38	40	44	浮島	深鉢	床直	胸部破片				63と同一個体。
116	10号住居	39	41	44	諸磯b	深鉢	床上13・床上16	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	暗褐	良好	集合沈線をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に集合沈線による菱形文を連ねる。菱形区画内に平行沈線による楕円文を充填する。
117	10号住居	39	42	44	諸磯b	深鉢	床直	胸部破片	粗:白色粒、輝石、片岩	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に対向する波状文を施す。地文にRL横位施文。
118	10号住居	39	43	44	諸磯b	深鉢	床上14	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	集合沈線を横位、斜位に施す。内面研磨。
119	10号住居	39	44	44	諸磯b	深鉢	床直~床上38	胸部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつう	集合沈線による横帯構成。地文に無節Lr横位施文。
120	10号住居	39	45	44	諸磯b	深鉢	床上13	胸部破片				46と同一個体。
121	10号住居	39	46	44	諸磯b	深鉢	床上15・床上53	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。
122	10号住居	39	47	44	諸磯b	深鉢	床上10	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	集合沈線により横位、斜位、渦巻状モチーフを描く。
123	10号住居	39	48	44	諸磯b	深鉢	床上16	口縁部破片				49と同一個体。
124	10号住居	39	49	45	諸磯b	深鉢	床上13~床上29	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	横位集合沈線をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に斜位、弧状の集合沈線を施す。文様帯下に附加条縄文を横位施文。
125	10号住居	39	50	45	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石、片岩	橙	ふつう	波状口縁で、波頂部に対になると思われる小突起を付す。附加条縄文を横位施文する。
126	10号住居	39	51	45	諸磯b	深鉢	床上9・床上10	胸部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	ふつう	RLを横位施文し、平行沈線を施す。
127	10号住居	39	52	45	諸磯b	深鉢	床直	胸部破片	細:白色粒、石英	にぶい橙	良好	胴下位が膨らみ、外反する器形。RLを横位施文する。
128	10号住居	39	53	45	諸磯b	深鉢	床上25~床上32	胸部破片	粗:白色粒、石英、片岩	赤褐	良好	附加条縄文を横位施文する。
129	10号住居	40	54	45	諸磯b	深鉢	床上15	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	ふつう	結節RLを横位施文する。
130	10号住居	40	55	45	諸磯b	深鉢	床直・床上21	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	ふつう	推定底径14.0cm。残存部は無文。
131	10号住居	40	56	45	諸磯b	深鉢	床上6~床上29	底部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	ふつう	無節Lrを斜位施文する。
132	10号住居	40	57	45	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	推定底径10.2cm。無節Lrを横位施文する。
133	10号住居	40	58	45	諸磯b	深鉢	床上22	胴~底部				23と同一個体。
134	10号住居	40	59	45	諸磯b	浅鉢	床上10	胸部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい赤褐	良好	平行沈線による幾何学モチーフを描く。沈線間に爪形文を充填施文。
135	10号住居	40	60	45	浮島	深鉢	床上17	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい褐	良好	口縁下に変形爪形文、平行沈線によるモチーフを施す。外削ぎ状の口唇部外端に刺突をめぐらす。内面研磨。
136	10号住居	40	61	45	浮島	深鉢	床直	口縁部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい黄褐	良好	波状口縁。口縁に沿って有節平行線文を2条施し、平行沈線によるモチーフを描く。口唇部に刺突を付す。
137	10号住居	40	62	45	浮島	深鉢	床上20	口縁部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい黄褐	良好	波状口縁。口縁に沿って変形爪形文を1条施し、平行沈線により渦巻文など幾何学モチーフを描く。
138	10号住居	40	63	45	浮島	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄褐	良好	変形爪形文、集合沈線を施し、胴下半に有節平行線文を施す。内面研磨。
139	10号住居	40	64	45	浮島	深鉢	床上9	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい褐	良好	口唇部を肥厚させ、肥厚部に半截竹管内皮による斜位の刺突をめぐらす。肥厚部下は変形爪形文、斜位の刺突を施す。内面研磨。
140	10号住居	40	65	45	浮島	深鉢	床上36	胸部破片				62と同一個体。

第51表 縄文時代土器観察表(5)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
141	10号住居	40	66	45	浮島	深鉢	床上36・床上39	胴部破片				63と同一個体。
142	10号住居	40	67	45	浮島	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい橙	良好	2条1単位の押引文を斜位多段に施す。口唇部に刺突を施す。内面研磨。
143	10号住居	41	68	45	浮島	深鉢	床上9・床上9	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつつ	変形爪形文、三角文、ロッキングを施す。
144	10号住居	41	69	45	浮島	深鉢	床上13	胴部破片				68と同一個体。
145	10号住居	41	70	45	浮島	深鉢	覆土	胴部破片				68と同一個体。
146	10号住居	41	71	45	浮島	深鉢	床上23	胴部破片				68と同一個体。
147	10号住居	41	72	45	浮島	深鉢	覆土	胴部破片				68と同一個体。
148	10号住居	41	73	45	蛭ヶ森	深鉢	床上17・床上18・床上25	口縁部破片				74と同一個体。
149	10号住居	41	74	45	蛭ヶ森	深鉢	床上17・床上18・床上25	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	緩く外反しながら口縁が短く内湾する器形。横位のナデにより、微隆線状に高まりを横位多段に作出する。
150	10号住居	41	75	45	蛭ヶ森	深鉢	床上17・床上18・床上25	口縁部破片				74と同一個体。
151	10号住居	41	76	45	蛭ヶ森	深鉢	床上17・床上18・床上25	胴部破片				74と同一個体。
152	10号住居	41	77	45	黒浜	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい黄橙	ふつつ	横位集合沈線、コンパス文を施す。補修あり。
153	10号住居	41	78	45	前期後葉	鉢	床上6	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	推定口径27.5cm。無文。
154	11号住居	43	1	46	諸磯b	深鉢	炉内	口縁～底部3/4	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	口径15.0cm、底径7.4cm、器高23.4cm。胴中位が膨らみ、口縁が緩く外反する器形。RLを横位施文する。
155	13号住居	47	1	46	諸磯b	深鉢	床直	口縁～胴下位1/2	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	推定口径20.3cm、現存器高22.0cm。RLを横位施文する。
156	13号住居	47	2	46	黒浜	深鉢	床直～床上17	胴部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	にぶい赤褐	ふつつ	屈曲する器形。RLを全面施文するが、屈曲部にはのみ無文帯を残し、半截竹管内皮による刺突で縁取る。
157	13号住居	47	3	46	諸磯b	浅鉢	床上40	口縁部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	推定口径25.5cmで、段を有す。口縁内面を肥厚させて平坦面を作出し、沈線による幾何学モチーフを描く。肥厚部下に円孔を穿つ。
158	13号住居	47	4	46	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	赤褐	良好	口縁が緩く外反する器形。口縁下に斜格子目文、間に平行沈線による幾何学モチーフを挟み、さらに斜格子目文を施す。
159	13号住居	47	5	46	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片				4と同一個体。
160	13号住居	47	6	46	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片				4と同一個体。
161	13号住居	47	7	46	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				4と同一個体。
162	13号住居	47	8	46	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				4と同一個体。
163	13号住居	47	9	46	蛭ヶ森	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	ふつつ	波状口縁。横位のナデにより、微隆線状に高まりを横位多段に作出する。
164	13号住居	47	10	46	諸磯b	深鉢	床上45	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	RLを横位施文する。
165	13号住居	47	11	46	黒浜	深鉢	床上17	胴部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	灰赤	ふつつ	屈曲する器形。RL、LRによる羽状縄文を地文とし、連続爪形文を横位施文する。爪形文磨り消し。内面研磨。
166	13号住居	47	12	46	黒浜	深鉢	床上52	胴部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	にぶい黄橙	ふつつ	RL、LRを羽状施文する。
167	13号住居	47	13	46	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	明黄褐	ふつつ	RLを横位施文する。
168	14号住居	52	1	47	諸磯b	深鉢	床上7・床上14	口縁～胴下位3/4	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	推定口径24.9cm、現存器高26.0cm。キャリバー状の器形。緩い波状口縁で口縁が強く内湾、波頂部下に三角形の透かしを入れる。浮線による横帯構成。口縁部に弧状モチーフ、胴部に渦巻状モチーフを施す。
169	14号住居	52	2	47	諸磯b	深鉢	床直～床上47	口縁～胴部	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	推定口径21.5cm、現存器高16.7cm。外反する器形。4単位波状口縁で、波頂部のみ内湾する。RLを横位施文する。
170	14号住居	52	3	47	諸磯b	深鉢	床上6～床上30	口縁～胴下位	粗:白色粒、輝石多	にぶい赤褐	良好	推定口径17.0cm、現存器高19.7cm。キャリバー状の器形。集合沈線による横帯構成。沈線帯間がやや幅広く、口縁部に弧状や楕円状の集合沈線を施す。地文に無節RL横位施文。
171	14号住居	52	4	47	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	良好	キャリバー状の器形。浮線による横帯構成で、口縁部に斜位、弧状などの幾何学モチーフを施す。地文、横位浮線上にRL横位施文。
172	14号住居	52	5	47	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	口縁が内湾する器形。緩い波状口縁で、波頂部下にC字状の隆帯を貼付する。浮線により渦巻状モチーフを施す。地文にRL横位施文。
173	14号住居	52	6	47	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	キャリバー状の器形で緩い波状口縁。波頂部が短く外反し、波頂部下に円形貼付文を付す。集合沈線による横帯構成で、口縁部に入組状の集合沈線を施す。
174	14号住居	52	7	47	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	4と同一個体。
175	14号住居	52	8	47	諸磯b	深鉢	床直・床上6	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい褐	良好	横位平行沈線を施す。地文、文様帯下RL横位施文。

第52表 縄文時代土器観察表(6)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
176	14号住居	52	9	47	諸磯b	深鉢	床上30	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	良好	キャリバー状の器形。集合沈線による横帯構成。口縁部に斜位、弧状の集合沈線を施す。地文にRL横位施文。
177	14号住居	52	10	47	諸磯b	深鉢	床上44	口縁部破片	細:白色粒	にぶい橙	ふつつ	キャリバー状の器形で口縁が内湾する。波状口縁。集合沈線により渦巻文など幾何学モチーフを描く。地文にRL横位施文。
178	14号住居	53	11	47	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	集合沈線による横帯構成。地文にRL横位施文。
179	14号住居	53	12	47	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	横位、斜位の集合沈線を施す。
180	14号住居	53	13	47	諸磯b	深鉢	床上26	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	横位、対向する弧状モチーフを描き、菱形区画内に平行沈線による楕円文を充填する。
181	14号住居	53	14	47	諸磯b	深鉢	床直・床上6	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	横位集合沈線、鋸歯状、弧状の平行沈線を施す。
182	14号住居	53	15	47	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	双頂の波状口縁。矢羽根状の集合沈線を施す。地文に無節RL横位施文。
183	14号住居	53	16	47	諸磯b	深鉢	床上30	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	良好	内湾する器形。RLを横位施文する。
184	14号住居	53	17	47	諸磯b	深鉢	床上20・床上16	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	附加条縄文を横位施文する。
185	14号住居	53	18	47	諸磯b	深鉢	床上10	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	底径9.8cm。RLを横位施文する。
186	14号住居	53	19	47	諸磯b	深鉢	床直	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	底径9.8cm。RLを横位施文する。
187	14号住居	53	20	47	諸磯b	深鉢	床上18	底部破片	細:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	推定底径10.0cm。RLを横位施文する。
188	14号住居	53	21	47	諸磯b	深鉢	床上38	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	明赤褐	良好	底径7.0cm。残存部は無文。
189	14号住居	53	22	47	諸磯b	浅鉢	床上25	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい橙	ふつつ	平行沈線による木葉文を描く。沈線間に連続爪形文を付す。
190	14号住居	53	23	47	諸磯a	深鉢	床上12・床上32	胴部破片	細:白色粒、石英	明赤褐	良好	RLを横位施文する。
191	14号住居	53	24	47	黒浜	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	浅黄	ふつつ	緩く内湾する器形。RLを横位施文し、口縁下に平行沈線を施す。内面研磨。
192	14号住居	53	25	47	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	明赤褐	ふつつ	無節RLを横位施文する。内面研磨。
193	15号住居	57	1	48	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、輝石	褐灰	良好	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
194	15号住居	57	2	48	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石多	にぶい赤褐	ふつつ	胴下半の部位。横位集合沈線を施す。地文、文様帯下に複節RLRを横位施文する。
195	15号住居	57	3	48	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石多	にぶい褐	良好	RLを横位施文する。
196	15号住居	57	4	48	諸磯b	深鉢	床上134	胴部破片	白色粒、石英、雲母末	明赤褐	良好	RLを横位施文する。
197	15号住居	57	5	48	諸磯b	深鉢	床上17	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	RLを横位施文する。内面研磨。
198	15号住居	57	6	48	黒浜	深鉢	床上148	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	黒褐	ふつつ	RL、LRを羽状施文する。口唇部、内面研磨。
199	15号住居	57	7	48	黒浜	深鉢	床上154	口縁部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	にぶい黄橙	ふつつ	附加条縄文を横位施文する。口唇部、内面研磨。
200	15号住居	57	8	48	黒浜	深鉢	床上26・床上143	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい赤褐	ふつつ	RLを横位施文する。口唇部、内面研磨。
201	15号住居	57	9	48	黒浜	深鉢	床上126	胴部破片	粗:白色粒、繊維	明赤褐	ふつつ	RLを横位施文し、連続爪形文をめぐらす。内面研磨。
202	15号住居	57	10	48	黒浜	深鉢	床上151・床上153・床上161	胴部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	浅黄	ふつつ	RLを横位施文する。
203	15号住居	57	11	48	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい赤褐	ふつつ	くの字状に屈曲する器形。RL、LRを羽状施文する。内面研磨。
204	15号住居	57	12	48	黒浜	深鉢	床上19	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	灰黄	ふつつ	RL、LRを羽状施文する。
205	16号住居	59	1	49	加曾利E3	深鉢	床直	口縁～胴部	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	キャリバー状の器形で、4単位の突起を付す。口縁部楕円状区画、胴部懸垂文を施す。RL充填施文。
206	16号住居	59	2	49	浮島	深鉢	床上25	胴部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつつ	ロッキングを施す。
207	18号住居	63	1	49	諸磯b	深鉢	床上34	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	良好	屈曲する器形。浮線による横帯構成。屈曲部に縦位、X字状、浮線帯間に弧状モチーフを施す。地文にRL横位施文。
208	18号住居	63	2	49	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				6と同一個体。
209	18号住居	63	3	49	諸磯b	深鉢	床上10・床上34	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	明赤褐	良好	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
210	18号住居	63	4	49	諸磯b	深鉢	覆土	胴～底部	粗:白色粒、石英、片岩	橙	ふつつ	浮線による横帯構成。やや幅広い文様帯を作出し、上下2帯の渦巻文を施す。浮線の刻みは半截竹管内皮による。地文にRL横位施文。

第53表 縄文時代土器観察表(7)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
211	18号住居	63	5	49	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				6と同一個体。
212	18号住居	63	6	49	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英	にぶい橙	ふつう	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
213	18号住居	63	7	49	諸磯b	深鉢	床上39	口縁部破片	細:白色粒、輝石	橙	良好	内湾する器形。横位、斜位の集合沈線を施す。内面研磨。
214	18号住居	63	8	49	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	平縁で小突起を付す。集合沈線による構成。文様帯内に斜位、レンズ状などの幾何学モチーフを描く。
215	18号住居	63	9	49	諸磯b	深鉢	覆土	口縁~胴部	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	波状口縁で、胴部中位でくびれて口縁が開く器形。くびれ上位に文様帯をもち、文様帯内は集合沈線による菱形文を連ねるモチーフを施す。菱形区画内は平行沈線による楕円文を充填する。文様帯下は集合沈線による横帯構成。胴下半は地文にRL横位施文。
216	18号住居	63	10	49	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				9と同一個体。
217	18号住居	64	11	50	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	RLを横位施文する。
218	18号住居	64	12	50	諸磯b	深鉢	床上7	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石多	明赤褐	良好	結節RLを横位施文する。
219	18号住居	64	13	50	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				14と同一個体。
220	18号住居	64	14	50	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英	明赤褐	良好	LRを横位施文する。内面研磨。
221	18号住居	64	15	50	諸磯b	深鉢	床上31・床上32	底部破片	細:白色粒	赤褐	良好	残存部は無文。
222	18号住居	64	16	50	諸磯b	鉢	床上17・床上24	口縁~底部	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	推定口径8.5cm、推定底径9.0cm、器高7.6cm。小形の鉢。胴下半が膨らみ、口縁が内湾する器形。無文。残存部では孔の痕跡はない。
223	18号住居	64	17	50	諸磯c	深鉢	床上28・床上31・床上31	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	良好	底径11.8cm。底部が張り出す器形。集合沈線により縦位区画し、区画内に集合沈線によるレンズ状文を施す。
224	18号住居	64	18	50	興津	深鉢	床上33	口縁部破片	細:白色粒、輝石	黄褐	良好	波状口縁。口縁下に縦位短沈線帯を施し、縄文原体圧痕、押し文を施す。内面研磨。
225	18号住居	64	19	50	興津	深鉢	床上27・床上32・床上33	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩、小礫	にぶい橙	良好	粘土をめぐりあげる刺突を横位多段に施す。
226	19号住居	67	1	50	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	良好	口縁が内折する器形。浮線による構成。
227	19号住居	67	2	50	諸磯b	深鉢	床直・床直・床上6	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	口縁が内湾する器形。口縁部に環状突起を付す。浮線による構成で突起下に縦位楕円状のモチーフを施し、脇に縦位の浮線を充填する。
228	19号住居	67	3	50	諸磯b	深鉢	床上17	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい橙	ふつう	波状口縁で、口縁が内折する器形。浮線による構成。
229	19号住居	67	4	50	諸磯b	深鉢	床上18・床上34	口縁部破片	粗:白色粒	にぶい褐	良好	波状口縁。口縁部に刺突を施した隆帯を1条めぐらせ、隆帯下に矢羽根状の集合沈線を施す。地文にLR横位施文。
230	19号住居	67	5	50	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	明赤褐	良好	波状口縁で口縁が内折し、波頂部のみ外反する器形。波頂部下に円形貼付文を付す。浮線による構成で、波頂部下に渦巻状モチーフを施す。
231	19号住居	67	6	50	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片				18と同一個体。
232	19号住居	67	7	50	諸磯b	深鉢	床上7	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	浮線による横帯構成。浮線の刻みは半載竹管内皮による。地文、一部浮線上にRL横位施文。
233	19号住居	67	8	50	諸磯b	深鉢	床直~床上25	胴部破片	粗:白色粒、片岩多	明褐	良好	屈曲する器形。浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
234	19号住居	67	9	50	諸磯b	深鉢	床上27	胴部破片	粗:白色粒、石英	褐	良好	連続爪形文による構成。横位、弧状モチーフを施す。横位爪形文間に斜位の短沈線を充填施文する。
235	19号住居	67	10	50	諸磯b	深鉢	床上36	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。横位沈線間に弧状の集合沈線を施す。地文にRL横位施文。
236	19号住居	67	11	50	諸磯b	深鉢	床上8	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	ふつう	波状口縁。集合沈線による横帯構成。
237	19号住居	67	12	50	諸磯b	深鉢	床直~床上15	口縁~胴部	粗:白色粒、輝石	明褐	良好	平縁で3単位の小突起を付す。集合沈線による構成で、文様帯内に菱形状文を連ねる。間隙に平行沈線による波状文を施す。
238	19号住居	68	13	50	諸磯b	深鉢	床上43	口縁部破片	細:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	口縁下に幅狭な無文帯を残し、附加条縄文を横位施文する。内面研磨。
239	19号住居	68	14	50	諸磯b	深鉢	床直~床上41	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつう	外反しながら口縁が緩く内湾する器形。口縁下に刺突をめぐらせ、附加条縄文を横位施文する。
240	19号住居	68	15	50	諸磯b	深鉢	床上40・床上63	胴部破片				14と同一個体。
241	19号住居	68	16	51	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	胴下半の膨らむ部位。附加条縄文を横位施文する。
242	19号住居	68	17	51	諸磯b	深鉢	床上43	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	良好	推定底径13.0cm。残存部は無文。縦位のナデ痕が見られる。
243	19号住居	68	18	51	諸磯b	深鉢	床上41	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	良好	推定底径13.0cm。残存部は無文。底部際に横位のケズリ痕が見られる。
244	19号住居	68	19	51	浮島	深鉢	床上41	胴部破片	細:白色粒、石英	にぶい赤褐	良好	平行沈線、変形爪形文を横位施文し、ロッキングを施す。爪形文間に斜位の刻みを付す。内面研磨。
245	19号住居	68	20	51	浮島	深鉢	床上13	胴部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	変形爪形文を横位施文する。

第54表 縄文時代土器観察表(8)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
246	19号住居	68	21	51	前期後葉	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	良好	端部結節RL、LRの結束羽状縄文を横位施文する。
247	19号住居	68	22	51	前期後葉	深鉢	覆土	胴部破片				10と同一個体。
248	19号住居	68	23	51	諸磯c	深鉢	床直~床上25	口縁~胴下位3/4	粗:白色粒、輝石、片岩	明赤褐	良好	口径35.4cm、現存器高36.6cm、直立する器形。縦位鋸歯状を基調とした集合沈線进行全面に施し、2個1対の貼付文を付す。胴中位にも単独の貼付文を付す。口縁下に横位平行沈線をめぐらす。
249	19号住居	68	24	51	諸磯c	深鉢	床上7~床上68	口縁~胴下位1/2	粗:白色粒、輝石	橙	良好	口径26.0cm、胴中で屈曲する器形。屈曲部を境に上位は縦位鋸歯状、下位は縦位展開する集合沈線を施す。口縁部、屈曲部、胴下位に貼付文を付す。口縁内面に折り返し状の段帯部を作出し、斜位の集合沈線を施す。
250	20号住居	71	1	51	諸磯b	深鉢	床上17	底部破片				4と同一個体。底径10.0cm。
251	20号住居	71	2	51	諸磯b	深鉢	床上19・床上25	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	暗褐	良好	屈曲する器形。無節LRを横位施文する。
252	20号住居	71	3	51	諸磯b	深鉢	床上21・床上21	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	無節LRを横位、縦位施文する。
253	20号住居	71	4	51	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	横位、弧状の平行沈線を施す。地文にRL横位施文。
254	20号住居	71	5	51	諸磯b	深鉢	床上20	胴部破片				4と同一個体。
255	20号住居	71	6	51	諸磯b	深鉢	床上38	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
256	23号住居	76	1	52	諸磯b	深鉢	床上8~床上47	口縁~胴部中位1/2	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	推定口径49.0cm、現存器高30.0cm、キャリバー状の器形。靴先状の波状口縁で、波頂部、波頂部下に貼付文を付す。浮線による横帯構成。浮線帯間に入組状や矢羽根状のモチーフを施す。
257	23号住居	76	2	52	諸磯b	深鉢	床直~床上17	口縁~胴部下位4/5	粗:白色粒、石英、輝石	橙	ふつつ	口径25.7cm、現存器高22.4cm、4単位波状口縁で口縁が内折する。くびれ部下に段を有す。集合沈線による横帯構成で、くびれ部に波状、胴部に対弧状の平行沈線を施す。地文にRL横位施文。
258	23号住居	76	3	52	浮島	深鉢	床直~床上27	口縁~胴部下位3/5	粗:白色粒、石英	にぶい褐	ふつつ	口径25.0cm、現存器高23.4cm、口唇部に竹管外皮のような断面の丸い工具押捺による刻みを付し、小波状口縁の効果を出す。口縁部に刺突列を2条めぐらせ、以下、横位集合沈線を施す。
259	23号住居	76	4	53	諸磯b	深鉢	床上27・床上31・床上33	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	推定口径31.0cm、キャリバー状の器形。集合沈線による横帯構成で、口縁部に弧状の集合沈線を充填施文する。沈線帯間に平行沈線による波状文を施す。地文にLR横位施文。
260	23号住居	76	5	53	諸磯c	深鉢	床直~床上15	胴~底部	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	胴が膨らみ、底部が張り出す器形。胴部の文様帯には縦位展開する集合沈線を施す。文様帯下は集合沈線による横帯構成。地文にRL横位施文。
261	23号住居	77	6	53	諸磯b	深鉢	床上10~床上39	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつつ	口縁が緩く内湾する器形。浮線による横帯構成。地文、浮線上にRL横位施文。
262	23号住居	77	7	53	諸磯b	深鉢	床上46・床上52	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	ふつつ	波状口縁で口縁が内折する器形。浮線による横帯構成。波頂部下に弧状モチーフを施す。
263	23号住居	77	8	53	諸磯b	深鉢	床上8	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい赤褐	良好	波状口縁で口縁が緩く内湾する。浮線による横帯構成。波頂部下に縦位、弧状のモチーフを施す。
264	23号住居	77	9	53	諸磯b	深鉢	床上10~床上39	胴部破片				6と同一個体。
265	23号住居	77	10	53	諸磯b	深鉢	床上20	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	波状口縁で口縁が内折する器形。浮線によるモチーフを施す。
266	23号住居	77	11	53	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつつ	波状口縁でキャリバー状の器形。波頂部下に貼付文を付す。浮線による構成で、弧状モチーフを施す。地文にRL横位施文。
267	23号住居	77	12	53	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつつ	口縁が内湾する器形。浮線による横帯構成で横位、弧状のモチーフを施す。口縁部の浮線は斜位の刻み、屈曲部下の浮線は上から縄文を施す。地文にRL横位施文。
268	23号住居	77	13	53	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				12と同一個体。
269	23号住居	77	14	53	諸磯b	深鉢	床直・床上23	胴部破片				12と同一個体。
270	23号住居	77	15	53	諸磯b	深鉢	床上12	胴部破片				12と同一個体。
271	23号住居	77	16	53	諸磯b	深鉢	床上18・床上19	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩多	にぶい赤褐	ふつつ	外反する器形。浮線による横帯構成で浮線帯間に鋸歯状の浮線を施す。浮線に刻みは施されない。地文にRL横位施文。
272	23号住居	77	17	53	諸磯b	深鉢	床直~床上52	胴部破片				18と同一個体。
273	23号住居	77	18	53	諸磯b	深鉢	床直~床上52	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	ふつつ	浮線による横帯構成。破片上端に縦位、X字状のモチーフが見られる。
274	23号住居	78	19	53	諸磯b	深鉢	床上18~床上54	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	靴先状の波状口縁で、口縁内折部が欠損。浮線による横帯構成。波頂部下に弧状モチーフを施す。
275	23号住居	78	20	53	諸磯b	深鉢	床上18~床上54	胴部破片				19と同一個体。
276	23号住居	78	21	53	諸磯b	深鉢	床上18~床上54	胴部破片				19と同一個体。
277	23号住居	78	22	53	諸磯b	深鉢	床上46	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄	ふつつ	横位、弧状の浮線を施す。
278	23号住居	78	23	53	諸磯b	深鉢	床上8~床上23	胴部破片	粗:白色粒、石英	明褐	ふつつ	浮線による横帯構成。
279	23号住居	78	24	53	諸磯b	深鉢	床上22	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	ふつつ	推定底径14.0cm。浮線による横帯構成。
280	23号住居	78	25	53	諸磯b	深鉢	床上8~床上91	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	褐	ふつつ	波状口縁で口縁が内折する器形。平行沈線による横帯構成。

第55表 縄文時代土器観察表(9)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
281	23号住居	78	26	53	諸磯b	深鉢	床上14	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	良好	平行沈線による構成で、横位、菱形のモチーフを施す。平行沈線の上から刺突を施し、平行沈線間、沈線脇に斜位の刻みを施す。
282	23号住居	78	27	53	諸磯b	深鉢	床上9	胴部破片	粗:白色粒、輝石	褐	良好	平行沈線による横帯構成。地文にRL横位施文。
283	23号住居	78	28	53	諸磯b	深鉢	床直~床上21	口縁部破片				31と同一個体。
284	23号住居	78	29	53	諸磯b	深鉢	床直	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	暗褐	良好	口縁が緩く内折する。集合沈線による横帯構成。
285	23号住居	78	30	54	諸磯b	深鉢	床上6	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	褐	良好	靴先状の波状口縁。集合沈線による横帯構成。波頂部に入組モチーフを描く。
286	23号住居	78	31	54	諸磯b	深鉢	床直~床上21	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	ふつつ	波状口縁で口縁が緩く内折する。集合沈線による横帯構成。波頂部下にワラビ手状の平行沈線を施す。
287	23号住居	79	32	54	諸磯b	深鉢	床上22	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	褐	ふつつ	靴先状の波状口縁。集合沈線による構成で、波頂部下にワラビ手状、弧状モチーフを施す。地文にRL横位施文。
288	23号住居	79	33	54	諸磯b	深鉢	床上10・床上37	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に円形刺突を充填施文する。地文にRL横位施文。
289	23号住居	79	34	54	諸磯b	深鉢	床上9・床上28	胴部破片	粗:白色粒、輝石	明赤褐	ふつつ	集合沈線による横帯構成。地文にRL横位施文。
290	23号住居	79	35	54	諸磯b	深鉢	床直~床上11	胴部破片	粗:白色粒、輝石	明褐	ふつつ	集合沈線による横帯構成。地文にRL横位施文。
291	23号住居	79	36	54	諸磯b	深鉢	床上10	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	褐	良好	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に弧状モチーフを施す。地文にL R横位施文。
292	23号住居	79	37	54	諸磯b	深鉢	床上27・床上31・床上33	胴部破片				4と同一個体。
293	23号住居	79	38	54	諸磯b	深鉢	床上6~床上38	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に弧状モチーフを施す。胴下半のみ、地文にL R横位施文。
294	23号住居	79	39	54	諸磯b	深鉢	床上9・床上10・床上11	胴部破片	粗:白色粒、輝石	明褐	ふつつ	胴下半の部位。RLを横位施文する。
295	23号住居	79	40	54	諸磯b	深鉢	床直	底部破片	粗:白色粒、輝石多	にぶい赤褐	ふつつ	L Rを斜位施文する。
296	23号住居	80	41	54	諸磯b	深鉢	床上28・床上50	胴部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	反拗LLを横位施文する。
297	23号住居	80	42	54	諸磯b	深鉢	床上17	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	赤褐	良好	結節附加条縄文を横位施文する。
298	23号住居	80	43	54	諸磯b	深鉢	床上18・床上22	底部破片	粗:白色粒、輝石	明赤褐	良好	残存部は無文。
299	23号住居	80	44	54	前期前葉	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	明赤褐	ふつつ	横位隆線を施し、RLを横位施文する。
300	23号住居	80	45	54	浮島	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	橙	良好	口縁下に縦位短沈線帯を作出し、変形爪形文を施す。
301	23号住居	80	46	54	浮島	深鉢	覆土	胴部破片				45と同一個体。横位平行沈線、変形爪形文、斜位の刺突列、ロッキングを施す。
302	23号住居	80	47	54	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石、繊維	にぶい黄橙	ふつつ	RLを横位施文する。
303	23号住居	80	48	54	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	橙	ふつつ	連続爪形文を横位施文する。地文にL R横位施文。
304	23号住居	80	49	54	黒浜	深鉢	床上14	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	赤褐	ふつつ	RL、LRを羽状施文する。
305	23号住居	80	50	54	黒浜	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい赤褐	ふつつ	RLを横位施文する。
306	23号住居	80	51	54	黒浜	深鉢	床上35	底部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	にぶい赤褐	ふつつ	残存部は無文。内面研磨。
307	25号住居	85	1	55	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい黄橙	良好	屈曲する器形。浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
308	25号住居	85	2	55	諸磯b	深鉢	床上15	胴部破片	粗:白色粒、石英	橙	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
309	25号住居	85	3	55	諸磯b	深鉢	床直~床上14	胴~底部	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	ふつつ	底径10.6cm。結節LRを横位施文する。上端に横位平行沈線が見られる。
310	25号住居	85	4	55	諸磯b	鉢	床上14・床上22	胴~底部	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい赤褐	良好	算盤玉状の器形。無文。横位のナデ痕が見られる。口縁下に円孔をめぐらす。
311	25号住居	85	5	55	諸磯b	深鉢	床上12・床上16	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい橙	良好	キャリバー状の器形。緩い波状口縁で波頂部下に貼付文を付す。浮線による構成。地文にRL横位施文。
312	25号住居	85	6	55	諸磯b	深鉢	床上6	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	キャリバー状の器形。3頂の波状口縁で、波頂部下に獣面把手が退化したような貼付文を付す。浮線によるモチーフを施すが、器面の摩滅著しい。
313	25号住居	85	7	55	諸磯b	深鉢	床直・床直・床上6	底部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	底径9.0cm。浮線による横帯構成。底部付近の幅広の文様帯内に浮線による幾何学モチーフを施す。
314	25号住居	85	8	55	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片				9と同一個体。
315	25号住居	85	9	55	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい赤褐	良好	波状口縁で口縁が強く内湾する器形。浮線による構成で波頂部下に渦巻状モチーフを施す。地文にRL横位施文。

第56表 縄文時代土器観察表 (10)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
316	25号住居	85	10	55	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片				9と同一個体。
317	25号住居	85	11	55	諸磯b	深鉢	床上6	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつう	波状口縁で口縁が内折する器形。浮線による横帯構成。波頂部下に渦巻状モチーフを施しているようであるが、摩滅著しい。
318	25号住居	85	12	55	諸磯b	深鉢	床上45	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄褐	ふつう	口縁の内湾する部位。浮線による横帯構成。地文にR L 横位施文。
319	25号住居	85	13	55	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい橙	良好	口縁の内湾する部位。浮線による横帯構成。地文に無節L r 横位施文。
320	25号住居	85	14	55	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄褐	ふつう	浮線による横帯構成。地文にR L 横位施文。
321	25号住居	85	15	55	諸磯b	深鉢	床上18・床上30	口縁部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつう	浮線による横帯構成。浮線帯間に幾何学モチーフを施す。
322	25号住居	85	16	55	諸磯b	深鉢	床上13・床上14	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	浮線による横帯構成。浮線の刻みが一部鋸歯状に大きく施される。地文にR L 横位施文。
323	25号住居	85	17	56	諸磯b	深鉢	床上18・床上19	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	浮線による横帯構成。地文にR L 横位施文。
324	25号住居	86	18	56	諸磯b	深鉢	床上7・床上8・床上24	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	外反する器形。くびれ部下に附加条縄文を地文とし、横位平行沈線を施す。くびれ上は斜位のナデ痕が見られる。
325	25号住居	86	19	56	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				18と同一個体。
326	25号住居	86	20	56	諸磯b	深鉢	床上11	胴部破片				18と同一個体。
327	25号住居	86	21	56	諸磯b	深鉢	床上16	胴部破片				18と同一個体。
328	25号住居	86	22	56	諸磯b	深鉢	床上7・床上8	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	赤褐	良好	キャリバー状の器形。緩い波状口縁で、波頂部に挟りを入れることによって2単位の小突起を作出する。集合沈線による横帯構成で、沈線帯間にワラビ手状、弧状モチーフを施す。地文にL R 横位施文。
329	25号住居	86	23	56	諸磯b	ミナト土器	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつう	キャリバー状の器形で推定口径9.6cm。平行沈線による横帯構成。沈線間に鋸歯状、弧状モチーフを施す。地文にR L 横位施文。
330	25号住居	86	24	56	諸磯b	深鉢	床上18	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつう	口縁が緩く内湾する。集合沈線による横帯構成で、口縁部にレンズ状など幾何学モチーフを施す。地文に無節L r 横位施文。
331	25号住居	86	25	56	諸磯b	深鉢	床上18	口縁部破片				24と同一個体。
332	25号住居	86	26	56	諸磯b	深鉢	床直	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつう	集合沈線による横帯構成。地文にR L 横位施文。
333	25号住居	86	27	56	諸磯b	深鉢	床上14・床上16	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。
334	25号住居	86	28	56	諸磯b	深鉢	床上9	胴部破片				27と同一個体。
335	25号住居	86	29	56	諸磯b	深鉢	床上17・床上19	胴部破片				27と同一個体。
336	25号住居	86	30	56	諸磯b	深鉢	床上8	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい褐	ふつう	横位集合沈線を施す。地文にR L 横位施文。
337	25号住居	86	31	56	諸磯b	深鉢	床上17～床上19	底部破片	粗:白色粒、石英	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。
338	25号住居	86	32	56	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい赤褐	良好	複節R L Rを横位施文する。
339	25号住居	86	33	56	諸磯b	深鉢	床上25	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	附加条縄文を横位施文する。
340	25号住居	87	34	56	諸磯b	深鉢	床上13	口縁部破片	粗:白色粒、片岩多	にぶい赤褐	良好	内湾する器形。無文。横位のナデ痕が見られる。
341	25号住居	87	35	56	諸磯b	浅鉢	覆土	口縁部破片				39と同一個体。
342	25号住居	87	36	56	諸磯b	浅鉢	床上52	胴部破片				39と同一個体。
343	25号住居	87	37	56	諸磯b	浅鉢	床上6	胴部破片				39と同一個体。
344	25号住居	87	38	56	諸磯b	浅鉢	床上29	胴部破片				39と同一個体。
345	25号住居	87	39	56	諸磯b	浅鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	明黄褐	ふつう	胴上位で丸く内湾し、口縁が緩く外反する器形。胴下半に段を有す。
346	25号住居	87	40	56	諸磯b	深鉢	床上56・床上56	底部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	残存部は無文。
347	25号住居	87	41	56	諸磯a	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	波状口縁で緩く外反する。R Lを横位施文する。
348	25号住居	87	42	56	浮島	深鉢	床直～床上34	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	波状口縁で緩く外反する器形。変形爪形文、平行沈線を施す。口唇部に深めの刻みを付す。
349	25号住居	87	43	56	浮島	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、輝石	にぶい褐	良好	口縁下に縦位短沈線帯を作出し、半截竹管内皮による押引を施す。
350	25号住居	87	44	56	浮島	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい褐	ふつう	半截竹管内皮による押引を施す。

第57表 縄文時代土器観察表 (11)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
351	25号住居	87	45	57	浮島	深鉢	床直～床上34	胴部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	42と同一個体。変形爪形文、平行沈線を横位にめぐらせ、ロッキングを施す。
352	25号住居	87	46	57	浮島	深鉢	床上14・床上18	胴部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	三角文を横位多段に施す。
353	25号住居	87	47	57	浮島	深鉢	床上14・床上18	胴部破片				46と同一個体。
354	25号住居	87	48	57	浮島	深鉢	床上14・床上18	胴部破片				46と同一個体。
355	31号住居	92	1	57	諸磯 a	深鉢	床直	胴部 1/2	細:白色粒、輝石	橙	良好	結節 R L を横位施文する。
356	31号住居	92	2	57	諸磯 a	深鉢	床直・床上16・床上27	胴～底部 1/2	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	底径9.4cm。R L を斜位気味に施文する。底部際にミガキを施す。内面研磨。
357	31号住居	92	3	57	前期後葉 こみじろ 土器	覆土		口縁～底部破片	粗:白色粒、石英	にぶい褐	良好	推定口径6.8cm、推定底径4.0cm、器高3.4cm。外面縦、横位の擦痕、内面横位の擦痕が見られる。
358	31号住居	92	4	57	諸磯 b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	ふつつ	キャリバー状の器形。平縁で口縁に逆C字状の貼付文を付す。集合沈線による構成で、貼付文下に渦巻状モチーフを描く。地文に無節 R L 横位施文。
359	31号住居	92	5	57	諸磯 b	浅鉢	床上36	口縁部破片	粗:白色粒、石英	橙	良好	緩く外反する器形。口縁部に無文帯を残し、横位集合沈線を施す。沈線帯に円孔を穿つ。内面研磨。
360	31号住居	92	6	57	諸磯 a	深鉢	床直	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	連続爪形文により米字状モチーフを施す。内面研磨。
361	31号住居	92	7	57	諸磯 a	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	明赤褐	良好	横位 R L を地文とし、横位平行沈線を施す。
362	31号住居	92	8	57	諸磯 a	深鉢	床直	底部破片	細:白色粒、石英、片岩	にぶい黄橙	良好	推定底径11.0cm。R L を横位施文する。
363	31号住居	92	9	57	諸磯 a	深鉢	床直・床上22	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石			10と同一個体。
364	31号住居	92	10	58	諸磯 a	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	赤褐	良好	R L を横位施文する。
365	31号住居	92	11	58	諸磯 a	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	R L を横位施文する。
366	31号住居	92	12	58	諸磯 a	深鉢	床上10	胴部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	R L を横位施文する。
367	5号土坑	115	2	58	諸磯 b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	灰黄褐	ふつつ	浮線による横帯構成。地文に R L 横位施文。
368	5号土坑	115	3	58	諸磯 b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	良好	浮線による横帯構成。浮線帯間に斜位のモチーフを施す。地文に R L 横位施文。
369	13号土坑	115	8	58	加曾利 E 4	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	沈線により楕円状モチーフを描き、内部に L R 縦位充填施文する。
370	16号土坑	115	9	58	浮島	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい褐	良好	緩く外反する器形。口縁下に縦位短沈線帯を作出し、変形爪形文、集合沈線をめぐらす。内面研磨。
371	16号土坑	115	10	58	諸磯 b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	明赤褐	ふつつ	屈曲する器形。集合沈線による横帯構成。
372	17号土坑	115	15	58	諸磯 b	浅鉢	覆土	胴部 1/2	細:白色粒、輝石、雲母	明赤褐	良好	最大径50.8cm。くの字状に強く内屈する器形。胴下位に段を有す。
373	17号土坑	116	1	58	諸磯 b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	浮線による横帯構成。
374	17号土坑	116	2	58	諸磯 b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英	橙	ふつつ	浮線による横帯構成。浮線帯間に波状文を施す。浮線の刻みは半截竹管内皮による。
375	17号土坑	116	3	58	諸磯 b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英	橙	ふつつ	口縁が緩く内湾する器形。集合沈線による横帯構成。沈線帯間に歯状の集合沈線、平行沈線による波状文を施す。
376	18号土坑	116	8	59	黒浜	深鉢	覆土	底部破片	細:白色粒、繊維	橙	ふつつ	台付きの台部。残存部は無文。
377	21号土坑	116	10	59	諸磯 b	深鉢	覆土	口縁～胴部	細:白色粒、輝石	黒褐	ふつつ	推定口径29.2cm。1度すぼまり口縁が開く器形。横位集合沈線をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に対弧状の集合沈線を施し、菱形区画内に平行沈線による楕円状モチーフを充填する。
378	21号土坑	116	11	59	諸磯 b	深鉢	覆土	胴中位～底部 1/2	粗:白色粒、輝石	橙	良好	底径9.5cm、現存器高24.8cm。R L を横位施文する。上端に横位の平行沈線が見られる。
379	21号土坑	116	12	59	浮島	深鉢	覆土	口縁～胴部	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	推定口径15.0cmで外反する器形。口縁下と胴部上位に変形爪形文をそれぞれ2条めぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に対弧状の集合沈線を施す。文様帯下はロッキングを施文。口唇部に斜位の沈線を施す。内面研磨。
380	21号土坑	116	13	59	諸磯 b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	屈曲する器形。浮線による横帯構成。地文に R L 横位施文。
381	21号土坑	116	14	59	諸磯 b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	浮線による横帯構成。地文に結節 R L を横位施文する。
382	21号土坑	117	1	59	浮島	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい橙	良好	口縁下に斜位の短沈線を施し、変形爪形文をめぐらす。内面研磨。
383	21号土坑	117	2	59	諸磯 b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	外反する器形。集合沈線による横帯構成。やや幅広の集合沈線間に対弧状の集合沈線を施し、区画内に弧状の平行沈線を施す。
384	24号土坑	117	7	59	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい赤褐	ふつつ	R L、L R を羽状施文する。
385	26号土坑	117	8	59	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい褐	ふつつ	附加条縄文を横位施文する。内面研磨。

第58表 縄文時代土器観察表 (12)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
386	28号土坑	117	9	59	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	キャリバー状の器形で口縁が強く内湾する。集合沈線により横位、弧状モチーフを施す。地文にRL横位施文。
387	39号土坑	117	10	59	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	底径10.3cm。平行沈線による横帯構成。沈線間に弧状の平行沈線を施す。地文に無節Lr横位施文。
388	41号土坑	117	11	59	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
389	44号土坑	117	13	59	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に幅広の文様帯を作出、文様帯内に対向する鋸歯状集合沈線を施し、区画内に弧状の平行沈線を充填する。
390	44号土坑	117	14	59	浮島	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、石英、輝石	灰黄褐	良好	胴部下半が膨らみ、口縁が外反する器形。口縁下と胴部上位にそれぞれ2条の変形爪形文をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に集合沈線による鋸歯状文を施す。文様帯下は斜位の平行短沈線を充填施文する。
391	44号土坑	117	15	59	浮島	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	灰黄褐	良好	胴部下半が膨らみ、口縁が外反する器形。口縁下と胴部上位にそれぞれ2条の変形爪形文をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に集合沈線による鋸歯状文を施す。文様帯下は斜位の平行短沈線を充填施文する。
392	44号土坑	117	16	59	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、片岩	にぶい橙	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
393	44号土坑	118	1	59	浮島	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	灰黄褐	良好	胴部下半が膨らみ、口縁が外反する器形。口縁下と胴部上位にそれぞれ2条の変形爪形文をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に集合沈線による鋸歯状文を施す。文様帯下は斜位の平行短沈線を充填施文する。
394	44号土坑	118	2	59	浮島	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	灰黄褐	良好	胴部下半が膨らみ、口縁が外反する器形。口縁下と胴部上位にそれぞれ2条の変形爪形文をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に集合沈線による鋸歯状文を施す。文様帯下は斜位の平行短沈線を充填施文する。
395	44号土坑	118	3	59	諸磯b	浅鉢	覆土	胴～底部	粗:白色粒、石英、輝石、雲母多	明赤褐	良好	推定底径15.0cm。口縁が丸く内湾する器形。赤色塗彩の痕跡あり。孔が1箇所穿たれているが、焼成後の穿孔である。
396	46号土坑	118	14	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	集合沈線による横帯構成。
397	47号土坑	119	3	60	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい黄橙	良好	口縁が内折する器形。浮線によるモチーフを施す。地文にRL横位施文。
398	48号土坑	119	4	60	諸磯a	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、雲母	にぶい赤褐	良好	口唇部が肥厚、緩く外反する。附加条縄文を横位施文する。口唇部に刻みを付す。
399	48号土坑	119	5	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	浮線による横帯構成。
400	48号土坑	119	6	60	諸磯a	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい橙	良好	附加条縄文を横位施文する。
401	49号土坑	119	8	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	横位集合沈線をめぐらせ、斜位、弧状のモチーフを施す。地文にRL横位施文。
402	50号土坑	119	9	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	屈曲する器形。集合沈線による横帯構成。沈線帯間に弧状モチーフを充填する。地文に無節Lr横位施文。
403	50号土坑	119	10	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	赤褐	良好	屈曲する器形。屈曲部上位は集合沈線による横帯構成。屈曲部下位は無節Rl横位施文。
404	57号土坑	119	12	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	集合沈線により菱形モチーフを連ねる。地文に無節Lr横位施文。
405	57号土坑	119	13	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	口縁が強く内湾する器形。平行沈線により幾何学モチーフを描く。地文にRL横位施文。
406	57号土坑	119	14	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	良好	集合沈線により幾何学モチーフを描く。
407	57号土坑	119	15	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	褐	良好	附加条縄文を横位施文する。
408	57号土坑	119	16	60	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	明黄褐	良好	RLを横位施文する。
409	57号土坑	119	17	60	前期後葉	深鉢	覆土	口縁～底部4/5	粗:白色粒、石英、片岩	赤褐	ふつつ	口径18.7cm、底径14.8cm、器高29.6cm。胴中位が膨らみ、口縁がすぼまる器形。内外面斜位のナテ痕顕著。地文にLRを横位施文しているようだが、ナテによりほとんど消されている。
410	57号土坑	120	1	60	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄橙	良好	底径14.1cm。浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。
411	57号土坑	120	2	61	前期後葉	鉢	覆土	口縁～底部	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	推定口径19.4cm、推定底径12.0cm、器高7.0cmの小形の鉢。無文。器面の凹凸著しい。
412	57号土坑	120	3	61	前期後葉	鉢	覆土	底部破片				2と同一個体。
413	72号土坑	120	6	61	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	屈曲する器形。浮線による横帯構成。2条と3条を1単位として交互にめぐらせ、2条は鋸歯状に3条は斜位に刻みを付す。地文にRL横位施文。
414	73号土坑	120	7	61	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	横位、弧状の集合沈線を施す。
415	78号土坑	120	8	61	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、輝石	浅黄橙	良好	波状口縁で内湾する器形。波頂部下に円形貼付文を付す。集合沈線によるモチーフを施す。
416	78号土坑	120	9	61	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				12と同一個体。
417	78号土坑	120	10	61	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				12と同一個体。
418	78号土坑	120	11	61	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				12と同一個体。
419	78号土坑	120	12	61	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	良好	胴下位が膨らむ器形。浮線による横帯構成。くびれ部下位の浮線には斜位の刻み、上位の浮線には縄文を施す。地文に附加条縄文を横位施文。内面へラナテ状の横位の痕跡が見られる。
420	78号土坑	120	13	61	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	褐	良好	浮線による横帯構成。刻みは半截竹管内皮による。円形刺突をめぐらす。

第59表 縄文時代土器観察表 (13)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
421	84号土坑	121	3	61	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	R Lを横位施文する。
422	84号土坑	121	4	61	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	浮線により渦巻文を施す。地文にR L横位施文。
423	87号土坑	121	5	61	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	隆帯を横位にめぐらせ、連続爪形文を上下に沿わせる。隆帯上には斜位の刻みを付す。
424	88号土坑	121	6	61	諸磯b	深鉢	覆土	口縁~胸中位	細:白色粒、石英、輝石、雲母	橙	良好	推定口径19.0cm。キャリバー状の器形。波状口縁で、波頂部下に3個の貼付文を付す。全面にR L横位施文。
425	88号土坑	121	7	61	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	キャリバー状の器形で緩い波状口縁。波頂部にC字状の貼付文を付す。集合沈線による横帯構成で、波頂部下に渦巻状モチーフを施す。地文にR L横位施文。
426	88号土坑	121	8	61	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片				7と同一個体。
427	88号土坑	121	9	61	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい橙	ふつつ	集合沈線により横位、幾何学モチーフを施す。
428	90号土坑	121	11	61	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	集合沈線による横帯構成。地文にR L横位施文。
429	105号土坑	121	15	62	黒浜	深鉢	覆土	胸部破片	細:白色粒、繊維	褐	ふつつ	横位、鋸歯状の平行沈線を施し、円形刺突を施す。文様帯下はR L、L Rを羽状施文。
430	105号土坑	121	16	62	黒浜	深鉢	覆土	胸部破片	細:白色粒、繊維	灰黄褐	ふつつ	3と同一個体。地文にL R横位施文。
431	105号土坑	121	17	62	黒浜	深鉢	覆土	胸部破片	細:白色粒、繊維	にぶい黄褐	ふつつ	連続爪形文を横位施文する。
432	110号土坑	122	1	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	良好	口縁が内湾する器形。浮線による横帯構成。一部太めの浮線を貼付し、鋸歯状の刻みを付す。口縁部は弧状のモチーフを施す。地文にR L横位施文。
433	110号土坑	122	2	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にL R横位施文。
434	110号土坑	122	3	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片				5と同一個体。
435	110号土坑	122	4	62	浮島	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	ふつつ	貝殻の先端圧痕を施す。
436	110号土坑	122	5	62	浮島	深鉢	覆土	胸部破片				1と同一個体。
437	112号土坑	122	6	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
438	112号土坑	122	7	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	横位平行沈線、弧状の集合沈線を施す。
439	122号土坑	122	9	62	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、繊維	にぶい赤褐	ふつつ	口縁下に平行沈線を1条めぐらす。L Rを横位施文する。内面研磨。
440	122号土坑	122	10	62	黒浜	深鉢	覆土	胸部破片	細:白色粒、石英、繊維	にぶい褐	ふつつ	くの字状に外屈する器形。L R、R Lを羽状施文する。内面研磨。
441	122号土坑	122	11	62	黒浜	深鉢	覆土	胸部破片	細:白色粒、輝石、繊維	にぶい黄褐	ふつつ	くの字状に外屈する器形。L R、R Lを羽状施文する。内面研磨。
442	125号土坑	122	12	62	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	推定口径29.0cm。キャリバー状の器形で緩い波状口縁を呈す。波頂部に逆C字状の貼付文を付す。浮線と集合沈線を併用した構成で、口縁下に4条の浮線をめぐらせ、集合沈線によるモチーフを描く。地文にR L横位施文。
443	125号土坑	122	13	62	諸磯b	浅鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英	にぶい黄褐	ふつつ	深めの平行沈線で幾何学モチーフを描き、沈線間に爪形文を充填施文する。
444	125号土坑	122	14	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	ふつつ	横位、弧状の浮線を施す。
445	130号土坑	122	15	62	黒浜	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、繊維	明赤褐	ふつつ	R Lを横位施文する。
446	131号土坑	122	16	62	黒浜	深鉢	覆土	胸部破片				1と同一個体。
447	131号土坑	122	17	62	黒浜	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、繊維	褐	ふつつ	L R、R Lを羽状施文する。
448	132号土坑	123	1	62	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	推定底径9.0cm。底部際に平行沈線を横位施文する。
449	133号土坑	123	3	62	諸磯b	深鉢	覆土	胴上位~底部1/2	粗:白色粒、輝石	赤褐	良好	底径9.9cm、現存器高28.5cm。集合沈線による横帯構成。沈線帯間に弧状の集合沈線を施す。
450	133号土坑	123	4	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英	にぶい赤褐	良好	横位、弧状の集合沈線を施す。沈線は半截竹管ではなく、1本書きで細めの施文。
451	133号土坑	123	5	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	横位集合沈線を施す。
452	134号土坑	123	6	62	浮島	深鉢	覆土	胴~底部	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	底径9.2cm。ロッキングを施す。地文に横位の擦痕顕著。
453	137号土坑	123	7	62	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に弧状の平行沈線を施す。
454	139号土坑	123	8	63	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	R Lを横位施文する。
455	139号土坑	123	9	63	諸磯b	深鉢	覆土	胸部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	R Lを横位施文する。

第60表 縄文時代土器観察表 (14)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
456	140号土坑	123	10	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	灰褐	良好	横位集合沈線を施す。沈線下はR L横位施文。
457	140号土坑	123	11	63	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	キャリバー状の器形。波状口縁で、波頂部下を肥厚させ、横位の刻みを付す。口唇部にも刻みを付す。集合沈線による構成。地文にR L横位施文。
458	140号土坑	123	12	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	灰黄褐	ふつつ	連続爪形文によりモチーフを施す。爪形文間に斜位の刻みを充填施文。内面研磨。
459	140号土坑	123	13	63	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	明赤褐	良好	底径9.9cm。R Lを横位施文する。
460	141号土坑	123	14	63	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	暗褐	ふつつ	反拗R Rを横位施文する。
461	143号土坑	124	1	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	にぶい褐	ふつつ	対弧状の集合沈線を施す。地文にR L横位施文。
462	143号土坑	124	2	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩多	橙	ふつつ	R Lを横位施文する。
463	145号土坑	124	4	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、褐色粒、石英	明赤褐	良好	R Lを横位施文する。
464	146号土坑	124	5	63	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい赤褐	良好	キャリバー状の器形。双頂の波状口縁。浮線による横帯構成で、波頂部下に渦巻状モチーフを施す。口唇部にも浮線を施文。地文にR L横位施文。
465	146号土坑	124	6	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴~底部	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	推定底径11.6cm。R Lを横位施文する。
466	146号土坑	124	7	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴~底部	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	底径9.6cm。集合沈線による横帯構成。地文にL R横位施文。
467	146号土坑	124	8	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石多	明赤褐	良好	R Lを横位施文する。
468	146号土坑	124	9	63	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	推定底径11.0cm。残存部は無文。
469	151号土坑	124	12	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				1と同一個体。平行沈線による波状文を横位多段に施す。
470	151号土坑	124	13	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	平行沈線を横位施文する。地文にR L横位施文。
471	157号土坑	124	15	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英	にぶい橙	ふつつ	L Rを横位施文する。
472	163号土坑	124	16	63	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄褐	良好	双頂の波状口縁。集合沈線による菱形モチーフを描く。補修孔あり。
473	163号土坑	124	17	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	浮線による横帯構成。
474	163号土坑	124	18	63	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	波状口縁で口縁が直立する器形。集合沈線による幾何学モチーフを施す。
475	163号土坑	124	19	63	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	胴下位が膨らむ器形。横位集合沈線をめぐらせて文様帯を区画、文様帯内に菱形モチーフを描く。文様帯下はL R横位施文。
476	165号土坑	125	1	63	諸磯b	深鉢	覆土	口縁~胴下位1/2	粗:白色粒、石英、輝石多	にぶい褐	ふつつ	推定口径10.6cm、現存器高12.2cmと小形。頸部ですぼまり口縁が開く器形。頸部に横位平行沈線をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内に斜位、弧状の平行沈線を施す。文様帯下はR L横位施文。
477	168号土坑	125	2	64	諸磯a	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英、雲母末	明赤褐	良好	R Lを横位施文する。
478	168号土坑	125	3	64	諸磯a	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	平行沈線による肋骨文を施し、円形刺突を施す。
479	168号土坑	125	4	64	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒	橙	ふつつ	L Rを横位施文する。
480	170号土坑	125	6	64	諸磯b	深鉢	覆土	胴~底部1/2	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい橙	ふつつ	無文。上端が内湾することから屈曲する器形になると想定される。
481	170号土坑	125	7	64	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	良好	集合沈線による横帯構成。地文にR L横位施文。
482	170号土坑	125	8	64	諸磯a	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、石英	橙	良好	R Lを横位施文する。
483	170号土坑	125	9	64	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英	にぶい橙	良好	底径6.0cm。R Lを横位施文する。
484	170号土坑	125	10	64	前期後葉	深鉢	覆土	底部破片	細:白色粒、輝石、雲母末	にぶい黄橙	ふつつ	L R、R Lによる結束羽状縄文を横位施文する。
485	171号土坑	125	12	64	諸磯a	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	橙	ふつつ	胴下位が膨らむ器形。R Lを横位施文する。内面研磨。
486	180号土坑	125	15	64	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	ふつつ	集合沈線による横帯構成。地文にR L横位施文。
487	182号土坑	125	16	64	諸磯c	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	橙	良好	斜格子目状に平行沈線を施す。先に縦位施文している平行沈線があることから縦位区画しているようだ。
488	182号土坑	125	17	64	諸磯a	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、輝石	黄橙	良好	R Lを横位施文する。内面研磨。
489	182号土坑	125	18	64	諸磯a	深鉢	覆土	胴部破片				2と同一個体。
490	187号土坑	125	19	64	黒浜	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、繊維	にぶい赤褐	ふつつ	推定底径11.6cm。連続爪形文を横位施文する。地文にR L、L R羽状施文。

第61表 縄文時代土器観察表 (15)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
491	188号土坑	126	1	64	黒浜	深鉢	覆土	口縁～胴下位	粗:白色粒、輝石、繊維	にぶい赤褐	ふつう	推定口径21.9cm。口縁が緩く外反する器形。RLを横位施文する。
492	188号土坑	126	2	64	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石、繊維	灰褐	ふつう	緩く内湾する器形。連続爪形文を横位施文する。地文にRL横位施文。
493	188号土坑	126	3	64	黒浜	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	赤褐	ふつう	RLを横位施文する。
494	188号土坑	126	4	64	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい褐	ふつう	口縁下に平行沈線、緩い波状の連続爪形文をめぐらす。地文にLRL横位施文。
495	188号土坑	126	5	64	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	灰褐	ふつう	LRLを横位施文する。内面研磨。
496	188号土坑	126	6	64	黒浜	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい黄褐	ふつう	口縁が緩く外反する器形。RLを横位施文する。
497	188号土坑	126	7	64	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	細:白色粒、繊維	明赤褐	ふつう	RL、LRを羽状施文する。
498	188号土坑	126	8	64	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい褐	ふつう	LRを横位施文する。
499	188号土坑	126	9	64	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい赤褐	ふつう	LRを横位施文する。
500	188号土坑	126	10	64	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい黄橙	ふつう	平行沈線、コンパス文を横位施文する。内面研磨。
501	188号土坑	126	11	64	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい赤褐	ふつう	RL、LRを羽状施文する。
502	188号土坑	126	12	64	黒浜	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	にぶい赤褐	ふつう	RL、LRを羽状施文する。
503	188号土坑	126	13	64	黒浜	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、繊維	にぶい赤褐	ふつう	RL、LRを羽状施文する。
504	188号土坑	126	14	64	黒浜	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	にぶい赤褐	ふつう	推定底径8.0cm。LRを横位施文する。
505	191号土坑	126	17	65	諸磯b	深鉢	覆土	胴部1/3	粗:白色粒、輝石	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に三角形、菱形の集合沈線を施し、区画内にワラビ手状や弧状モチーフを充填する。地文に結節RL横位施文。
506	195号土坑	127	1	65	諸磯b	深鉢	覆土	口縁～胴下位1/3	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつう	口径37.5cm、現存器高39.9cm。連続爪形文による横帯構成。爪形文帯間に横位波状や弧状モチーフを施し、間隙に円形刺突を施す。爪形文間に斜位の刻みを付す。口縁に横位8の字状、縦位の浮線を付す。
507	195号土坑	127	2	65	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英	橙	ふつう	浮線による横帯構成。地文に結節RL横位施文。
508	195号土坑	127	3	65	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつう	連続爪形文により幾何学モチーフを施す。爪形文間に斜位の刻みを付す。
509	195号土坑	127	4	65	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				3と同一個体。
510	195号土坑	127	5	65	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	ふつう	RLを横位施文する。
511	196号土坑	127	6	65	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	無節LRを横位施文する。
512	197号土坑	127	7	65	諸磯b	深鉢	覆土	口縁～胴部	細:白色粒	暗赤褐	良好	口縁が外反する器形。RLを横位施文する。
513	197号土坑	127	8	65	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、輝石	暗褐	ふつう	菱形の集合沈線を施す。
514	197号土坑	127	9	65	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、輝石	明赤褐	良好	無節RLを横位施文する。
515	197号土坑	127	10	65	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	LR、RLを羽状施文する。
516	197号土坑	127	11	65	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	細:白色粒、輝石、雲母	橙	良好	底径6.5cm。浮線による横帯構成。
517	198号土坑	127	14	65	諸磯b	浅鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、雲母多	にぶい褐	良好	小形の浅鉢。外面横位のナデ。
518	199号土坑	128	1	65	諸磯b	深鉢	覆土	胴部	粗:白色粒、石英、輝石	暗赤褐	良好	胴下位が膨らみ、外反する器形。横位集合沈線をめぐらせて幅広い文様帯を区画、文様帯内に対弧状や菱形、X字状などのモチーフを施し、内部に弧線文を充填する。地文にRL横位施文。
519	203号土坑	128	4	65	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	口縁が内湾する器形。浮線による構成。横位、斜位、弧状のモチーフを施す。地文にRL横位施文。
520	203号土坑	128	5	65	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	良好	残存部は無文。
521	203号土坑	128	6	65	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、輝石	明赤褐	良好	底径9.0cm。無節LRを横位施文する。
522	204号土坑	128	8	66	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	良好	RLを横位施文する。
523	205号土坑	128	9	66	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	ふつう	LRを横位施文する。
524	206号土坑	128	10	66	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、雲母末	明赤褐	良好	RLを横位施文する。内面研磨。
525	207号土坑	128	12	66	諸磯b	深鉢	覆土	口縁部破片	粗:白色粒、石英	橙	良好	靴先状の波状口縁。浮線による構成。内折部に渦巻モチーフを施す。

第62表 縄文時代土器観察表 (16)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
526	207号土坑	128	13	66	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	R L、L Rを羽状施文する。
527	207号土坑	128	14	66	諸磯b	深鉢	覆土	胴部破片				2と同一個体。
528	1号配石	129	1	66	諸磯b	深鉢	覆土	口縁～胴下位2/3	粗:白色粒、石英	橙	ふつつ	推定口径30.2cm、現存器高29.0cm。キャリパー状で緩く屈曲する器形。波状口縁。屈曲部を境に上位は集合沈線、下位は浮線を施す構成。口縁部に弧状や斜位の集合沈線を施す。屈曲部下は太めの浮線を横位多段にめぐらす。地文にR L横位施文。
529	1号配石	129	2	66	諸磯b	深鉢	覆土	底部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	底径11.2cm。附加条縄文を横位施文する。
530	縄文包含層	136	1	67	早期後半条痕文系	深鉢	—	胴部破片	粗:片岩多、繊維	橙	良好	外面に横位の条痕を施す。
531	縄文包含層	136	2	67	早期後半条痕文系	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、石英、繊維	にぶい褐	良好	内外面に浅い条痕をまばらに施す。
532	縄文包含層	136	3	67	諸磯a	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英	明赤褐	良好	緩く外反する器形。R Lを横位施文する。内面研磨。
533	縄文包含層	136	4	67	諸磯a	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英	赤褐	ふつつ	口縁が外反する器形。L Rを横位施文する。内面研磨。
534	縄文包含層	136	5	67	諸磯a	深鉢	—	胴部破片				4と同一個体。
535	縄文包含層	136	6	67	諸磯a	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、輝石	明赤褐	ふつつ	附加条縄文を横位施文する。
536	縄文包含層	136	7	67	諸磯a	深鉢	—	底部破片	粗:白色粒、輝石	赤褐	ふつつ	L Rを横位施文する。
537	縄文包含層	136	8	67	諸磯a	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、輝石	明赤褐	良好	R Lを横位施文する。内面研磨。
538	縄文包含層	136	9	67	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい黄橙	ふつつ	連続爪形文により木葉文など幾何学モチーフを施す。磨消L R施文。
539	縄文包含層	136	10	67	諸磯b	浅鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、輝石	明赤褐	ふつつ	くの字状に屈曲する器形。口縁下に3条の連続爪形文をめぐらせ、その部分に円孔を穿つ。連続爪形文によるワラビ手文など幾何学モチーフを描く。屈曲部下にも施文が見られる。屈曲部に爪形文をめぐらす。
540	縄文包含層	136	11	67	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片				9と同一個体。
541	縄文包含層	136	12	67	諸磯b	深鉢	—	胴部破片				9と同一個体で底部に近い部位。底部付近に浮線をめぐらす。
542	縄文包含層	136	13	67	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	橙	良好	緩い波状口縁で口縁が内折する器形。波頂部下に円形貼付文を付す。平行沈線により楕円状モチーフを描く。
543	縄文包含層	136	14	67	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい褐	ふつつ	斜位の平行沈線、円形刺突を施す。地文にR L横位施文。
544	縄文包含層	136	15	67	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石、雲母末	にぶい赤褐	良好	3頂の波状口縁で波頂部下に断面把手を付す。目、口の意匠が見られる。頂部に矢羽根状の刻みを付す。浮線による構成で浮線下にR Lを横位施文する。
545	縄文包含層	136	16	67	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英	橙	ふつつ	波状口縁で口縁が内折する器形。浮線による横帯構成で、浮線帯間に弧状モチーフを充填施文する。波頂部下に円形貼付文を付す。
546	縄文包含層	136	17	67	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	3頂の波状口縁で波頂部に折り返し状の貼付文を付し、さらにその下に円形貼付文を付す。浮線による構成で、波頂部下に円形刺突を充填施文する。口唇部に矢羽根状の刻みを付す。
547	縄文包含層	136	18	67	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	波状口縁。浮線による構成で波頂部下に3個の円形貼付文を付す。
548	縄文包含層	136	19	67	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	3頂の波状口縁で波頂部が外反する。浮線による構成で波頂部下に貼付文を付す。
549	縄文包含層	137	20	68	諸磯b	深鉢	—	口縁～胴上位	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい橙	ふつつ	推定口径74.0cm。キャリパー状の器形で靴先状の波状口縁を呈す。波底部にも小突起を付す。浮線による横帯構成で、波頂部下に弧状モチーフを施す。浮線間に円形刺突を充填施文する。屈曲部に刻みを付さない縦位、X字状の浮線を貼付。地文にR L横位施文。
550	縄文包含層	137	21	68	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、輝石	明赤褐	良好	双頂あるいは3頂の波状口縁。浮線による構成で、2条1単位の浮線間に円形刺突を充填施文する。
551	縄文包含層	137	22	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	浮線による横帯構成。
552	縄文包含層	137	23	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	キャリパー状の器形。浮線による横帯構成で、口縁部に縦位、弧状のモチーフを施す。地文にR L横位施文。
553	縄文包含層	137	24	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
554	縄文包含層	137	25	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、輝石、雲母	にぶい橙	ふつつ	屈曲する器形。浮線による横帯構成だが、浮線に刻みを施さない。
555	縄文包含層	137	26	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英	橙	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
556	縄文包含層	138	27	68	諸磯b被熱	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英	黄灰	ふつつ	浮線による横帯構成。
557	縄文包含層	138	28	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片				26と同一個体。
558	縄文包含層	138	29	68	諸磯b被熱	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英	黄灰	ふつつ	浮線による横帯構成。
559	縄文包含層	138	30	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、輝石	橙	ふつつ	浮線による横帯構成。浮線の刻みは半截竹管内皮による。
560	縄文包含層	138	31	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	浮線による横帯構成。地文にL R横位施文。

第63表 縄文時代土器観察表 (17)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
561	縄文包含層	138	32	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	浮線による横帯構成。斜位の刻みを付さない浮線も見られる。地文にR L横位施文。
562	縄文包含層	138	33	68	諸磯b	深鉢	—	底部破片	粗:白色粒、石英、片岩	橙	ふつつ	浮線による横帯構成。地文にR L横位施文。
563	縄文包含層	138	34	68	諸磯b	深鉢	—	口縁～胴下位	細:白色粒、輝石	にぶい橙	良好	推定口径18.0cm、現存器高17.0cm。胴上位がくびれ、口縁が開く器形。横位集合沈線をめぐらせて口縁部文様帯を区画、文様帯内は矢羽根状の集合沈線を充填施文する。地文、文様帯下にR L横位施文。
564	縄文包含層	138	35	68	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	波状口縁で緩く外反する器形。集合沈線による横帯構成で、沈線帯間に縦位、弧状の沈線を施す。
565	縄文包含層	138	36	68	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	褐	良好	波状口縁でキャリバー状の器形。集合沈線による構成で波頂部下に円形貼付文を付し、渦巻状モチーフを施す。
566	縄文包含層	138	37	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。沈線帯間に平行沈線による波状文を施す。
567	縄文包含層	138	38	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	集合沈線による横帯構成。地文にL R横位施文。
568	縄文包含層	138	39	68	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	横位、弧状の集合沈線を施す。
569	縄文包含層	138	40	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい橙	ふつつ	集合沈線による横帯構成。地文に結節R L横位施文。
570	縄文包含層	139	41	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、輝石	赤褐	良好	文様帯内の部位で、集合沈線による菱形文を連ねる。区画内には縦位平行沈線や弧線文、楕円文などを充填する。
571	縄文包含層	139	42	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片				41と同一個体。
572	縄文包含層	139	43	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	ふつつ	集合沈線による横帯構成。地文にR L横位施文。
573	縄文包含層	139	44	69	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	波状口縁で口唇部に刻みを付す。R Lを横位施文する。
574	縄文包含層	139	45	69	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	ふつつ	双頂の波状口縁。L Rを横位施文する。補修孔あり。
575	縄文包含層	139	46	69	諸磯b	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、輝石	にぶい橙	ふつつ	反拗R Rを横位施文する。内面研磨。
576	縄文包含層	139	47	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片				46と同一個体。
577	縄文包含層	139	48	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	R Lを横位施文する。
578	縄文包含層	139	49	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片				51と同一個体
579	縄文包含層	139	50	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、片岩、輝石	明赤褐	ふつつ	無節L rを横位施文する。
580	縄文包含層	139	51	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:石英多、雲母	にぶい褐	良好	L Rを横位施文する。
581	縄文包含層	139	52	69	諸磯b	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、片岩	にぶい赤褐	良好	L Rを横位施文する。
582	縄文包含層	139	53	69	諸磯c	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、輝石	明赤褐	良好	縦位、斜位の集合沈線を施し、貼付文を付す。
583	縄文包含層	139	54	69	諸磯b	浅鉢	—	口縁～胴部	粗:白色粒、石英、片岩	明赤褐	ふつつ	推定口径21.4cm。丸く内湾し、口縁が短く外反する器形。
584	縄文包含層	139	55	69	諸磯b	浅鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英	橙	ふつつ	肩部で強く内湾し、口縁が緩く外反する器形。
585	縄文包含層	139	56	69	諸磯b	浅鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英	橙	ふつつ	肩部がくの字状に内屈する器形。平行沈線で幾何学モチーフを描き、沈線間に刻みを付す。屈曲部に斜位の刻みを付す。
586	縄文包含層	139	57	69	諸磯b	浅鉢	—	胴部破片				56と同一個体。
587	縄文包含層	139	58	69	諸磯b	浅鉢	—	胴部破片				56と同一個体。
588	縄文包含層	140	59	69	黒浜	深鉢	—	口縁部破片				60と同一個体。
589	縄文包含層	140	60	69	黒浜	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、繊維	明赤褐	ふつつ	連続爪形文による米字文、円形刺突を施す。地文にL R横位施文。
590	縄文包含層	140	61	69	黒浜	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、輝石、繊維	にぶい黄橙	ふつつ	L Rを横位施文する。補修孔あり。
591	縄文包含層	140	62	69	黒浜	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、輝石、繊維	にぶい黄橙	ふつつ	R L、L Rを羽状施文する。口唇部、内面研磨。
592	縄文包含層	140	63	69	黒浜	深鉢	—	口縁部破片				62と同一個体。
593	縄文包含層	140	64	69	黒浜	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、輝石、繊維	明赤褐	ふつつ	連続爪形文を3条めぐらせ、R L、L Rを羽状施文する。
594	縄文包含層	140	65	69	黒浜	深鉢	—	胴部破片				64と同一個体。
595	縄文包含層	140	66	69	黒浜	深鉢	—	胴部破片				64と同一個体。

第64表 縄文時代土器観察表 (18)

No	遺構名	図版No	遺物No	PL	型式	器種	出土位置	部位	胎土	色調	焼成	文様の特徴等
596	縄文包含層	140	67	69	黒浜	深鉢	—	胴部破片				64と同一個体。
597	縄文包含層	140	68	69	黒浜	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石、繊維	明赤褐	ふつつ	斜格子目沈線を施す。
598	縄文包含層	140	69	70	黒浜	深鉢	—	胴部破片				64と同一個体。
599	縄文包含層	140	70	70	黒浜	深鉢	—	胴部破片				64と同一個体。
600	縄文包含層	140	71	70	黒浜	深鉢	—	胴部破片				64と同一個体。
601	縄文包含層	140	72	70	黒浜	深鉢	—	底部破片				64と同一個体。
602	縄文包含層	140	73	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、石英、雲母	褐	ふつつ	波状口縁で外反する器形。変形爪形文、平行沈線によるモチーフを施す。内面研磨。口唇部に刻みを付す。
603	縄文包含層	140	74	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	波状口縁で緩く外反する器形。変形爪形文を施して文様帯を区画、文様帯内に平行沈線によるモチーフを施す。一部結節沈線にしている。口縁下の変形爪形文間、外削ぎの口唇部に斜位の刻みを施す。
604	縄文包含層	140	75	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい褐	良好	ロッキングを施す。外削ぎの口唇部に縦位の刻みを付す。
605	縄文包含層	140	76	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	波状口縁。変形爪形文を2条施し、爪形文間に斜位の刻みを付す。口唇部に刻みを付す。
606	縄文包含層	140	77	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、石英	橙		16と同一個体。
607	縄文包含層	140	78	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	外反する器形で口縁に小突起を付す。LRを地文とし、横位平行沈線を施す。
608	縄文包含層	140	79	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片				80と同一個体。
609	縄文包含層	140	80	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	明赤褐	ふつつ	口縁部に折り返し状の段を2段作出し、下端に刺突をめぐらす。胴部はロッキングと刺突列を交互に多段にめぐらす。
610	縄文包含層	141	81	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、石英	にぶい黄橙	ふつつ	変形爪形文を2条めぐらせて間に刺突を施す。肥厚した外削ぎの口唇部に刻みを付す。内面研磨。
611	縄文包含層	141	82	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、輝石	にぶい黄橙	良好	緩く外反する器形。三角文を挟んだ変形爪形文を2条めぐらせて文様帯を区画、文様帯内に平行沈線によるモチーフを描く。平行沈線の上から若干角度をずらして半截竹管内皮による刺突を施す。外削ぎの口唇部に刻みを付す。内面研磨。
612	縄文包含層	141	83	70	浮島	深鉢	—	口縁部破片	細:白色粒、石英、雲母	橙	良好	胴下位が膨らみ、口縁が緩く外反する器形。変形爪形文を2条めぐらせて文様帯を区画、文様帯内に横位や鋸歯状の集合沈線を施す。変形爪形文を挟み3帯重畳するようだ。変形爪形文間には部分的に斜位の刻みを付す。文様帯下はロッキングを施す。
613	縄文包含層	141	84	70	浮島	深鉢	—	胴部破片				80と同一個体。
614	縄文包含層	141	85	70	浮島	深鉢	—	胴部破片				83と同一個体。
615	縄文包含層	141	86	70	浮島	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	ふつつ	変形爪形文をめぐらせて文様帯を区画、文様帯に平行沈線による菱形文を施す。内部に半截竹管内皮による刺突を充填施文する。変形爪形文間に斜位の刻みを付す。
616	縄文包含層	141	87	70	浮島	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい褐	良好	刺突列を施す。
617	縄文包含層	141	88	70	浮島	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	変形爪形文間に平行沈線によるモチーフを施す。
618	縄文包含層	141	89	70	浮島	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	ふつつ	平行沈線によるモチーフを施す。
619	縄文包含層	141	90	70	浮島	深鉢	—	胴部破片				86と同一個体。
620	縄文包含層	141	91	70	浮島	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、石英	橙	良好	変形爪形文、平行沈線によるモチーフを施す。
621	縄文包含層	141	92	70	浮島	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	良好	半截竹管による平行沈線、押引を施す。内面研磨。
622	縄文包含層	141	93	70	浮島	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、石英	橙	良好	刺突列、貝殻先端圧痕を施す。
623	縄文包含層	141	94	70	浮島	深鉢	—	胴部破片	細:白色粒、石英、雲母末	灰褐	ふつつ	平行沈線、結節縄文を施す。
624	縄文包含層	141	95	70	浮島	深鉢	—	胴部破片				83と同一個体。
625	縄文包含層	141	96	70	中期中葉	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい赤褐	良好	キャリバー状の器形。隆帯による楕円文を施し、RLを横位施文する。
626	縄文包含層	141	97	70	中期中葉	深鉢	—	胴部破片	粗:白色粒、石英多	にぶい黄橙	ふつつ	横位、楕円状の沈線を施す。
627	縄文包含層	141	98	70	加曾利E4	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石多	にぶい黄褐	ふつつ	口縁部に無文帯を作出。隆帯による分岐懸垂文を施し、RLを充填施文する。
628	縄文包含層	141	99	70	称名寺II	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	にぶい黄橙	ふつつ	口縁下に横位沈線を施す。
629	縄文包含層	141	100	70	加曾利B1	深鉢	—	口縁部破片	粗:白色粒、石英、輝石	橙	良好	帯縄文LR、区切り文を施す。内面に3条の沈線をめぐらす。口唇部に斜位の刻みを付す。内外面研磨。

*出土位置の床上高さについては、遺物の標高値と遺物出土位置から最短の床面標高値をもとにして計算。単位はcm。また、床直とは、床上高さが5cm以内とした。

第65表 縄文時代石器観察表（1）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
1	3号住居	剥片系石器	石鏃	17	1	39	黒曜石	1.5	1.4	0.5
2	3号住居	剥片系石器	石鏃	17	2	39	チャート	1.9	2.0	0.9
3	3号住居	剥片系石器	石錐	17	3	39	チャート	3.7	2.0	2.0
4	3号住居	剥片系石器	石槍	17	4	39	黒色頁岩	7.5	2.9	30.0
5	3号住居	剥片系石器	削器	17	5	39	黒色頁岩	5.1	5.5	50.7
6	3号住居	剥片系石器	削器	17	6	39	黒色頁岩	4.0	5.8	31.6
7	3号住居	剥片系石器	削器	17	7	39	黒色頁岩	4.2	7.4	40.7
8	3号住居	剥片系石器	削器	17	8	39	黒色頁岩	6.0	5.8	48.3
9	3号住居	剥片系石器	石核	17	9	39	黒曜石	2.7	5.9	40.1
10	3号住居	剥片系石器	打製石斧	17	10	39	灰色安山岩	8.0	5.4	100.4
11	3号住居	剥片系石器	打製石斧	17	11	39	細粒輝石安山岩	8.1	5.2	76.2
12	3号住居	剥片系石器	磨製石斧	17	12	39	変玄武岩	6.4	6.5	113.0
13	3号住居	礫石器	凹石	17	13	39	粗粒輝石安山岩	10.8	6.3	337.0
14	3号住居	礫石器	磨石	17	14	39	粗粒輝石安山岩	10.4	7.3	526.0
15	3号住居	礫石器	石皿	17	15	39	粗粒輝石安山岩	26.8	18.9	5,040.0
16	3号住居	礫石器	砥石	17	16	39	牛伏砂岩	10.1	5.8	102.3
17	3号住居	石製品	丸玉	17	17	39	滑石	1.4	1.4	1.6
18	7号住居	剥片系石器	石鏃	27	1	41	黒色安山岩	1.5	1.2	0.4
19	7号住居	剥片系石器	石鏃	27	2	41	黒色頁岩	2.8	2.4	2.1
20	7号住居	剥片系石器	石匙	27	3	41	黒色頁岩	5.5	2.8	7.9
21	7号住居	剥片系石器	石匙	27	4	41	黒色安山岩	3.7	3.7	6.0
22	7号住居	剥片系石器	石錐	27	5	41	チャート	2.3	3.9	0.8
23	7号住居	剥片系石器	削器	27	6	41	黒色頁岩	5.2	7.0	43.0
24	7号住居	剥片系石器	石核	27	7	41	黒色安山岩	6.3	6.0	111.4
25	7号住居	剥片系石器	石核	27	8	41	黒曜石	2.8	2.3	8.3
26	7号住居	剥片系石器	打製石斧	27	9	41	緑色片岩	14.4	5.4	130.6
27	7号住居	剥片系石器	打製石斧	27	10	41	黒色片岩	10.7	4.9	95.1
28	7号住居	剥片系石器	打製石斧	27	11	41	黒色片岩	7.7	3.8	40.6
29	7号住居	剥片系石器	打製石斧	27	12	41	黒色片岩	7.7	6.6	62.7
30	7号住居	剥片系石器	打製石斧	27	13	41	黒色片岩	8.3	4.3	58.7
31	7号住居	礫石器	凹石	27	14	41	粗粒輝石安山岩	7.7	7.0	282.0
32	7号住居	礫石器	磨石	27	15	41	粗粒輝石安山岩	9.7	5.1	196.0
33	8号住居	剥片系石器	石鏃	31	1	42	黒色頁岩	2.8	1.5	1.9
34	8号住居	剥片系石器	打製石斧	31	2	42	灰色安山岩	8.7	4.9	65.0
35	8号住居	剥片系石器	打製石斧	31	3	42	黒色頁岩	10.6	3.7	32.6
36	8号住居	礫石器	敲石	31	4	42	細粒輝石安山岩	13.7	4.8	112.3
37	8号住居	礫石器	磨石	31	5	42	粗粒輝石安山岩	15.7	8.2	717.0
38	8号住居	礫石器	敲石	31	6	42	粗粒輝石安山岩	9.8	5.3	280.0
39	8号住居	礫石器	敲石	31	7	42	粗粒輝石安山岩	6.0	4.6	141.0
40	8号住居	礫石器	多孔石	31	8	42	粗粒輝石安山岩	29.4	17.4	6,980.0
41	8号住居	礫石器	石皿	31	9	42	粗粒輝石安山岩	21.4	10.8	1,560.0
42	9号住居	剥片系石器	打製石斧	31	10	42	雲母石英片岩	9.5	3.5	57.3
43	9号住居	剥片系石器	石核	31	11	42	黒色安山岩	6.6	8.6	222.0
44	10号住居	剥片系石器	石鏃	42	1	46	黒曜石	1.3	1.2	0.3
45	10号住居	剥片系石器	石錐	42	2	46	黒色頁岩	3.6	2.5	3.7
46	10号住居	剥片系石器	削器	42	3	46	黒色頁岩	8.3	5.2	50.7
47	10号住居	剥片系石器	打製石斧	42	4	46	黒色頁岩	10.3	5.6	98.6
48	10号住居	剥片系石器	打製石斧	42	5	46	砂岩	7.5	5.1	82.2
49	10号住居	剥片系石器	打製石斧	42	6	46	黒色頁岩	5.8	3.9	22.6
50	10号住居	剥片系石器	打製石斧	42	7	46	黒色頁岩	10.0	5.1	79.5

第66表 縄文時代石器観察表（2）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
51	10号住居	剥片系石器	打製石斧	42	8	46	黒色頁岩	6.2	5.8	48.3
52	10号住居	剥片系石器	打製石斧	42	9	46	黒色頁岩	6.4	4.5	37.0
53	10号住居	礫石器	敲石	42	10	46	砂質頁岩	5.5	4.8	76.5
54	10号住居	礫石器	敲石	42	11	46	粗粒輝石安山岩	11.2	8.4	357.0
55	10号住居	礫石器	凹石	42	12	46	粗粒輝石安山岩	9.8	6.8	350.0
56	10号住居	礫石器	多孔石	42	13	46	粗粒輝石安山岩	15.0	8.0	618.0
57	11号住居	剥片系石器	石匙	43	2	46	黒色頁岩	6.9	3.1	15.7
58	13号住居	剥片系石器	石鏃	48	1	46	チャート	2.7	1.8	3.4
59	13号住居	剥片系石器	削器	48	2	46	黒色頁岩	4.6	6.5	41.4
60	13号住居	剥片系石器	削器	48	3	46	黒色頁岩	6.2	5.0	22.4
61	13号住居	剥片系石器	打製石斧	48	4	46	黒色頁岩	12.2	6.6	134.6
62	13号住居	剥片系石器	打製石斧	48	5	46	黒色頁岩	10.8	5.3	81.3
63	13号住居	剥片系石器	打製石斧	48	6	46	黒色頁岩	7.9	5.9	73.6
64	13号住居	剥片系石器	打製石斧	48	7	46	細粒輝石安山岩	9.3	5.0	84.1
65	13号住居	礫石器	凹石	48	8	46	石英閃緑岩	10.8	9.4	796.0
66	13号住居	礫石器	凹石	48	9	46	粗粒輝石安山岩	13.5	9.7	891.0
67	13号住居	礫石器	凹石	48	10	46	粗粒輝石安山岩	10.9	9.4	565.0
88	14号住居	石製品	块状耳飾り	53	26	47	緑泥石質滑石	4.1	4.5	14.7
68	14号住居	剥片系石器	石鏃	54	1	48	黒色安山岩	2.6	1.7	1.9
69	14号住居	剥片系石器	石鏃	54	2	48	黒色安山岩	3.2	2.4	5.4
70	14号住居	剥片系石器	石鏃	54	3	48	黒色頁岩	4.2	1.9	3.0
71	14号住居	剥片系石器	石鏃	54	4	48	珪質頁岩	5.7	3.3	20.2
72	14号住居	剥片系石器	削器	54	5	48	黒色頁岩	5.2	5.8	66.6
73	14号住居	剥片系石器	削器	54	6	48	黒色頁岩	5.0	8.7	43.7
74	14号住居	剥片系石器	削器	54	7	48	黒色頁岩	4.3	7.5	67.6
75	14号住居	剥片系石器	石核	54	8	48	黒色安山岩	4.1	8.9	130.2
76	14号住居	剥片系石器	石核	54	9	48	黒色安山岩	5.5	4.7	127.3
77	14号住居	剥片系石器	打製石斧	54	10	48	黒色頁岩	3.4	4.3	32.0
78	14号住居	剥片系石器	打製石斧	54	11	48	変質安山岩	8.8	5.6	124.7
79	14号住居	剥片系石器	打製石斧	54	12	48	黒色頁岩	6.9	5.2	82.3
80	14号住居	剥片系石器	打製石斧	54	13	48	黒色頁岩	7.5	4.3	47.1
81	14号住居	剥片系石器	打製石斧	54	14	48	黒色頁岩	6.2	5.1	42.4
82	14号住居	礫石器	砥石	54	15	48	牛伏砂岩	6.4	4.6	38.0
83	14号住居	礫石器	敲石	54	16	48	黒色頁岩	11.2	4.0	193.0
84	14号住居	礫石器	凹石	54	17	48	粗粒輝石安山岩	10.1	7.4	451.0
85	14号住居	礫石器	凹石	54	18	48	文象斑岩	10.4	6.0	316.0
86	14号住居	礫石器	磨石	54	19	48	粗粒輝石安山岩	14.3	7.5	795.0
87	14号住居	礫石器	多孔石	54	20	48	粗粒輝石安山岩	13.3	17.6	2,191.0
89	15号住居	剥片系石器	石鏃	58	1	48	黒色頁岩	2.3	1.5	0.7
90	15号住居	剥片系石器	石鏃	58	2	48	チャート	1.8	1.7	0.7
91	15号住居	剥片系石器	石槍	58	3	48	硬質頁岩	3.7	2.1	4.5
92	15号住居	剥片系石器	石匙	58	4	48	黒色頁岩	4.0	5.5	19.6
93	15号住居	剥片系石器	石鏃	58	5	48	チャート	3.9	2.0	7.0
94	15号住居	剥片系石器	打製石斧	58	6	48	珪質頁岩	5.2	5.2	38.9
95	15号住居	剥片系石器	削器	58	7		黒色頁岩	5.0	3.6	11.8
96	15号住居	剥片系石器	使用痕ある剥片	58	8	48	黒色頁岩	7.8	3.8	22.4
97	15号住居	剥片系石器	磨製石斧	58	9	48	変玄武岩	6.2	3.3	28.0
98	15号住居	剥片系石器	打製石斧	58	10	48	黒色頁岩	7.6	4.2	61.9
99	15号住居	剥片系石器	打製石斧	58	11	48	黒色頁岩	7.7	4.7	47.9
100	15号住居	剥片系石器	打製石斧	58	12	49	黒色頁岩	6.0	5.0	56.0

第67表 縄文時代石器観察表（3）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
101	15号住居	礫石器	磨石	58	13	49	デイライト質凝灰岩	7.1	5.5	174.0
102	15号住居	礫石器	磨石	58	14	49	粗粒輝石安山岩	11.4	8.3	731.0
103	15号住居	礫石器	磨石	58	15	49	粗粒輝石安山岩	7.8	6.7	338.0
104	15号住居	礫石器	磨石	58	16	49	粗粒輝石安山岩	7.0	5.9	209.0
105	15号住居	礫石器	凹石	58	17	49	粗粒輝石安山岩	11.1	10.0	745.0
106	15号住居	礫石器	凹石	58	18	49	粗粒輝石安山岩	13.1	6.9	489.0
107	15号住居	礫石器	凹石	58	19	49	粗粒輝石安山岩	10.2	6.9	495.0
108	15号住居	礫石器	敲石	58	20	49	粗粒輝石安山岩	8.7	7.0	377.0
109	15号住居	礫石器	敲石	58	21	49	黒色頁岩	7.8	6.2	282.0
110	15号住居	礫石器	敲石	58	22	49	灰色安山岩	5.3	7.8	111.4
111	15号住居	礫石器	台石	58	23	49	粗粒輝石安山岩	22.8	11.4	216.9
112	15号住居	石製品	珠状耳飾り	58	24	49	滑石	5.3	5.8	37.7
113	18号住居	剥片系石器	石鏃	64	1	50	チャート	2.8	2.1	2.8
114	18号住居	剥片系石器	楔形石器	64	2	50	黒色頁岩	4.1	1.3	2.9
115	18号住居	剥片系石器	楔形石器	64	3	50	チャート	3.0	2.6	10.3
116	18号住居	剥片系石器	削器	64	4	50	黒色頁岩	5.5	6.5	70.2
117	18号住居	剥片系石器	磨製石斧	64	5	50	変玄武岩	11.1	5.0	125.0
118	18号住居	礫石器	凹石	64	6	50	細粒輝石安山岩	9.3	6.9	340.0
119	18号住居	礫石器	敲石	64	7	50	黒色頁岩	7.0	6.9	226.0
120	19号住居	剥片系石器	石鏃	69	1	51	チャート	1.6	1.3	0.4
121	19号住居	剥片系石器	石匙	69	2	51	黒色安山岩	4.3	6.5	24.1
122	19号住居	剥片系石器	削器	69	3	51	黒色頁岩	9.4	6.4	101.8
123	19号住居	剥片系石器	削器	69	4	51	黒色安山岩	8.5	5.1	135.3
124	19号住居	剥片系石器	打製石斧	69	5	51	ホルンフェルス	9.5	5.9	79.3
125	19号住居	剥片系石器	打製石斧	69	6	51	黒色頁岩	4.4	2.8	13.1
126	19号住居	剥片系石器	打製石斧	69	7	51	黒色頁岩	7.0	3.9	48.4
127	19号住居	剥片系石器	打製石斧	69	8	51	黒色頁岩	7.3	5.0	62.2
128	19号住居	剥片系石器	磨製石斧	69	9	51	変質蛇紋岩	4.9	2.1	10.7
129	19号住居	礫石器	磨石	69	10	51	細粒輝石安山岩	5.8	8.1	259.0
130	19号住居	礫石器	敲石	69	11	51	黒色安山岩	6.2	4.9	100.0
131	19号住居	礫石器	敲石	69	12	51	黒色安山岩	6.9	5.0	96.5
132	19号住居	礫石器	敲石	69	13	51	珪質頁岩	15.1	6.8	689.0
133	19号住居	礫石器	台石	69	14	51	石英閃緑岩	20.4	10.0	2,050.0
134	20号住居	剥片系石器	石鏃	72	1	52	黒色頁岩	2.5	1.9	1.9
135	20号住居	剥片系石器	石鏃	72	2	52	黒色頁岩	4.1	1.3	3.7
136	20号住居	剥片系石器	石鏃	72	3	52	黒色頁岩	4.3	2.2	3.8
137	20号住居	剥片系石器	石鏃	72	4	52	黒色安山岩	2.6	2.3	3.4
138	20号住居	剥片系石器	加工痕ある剥片	72	5	52	黒色頁岩	4.4	2.5	8.2
139	20号住居	剥片系石器	打製石斧	72	6	52	黒色頁岩	10.6	5.7	91.9
140	20号住居	剥片系石器	打製石斧	72	7	52	細粒輝石安山岩	9.6	5.2	101.3
141	20号住居	剥片系石器	打製石斧	72	8	52	黒色頁岩	6.8	5.0	56.8
142	20号住居	礫石器	磨石	72	9	52	粗粒輝石安山岩	9.0	6.7	200.2
143	20号住居	礫石器	凹石	72	10	52	デイライト質凝灰岩	8.8	7.1	294.0
144	20号住居	礫石器	敲石	72	11	52	黒色安山岩	10.4	6.3	442.0
145	20号住居	礫石器	石皿	72	12	52	粗粒輝石安山岩	12.0	7.7	388.0
146	20号住居	礫石器	石皿	72	13	52	粗粒輝石安山岩	22.5	10.5	1,000.0
147	20号住居	礫石器	石皿	72	14	52	緑色片岩	16.6	9.0	367.0
148	20号住居	礫石器	多孔石	72	15	52	粗粒輝石安山岩	21.4	21.6	7,776.0
149	23号住居	剥片系石器	石鏃	80	1	54	黒曜石	1.8	1.7	0.5
150	23号住居	剥片系石器	石鏃	80	2	54	チャート	2.5	1.8	2.0

第68表 縄文時代石器観察表（4）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
151	23号住居	剥片系石器	石鏃	80	3	54	チャート	2.5	1.9	2.4
152	23号住居	剥片系石器	石鏃	80	4	54	チャート	3.4	2.8	8.4
153	23号住居	剥片系石器	削器	80	5	54	黒色頁岩	3.5	2.2	5.5
154	23号住居	剥片系石器	打製石斧	80	6	54	黒色頁岩	9.4	4.5	88.7
155	23号住居	剥片系石器	打製石斧	80	7	54	粗粒輝石安山岩	9.1	4.8	76.2
156	23号住居	剥片系石器	打製石斧	80	8	55	黒色頁岩	5.2	3.8	34.1
157	23号住居	剥片系石器	打製石斧	81	9	55	黒色頁岩	11.0	5.8	83.0
158	23号住居	剥片系石器	磨製石斧	81	10	55	変玄武岩	15.3	5.5	353.0
159	23号住居	剥片系石器	スタンプ形石器	81	11	55	粗粒輝石安山岩	12.2	5.7	535.0
160	23号住居	礫石器	敲石	81	12	55	黒色安山岩	5.6	4.9	153.5
161	23号住居	礫石器	凹石	81	13	55	粗粒輝石安山岩	11.5	10.5	1,040.0
162	23号住居	礫石器	凹石	81	14	55	粗粒輝石安山岩	10.7	8.4	570.0
163	23号住居	礫石器	凹石	81	15	55	粗粒輝石安山岩	10.0	8.8	400.0
164	23号住居	礫石器	磨石	81	16	55	ひん岩	9.0	6.6	389.0
165	23号住居	礫石器	石皿	81	17	55	粗粒輝石安山岩	21.8	18.8	3,000.0
166	23号住居	礫石器	台石	81	18	55	粗粒輝石安山岩	20.4	13.5	3,674.0
167	23号住居	礫石器	多孔石	81	19	55	粗粒輝石安山岩	18.6	22.4	4,440.0
168	23号住居	礫石器	多孔石	81	20	55	粗粒輝石安山岩	51.8	37.0	15,635.0
169	25号住居	剥片系石器	石匙	88	1	57	チャート	2.3	3.2	5.8
170	25号住居	剥片系石器	石鏃	88	2	57	チャート	2.8	1.6	1.0
171	25号住居	剥片系石器	石核	88	3	57	黒色安山岩	6.6	8.0	206.9
172	25号住居	剥片系石器	石核	88	4	57	黒色安山岩	6.7	7.1	308.0
173	25号住居	剥片系石器	打製石斧	88	5	57	粗粒輝石安山岩	5.2	3.8	26.8
174	25号住居	剥片系石器	打製石斧	88	6	57	黒色頁岩	8.1	6.9	127.6
175	25号住居	剥片系石器	打製石斧	88	7	57	灰色安山岩	6.6	7.9	122.4
176	25号住居	剥片系石器	打製石斧	88	8	57	灰色安山岩	7.1	4.8	83.8
177	25号住居	剥片系石器	打製石斧	88	9	57	黒色頁岩	12.3	5.7	134.6
178	25号住居	剥片系石器	磨製石斧	88	10	57	変玄武岩	11.3	4.5	209.5
179	25号住居	礫石器	敲石	88	11	57	ホルンフェルス	12.6	4.6	282.0
180	25号住居	礫石器	敲石	89	12	57	変質玄武岩	7.7	5.5	270.0
181	25号住居	礫石器	凹石	89	13	57	粗粒輝石安山岩	9.4	6.4	295.0
182	25号住居	礫石器	磨石	89	14	57	石英閃緑岩	9.8	8.4	453.0
183	25号住居	礫石器	砥石	89	15	57	牛伏砂岩	7.8	6.4	104.4
184	25号住居	礫石器	石皿	89	16	57	粗粒輝石安山岩	18.2	13.8	1,392.0
185	25号住居	礫石器	砥石	89	17	57	粗粒輝石安山岩	29.8	17.2	5,585.0
186	25号住居	礫石器	多孔石	89	18	57	粗粒輝石安山岩	20.6	13.1	2,875.0
187	25号住居	石製品	珠状耳飾り	89	19	57	粗粒石英質岩	4.3	2.4	10.7
188	31号住居	剥片系石器	石鏃	92	13	58	黒曜石	2.5	1.4	0.6
189	31号住居	剥片系石器	打製石斧	92	14	58	粗粒輝石安山岩	8.6	4.0	59.8
190	31号住居	剥片系石器	打製石斧	92	15	58	灰色安山岩	9.8	3.8	94.7
191	31号住居	剥片系石器	打製石斧	92	16	58	黒色頁岩	10.0	6.3	77.4
192	31号住居	剥片系石器	削器	92	17	58	珪質頁岩	5.1	9.2	64.2
193	31号住居	剥片系石器	打製石斧	92	18	58	黒色頁岩	11.3	9.3	269.0
194	31号住居	剥片系石器	磨製石斧	92	19	58	変玄武岩	9.4	5.8	240.0
195	31号住居	礫石器	凹石	92	20	58	粗粒輝石安山岩	9.4	7.7	548.0
196	03号土坑	剥片系石器	磨製石斧	115	1	58	変玄武岩	15.1	7.1	738.0
197	05号土坑	剥片系石器	石匙	115	4	58	チャート	4.3	2.3	6.1
198	07号土坑	剥片系石器	石核	115	5	58	黒色安山岩	7.3	6.6	312.0
199	11号土坑	礫石器	台石	115	6	58	粗粒輝石安山岩	34.1	26.3	4,595.0
200	11号土坑	礫石器	磨石	115	7	58	粗粒輝石安山岩	8.7	5.8	248.0

第69表 縄文時代石器観察表（5）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
201	16号土坑	剥片系石器	石錐	115	11	58	チャート	2.8	1.7	1.3
202	16号土坑	剥片系石器	削器	115	12	58	黒色頁岩	6.8	5.9	77.0
203	16号土坑	剥片系石器	打製石斧	115	13	58	黒色頁岩	3.4	2.9	12.8
204	16号土坑	石製品	玦状耳飾り	115	14	58	滑石	2.9	2.8	6.7
205	17号土坑	剥片系石器	石錐	116	4	58	黒色安山岩	2.8	1.9	3.8
206	17号土坑	剥片系石器	削器	116	5	58	黒色頁岩	5.3	6.4	21.7
207	17号土坑	礫石器	敲石	116	6	58	黒色頁岩	8.9	7.2	337.0
208	17号土坑	礫石器	多孔石	116	7	58	粗粒輝石安山岩	14.1	11.7	1,333.0
209	18号土坑	剥片系石器	打製石斧	116	9	59	黒色頁岩	5.7	5.6	48.1
210	21号土坑	剥片系石器	削器	117	3	59	黒色安山岩	6.5	4.0	32.1
211	21号土坑	礫石器	凹石	117	4	59	粗粒輝石安山岩	9.9	6.5	290.0
212	22号土坑	石製品	垂飾	117	5	59	葉ろう石	3.1	1.5	4.2
213	22号土坑	礫石器	多孔石	117	6	59	粗粒輝石安山岩	10.2	11.1	537.0
214	41号土坑	剥片系石器	打製石斧	117	12	59	黒色片岩	11.8	5.5	137.8
215	44号土坑	剥片系石器	石鏃	118	4	60	黒色安山岩	2.9	2.4	5.4
216	44号土坑	剥片系石器	石鏃	118	5	60	黒色安山岩	3.1	2.3	4.5
217	44号土坑	剥片系石器	石鏃	118	6	60	チャート	2.1	1.7	0.8
218	44号土坑	剥片系石器	石鏃	118	7	60	黒色安山岩	1.9	1.2	0.5
219	44号土坑	剥片系石器	石錐	118	8	60	黒色頁岩	4.0	1.6	2.8
220	44号土坑	剥片系石器	石匙	118	9	60	細粒輝石安山岩	3.1	2.5	1.5
221	44号土坑	剥片系石器	打製石斧	118	10	60	粗粒輝石安山岩	5.3	4.5	37.5
222	44号土坑	礫石器	敲石	118	11	60	黒色頁岩	5.0	7.3	110.5
223	44号土坑	礫石器	敲石	118	12	60	珪質頁岩	7.4	5.5	127.8
224	44号土坑	礫石器	凹石	118	13	60	粗粒輝石安山岩	10.1	8.5	614.0
227	46号土坑	剥片系石器	石鏃	118	15	60	黒色頁岩	2.1	1.6	0.9
228	46号土坑	剥片系石器	石錐	118	16	60	黒色安山岩	4.1	2.1	2.3
229	46号土坑	剥片系石器	打製石斧	118	17	60	粗粒輝石安山岩	10.9	8.5	373.0
225	46号土坑	礫石器	凹石	119	1	60	粗粒輝石安山岩	9.9	6.5	338.0
226	46号土坑	礫石器	多孔石	119	2	60	粗粒輝石安山岩	17.3	20.4	1,993.0
230	48号土坑	剥片系石器	打製石斧	119	7	60	黒色頁岩	3.5	4.3	29.7
231	56号土坑	剥片系石器	石鏃	119	11	60	チャート	2.2	1.6	1.2
232	57号土坑	剥片系石器	石鏃	120	4	61	チャート	1.8	1.7	0.6
233	57号土坑	剥片系石器	石鏃	120	5	61	黒色頁岩	1.3	1.3	1.1
236	78号土坑	剥片系石器	打製石斧	120	14	61	黒色頁岩	6.9	4.4	67.3
237	78号土坑	剥片系石器	打製石斧	120	15	61	黒色頁岩	4.9	4.7	35.3
234	78号土坑	剥片系石器	打製石斧	121	1	61	雲母石英片岩	20.9	5.5	299.0
235	78号土坑	礫石器	敲石	121	2	61	ひん岩	16.1	6.1	564.0
238	88号土坑	礫石器	敲石	121	10	61	黒色頁岩	3.6	4.6	23.0
239	93号土坑	剥片系石器	打製石斧	121	12	61	黒色頁岩	7.7	5.6	75.5
240	94号土坑	剥片系石器	石錐	121	13	61	黒色頁岩	4.2	2.8	5.3
241	94号土坑	礫石器	磨石	121	14	61	粗粒輝石安山岩	13.6	8.4	1,003.0
242	112号土坑	礫石器	石皿	122	8	62	粗粒輝石安山岩	9.6	8.4	315.0
243	133号土坑	礫石器	磨石	123	2	62	流紋岩	12.8	9.4	646.0
244	141号土坑	礫石器	凹石	123	15	63	粗粒輝石安山岩	14.9	8.8	742.0
245	143号土坑	剥片系石器	石鏃	124	3	63	チャート	2.3	2.3	2.2
246	146号土坑	剥片系石器	石鏃	124	10	63	黒色安山岩	3.1	1.7	3.6
247	146号土坑	剥片系石器	打製石斧	124	11	63	黒色頁岩	6.6	4.6	38.9
248	156号土坑	剥片系石器	打製石斧	124	14	63	黒色頁岩	5.5	3.7	32.6
249	169号土坑	礫石器	敲石	125	5	64	黒色頁岩	9.7	8.8	218.3
250	170号土坑	剥片系石器	打製石斧	125	11	64	黒色頁岩	3.3	4.0	13.8

第70表 縄文時代石器観察表（6）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL.	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
251	174号土坑	礫石器	磨石	125	13	64	粗粒輝石安山岩	12.0	10.2	840.0
252	174号土坑	礫石器	磨石	125	14	64	粗粒輝石安山岩	12.0	8.3	762.0
253	187号土坑	剥片系石器	石鏃	125	20	64	黒曜石	1.9	1.2	0.5
254	187号土坑	礫石器	凹石	125	21	64	粗粒輝石安山岩	10.4	7.2	470.0
255	188号土坑	剥片系石器	削器	126	15	64	黒色頁岩	7.7	4.2	40.2
256	188号土坑	礫石器	凹石	126	16	64	粗粒輝石安山岩	9.3	6.7	340.0
257	197号土坑	礫石器	石皿	127	12	65	粗粒輝石安山岩	18.7	8.7	869.0
258	197号土坑	礫石器	凹石	127	13	65	ひん岩	9.1	7.2	398.0
259	198号土坑	礫石器	凹石	127	15	65	粗粒輝石安山岩	8.5	7.3	393.0
260	199号土坑	剥片系石器	打製石斧	128	2	65	黒色頁岩	7.8	5.0	58.0
261	199号土坑	礫石器	敲石	128	3	65	変質安山岩	12.0	5.5	315.0
262	203号土坑	剥片系石器	磨製石斧	128	7	65	雲母石英片岩	7.1	4.0	54.0
263	206号土坑	剥片系石器	打製石斧	128	11	66	珪質頁岩	6.3	4.4	74.1
264	207号土坑	礫石器	台石	128	15	66	粗粒輝石安山岩	17.1	13.5	1,681.0
265	遺物集中部	剥片系石器	石鏃	135	1	66	チャート	2.6	1.4	1.1
266	遺物集中部	剥片系石器	石鏃	135	2	66	チャート	2.8	1.5	1.0
267	遺物集中部	剥片系石器	石鏃	135	3	66	チャート	2.5	1.6	2.9
268	遺物集中部	剥片系石器	石鏃	135	4	66	チャート	3.2	3.0	8.0
269	遺物集中部	剥片系石器	石鏃	135	5	66	チャート	3.6	2.5	7.6
270	遺物集中部	剥片系石器	楔形石器	135	6	66	チャート	2.4	3.5	8.3
271	遺物集中部	剥片系石器	楔形石器	135	7	66	チャート	2.9	2.1	6.2
272	遺物集中部	剥片系石器	石核	135	8	66	黒曜石	1.8	2.1	3.6
273	遺物集中部	剥片系石器	石核	135	9	66	チャート	2.5	3.3	9.3
274	遺物集中部	剥片系石器	石核	135	10	66	黒色安山岩	8.6	5.9	325.0
275	遺物集中部	剥片系石器	石核	135	11	66	黒色頁岩	7.2	8.1	200.9
276	遺物集中部	剥片系石器	石核	135	12	66	黒曜石	1.4	2.1	4.9
277	遺物集中部	剥片系石器	石核	135	13	66	チャート	3.3	3.1	10.9
278	遺物集中部	剥片系石器	削器	135	14	67	黒色頁岩	8.3	5.6	87.4
279	遺物集中部	剥片系石器	削器	135	15	67	黒色頁岩	3.6	8.0	30.3
280	遺物集中部	剥片系石器	削器	135	16	67	チャート	3.1	2.6	10.5
281	遺物集中部	剥片系石器	打製石斧	135	17	67	黒色頁岩	4.8	3.8	36.6
282	遺物集中部	剥片系石器	打製石斧	135	18	67	細粒輝石安山岩	4.7	4.5	50.7
283	遺物集中部	剥片系石器	打製石斧	135	19	67	黒色頁岩	8.2	6.9	107.0
284	遺物集中部	剥片系石器	削器	135	20	67	黒色頁岩	9.8	6.6	285.0
285	遺物集中部	剥片系石器	打製石斧	135	21	67	黒色頁岩	10.7	5.5	101.1
286	遺物集中部	礫石器	磨石	135	22	67	粗粒輝石安山岩	7.8	7.0	350.0
287	遺物集中部	礫石器	磨石	135	23	67	灰色安山岩	7.3	3.3	81.7
288	遺物集中部	剥片系石器	打製石斧	135	24	67	粗粒輝石安山岩	16.6	11.3	1,020.0
289	遺物集中部	剥片系石器	打製石斧	135	25	67	黒色頁岩	10.5	5.1	150.3
290	遺物集中部	石製品	石製品	135	26	67	緑色片岩	13.4	3.0	66.5
291	遺物集中部	礫石器	砥石	135	27	67	牛伏砂岩	8.1	6.1	166.8
292	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	1	71	チャート	2.4	1.4	1.0
293	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	2	71	黒色頁岩	3.0	1.9	3.0
294	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	3	71	黒色安山岩	2.1	1.3	1.3
295	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	4	71	黒色頁岩	2.2	1.5	1.1
296	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	5	71	黒色安山岩	2.5	1.9	1.1
297	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	6	71	チャート	2.7	1.4	1.0
298	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	7	71	黒曜石	2.1	2.0	0.7
299	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	8	71	チャート	1.5	1.4	0.3
300	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	9	71	黒色頁岩	2.0	1.5	0.5

第71表 縄文時代石器観察表（7）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
301	縄文包含層	剥片系石器	石鏃	142	10	71	黒色頁岩	3.2	1.9	1.7
302	縄文包含層	剥片系石器	石槍	142	11	71	珪質頁岩	6.3	2.7	11.6
303	縄文包含層	剥片系石器	石匙	142	12	71	チャート	7.2	3.1	30.0
304	縄文包含層	剥片系石器	石匙	142	13	71	黒色安山岩	8.1	2.3	14.5
305	縄文包含層	剥片系石器	石匙	142	14	71	チャート	3.7	4.3	7.7
306	縄文包含層	剥片系石器	石匙	142	15	71	黒色頁岩	4.2	3.7	9.7
307	縄文包含層	剥片系石器	石匙	142	16	71	チャート	1.3	4.6	3.2
308	縄文包含層	剥片系石器	石錐	142	17	71	黒色頁岩	8.3	3.7	28.9
309	縄文包含層	剥片系石器	石錐	142	18	71	チャート	4.2	3.2	9.1
310	縄文包含層	剥片系石器	楔形石器	142	19	71	チャート	3.0	2.6	7.1
311	縄文包含層	剥片系石器	加工痕ある剥片	142	20	71	黒色頁岩	4.5	4.9	48.9
312	縄文包含層	剥片系石器	石核	142	21	71	黒色安山岩	5.0	5.7	132.5
313	縄文包含層	剥片系石器	石核	142	22	71	チャート	3.3	4.2	20.4
314	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	23	71	黒曜石	3.3	2.1	14.0
315	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	24	71	黒色安山岩	6.5	5.4	139.0
316	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	25	71	チャート	3.7	4.1	23.2
317	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	26	71	黒色安山岩	7.4	6.8	172.5
318	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	27	71	黒色頁岩	4.8	10.6	281.0
319	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	28	71	黒色頁岩	6.1	9.3	708.0
320	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	29	71	黒色頁岩	7.6	7.1	140.2
321	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	30	71	黒色頁岩	8.2	5.2	119.8
322	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	31	71	黒色安山岩	4.2	6.2	133.4
323	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	32	71	黒色安山岩	5.3	8.7	111.5
324	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	33	71	黒色安山岩	7.0	6.4	171.3
325	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	34	71	黒曜石	2.9	3.0	16.3
326	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	35	71	黒色安山岩	8.0	11.3	612.0
327	縄文包含層	剥片系石器	石核	143	36	71	黒色安山岩	6.3	5.9	115.9
328	縄文包含層	剥片系石器	加工痕ある剥片	143	37	71	緑色片岩	9.5	4.4	65.7
329	縄文包含層	剥片系石器	加工痕ある剥片	143	38	71	黒色頁岩	11.0	13.0	653.0
330	縄文包含層	剥片系石器	加工痕ある剥片	144	39	71	灰色安山岩	9.3	8.4	190.0
331	縄文包含層	剥片系石器	削器	144	40	71	黒色頁岩	8.2	5.0	43.9
332	縄文包含層	剥片系石器	削器	144	41	71	黒色頁岩	7.7	4.9	81.7
333	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	42	71	緑色片岩	7.3	2.9	43.4
334	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	43	71	黒色頁岩	6.5	4.4	39.7
335	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	44	71	黒色頁岩	6.3	4.7	47.3
336	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	45	71	黒色頁岩	6.8	4.8	37.4
337	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	46	71	雲母石英片岩	10.7	4.7	93.3
338	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	47	72	緑色片岩	7.9	4.5	69.6
339	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	48	72	黒色頁岩	7.3	5.2	46.6
340	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	49	72	黒色頁岩	5.1	3.7	21.5
341	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	50	72	黒色頁岩	9.2	4.1	75.0
342	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	51	72	黒色頁岩	8.8	4.6	66.9
343	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	52	72	黒色頁岩	9.0	4.2	52.4
344	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	53	72	黒色頁岩	10.9	4.9	86.4
345	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	54	72	黒色頁岩	10.8	5.0	103.0
346	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	144	55	72	黒色頁岩	10.1	5.1	78.9
347	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	56	72	黒色頁岩	9.1	5.9	75.5
348	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	57	72	黒色頁岩	7.5	6.6	114.3
349	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	58	72	黒色頁岩	9.1	4.7	145.9
350	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	59	72	黒色頁岩	10.3	5.5	85.2

第72表 縄文時代石器観察表（8）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
351	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	60	72	黒色頁岩	9.3	5.3	76.1
352	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	61	72	黒色頁岩	9.4	5.5	96.7
353	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	62	72	黒色頁岩	10.7	5.0	105.4
354	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	63	72	珪質頁岩	12.0	5.6	212.7
355	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	64	72	ホルンフェルス	10.4	4.6	113.5
356	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	65	72	灰色安山岩	14.9	6.9	254.0
357	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	66	72	細粒輝石安山岩	13.9	5.0	202.1
358	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	145	67	72	黒色頁岩	12.2	5.4	110.0
359	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	68	72	黒色頁岩	8.9	5.4	76.0
360	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	69	72	黒色頁岩	9.1	4.5	49.4
361	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	70	72	黒色頁岩	9.2	5.3	105.6
362	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	71	72	黒色頁岩	9.0	5.3	113.5
363	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	72	72	黒色頁岩	8.3	4.6	104.8
364	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	73	72	黒色頁岩	9.8	5.2	80.2
365	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	74	72	黒色頁岩	9.1	5.8	125.0
366	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	75	72	黒色頁岩	9.6	4.6	76.1
367	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	76	72	黒色頁岩	10.0	6.9	139.1
368	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	77	72	灰色安山岩	10.2	6.3	131.5
369	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	78	72	緑色片岩	9.2	4.9	74.1
370	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	146	79	72	黒色頁岩	10.5	7.9	134.2
371	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	80	72	灰色安山岩	10.8	5.8	171.4
372	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	81	72	黒色頁岩	10.3	4.7	86.3
373	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	82	72	珪質頁岩	10.2	5.3	141.0
374	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	83	72	細粒輝石安山岩	7.2	5.7	67.4
375	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	84	72	粗粒輝石安山岩	8.2	6.0	64.7
376	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	85	72	緑色片岩	7.3	5.3	51.1
377	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	86	72	黒色頁岩	11.5	7.9	158.7
378	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	87	72	黒色頁岩	11.0	8.3	264.0
379	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	88	73	黒色頁岩	17.4	8.0	556.0
380	縄文包含層	剥片系石器	打製石斧	147	89	73	黒色頁岩	15.4	9.2	415.0
381	縄文包含層	剥片系石器	磨製石斧	148	90	73	変玄武岩	14.3	4.8	257.0
382	縄文包含層	剥片系石器	磨製石斧	148	91	73	変玄武岩	9.0	4.4	59.0
383	縄文包含層	剥片系石器	磨製石斧	148	92	73	変玄武岩	9.3	2.7	37.0
384	縄文包含層	剥片系石器	磨製石斧	148	93	73	変質蛇紋岩	4.1	2.3	13.1
385	縄文包含層	剥片系石器	磨製石斧	148	94	73	ひん岩	9.0	5.4	243.0
386	縄文包含層	礫石器	磨石	148	95	73	粗粒輝石安山岩	8.7	9.2	480.0
387	縄文包含層	礫石器	磨石	148	96	73	粗粒輝石安山岩	9.7	7.6	497.0
388	縄文包含層	礫石器	磨石	148	97	73	粗粒輝石安山岩	9.9	9.3	465.0
389	縄文包含層	礫石器	磨石	148	98	73	溶結凝灰岩	9.3	8.8	390.0
390	縄文包含層	礫石器	磨石	148	99	73	粗粒輝石安山岩	12.0	7.0	290.0
391	縄文包含層	礫石器	磨石	148	100	73	粗粒輝石安山岩	14.0	11.6	832.0
392	縄文包含層	礫石器	磨石	148	101	73	粗粒輝石安山岩	16.2	6.1	696.0
393	縄文包含層	礫石器	磨石	148	102	73	粗粒輝石安山岩	14.7	9.8	1,022.0
394	縄文包含層	礫石器	凹石	148	103	73	粗粒輝石安山岩	14.2	9.2	880.0
395	縄文包含層	礫石器	凹石	149	104	73	粗粒輝石安山岩	11.7	8.2	520.0
396	縄文包含層	礫石器	凹石	149	105	73	粗粒輝石安山岩	10.6	6.8	472.0
397	縄文包含層	礫石器	凹石	149	106	73	粗粒輝石安山岩	11.3	6.1	278.0
398	縄文包含層	礫石器	凹石	149	107	73	粗粒輝石安山岩	13.0	6.4	471.0
399	縄文包含層	礫石器	凹石	149	108	73	粗粒輝石安山岩	10.1	8.0	522.0
400	縄文包含層	礫石器	凹石	149	109	73	粗粒輝石安山岩	10.6	6.8	520.0

第73表 縄文時代石器観察表（9）

No.	遺構名	分類	器種	図版 No	遺物 No	PL	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)
401	縄文包含層	礫石器	凹石	149	110	73	粗粒輝石安山岩	10.8	12.0	799.0
402	縄文包含層	礫石器	凹石	149	111	73	石英閃緑岩	9.8	7.8	558.0
403	縄文包含層	礫石器	凹石	149	112	73	粗粒輝石安山岩	9.6	9.0	525.0
404	縄文包含層	礫石器	凹石	149	113	73	閃緑岩	8.5	6.8	298.0
405	縄文包含層	礫石器	凹石	149	114	73	粗粒輝石安山岩	8.8	7.8	402.0
406	縄文包含層	礫石器	凹石	149	115	73	粗粒輝石安山岩	8.8	7.1	414.0
407	縄文包含層	礫石器	凹石	149	116	73	粗粒輝石安山岩	13.5	6.2	458.0
408	縄文包含層	礫石器	敲石	149	117	73	粗粒輝石安山岩	11.3	4.9	258.0
409	縄文包含層	礫石器	敲石	149	118	73	砂岩	9.7	3.0	80.0
410	縄文包含層	礫石器	敲石	149	119	73	変質安山岩	12.9	4.0	257.0
411	縄文包含層	礫石器	敲石	149	120	74	灰色安山岩	13.3	6.9	730.0
412	縄文包含層	礫石器	敲石	149	121	74	黒色頁岩	7.7	4.4	144.5
413	縄文包含層	礫石器	敲石	149	122	74	黒色安山岩	7.1	4.3	90.0
414	縄文包含層	礫石器	敲石	149	123	74	黒色頁岩	7.4	6.2	99.8
415	縄文包含層	礫石器	敲石	149	124	74	変質玄武岩	8.5	6.7	265.0
416	縄文包含層	礫石器	石皿	150	125	74	粗粒輝石安山岩	14.6	17.8	1,380.0
417	縄文包含層	礫石器	石皿	150	126	74	粗粒輝石安山岩	26.5	17.6	2,280.0
418	縄文包含層	礫石器	石皿	150	127	74	細粒輝石安山岩	35.0	25.0	10,820.0
419	縄文包含層	礫石器	多孔石	150	128	74	細粒輝石安山岩	34.4	21.7	15,760.0
420	縄文包含層	礫石器	多孔石	150	129	74	細粒輝石安山岩	26.4	20.0	6,056.0
421	縄文包含層	礫石器	多孔石	150	130	74	細粒輝石安山岩	33.4	19.0	10,650.0
422	縄文包含層	礫石器	多孔石	150	131	74	細粒輝石安山岩	20.5	16.2	3,850.0
423	縄文包含層	石製品	石製品	150	132	74	粗粒輝石安山岩	9.5	8.8	348.0
424	縄文包含層	石製品	玦状耳飾り	150	133	74	滑石	1.9	2.2	30.3
425	遺構外	石製品	石製品	150	134	74	滑石	2.1	1.8	4.3

第74表 奈良時代以降土器観察表(1)

No	遺構	種別	器種	図版No	遺物No	PL	残存率	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調表	色調記号	色調裏	色調記号	焼成	胎土	調整	備考
1	2号住居	須恵器	坏	155	1	92	口縁部	(13.4)	—	[3.3]	橙	7.5YR6/6	黒	5YR1.7/1	酸化焰 良好	中 細砂・粗砂少量混	口ウ調整 内面黒色処理	
2	2号住居	須恵器	坏	155	2	92	口縁部~底部1/3	(13.0)	(8.0)	3.5	灰	5Y6/1	灰	5Y6/1	還元焰 良好	細 黒色細粒・パミス中量混	口ウ調整右回転 底部回転系切り後ナデか?	
3	2号住居	須恵器	坏	155	3	92	口縁部~底部1/8	(13.0)	(8.8)	3.6	オリーブ黒	5Y3/1	黄灰	2.5Y6/1	還元焰 良好	細 灰褐色パミス中量・細砂微量混	口ウ調整	
4	2号住居	土師器	壺	155	4	92	胴部下半~底部1/3	—	4.6	[9.4]	明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/8	酸化焰 やや良	中 細砂多量・粗砂少量混	胴部~底部外面篋削り内面ナデ	
5	4号住居	土師器	坏	158	1	92	口縁部~底部1/3	(12.4)	(10.8)	2.8	にぶい褐	7.5YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂中量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り 内面ナデ	
6	4号住居	土師器	坏	158	2	92	口縁部~底部1/8	(14.0)	—	[3.5]	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂微量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り 内面ナデ	
7	4号住居	須恵器	坏	158	3	92	口縁部~底部2/3	13.7	10.2	3.5	灰	5Y6/1	灰	5Y6/1	還元焰 良好	細 白色細粒多量粗砂・長石粒少量混	口ウ調整右回転 底部回転系切り後ナデか?	
8	4号住居	須恵器	坏	158	4	92	口縁部~底部1/5	(12.6)	(8.0)	3.8	灰	5Y5/1	灰	5Y5/1	還元焰 良好	細 黒色粒子中量粗砂・粗砂少量混	口ウ調整右回転? 底部回転系切り後ナデ?	口縁部内面~外面自然釉付着
9	4号住居	須恵器	坏	158	5	92	底部1/3	—	(6.8)	[2.1]	灰	5Y6/1	灰	5Y6/1	還元焰 良好	細 黒色・褐色細粒多量混	口ウ調整右回転 底部回転系切り無調整	体部外面自然釉付着
10	4号住居	須恵器	坏	158	6	92	底部1/4	—	(8.0)	[1.4]	灰	5Y6/1	黄灰	2.5Y6/1	還元焰 良好	細 白色細粒中量混	口ウ調整 底部回転系切り後ナデか?	
11	4号住居	須恵器	平瓶	158	7	92	肩部破片	肩径(23.2)	—	[4.5]	灰黄	2.5Y6/2	黄灰	2.5Y5/1	還元焰 良好	中 細砂・粗砂少量混	口ウ調整 肩部に7本1単位の櫛状工具による刺突文・沈線	
12	4号住居	土師器	壺	158	8	92	口縁部~胴部	22.4	—	[9.8]	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	酸化焰 やや不良	中 細砂多量粗砂少量混	口縁部横ナデ・オサエ 胴部外面篋削り 内面ナデ	
13	5号住居	須恵器	坏	158	9	92	口縁部~底部1/2	(12.4)	(6.2)	3.6	灰	N5/	灰	N5/	還元焰 良好	細 細砂・粗砂・礫・黒色粒子中量混	口ウ調整右回転 底部回転系切り無調整	
14	5号住居	須恵器	坏	158	10	92	口縁部~底部1/3	(12.3)	(6.8)	3.5	灰	N6/	灰	N6/	還元焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口ウ調整右回転 底部回転系切り後ナデか?	
15	5号住居	須恵器	坏	158	11	92	底部1/2	—	(8.0)	[1.1]	灰白	10Y8/1	灰白	10Y8/1	還元焰 普通	細 細砂・粗砂少量混	口ウ調整右回転 底部回転系切り無調整	
16	5号住居	須恵器	蓋	158	12	92	口縁部1/10	(19.6)	—	[1.5]	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/2	酸化焰 普通	細 細砂・粗砂・石英粒・礫少量混	口ウ調整右回転 天井部回転系削り	
17	12号住居	土師器	坏	161	1	92	ほぼ完形	12.5	10.1	3.2	橙	5YR6/8	にぶい橙	7.5YR6/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り・ナデ 内面ナデ	
18	12号住居	土師器	坏	161	2	92	口縁部~体部1/5	(12.0)	(9.4)	[2.6]	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂微量混	口縁部横ナデ 体部外面篋削り・ナデ? 底部外面篋削り 内面ナデ後放射状磨き	
19	12号住居	土師器	坏	161	3	92	口縁部~体部1/4	(11.4)	—	[2.5]	にぶい橙	5YR6/3	にぶい橙	5YR6/3	酸化焰 やや不良	細 細砂・粗砂少量混	器面磨減著しい 口縁部横ナデ 底部外面篋削り内面ナデか?	
20	12号住居	須恵器	坏	161	4	92	完形	12.8	7.2	3.7	灰	5Y6/1	灰	5Y6/1	還元焰 良好	細 細砂・粗砂・長石粒中量混	口ウ調整右回転 底部回転系切り後外周回転系削り	
21	12号住居	須恵器	坏	161	5	92	口縁部~体部1/4	(12.0)	—	[2.6]	灰白	10Y8/1	灰白	10Y8/1	還元焰 やや不良	細 細砂中量 粗砂微量混	口ウ調整右回転	
22	12号住居	土師器	壺	161	6	92	口縁部~胴部1/3	(22.0)	—	[8.0]	橙	5YR6/6	明赤褐	5YR5/6	酸化焰 やや良	中 細砂中量 粗砂微量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	
23	12号住居	土師器	壺	161	7・8	93	口縁部1/3、胴~底部	(26.0)	(6.8)	(36.0)	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい黄褐	10YR5/3	酸化焰 やや良	粗 細砂・粗砂多量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	
24	17号住居	土師器	坏	163	1	93	口縁部~底部1/6	(13.2)	—	[3.7]	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り・ナデ 内面ナデ	
25	17号住居	土師器	坏	163	2	93	口縁部~底部1/6	(12.0)	—	[3.0]	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り? 内面ナデ 外面器面剥落著しい	
26	17号住居	土師器	坏	163	3	93	口縁部~底部1/8	(18.0)	—	[3.0]	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	酸化焰 良好	細 細砂少量混	口縁部横ナデ 体部~底部外面篋削り後ナデ? 内面ナデ・磨き	
27	17号住居	土師器	坏	163	4	93	口縁部~底部1/2	(15.0)	(8.4)	3.0	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR7/3	酸化焰 良好	中 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部~底部外面篋削り 内面篋磨き	
28	17号住居	須恵器	蓋	163	5	93	天井部~体部	—	鈕径7.5	[3.0]	灰	5Y6/1	灰	5Y6/1	還元焰 良好	細 黒色粒子多量・細砂・粗砂・礫少量混	口ウ調整 天井部回転系削り 円形鈕貼付 内面人為的に磨減	
29	17号住居	土師器	壺	163	6	93	口縁部~胴部	13.0	—	[10.1]	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/4	酸化焰 良好	中 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	頸部巻上げ成形
30	17号住居	土師器	小型壺	163	7	93	口縁部~胴部1/2	(10.2)	—	[5.5]	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	酸化焰 良好	中 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 肩部無調整 胴部外面篋削り内面篋ナデ	
31	17号住居	土師器	小型壺	163	8	93	口縁部~胴部1/4	(11.2)	—	[5.4]	にぶい褐	7.5YR5/3	橙	5YR6/6	酸化焰 良好	中 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	
32	17号住居	土師器	壺	163	9	93	口縁部~胴部1/2	(23.5)	—	[25.8]	橙	2.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	酸化焰 やや不良	中 細砂中量粗砂少量混	口縁部横ナデ・オサエ 胴部外面篋削り内面ナデ	
33	17号住居	土師器	壺	163	10	93	口縁部~胴部1/3	(23.4)	—	[11.6]	にぶい橙	5YR6/4	橙	5YR6/6	酸化焰 やや不良	中 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 器面磨減著しい 胴部外面篋削りか? 内面篋ナデ	
34	17号住居	土師器	壺	163	11	93	口縁部~胴部1/5	(22.5)	—	[11.3]	にぶい赤褐	5YR5/3	明赤褐	2.5YR5/6	酸化焰 やや良	中 細砂・粗砂中量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	
35	17号住居	土師器	壺	163	12	93	口縁部~胴部1/2	(11.3)	—	[5.6]	明赤褐	5YR5/6	にぶい橙	7.5YR6/4	酸化焰 やや良	中 細砂・粗砂多量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	

第75表 奈良時代以降土器観察表(2)

No	遺構	種別	器種	図版 No	遺物 No	PL	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	色調表	色調記号	色調裏	色調記号	焼成	胎土	調整	備考
36	21号住居	土師器	坏	165	1	94	口縁部~底部1/3	(14.0)	—	3.4	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂中量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り・ナデ 内面ナデ	
37	21号住居	土師器	坏	165	2	94	口縁部~底部1/2	(12.3)	—	3.4	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	酸化焰 やや良	細 細砂・粗砂中量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り・ナデ 内面ナデ	
38	21号住居	土師器	坏	165	3	94	口縁部~底部1/4	(11.5)	(6.4)	[4.0]	褐灰	10YR4/1	黒	10YR2/1	酸化焰? やや良	中 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ? 体部~底部外面篋削り後ナデ? 内面磨き	
39	21号住居	土師器	壺	165	4	94	口縁部~胴部1/2	(27.0)	—	[22.0]	にぶい赤褐	2.5YR5/4	明褐	7.5YR5/6	酸化焰 やや不良	粗 粗砂極多量・細砂・礫少量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	
40	24号住居	土師器	坏	167	1	94	口縁部~底部1/4	(12.2)	(8.2)	[4.0]	にぶい橙	5YR6/4	にぶい赤褐	5YR5/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂中量混	口縁部横ナデ 体部~底部外面篋削り内面ナデ後放射状磨き	
41	24号住居	土師器	坏	167	2	94	口縁部~底部1/5	(11.0)	—	2.7	橙	5YR6/6	橙	5YR6/8	酸化焰 やや不良	細 細砂多量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り 内面ナデ	
42	24号住居	土師器	壺	167	3	94	胴下部~底部1/2	—	(5.0)	[2.2]	灰褐	7.5YR4/2	にぶい赤褐	5YR5/4	酸化焰 良好	中 細砂・粗砂多量混	胴部~底部外面篋削り内面篋ナデ	
43	26号住居	須恵器	坏	168	1	94	口縁部~体部1/8	(14.0)	—	[2.9]	灰黄	2.5Y6/2	灰オリーブ	5Y6/2	還元焰 良好	細 白色細粒少量 黒色粒子微量混	ロク口調整右回転?	
44	27号住居	土師器	坏	171	1	94	口縁部~底部4/5	12.2	—	3.7	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂中量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り・ナデ 内面ナデ	
45	27号住居	土師器	坏	171	2	94	口縁部~底部1/2	(12.4)	—	3.9	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り後一部分オサエ 内面ナデ	
46	27号住居	土師器	坏	171	3	94	口縁部~底部1/4	(13.6)	—	[2.9]	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面一部分オサエ? 底部外面篋削り 内面ナデ	
47	27号住居	土師器	坏	171	4	94	口縁部~底部1/4	(11.5)	(9.7)	3.2	にぶい橙	7.5YR6/4	橙	7.5YR6/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面一部分オサエ? 底部外面篋削り 内面ナデ	
48	27号住居	土師器	坏	171	5	94	口縁部~底部1/4	(14.0)	(11.8)	3.0	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい橙	7.5YR6/4	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り後ナデ? 内面ナデ	
49	27号住居	土師器	小型坏	171	6	94	口縁部~底部1/2	(5.7)	(5.6)	[3.2]	にぶい橙	5YR6/4	橙	5YR6/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面一部分オサエ? 底部外面篋削り 内面ナデ	
50	27号住居	須恵器	坏	171	7	94	完形	12.8	8.2	3.2	灰	7.5Y6/1	灰白	2.5Y7/1	還元焰 良好	細 白色粒子中量 礫少量混	ロク口調整右回転 底部回転篋切り後ナデ	
51	27号住居	須恵器	坏	171	8	94	口縁部~底部1/3	(14.0)	(9.0)	3.6	灰白	5Y7/2	灰白	5Y7/1	還元焰 良好	細 細砂・粗砂・白色細粒少量混	ロク口調整右回転? 体部下回転篋削り 底部切り離し後ナデか	
52	27号住居	土師器	壺	171	9	94	口縁部~胴部1/4	(21.7)	—	[14.7]	明赤褐	5YR5/8	明赤褐	5YR5/8	酸化焰 やや良	中 細砂多量粗砂少量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	
53	28号住居	土師器	坏	173	1	95	口縁部~底部1/2	(12.0)	—	3.5	にぶい橙	5YR6/4	橙	7.5YR6/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部無調整 底部篋削り内面ナデ	
54	28号住居	須恵器	坏	173	2	95	ほぼ完形	12.0	7.0	3.4	灰	5Y5/1	灰	5Y6/1	還元焰 良好	細 細砂・粗砂・黒色細粒少量混	ロク口調整 底部回転篋切り後ナデか 線刻あり	
55	28号住居	須恵器	坏	173	3	95	底部1/5	—	(10.0)	[0.7]	黄灰	2.5Y5/1	黄灰	2.5Y5/1	還元焰 良好	細 白色細粒中量 粗砂少量混	ロク口調整右回転 体部下~底部外周回転篋削り	
56	28号住居	土師器	壺	173	4	95	口縁部~胴部	20.7	—	[18.7]	明赤褐	5YR5/8	明赤褐	5YR5/8	酸化焰 良好	中 細砂・粗砂多量・礫微量混	口縁部横ナデ・オサエ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	
57	28号住居	土師器	壺	173	5	95	口縁部~胴部2/3	21.8	—	[21.4]	にぶい橙	7.5YR6/4	橙	5YR6/6	酸化焰 良好	中 細砂・粗砂中量・礫少量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	
58	28号住居	土師器	壺	173	6	95	口縁部~胴部1/4	(20.0)	—	[21.0]	にぶい橙	7.5YR6/4	橙	5YR6/6	酸化焰	中 細砂・粗砂中量混	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	
59	29号住居	土師器	坏	175	1	95	口縁部~底部1/2	(12.6)	(10.0)	2.3	橙	5YR6/6	橙	5YR6/8	酸化焰 不良	細 細砂・粗砂少量混	磨減により調整不明 口縁部横ナデ 底部外面篋削りか?	
60	29号住居	土師器	坏	175	2	95	口縁部~底部1/4	(12.0)	—	3.3	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部~底部外面篋削り 内面ナデ	
61	29号住居	土師器	坏	175	3	95	口縁部~底部1/5	(12.8)	—	[2.9]	橙	7.5YR6/6	橙	5YR6/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部ナデ底部外面篋削り後一部分磨きか? 内面ナデ・オサエ	
62	29号住居	須恵器	坏	175	4	95	口縁部~体部1/4	(13.5)	—	[3.5]	灰オリーブ	5Y6/2	灰	7.5Y6/1	還元焰 良好	細 白色細粒少量 粗砂・礫微量混	ロク口調整右回転 体部下~底部回転篋削り?	
63	29号住居	須恵器	坏	175	5	95	体部~底部1/4	—	(7.9)	[2.8]	灰	5Y6/1	灰黄	2.5Y7/2	還元焰 良好	細 黒色細粒中量 細砂微量混	ロク口調整右回転 底部回転系切り無調整	
64	29号住居	須恵器	坏	175	6	95	底部1/4	—	(9.0)	[1.6]	灰	7.5Y6/1	灰	7.5Y6/1	還元焰 良好	細 白色粒子・細砂・粗砂少量混	ロク口調整右回転 体部下回転篋削り 底部回転篋切り内面人為的に磨減	
65	29号住居	土師器	壺	175	7	95	口縁部~胴部1/4	(24.0)	—	[10.9]	橙	2.5YR6/6	明赤褐	5YR5/6	酸化焰 良好	中 細砂中量粗砂微量混	口縁部横ナデ一部分オサエ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	
66	30号住居	土師器	坏	176	1	95	口縁部~底部1/2	14.2	8.4	4.4	黒褐	10YR3/1	黄褐	10YR4/6	酸化焰 不良	細 細砂・粗砂・礫少量混	口縁部横ナデ 体部~底部外面篋削り 内面ナデ	
67	8号掘立柱建物	須恵器	壺	180	1	95	口縁部1/8	(26.8)	—	[8.4]	赤灰	2.5YR4/1	灰黄褐	10YR5/2	還元焰 良好	中 細砂・粗砂・白色細粒少量混	ロク口調整	
68	8号掘立柱建物	須恵器	壺	180	2	95	頸部破片	—	—	—	褐灰	10YR4/1	褐灰	10YR4/1	還元焰 良好	細 細砂・粗砂・礫少量混	ロク口調整 2本1単位の櫛状工具による波状文	器厚7~10mm
69	8号掘立柱建物	須恵器	壺	180	3~6	95	胴部破片	—	—	—	褐灰	10YR4/1	にぶい赤褐	5YR5/3	還元焰 良好	細 白色粒子・細砂・粗砂・礫少量混	外面平行引き 内面青海波文当て具痕	器厚9~12mm
70	2号溝	須恵器	坏	185	1	95	口縁部~体部1/8	(12.0)	—	[3.3]	淡黄	5Y8/3	灰白	5Y7/2	還元焰 良好	細 細砂・粗砂中量混	ロク口調整右回転?	

第76表 奈良時代以降土器観察表（3）

No	遺構	種別	器種	図版 No	番号 No	PL	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	色調表	色調記号	色調裏	色調記号	焼成	胎土	調整	備考
71	8号溝	須恵器	坏	187	1	95	底部1/4	—	(5.0)	[1.0]	灰	5Y6/1	灰オリーブ	5Y6/2	還元焰 良好	細 細砂・粗砂中量混	ロクロ調整右回転 底部回転系切り無調整	
72	172号土坑	土師器	坏	188	1	95	口縁部~底部1/4	(13.0)	(9.8)	[3.3]	にぶい橙	7.5YR6/4	橙	7.5YR6/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部~底部外面篋削り 内面ナデ	
73	172号土坑	土師器	坏	188	2	95	口縁部~底部1/6	(12.0)	(8.6)	[2.3]	橙	7.5YR6/6	橙	5YR6/6	酸化焰 やや良	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部~底部外面篋削り後ナデか? 内面ナデ	
74	218号Pit	土師器	鉢	190	1	95	体部~底部1/6	—	(10.4)	[2.2]	明褐	7.5YR5/6	にぶい黄橙	10YR6/3	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	体部~底部外面篋削り 内面ナデ	
75	221号Pit	土師器	坏	190	2	95	口縁部~底部1/8	(13.6)	—	[2.7]	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	酸化焰 良好	細 細砂・粗砂少量混	口縁部横ナデ 体部外面ナデ? 底部外面篋削り 内面ナデ	
76	遺構外	須恵器	坏	188	3	95	体部~底部1/4	—	(8.0)	[2.9]	灰黄	2.5Y7/2	灰黄	2.5Y7/2	還元焰 良好	細 黒色細粒・粗砂・細砂少量混	ロクロ調整 底部回転系切り(?)後ナデか	

第77表 奈良時代以降鉄製品観察表

No	遺構名	種別	器種	図版 No	番号 No	PL	出土位置	全長(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	特 徴
1	12号住居	鉄製品	鎌	161	10	92	埋土	[4.9]	1.7	0.1	10.0	両端部欠損	小形の鎌の刃部だけ残ったものか?
2	21号住居	鉄製品	釘	165	5	94	埋土	[3.2]	0.5	0.5	0.9	両端部欠損	断面円形?
3	21号住居	鉄製品	不明	165	6	94	埋土	[3.4]	1.4	0.4	3.1	先端部残存?	刀子の先端に似るが刃がないため用途不明
4	21号住居	鉄製品	刀子	165	7	94	埋土	[6.1]	1.4	0.5	5.9	茎部・先端部欠	
5	21号住居	鉄製品	鉄滓	165	8	94	埋土	3.7	3.2	2.2	39.6		
6	21号住居	鉄製品	鉄滓	165	9	94	埋土	2.9	1.5	0.7	3.2		
7	27号住居	鉄製品	刀子	171	10	94	埋土	[8.0]	1.2	0.7	10.9	茎部欠損	刃部中央が2枚重なって癒着したように厚くなる
8	27号住居	鉄製品	釘	171	11	94	埋土	[4.9]	0.4	0.4	1.8	先端部欠損	断面方形
9	27号住居	鉄製品	刀子	171	12	94	埋土	[8.8]	0.8	0.3	5.6	茎部欠損	
10	27号住居	銅製品	丸柄	171	13	94	埋土	3.1	[2.0]	0.14	2.1	3/4	青銅製丸柄
11	27号住居	鉄製品	鉄滓	171	14	94	床下	2.5	2.2	1.3	5.8		
12	28号住居	鉄製品	刀子	173	7	95	埋土	[2.7]	1.2	0.4	1.7	両端部欠損	鬚部が残る
13	4号溝	鉄製品	釘	186	1	95	埋土	[4.7]	1.2	1.2	4.7	先端部欠損	大型の角釘
14	遺構外	鉄製品	鎌	188	4	95	表探	[7.2]	2.0	0.6	10.5	茎部残存?	鎌の茎部が残ったものか?
15	遺構外	銅製品	煙管吸口	188	5	95	72-M-6	[3.3]	1.0	0.7	2.2	一部欠損	

第78表 奈良時代以降石製品観察表

No	遺構名	図版 No	番号 No	PL	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存率	石材	備考
1	5号住	158	13	92	石製品	砥石	5.2	4.9	2.4	96	ほぼ完形	砥沢石	全面使用か 線状痕あり
2	12号住	161	9	92	石製品	紡錘車	4.2	0.8	1.6	30.9	完形	蛇紋岩	